２０１３
８月版

アイジー断熱サイディング

ガルスパン®シリーズ

施工説明書

掲載商品

ガルスパン® NEO-Jフッ素（縦/横）
ガルスパン® SEiフッ素（縦）

施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
（「金属サイディングの維持管理について」P4、5を必ずお読みください。）

IG KOGYO

目 次

事故防止のために 1

取り扱い時のお願い 2

設計上の注意 …… 2
運搬、保管上の注意 …… 2
施工上の注意 …… 2
補修上の注意 …… 3
廃棄物の注意 …… 3
維持管理のポイント …… 3
その他 …… 3

金属サイディングの維持管理について 4

維持管理の目的 …… 4
外壁の点検方法 …… 4
メンテナンススケジュール …… 4
クリーニングについて …… 5
安全に関する注意 …… 5

本体規格・付属品規格 6

ガルスパンNEO-Jフッ素 …… 6
ガルスパンSEi …… 8

物性一覧 10

認定関係 11

防耐火構造認定 …… 11
材料認定 …… 11
地域の制限 …… 11
建築基準法の制限 …… 12
せっこうボードについて …… 13
認定仕様 …… 14

施工の手順とポイント 33

全体的な施工の流れ …… 33
施工に必要な工具 …… 34

木造下地 縦張り 横張り 共通
柱・間柱・サッシなどのチェック
水切の取り付け
透湿防水シート張り 35

木造下地 縦張りの場合
胴縁の取り付け
水切15Sの取り付け
先付け付属品の取り付け
本体の施工
後付け付属品の取り付け
シーリング材の施工 36

鉄骨下地 縦張りの場合
胴縁・サッシなどのチェック
水切15Sの取り付け
防水紙張り 43

木造下地 横張りの場合
胴縁の取り付け
水切15Sの取り付け
先付け付属品の取り付け
本体の施工
後付け付属品の取り付け
シーリング材の施工 44

鉄骨下地 横張りの場合
胴縁・サッシなどのチェック
水切15Sの取り付け
防水紙張り 50

積雪の影響（雪の負荷）のある地域での対処 … 51

縦張りの施工　木造下地 52

A．土台 …… 53
B．出隅 …… 57
C．入隅 …… 58
D．縦継ぎ …… 60
E．軒 …… 62
F．下屋見切り …… 65
G．笠木 …… 67
H．下がり壁 …… 68
I．開口部 …… 70

縦張りの施工　鉄骨下地 73

A．土台 …… 74
B．出隅 …… 76
C．入隅 …… 77
D．縦継ぎ …… 79
E．軒 …… 81
F．笠木 …… 83
G．下がり壁 …… 84
H．開口部 …… 86

横張りの施工　木造下地 89

A．土台 …… 90
B．出隅 …… 91
C．入隅 …… 91
D．横継ぎ …… 92
E．軒 …… 93
F．下屋見切り …… 95
G．笠木 …… 97
H．下がり壁 …… 97
I．開口部 …… 99

横張りの施工　鉄骨下地 102

A．土台 …… 103
B．出隅 …… 103
C．入隅 …… 104
D．横継ぎ …… 105
E．軒 …… 106
F．笠木 …… 107
G．下がり壁 …… 107
I．開口部 …… 109

E幕板 112

規格図 …… 112
施工上の注意 …… 113
施工手順 …… 114
納まり図 …… 116

付属品の加工方法　木造・鉄骨共通 117

土台[出隅][入隅] …… 117
土台[出隅]①／縦継ぎ[出隅]① …… 118
土台[出隅]②／縦継ぎ[出隅]② …… 119
軒[出隅]①／軒[出隅]② …… 120
軒[出隅]③ …… 121
下がり壁[出隅]①② …… 122
土台[入隅]／軒[入隅] …… 123
開口部 …… 124

免責事項 129

2014年2月吉日

お客様各位

アイジー工業株式会社
山形県東根市蟹沢上縄目1816-12
TEL 0237(43)1810

新商品「ガルスパンＳＥｉ フッ素」発売のご案内

拝啓　貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃はアイジー商品をご愛顧頂き、厚くお礼申し上げます。

ご好評いただいております「ガルスパンＳＥｉ」をさらに進化させた外装材として、この度、新商品「ガルスパンＳＥｉ フッ素」を発売致しますので、下記の通りご案内申し上げます。

皆様方におかれましては、これを機会にアイジー商品のより一層のご愛顧をお願い申し上げます。

敬具

記

１．商品名　　ガルスパンＳＥｉ フッ素

２．発売日　　２０１４年２月１日

３．本体規格

■働き幅　３００㎜　　■総　幅　３３２㎜　　■重　量　１４．４ｋｇ／3.3㎡
■厚　さ　１５㎜　　■入り数　８枚　　■張り方向　縦張り

	長　さ	長　さ
標準品	3,０００㎜	２．１８坪（７．２０㎡）
	4,０００㎜	２．９１坪（９．６０㎡）
準標準品	6,０００㎜	４．３６坪（１４．４０㎡）
特注品	2,７８０～7,０００㎜ （１０㎜単位で設定可）	－

※特注品は、１サイズ５ケースからの取り扱いになります。

４．色種類

ＦネオブラックＦシルバーメタリック、ＦビターブラウンＦネオホワイト、
ＦダークメタリックＦレイクブルーメタリックＦシャンパンメタリック　（全７色）

５．特　長　　耐候性、遮熱性に優れたフッ素樹脂塗装鋼板を採用。

６．施工方法　施工方法は「ガルスパンＳＥｉ」と同じです。

７．認定関係　構造認定は「ガルスパンＳＥｉ」と同じです。

以上

事故防止のために

金属サイディングは壁材です。壁以外の部位に使用しないでください。

⚠ 警告　死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の表示です。

1．強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2．高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。

⚠ 注意　取り扱いをあやまると障害を負う危険や物的損害などの可能性が想定される場合の表示です。

1．取り扱いの際はゴム付き手袋や保護眼鏡などの保護具を着用してください。ケガをする可能性があります。
2．現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。ケガをする可能性があります。
3．防水のため、施工の際は、働き幅による割り付けを行ってください。
4．サイディング本体の裏面や切断面に、溶接の炎、火花などが当たると引火するおそれがありますので、養生するなど特に注意してください。
5．防火のため、加熱箇所との取り合いには、めがね石など有効な部材を使用してください。
6．包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
7．シーリング・タッチアップペイントなどは製品安全データシート(MSDS)に従って正しく使用してください。
8．電動工具など、工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。
9．真夏の日射が強い時は、金属サイディングの表面温度が高くなり、やけどのおそれがありますので注意してください。

取り扱い時のお願い

●設計上の注意

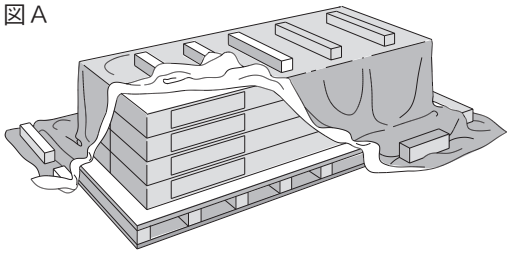
アイジー断熱サイディングを次のような部位や施工方法で使用しないでください。性能、機能の低下などの不具合を招く原因となります。

・屋根などの外壁以外の部位での使用。
・傾斜のあるパラペットへの使用。
・異種金属との使用（銅屋根などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いには注意してください）。
・Ｒ面での使用（商品をＲ面に施工すると、耐風圧強度の低下、かん合部からの雨水の浸入を招くおそれがあります）。
・煙突回りなど加熱箇所での使用（防火のために、めがね石など有効な部材を使用してください）。
・笠木の外勾配施工（外勾配にすると大量の雨水が商品表面を流れ、汚れの付着や塗膜の劣化が早まります）。
・商品を斜めに張ること、または縦張り商品を横張りで張るなど、指定の張り方向以外での使用。
・乱張り施工（商品を千鳥調に張るなどの行為は、雨漏りの原因となります）。
・塗膜の厚いセメントスタッコなどの上塗り、タイルなどの直張り。
・付属品だけによるサイディング本体の固定（サイディング本体は、必ず留め具で直接下地に留め付けてください）。
・積雪などを考慮しない設計（積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください）。
・土台部・下屋見切り部で縦用スターターを使用する場合、土台部・下屋見切り部に積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。
・縦張り時の縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

●運搬、保管上の注意

・梱包された商品を持つ際には、ＰＰバンドを持たないでください。
・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
・運搬に必要な人数は、6m未満は2人以上、6m以上は3人以上を目安にしてください。
・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。
・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。（図Ａ参照）
・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
■商品を放り投げる、または落とすこと。
■商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
■商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬すること。
■商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、２点支えにすること。
■商品より小さなパレットを使用すること。（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）

図Ａ



●施工上の注意

「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」について
住宅の防水に関する施工方法は、加入している住宅瑕疵担保責任保険法人の設計施工基準を確認してください。

1．防水処理について
・防水の万全を期すために下地に透湿防水シート、またはアスファルトフェルト（通気構法以外）を使用してください。
・開口部周囲などの所定の部位には防水テープを使用してください。
・サイディング本体と付属品のすき間から雨水の浸入を防ぐため、必ず指定の位置にシーリング材を施工してください。（各納まり図参照）
・横張り商品は、サイディング本体かん合部に水の横走りによる漏水を防止するために捨てシーリングが必要です。サイディング本体左右端部に横走り防止シーリングを施工してください。（P47参照）
・縦張り商品で開口部上に小口カバーを使用する際は、サイディング本体端部からの雨水の浸入を防止するため、一枚ごとに縦走り防止シーリングを施工してください。（P40参照）
・サイディング本体を切断して納める際は、しん材の吸水を防ぐため、サイディング本体の下部からしん材を10㎜程度取り除いてください。（縦用スターターを使用する場合は、しん材を取り除く必要はありません）
・シーリング材はしん材には接着しません。切断面にシーリング材を施工する場合には、必ず表面材に箱折加工を施してください。
・換気口や、エアコン配管の取り付けのために商品に穴をあけた際は、有効な防水処理を行ってください。

2．商品の破損防止のために
・すり傷防止のために、商品表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
・塗装が傷みますので、商品表面に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
・サイディング本体の切断は、商品表面のすり傷防止のため、商品裏面側を上にして切断してください。
・換気口や、エアコン配管を外壁面に取り付ける際は、必ず下地材に取り付け、商品には取り付けないでください。
3．さび防止のために
・商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで払ってください。
・商品の取り付けねじ類は、ステンレス製を推奨します。
・縦用スターターを使用する場合は、サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉が縦用スターター内に残らないよう、必ず取り除いてください。さびの原因となります。
4．その他
・アイジー断熱サイディングには必ず純正付属品を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
・しん材やアルミライナー紙には水をかけないでください。
・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
・基礎モルタルへ商品を埋め込んで施工しないでください。
・付属品だけで、サイディング本体を固定するのは不十分です。サイディング本体は必ず留め具で直接下地に留め付けてください。
・建物の高さが13mを超える部分にキャップ系付属品を使用する場合は、脱落防止のため、脳天ビス留めをしてください。鉄骨下地で、脳天ビス留めを施す横継ぎ部には、C型鋼ではなく、角型鋼管100×100×2.3㎜を使用してください。
・必要な耐風圧力に応じ、縦張り時は縦用スターター15を使用してください。
・サイディング本体のアルミライナー紙にしわや凸凹が発生している場合がありますが、サイディング本体の性能に影響はありません。
・サイディング本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、木造下地の場合は2㎜以内、鉄骨下地の場合は3㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。
・サイディング本体に室内側から何らかの力が加わると、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。取り付け面に突起物がないことを確認し施工してください。また、躯体とサイディング本体との間に充てん材などを施工する場合は、サイディング本体に充てん材などの反発力が作用しない構造としてください。
・開口部などで本体を切り欠く際は、各部材の位置を確認し本体に無理な力がかからないように切り欠き寸法を設定し切断してください。また、本体を変形させるような無理なはめ込みは避けてください。
・本体を切り欠き加工すると強度が低下し破損しやすくなります。持ち運び時には切り欠き部に当て板を当てるなどして、破損しないように注意してください。オスメス両側を切り欠いた際は特に注意してください。

●補修上の注意

1．表面材の補修
・降雨及び降雪がある際は補修を避けてください。
・補修の前に表面の汚れ、ホコリ、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
・商品表面の傷の補修には、必ず純正のタッチアップペイントを用い、製品安全データシート（MSDS）に従って正しく使用してください。
・タッチアップペイントは、使用前によく撹拌してから使用してください。カタカタという音がしてから30秒以上振り、よく撹拌してください。
・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすり傷のみに使用してください。商品の変形を伴う傷や、広範囲にわたる塗装は、専門の業者に依頼してください。
・事前に商品の端材などで試し塗りをして、色調の確認を行ってください。
・タッチアップペイントは、常乾タイプの塗料です。商品とは塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。
・ガルスパンNEO-Jフッ素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒しが必要です。補修するすり傷部分に、ナイロン不織布（推奨品：マジックロン#240）を使用して目荒しを行ってください。目荒しを行わない場合、タッチアップペイントとガルスパンNEO-Jフッ素の塗膜に密着性が得られませんので注意してください。
2．アルミライナー紙の補修
・尖った物などでアルミライナー紙が損傷した場合は、必要に応じて市販のアルミテープなどで補修してください。

●廃棄物の注意

・包装材、残材などの廃材は、産業廃棄物として適切に処理してください。

●維持管理のポイント

1．シーリングの確認
・シーリング材は２～３年を目安に点検してください。経年変化による劣化で切れが生じる場合があります。切れた場合には補修することにより漏水を未然に防いでください。
2．外壁の汚れの確認
・大気中にはサイディング表面基材の腐食の原因になるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海塩粒子、凍結防止材など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性が低下しさびの発生に至る場合があります。汚れが著しい場合はクリーニングをお勧めします（「金属サイディングの維持管理について」Ｐ４，５参照）。

●その他

・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。

金属サイディングの維持管理について

住宅のロングライフ実現に向けて外壁の適切なメンテナンスが必要です。

■維持管理の目的

大気中には金属サイディング表面基材の腐食の原因になるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。
近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。
住宅の長寿命化を実現するためのひとつとして、金属サイディングの適切なメンテナンスが重要であり、外壁の性能を維持するために定期的な維持管理をお勧めします。

■外壁の点検方法

点検はお施主様ご自身で行ってください。

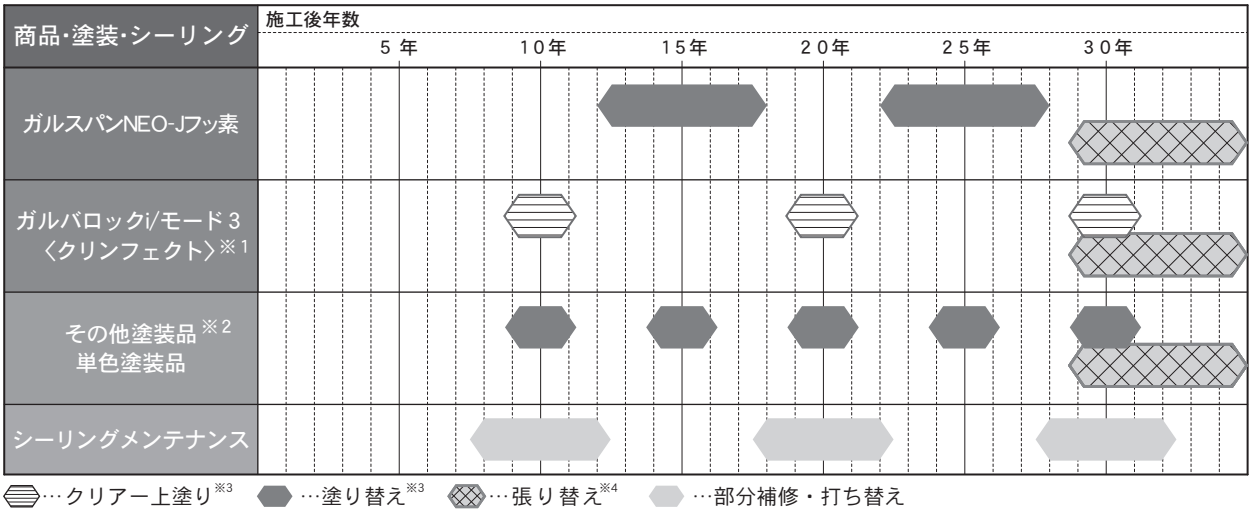
サイディング本体の点検	サイディング本体に傷、へこみなどがないか目視で点検してください。
付属品の点検	付属品に傷、へこみなどがないか目視で点検してください。
塗膜の点検	塗装表面に白亜化（触ると白い粉が手に付く現象、チョーキング）、変色、さびなどが発生していないか目視で点検してください。
シーリングの点検	シーリングに剥離、亀裂などが発生していないか目視で点検してください。

・環境や気象、立地条件などで異なりますが、塗膜は3～5年、シーリングは2～3年を目安に点検してください。

外壁の点検により気になる不具合を発見した場合は、早めに施工店にご相談の上、専門業者に依頼してください。
（メンテナンス費用はお施主様負担となります）

■メンテナンススケジュール

こまめにお手入れをし、傷みを早めに補修することで外壁を長持ちさせ、住宅を守ります。



注意
・メンテナンススケジュールは目安として活用してください。住宅の地域や環境により表面劣化の進行が異なります。
・メンテナンス時期を保証するものではありません。

・塗り替えは、表面状態を確認の上で判断してください。変色が著しく、白亜化（触ると白い粉が手に付く現象、チョーキング）が現れた状態が塗り替え時期と見なせます。

※1：ガルバロックi/モード3クリンフェクトに上塗り塗装すると、防汚コーティング機能は失われます。
※2：シンクロレイヤー塗装（モード2）及び、ツートン塗装（モード1）に上塗り塗装すると、初期の風合いを再現することはできません。
※3：2回目以降の塗り替え時期は塗料タイプにより異なります。使用される環境、耐用年数などを検討の上、専門業者とご相談ください。
上記塗り替え時期は、ガルスパンNEO-Jフッ素は一般的なフッ素樹脂塗料を、その他の金属サイディングは一般的なアクリル樹脂塗装を使用した場合を想定しています。
※4：張り替え時期については、専門業者に建物全体の躯体状況を確認の上、総合的に判断してください。

■クリーニングについて

外壁を美しく保つために、年に数回の水洗いをしてください。

アイジー断熱サイディングは、めっき鋼板の中でも耐久性に優れたガルバ鋼板※を使用しております。
しかし、汚染物質の長期の付着により、数年で表面にシミや白さび、黒さびが発生した例が報告されております。シミや白さび、黒さびが発生しても、サイディングの機能上支障はありませんが、外観が損なわれるため表面塗装の塗り替えの時期が短くなります。但し、年間数回簡単に水洗いすることで、美しい外観を長期間保つことが可能です。

※55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板

■クリーニング回数の目安

立地条件	回数の目安
海岸地帯	年 4 回
工業地帯	年 3 回
市街地	年 2 回
田園地帯	年 1 回

大気汚染の状況に応じて、さらに年間の洗浄回数を増やすことをお勧めします。

■クリーニング方法

1 水洗いにより、塵や汚れを洗い落とし、柔らかいスポンジや布で十分に水洗いしてください。

2 水洗いで取れない汚れなどは、中性洗剤（1～2%の水溶液）を使用し、最後に水洗いしてください。

【注意事項】

・強くこすったり、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどを使用すると塗膜表面に傷が付き腐食を招くおそれがあります。
・水切部や、下屋見切部、窓上などのサイディング本体を切断してシーリング材を施していない場所には、ホースなどで下から直接水をかけないでください。
・クレンザーなどの研磨剤入りの洗剤や、酸性やアルカリ性の洗剤は、塗膜を傷め変色・退色を招くおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
・シンナーなどの有機溶剤やタイル洗浄剤などは塗膜を破壊するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
・中性洗剤を使用した後は十分な水洗いを行い薬剤を洗い流してください。
・洗浄後は、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。

■クリーニングのポイント

塗膜の劣化や鋼板の腐食は、塵やほこり、酸性雨や酸性雪に含まれる自然からの汚染物質と、車や給湯器・暖房機などの排気・燃焼ガスによる汚染物質が、雨や水蒸気などにより外壁に停滞して進行します。よって、雨水が当たりにくく汚染物質が流れにくい部分や過度に汚れがひどい部分（下記参照）を重点的に洗浄すると効果的です。

重点洗浄箇所

1 軒　下
2 バルコニーや出窓の下
3 アルコーブなどの内部に入り込んだ所
4 庇の下
5 給湯器・暖房機などの燃焼ガスの発生する所

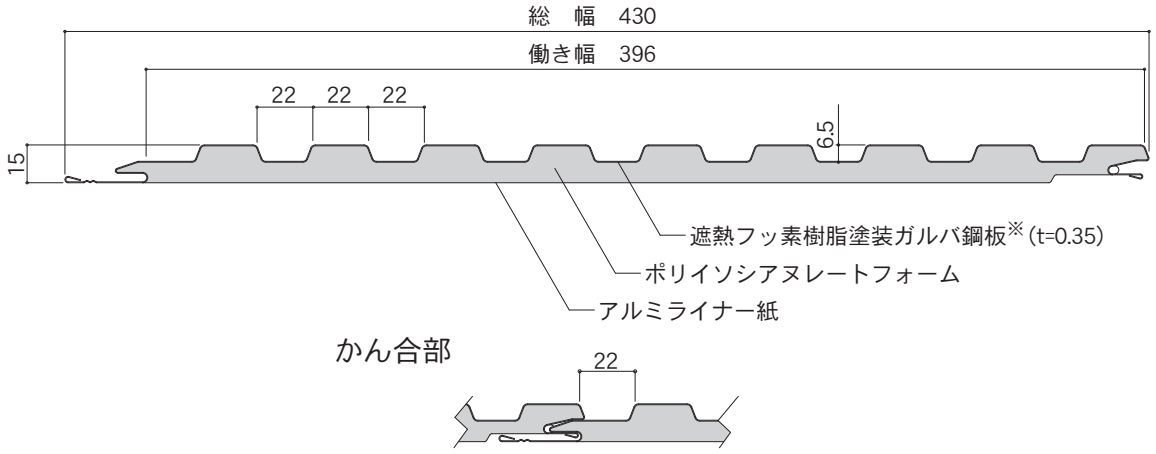
安全に関する注意

・**お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。**落下事故やけがの原因となります。
・点検は外壁を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
・ハシゴや脚立などはサイディング面に直接立て掛けると、傷・へこみが生じるおそれがありますので、立て掛けないでください。 傷が付いた場合はP3の「補修上の注意」を参考にしてください。
・洗剤を使用しての洗浄の際は、周辺の生物に影響がないよう、十分に注意してください。

ガルスパンNEO-Jフッ素

本体形状断面図

単位：㎜



本体規格

	標準品		準標準品		特注品
・働き幅　396㎜	長さ	1 梱包（6枚）面積	長さ	1 梱包（6枚）面積	長さ
・総　幅　430㎜	3,000㎜	2.16坪（7.13㎡）	6,000㎜	4.32坪（14.26㎡）	2,780～8,000㎜ （10㎜単位で設定可）
・重　量　16.5kg/3.3㎡					
・厚　さ　15㎜	4,000㎜	2.88坪（9.51㎡）			
・張り方向　縦張り、横張り					

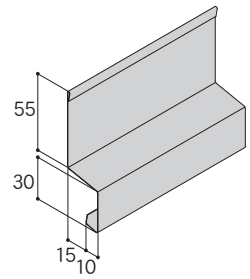
○「準標準品」「特注品」の納期・配送・引き取り方法などにつきましては、事前に必ずご確認ください。
○「特注品」は、1色、1回のご注文につき1サイズ5ケース以上の取り扱いになります。
下地で不陸などがある場合、長尺品はかん合がきつくなるおそれがありますので注意してください。

付属品規格図

単位：㎜

水切15 S

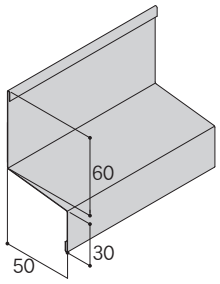
長　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：土台・縦継ぎ・開口部

通気水切15

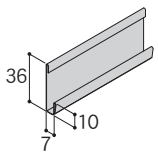
長　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/箱



適用部位：土台

スターター15 S

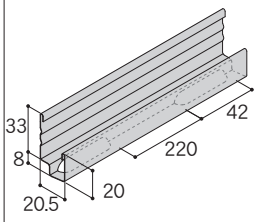
長　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：土台

縦用スターター15(注1)

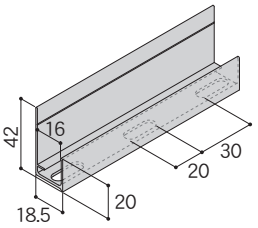
長　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：土台・縦継ぎ・下屋見切り・開口部

アルミ縦用スターター15(注1)

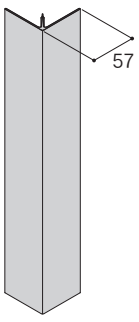
長　さ：4,000㎜
梱包単位：10本/包
材　質：アルミ押出品



適用部位：土台・下屋見切り

出隅キャップ15-25 S

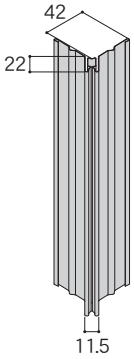
長　さ：3,030㎜
梱包単位：4本/包



適用部位：出隅

出隅下地15N

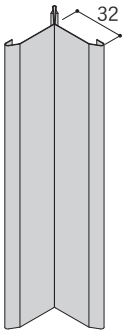
長　さ：3,030㎜
梱包単位：4本/包



適用部位：出隅

入隅キャップ15-25 S

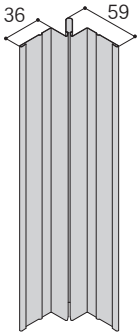
長　さ：3,030㎜
梱包単位：5本/包



適用部位：入隅

入隅下地15 S

長　さ：3,030㎜
梱包単位：5本/包



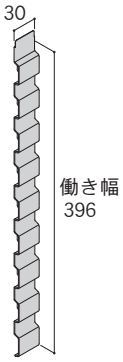
適用部位：入隅

材質は遮熱フッ素樹脂塗装ガルバ鋼板※(t=0.35㎜)です。※ガルバ鋼板は、55%アルミニウム - 亜鉛合金めっき鋼板でアイジー工業㈱の登録商標です。
(注1)○土台部・下屋見切り部で縦用スターターを使用する場合、土台部・下屋見切り部に積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。
○縦張り時の縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

単位：㎜

段キャップGS15

梱包単位：25本/箱

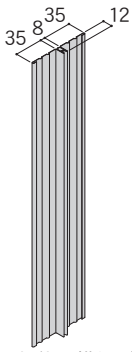


適用部位：横継ぎ

併用

段Tジョイナー15-25

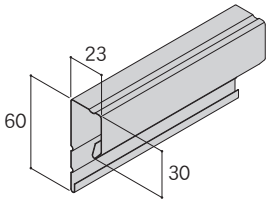
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：５本/包



適用部位：横継ぎ

止縁C15

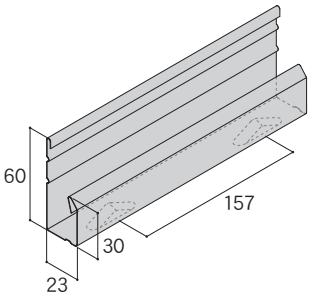
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：軒・開口部

小口カバー15

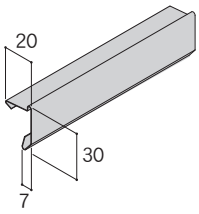
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：開口部

止縁キャップC15

長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包

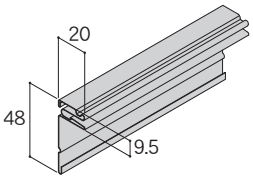


適用部位：軒・開口部

併用

止縁捨板15

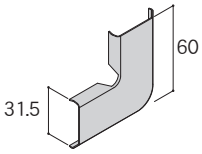
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：軒・開口部

ワンタッチコーナーキャップ15-25

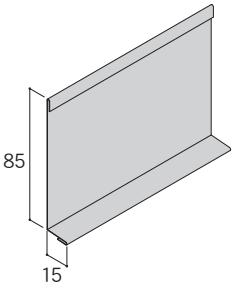
梱包単位：50個/箱



適用部位：開口部

捨板（15×85）(注2)

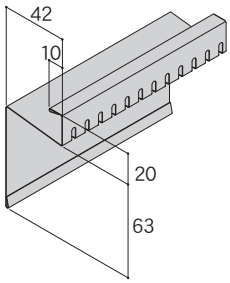
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：開口部

通気軒見切15-25

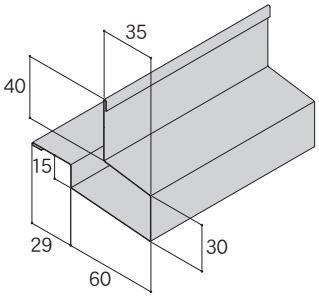
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/箱



適用部位：軒

下がり壁水切15-25

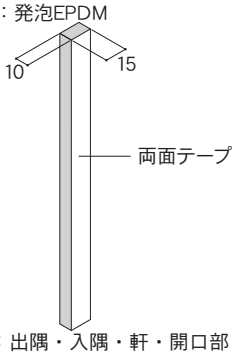
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：５本/包



適用部位：下がり壁

パッキン材C

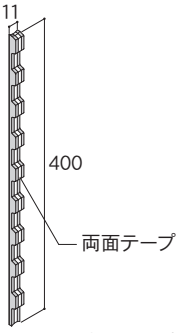
長　　さ：2,000㎜
梱包単位：20本/箱
材　　質：発泡EPDM



適用部位：出隅・入隅・軒・開口部

パッキン材D

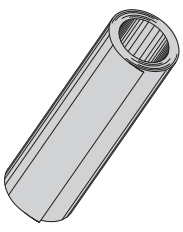
梱包単位：30本/箱
材　　質：発泡ポリエチレン



適用部位：出隅・入隅・軒・開口部

10Mコイル

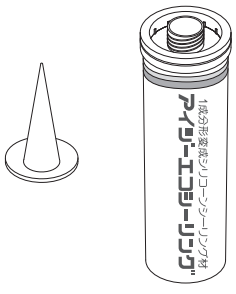
長　　さ：10m
梱包単位：1本/箱
幅　　：914㎜



適用部位：現場加工用

エコシーリング

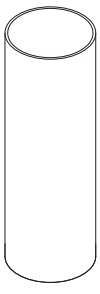
梱包単位：10本/箱
材　　質：変成シリコーン
内 容 量：320ml/本



別売りのホルダーが無いと使用できません

エコシーリングホルダー

梱包単位：２本/箱



タッチアップペイント

内 容 量：15ml/本

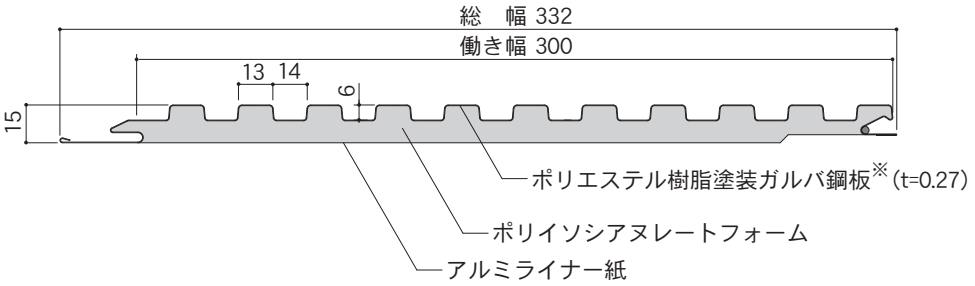
適用部位：補修用

(注2) 捨板（15×85）の材質はポリエステル樹脂塗装ガルバ鋼板※(t=0.35㎜)です。

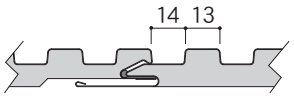
ガルスパンSEi

本体形状断面図

単位：㎜



かん合部



本体規格

・働き幅　300㎜ ・総　幅　332㎜ ・重　量　14.4kg/3.3㎡ ・厚　さ　15㎜ ・張り方向　縦張り	標準品		準標準品		特注品
	長さ	1 梱包（8枚）面積	長さ	1 梱包（8枚）面積	長さ
	3,000㎜	2.18坪（7.20㎡）	6,000㎜	4.36坪（14.40㎡）	2,780～7,000㎜ （10㎜単位で設定可）
	4,000㎜	2.91坪（9.60㎡）			

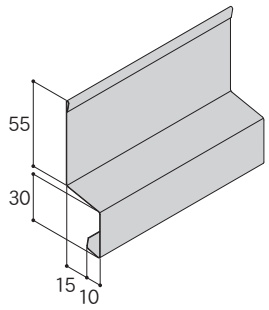
○「準標準品」「特注品」の納期・配送・引き取り方法などにつきましては、事前に必ずご確認ください。
○「特注品」は、1色、1回のご注文につき1サイズ5ケース以上の取り扱いになります。

付属品規格図

単位：㎜

水切15 S

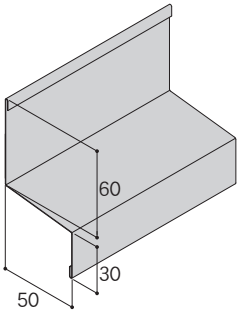
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：土台・縦継ぎ・開口部

通気水切15(注1)

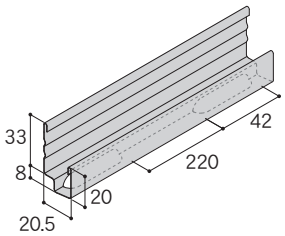
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/箱



適用部位：土台

縦用スターター15(注2)

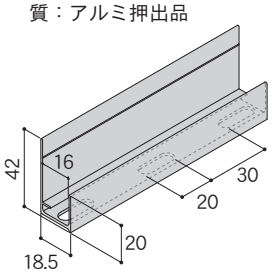
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：土台・縦継ぎ・下屋見切り・開口部

アルミ縦用スターター15(注2)

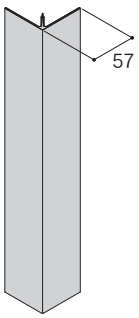
長　　さ：4,000㎜
梱包単位：10本/包
材　　質：アルミ押出品



適用部位：土台・下屋見切り

出隅キャップ15-25 S

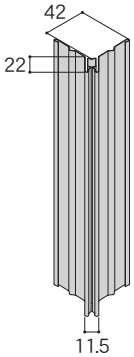
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：4本/包



適用部位：出隅

出隅下地15N

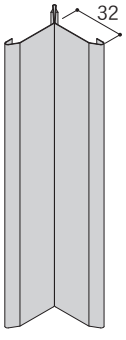
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：4本/包



適用部位：出隅

入隅キャップ15-25 S

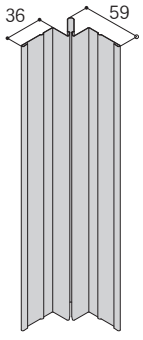
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：5本/包



適用部位：入隅

入隅下地15 S

長　　さ：3,030㎜
梱包単位：5本/包



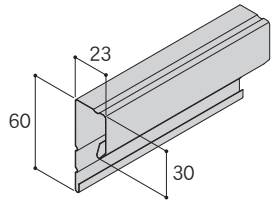
適用部位：入隅

材質はポリエステル樹脂塗装ガルバ鋼板※(t=0.35㎜)です。※ガルバ鋼板は、55%アルミニウム - 亜鉛合金めっき鋼板でアイジー工業㈱の登録商標です。
(注1)○通気水切15、通気軒見切15-25、下がり壁水切15-25 は、材質が遮熱フッ素樹脂塗装ガルバ鋼板※の商品です。
(注2)○土台部・下屋見切り部で縦用スターターを使用する場合、土台部・下屋見切り部に積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15 の使用をお勧めします。縦用スターター15 は雪の重みで変形するおそれがあります。
○縦張り時の縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15 を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

単位：㎜

止縁C15

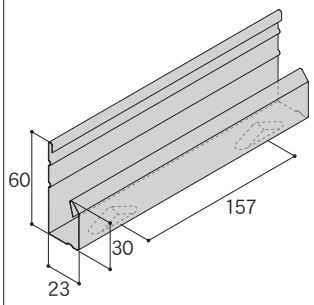
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：軒・開口部

小口カバー15

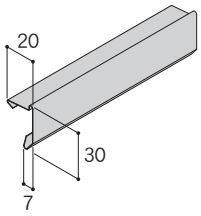
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：開口部

止縁キャップC15

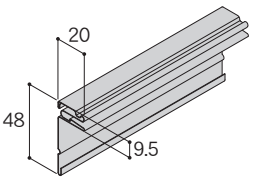
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：軒・開口部

止縁捨板15

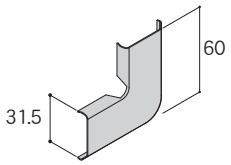
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：軒・開口部

ワンタッチコーナーキャップ15-25

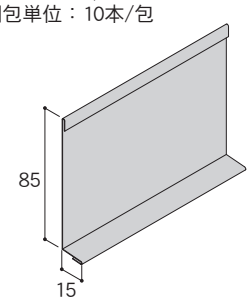
梱包単位：50個/箱



適用部位：開口部

捨板（15×85）

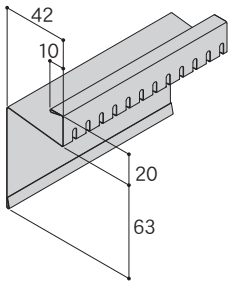
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/包



適用部位：開口部

通気軒見切15-25(注1)

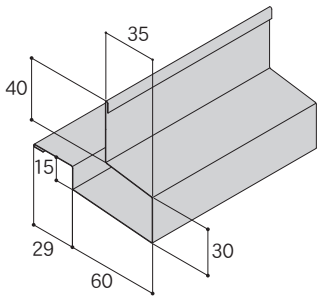
長　　さ：3,030㎜
梱包単位：10本/箱



適用部位：軒

下がり壁水切15-25(注1)

長　　さ：3,030㎜
梱包単位：5本/包



適用部位：下がり壁

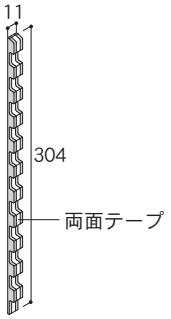
平パッキンSE

長　　さ：2,000㎜
梱包単位：20本/箱
材　　質：発泡EPDM

適用部位：出隅・入隅・軒・開口部

段パッキンSE

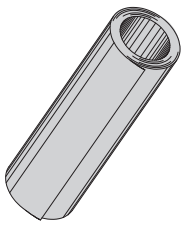
梱包単位：30本/箱
材　　質：発泡ポリエチレン



適用部位：出隅・入隅・軒・開口部

10Mコイル

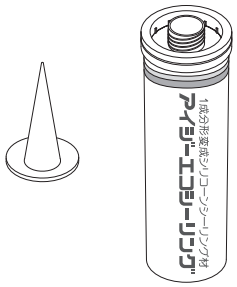
長　　さ：10m
梱包単位：1本/箱
幅　　：914㎜



適用部位：現場加工用

エコシーリング

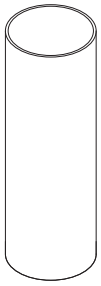
梱包単位：10本/箱
材　　質：変成シリコーン
内 容 量：320ml/本



別売りのホルダーが無いと使用できません

エコシーリングホルダー

梱包単位：2本/箱



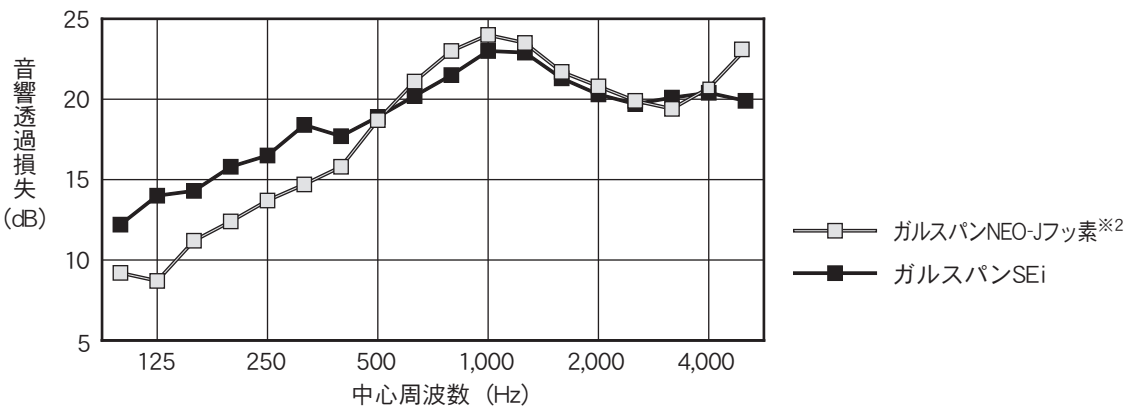
タッチアップペイント

内 容 量：15ml/本

適用部位：補修用

物性一覧

物性＼商品名		ガルスパンNEO-J フッ素	ガルスパンSEi	試験方法
しん材熱伝導率		0.032W/m K (0.027kcal/mh℃)	0.031W/m K (0.027kcal/mh℃)	JIS-A-1412-2
熱貫流率		1.79W/m²K (1.54kcal/m²h℃)	1.75W/m²K (1.50kcal/m²h℃)	JIS-A-1420
熱抵抗		0.41m²K/W (0.48m²h℃/kcal)	0.42m²K/W (0.49m²h℃/kcal)	JIS-A-1420
水密性		550Pa以上 (56kgf/m²以上)	550Pa以上 (56kgf/m²以上)	JIS-A-1414 (平均圧力)
耐風圧性能 木造下地	縦張り	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:1,620Pa (165kgf/m²) ※1 胴縁間隔:500㎜ (胴縁:18×45㎜) 本体留め具:ステンレス鋼スクリューくぎφ2.15×L38 **縦用スターター15使用時** 正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:2,000Pa (203kgf/m²) ※1 胴縁間隔:500㎜ (胴縁:18×45㎜) 本体留め具:ステンレス鋼スクリューくぎφ2.15×L38	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:1,600Pa (163kgf/m²) ※1 胴縁間隔:500㎜ (胴縁:18×45㎜) 本体留め具:ステンレス鋼スクリューくぎφ2.15×L38	空気圧による 等分布荷重
	横張り	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:2,400Pa (244kgf/m²) ※1 胴縁間隔:500㎜ (胴縁:18×45㎜) 本体留め具:ステンレス鋼スクリューくぎφ2.15×L38	−	
耐風圧性能 鉄骨下地	縦張り	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:1,650Pa (168kgf/m²) ※1 胴縁間隔:610㎜ (C-100×50×20×2.3㎜) 本体留め具:ドリリングタッピンねじφ4×L25 **縦用スターター15使用時** 正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:2,700Pa (275kgf/m²) ※1 胴縁間隔:610㎜ (C-100×50×20×2.3㎜) 本体留め具:ドリリングタッピンねじφ4×L25	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:1,750Pa (178kgf/m²) ※1 胴縁間隔:610㎜ (C-100×50×20×2.3㎜) 本体留め具:ドリリングタッピンねじφ4×L25	空気圧による 等分布荷重
	横張り	正　　圧:3,000Pa (305kgf/m²) 以上 負　　圧:2,700Pa (275kgf/m²) ※1 胴縁間隔:610㎜ (C-100×50×20×2.3㎜) 本体留め具:ドリリングタッピンねじφ4×L25	−	
しん材吸水性		1.5g/100㎠	1.5g/100㎠	JIS-A-9511
耐食性		800hr以上	800hr以上	JIS-Z-2371
音響透過損失		24.0dB (1,000Hz時)	23.0dB (1,000Hz時)	JIS-A-1416 (外装材単体張り)



■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。
※1　耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。
※2　ガルスパン15J/i（弊社の旧近似商品）の値です。
・建物の高さが13mを超える部分にキャップ系付属品を使用する場合は、脱落防止のため、脳天ビス留めなどの脱落防止措置を施してください。
　鉄骨下地で、脳天ビス留めを施す横継ぎ部には、C型鋼ではなく、角型鋼管100×100×2.3㎜を使用してください。
・必要な耐風圧力に応じ、縦張り時は縦用スターター15を使用してください。

認定関係

防耐火構造認定

詳細については各仕様の記載ページをご覧ください。不明な点は最寄りの営業所に確認してください。

木造下地【軸組工法】

構造	仕様名	認定番号	ガルスパンNEO-Jフッ素		ガルスパンSEi	記載ページ
			縦張り	横張り	縦張り	
準防火構造	外張断熱通気軸組仕様	QP020BE－0038	●	●	●	P14～15
防火構造	充てん断熱直張軸組仕様	PC030BE－0409	－	●	－	P16
	充てん断熱通気軸組仕様（1）	PC030BE－0703	●	●	●	P17
	充てん断熱通気軸組仕様（2）	PC030BE－0558	●	●	●	P18
	充てん断熱通気軸組仕様（3）	PC030BE－1010	－	●	－	P19
	外張断熱通気軸組仕様	PC030BE－0536	●	●	●	P20
45分準耐火構造	充てん断熱軸組仕様	QF045BE－0345	－	●	－	P21
	充てん断熱通気軸組仕様（1）	QF045BE－0751	●	－	－	P22
	充てん断熱通気軸組仕様（2）	QF045BE－0753	●	－	－	P23
		QF045BE－0754				
		QF045BE－0755				
		QF045BE－0756				
	充てん断熱通気軸組仕様（3）	QF045BE－1130	－	－	●	P24
		QF045BE－1131				
		QF045BE－1132				
		QF045BE－1133				

木造下地【枠組工法】

構造	仕様名	認定番号	ガルスパンNEO-Jフッ素		ガルスパンSEi	記載ページ
			縦張り	横張り	縦張り	
防火構造	充てん断熱通気枠組仕様（1）	PC030BE－0704	●	●	●	P25
	充てん断熱通気枠組仕様（2）	PC030BE－0559	●	●	●	P26
	外張断熱通気枠組仕様	PC030BE－0537	●	●	●	P27
45分準耐火構造	充てん断熱通気枠組仕様（1）	QF045BE－0761	●	－	－	P28
		QF045BE－0762				
		QF045BE－0763				
	充てん断熱通気枠組仕様（2）	QF045BE－0757	●	－	－	P29
		QF045BE－0759				
		QF045BE－0760				

不燃下地

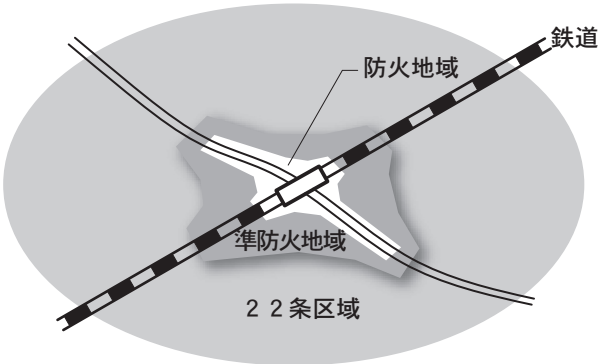
構造	仕様名	認定番号	ガルスパンNEO-Jフッ素		ガルスパンSEi	記載ページ
			縦張り	横張り	縦張り	
防火構造	せっこうボード下張り仕様	PC030NE－0084	●	－	－	P30
	せっこうボード内装張り仕様	PC030NE－0159	●	－	－	P31
	せっこうボード内装張り仕様	PC030NE－0160	●	－	－	P32

材料認定

準不燃材料	認定番号
ガルスパンNEO-Jフッ素	QM-0719

地域の制限

建築基準法では、個々の建築物の火災による延焼を防止するために、第22条に基づいた地域（22条区域）を定めています。また、都市計画により市街地における火災の拡大を防ぐために、大きな都市の駅周辺など、建築物が密集している地域を防火地域、その周囲に準防火地域が指定されており、各地域、規模及び用途などに応じ、建築物の防耐火構造が規定されています。



建築基準法の制限

建築基準法において建築物は、その地域及び用途・規模・階数などにより必要な防耐火構造が規定されています。

（1）主な外壁の構造とアイジー断熱サイディング認定取得範囲

■木造下地

<table>
<tr><th>用途</th><th>地域</th><th>延床面積(s)㎡ / 階数</th><th>S≦100</th><th>100＜S≦500</th><th>500＜S≦1000</th><th>1000＜S≦1500</th><th>1500＜S≦3000</th><th>3000＜S</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共同住宅</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="6" rowspan="2">耐火構造（法61条）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>45分準耐火構造（法61条）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">準防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="3">1 時間準耐火構造（法27条、令115条2の2）</td><td colspan="3" rowspan="2">耐火構造（法62条）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>防火構造※1（法62条）</td><td>2階が300㎡以上（法27条2項）</td><td>45分準耐火構造（法62条）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">22条区域</td><td>3階建</td><td colspan="5">1 時間準耐火構造（法27条、令115条2の2）</td><td rowspan="2">耐火構造（法21条2項）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>準防火構造※1（法23条）</td><td colspan="2">45分準耐火構造（法27条2項）2階が300㎡以上
2階建で200㎡を超えかつ2階300㎡未満（法24条）</td><td colspan="2">防火構造※1（法25条）</td></tr>
<tr><td rowspan="6">戸建住宅</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="6" rowspan="2">耐火構造（法61条）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>45分準耐火構造（法61条）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">準防火地域</td><td>3階建</td><td colspan="2">準防火3階建仕様（法62条、令136条の2）
防火構造＋内装せっこうボード12㎜</td><td colspan="2" rowspan="2">45分準耐火構造（法62条）</td><td colspan="2" rowspan="2">耐火構造（法62条）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td colspan="2">防火構造※1（法62条）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">22条区域</td><td>3階建</td><td colspan="3" rowspan="2">準防火構造※1（法23条）</td><td colspan="2" rowspan="2">防火構造※1（法25条）</td><td rowspan="2">耐火構造（法21条2項）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td></tr>
</table>

■不燃下地

<table>
<tr><th>用途</th><th>地域</th><th>延床面積(s)㎡ / 階数</th><th>S≦100</th><th>100＜S≦500</th><th>500＜S≦1000</th><th>1000＜S≦1500</th><th>1500＜S≦3000</th><th>3000＜S</th></tr>
<tr><td rowspan="6">事務所、工場、戸建住宅など（特殊建築物以外）</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建以上</td><td colspan="6" rowspan="2">耐火構造（法61条）</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>a.45分準耐火構造［イ準耐］※3
b.防火構造※1＋準不燃材料［ロ準耐二号］（法61条、令109条の3）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">準防火地域</td><td>4階建以上</td><td colspan="6">耐火構造（法62条）</td></tr>
<tr><td>3階建</td><td colspan="2">準防火3階建仕様（法62条、令136条の2）
防火構造＋内装せっこうボード12㎜</td><td colspan="2" rowspan="2">a.45分準耐火構造［イ準耐］※3
b.防火構造※1＋準不燃材料［ロ準耐二号］（法62条、令109条の3）</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td colspan="2">制限なし</td></tr>
<tr><td>その他の22条区域</td><td>1 階建以上</td><td colspan="3" rowspan="3">制限なし</td><td colspan="2">制限なし（但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">a.45分準耐火構造［イ準耐］※3（法26条、令109条の3）</td><td></td></tr>
<tr><td>b.防火構造※1＋準不燃材料［ロ準耐二号］（法26条、令109条の3）</td><td>b.防火構造※1＋準不燃材料［ロ準耐二号］（令112条、令109条の３）（但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）</td><td></td></tr>
</table>

アイジー断熱サイディング、「i」シリーズと「J」シリーズの認定取得範囲です。

アイジー断熱サイディング、「J」シリーズのみ認定取得範囲です。

※1 ：「延焼のおそれのある部分」のみが対象になります。「延焼のおそれのある部分」、［イ準耐］、「ロ準耐二号」については、次のページを参照してください。

※2 ：防火区画と接する部分を含み幅90㎝以上の部分を準耐火構造としなければなりません。（令112条）

※3 ：45分準耐火構造が必要な部分には使用できません。

（注）高さ13mまたは軒高さ９m以上の木造建築物は、地域にかかわらず一時間準耐火構造以上の性能が求められます。（法21条、令129条の２の３）

（2）防火区画

建築物の構造、用途、規模に応じて防火区画が必要になる場合があります。

● 代表的な例

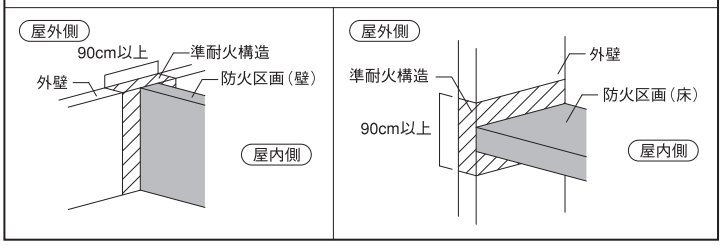
主要構造部が耐火構造または、イ・ロ準耐火建造物で、延床面積が1,500㎡を超えるものには、床面積1,500㎡以内ごとに防火区画を設けなければなりません。（建基法令第112条第1項）

↓

● 防火区画に接する外壁は

これに接する部分を含み、幅90㎝以上の部分を準耐火建築物の場合、準耐火構造以上としなければなりません。（建基法令第112条第10項）

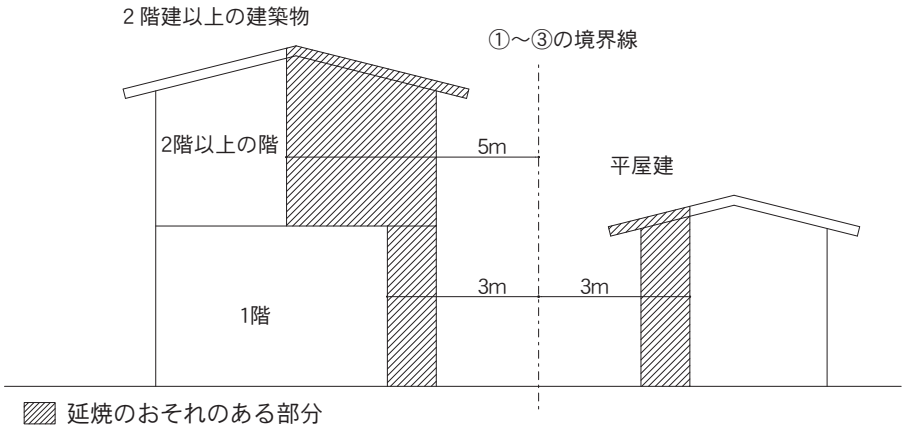
防火区画に接する外壁の構造



（注）以上は、外壁のみに関する建築基準法の大まかな制限を表しています。建築基準法ではこれより詳細な制限を設けている条項があります。
また、自治体の条例などで建築基準法より厳しい制限が設けられている場合がありますので、計画の際は前もって管轄の行政庁に確認してください。

（3）延焼のおそれのある部分（法2条六号）

防火地域など各地域の指定は、火災が周囲に広がるのを防ごうとするもので、特に延焼のおそれのある部分については、防耐火構造が強化されます。延焼のおそれのある部分とは、①道路中心線、②隣地境界線または③同一敷地内にある2つ以上の建築物（延床面積の合計が500㎡以内であれば1つの建築物とみなされる）の相互の外壁間の中心線から、1階については3m以下、2階以上については5m以下の建築物の部分を指します。但し防火上有効な公園、広場や耐火構造の壁などに面している部分は除かれます。



（4）耐火建築物、準耐火建築物の仕様

耐火建築物 …… 主要構造部を耐火構造としなければならない建築物（法2条九の二号）

準耐火建築物 … 準耐火建築物には次の3つがあります。（法２条九の三号、令109条の3）

種別	内容
① イ準耐	主要構造部を準耐火構造としたもの
② ロ準耐一号	外壁を耐火構造としたもの
③ ロ準耐二号	主要構造部を不燃材料または、準不燃材料で造ったもの

① イ準耐（令107条の2）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	準耐火構造	
柱・はり	準耐火構造	
床	準耐火構造	
屋根	準耐火構造	
階段	準耐火構造	
開口部	防火戸など	―

②ロ準耐一号（令109条の3一号）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	耐火構造	
柱・はり	―	
床	―	
屋根	準耐火構造など	不燃材料
階段	―	
開口部	防火戸など	―

③ロ準耐二号（令109条の3二号）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	防火構造+準不燃材料	準不燃材料
柱・はり	不燃材料	
床	準不燃材料（3階以上は準耐火構造など）	
屋根	不燃材料	
階段	準不燃材料	
開口部	防火戸など	―

上表は、準耐火建築物の大まかな仕様であり、詳細は建築基準法をご確認ください。

せっこうボードについて

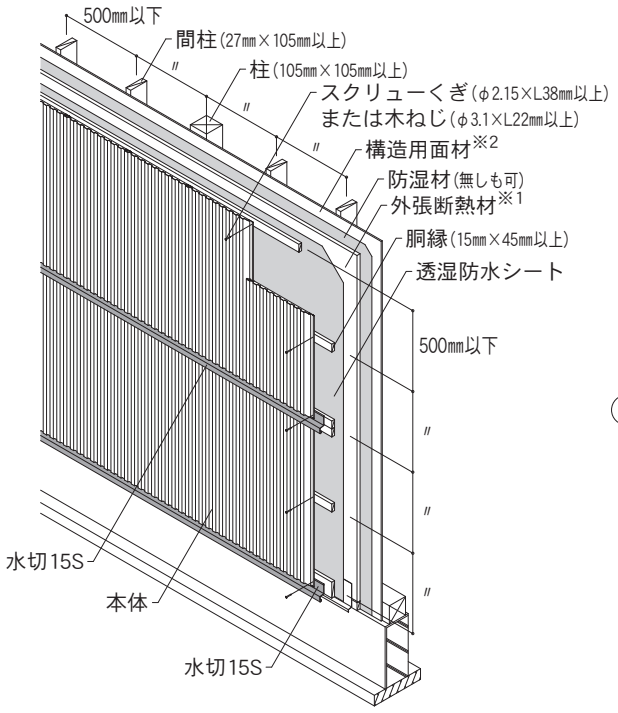
せっこうボードの目地部については、火災時の安全性向上のため、せっこうボードメーカーの推奨する適切な目地処理（乾式壁目地処理工法など）をお勧めします。

木造下地準防火構造
縦張り

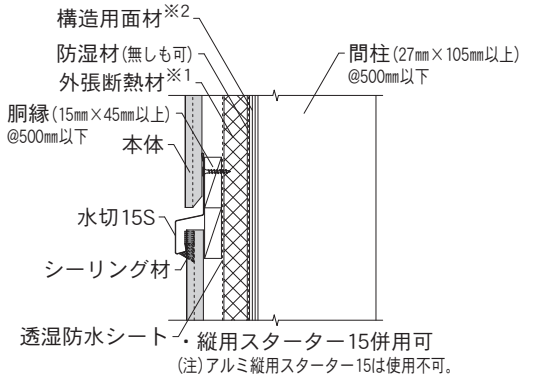
■外張断熱通気軸組仕様：QP020BE-0038

ボード状断熱材の外張断熱工法に対応した準防火構造認定です。
せっこうボードなどの、内装材の制限がありません。
構造用面材としてせっこうボードを使用する場合は、外張断熱材無しで使用できます。
真壁（内装側）にも対応します。

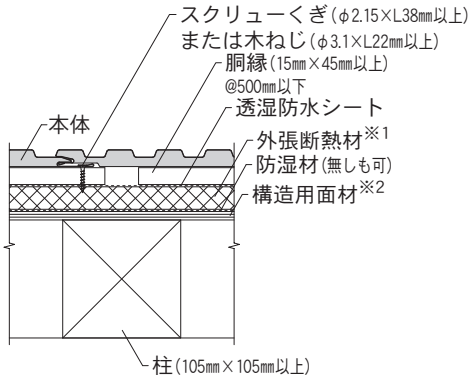
○外張断熱材ありの場合



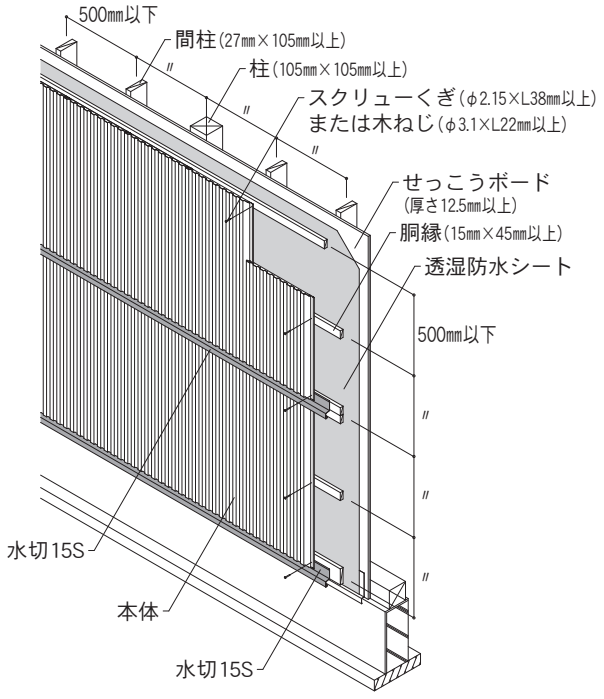
鉛直断面図



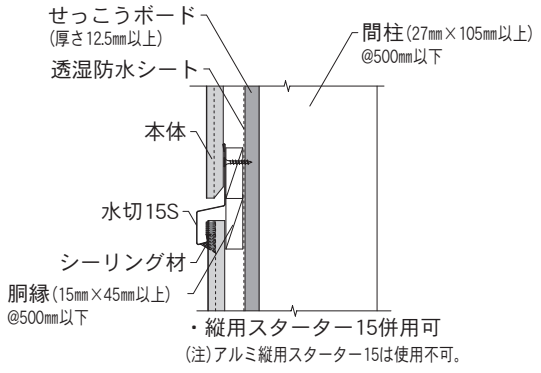
水平断面図



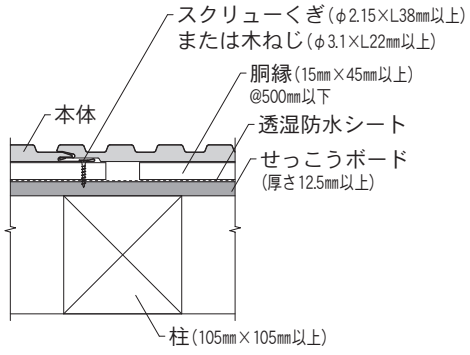
○外張断熱材なしの場合



鉛直断面図



水平断面図



外張断熱材※1	
グラスウール保温板 フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ20㎜以上105㎜以下

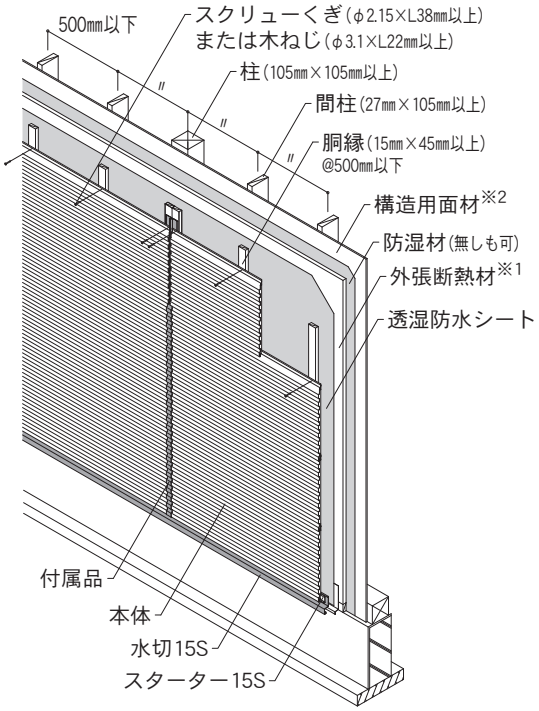
構造用面材※2
構造用合板 7.5㎜以上 構造用パネル（OSB） 9㎜以上 火山性ガラス質複層板HⅢ（JIS A 5440:2003）9㎜以上 MDF 9㎜以上など

木造下地準防火構造
横張り

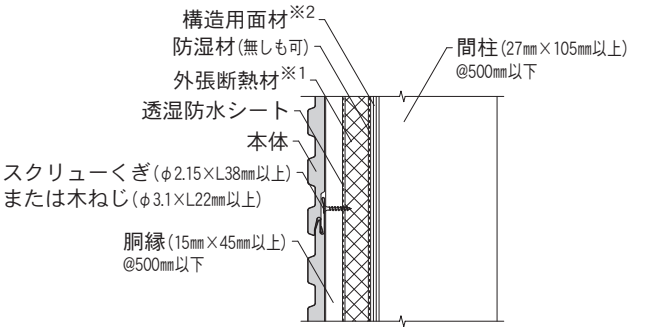
■外張断熱通気軸組仕様：QP020BE-0038

ボード状断熱材の外張断熱工法に対応した準防火構造認定です。
せっこうボードなどの、内装材の制限がありません。
構造用面材としてせっこうボードを使用する場合は、外張断熱材無しで使用できます。
真壁（内装側）にも対応します。

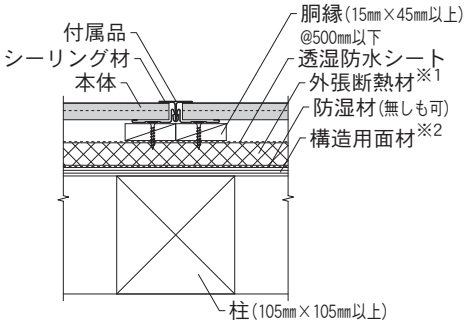
○外張断熱材ありの場合



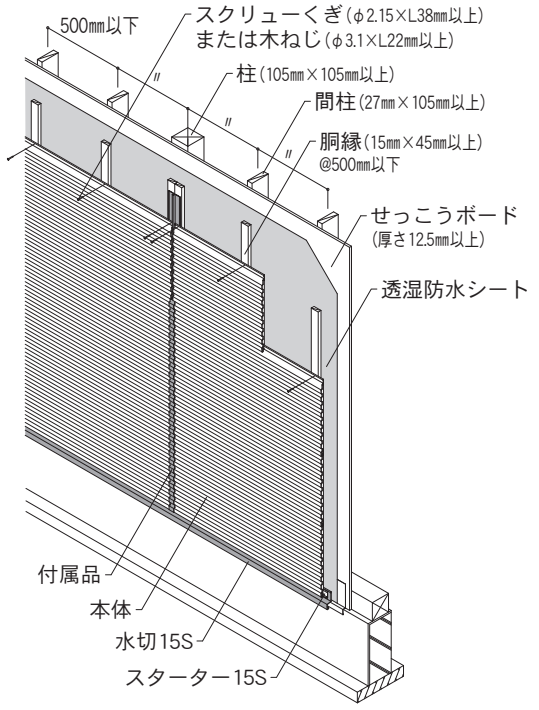
鉛直断面図



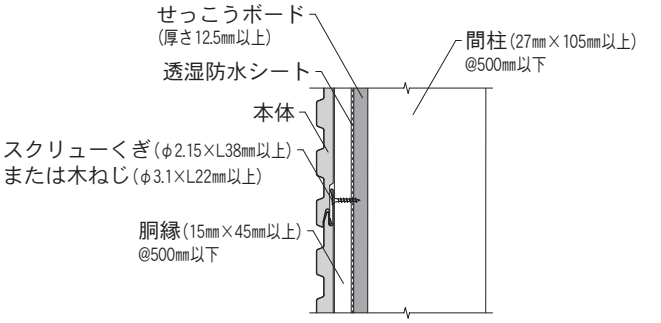
水平断面図



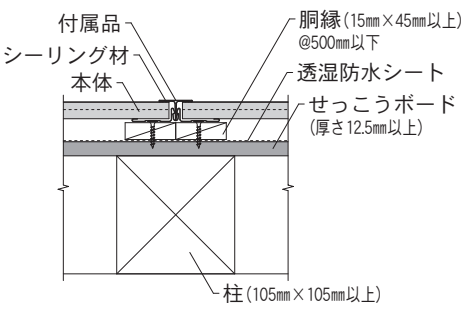
○外張断熱材なしの場合



鉛直断面図



水平断面図



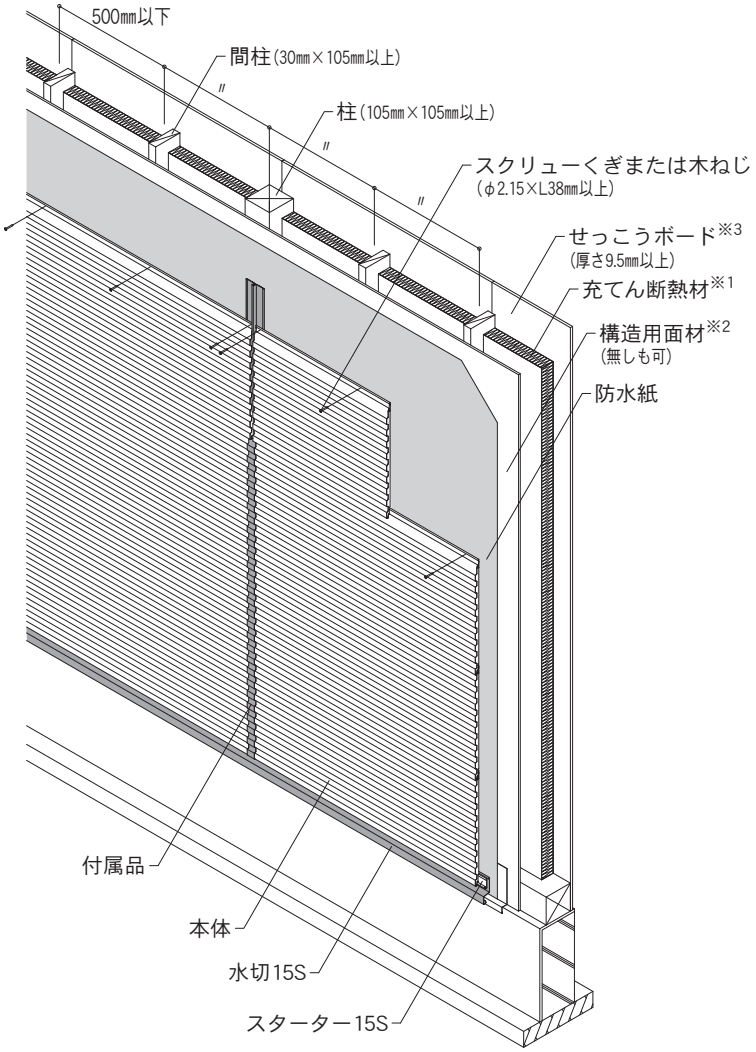
外張断熱材※1	
グラスウール保温板 フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ20㎜以上105㎜以下

構造用面材※2
構造用合板 7.5㎜以上 構造用パネル（OSB） 9㎜以上 火山性ガラス質複層板HⅢ（JIS A 5440:2003）9㎜以上 MDF 9㎜以上など

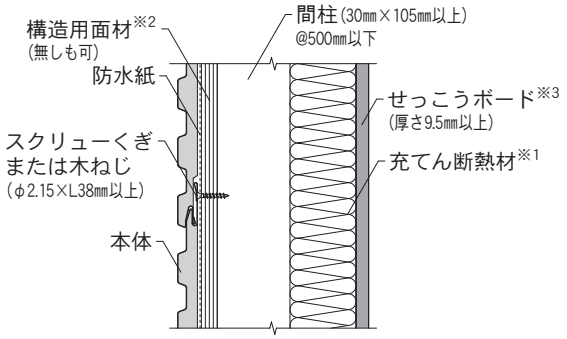
木造下地防火構造
横張り

■充てん断熱直張軸組仕様：PC030BE-0409

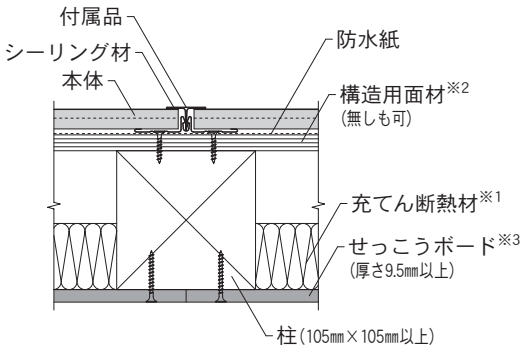
無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ50㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板 MDFなど

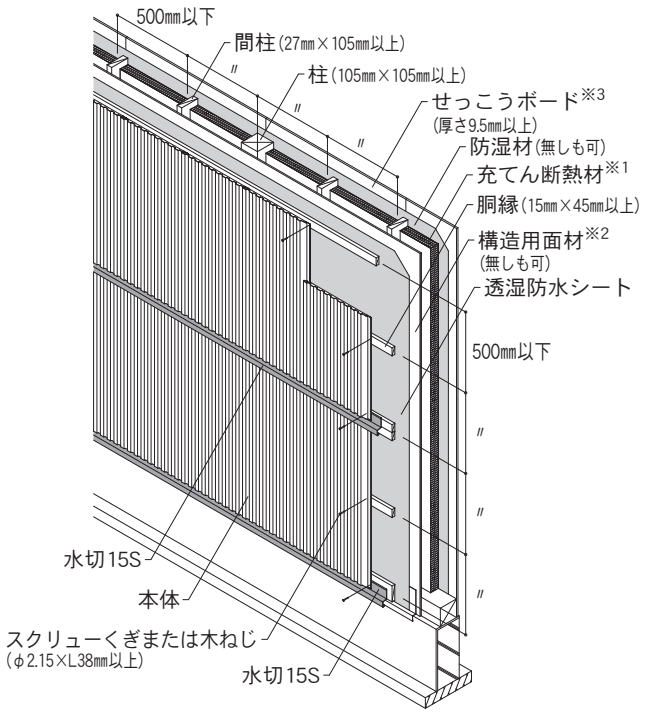
せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

木造下地防火構造
縦張り／横張り

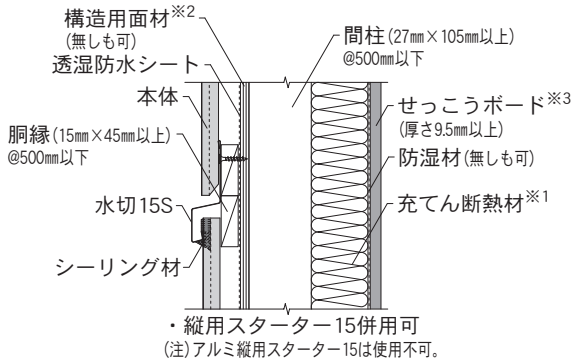
■充てん断熱通気軸組仕様（1）：PC030BE-0703

無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。

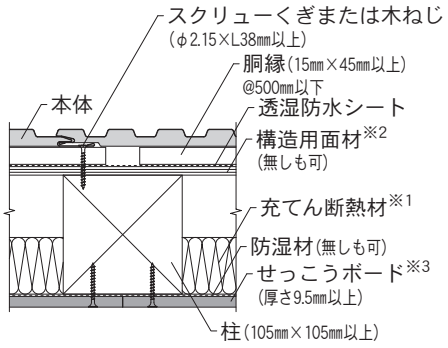
縦張り



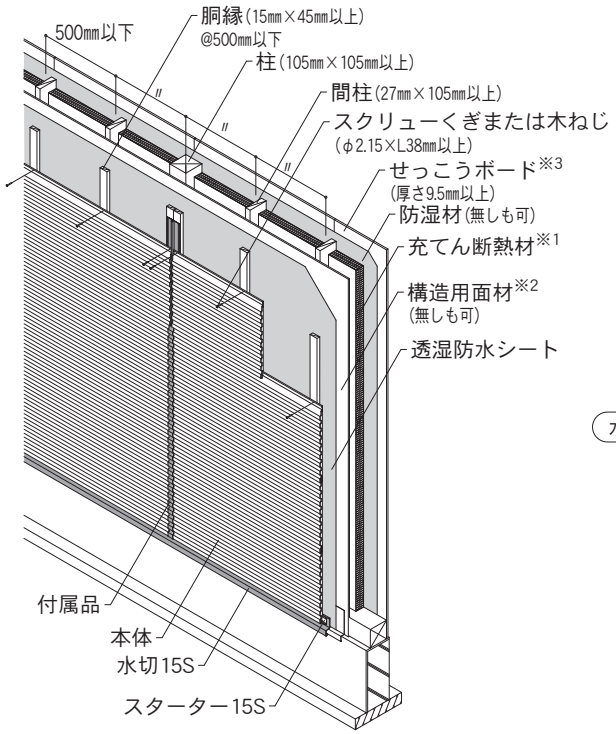
鉛直断面図



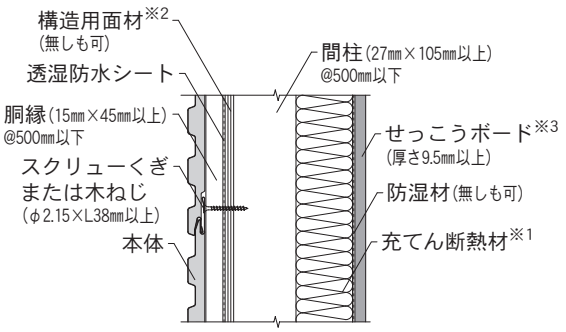
水平断面図



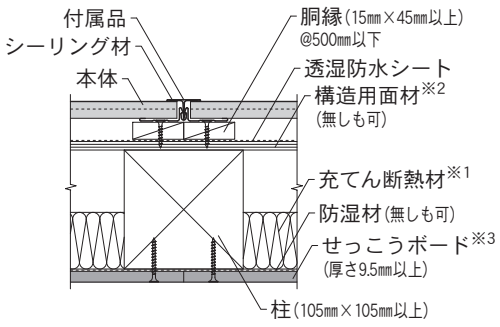
横張り



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ50㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板 MDFなど

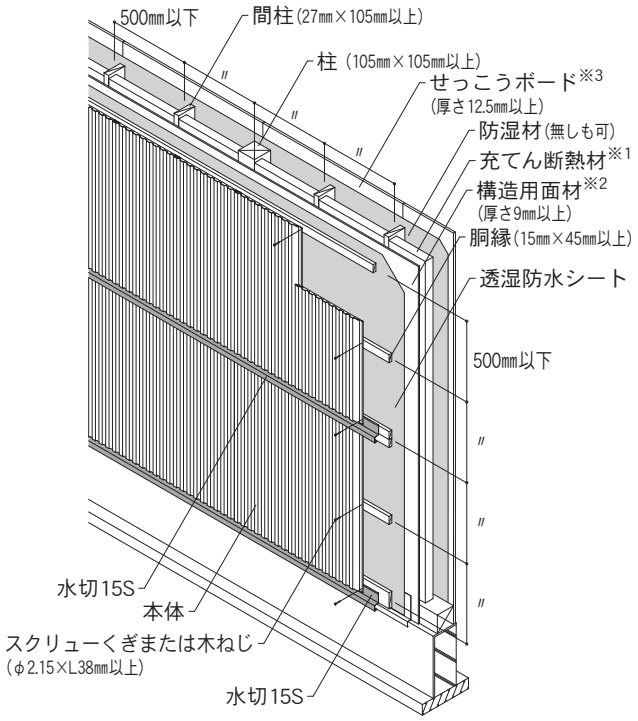
せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

木造下地防火構造
縦張り／横張り

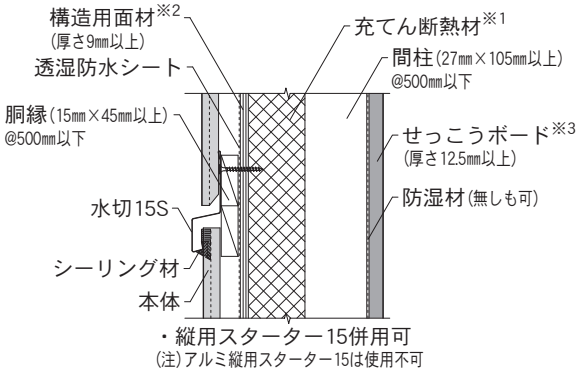
■充てん断熱通気軸組仕様（2）：PC030BE-0558

発泡プラスチック系断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。
現場発泡断熱材、ボード状断熱材が使用できます。
真壁（内装側）にも対応します。
外張断熱材も併用できます。

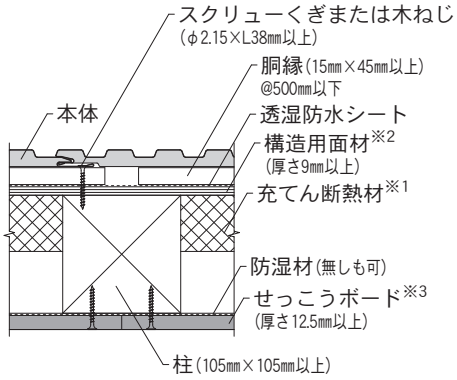
縦張り



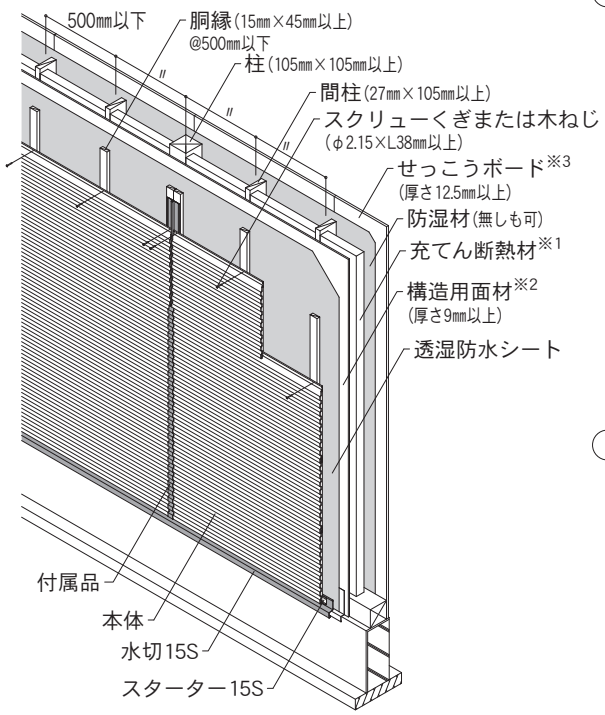
鉛直断面図



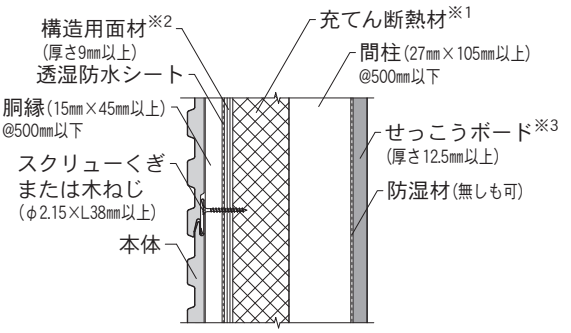
水平断面図



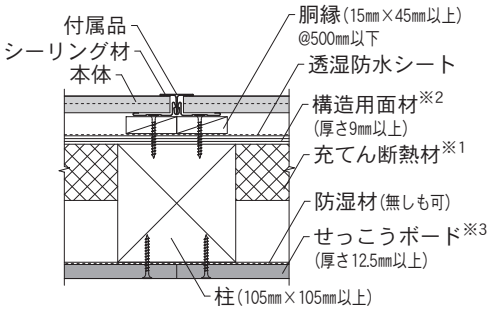
横張り



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
フェノールフォーム保温板	厚さ20㎜以上105㎜ または柱の見込み寸法以下
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ15㎜以上105㎜ または柱の見込み寸法以下
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ50㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板 MDFなど

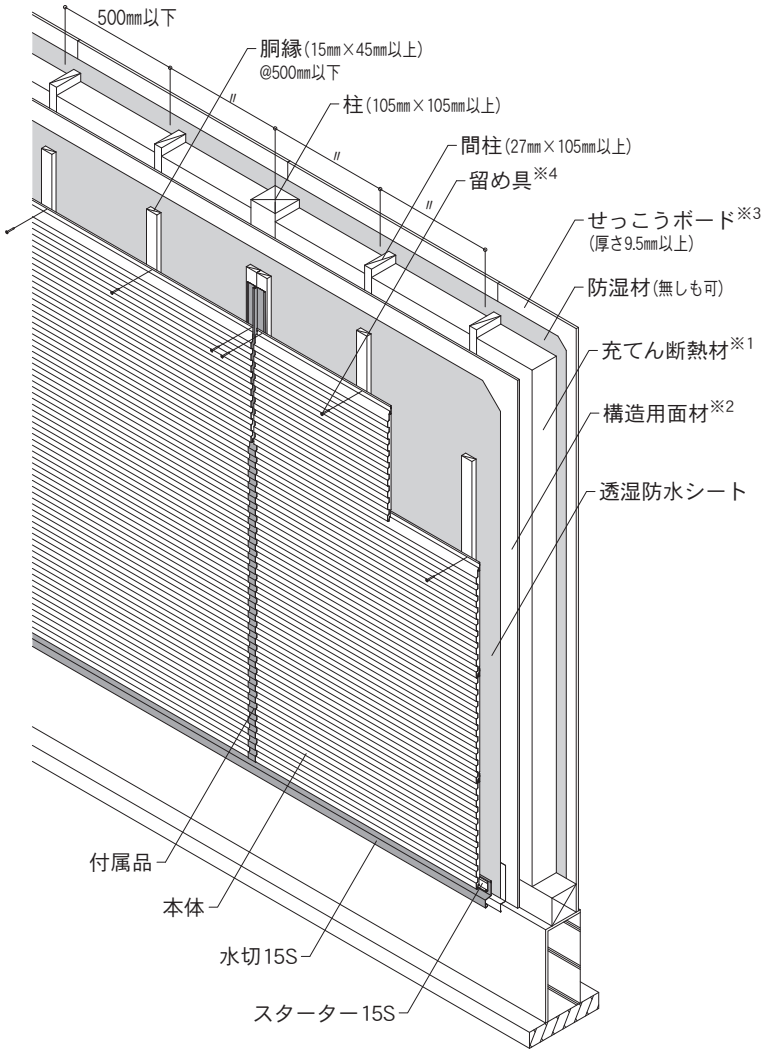
せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

外張断熱材（無しも可）
フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など

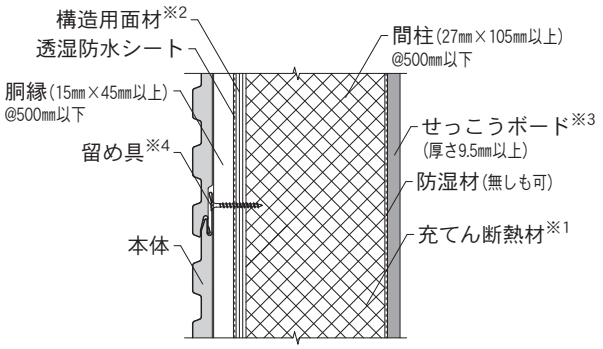
木造下地防火構造
横張り

■充てん断熱通気軸組仕様 (3)：PC030BE-1010

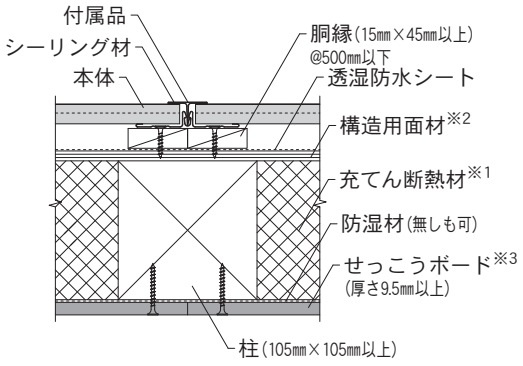
セルローズファイバー断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
セルローズファイバー	密度40～60kg/m³厚さ105㎜以上 （柱の見込み寸法と同じ）

せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

構造用面材※2
火山性ガラス質複層板HⅢ（JIS A 5440:2003） 9㎜以上

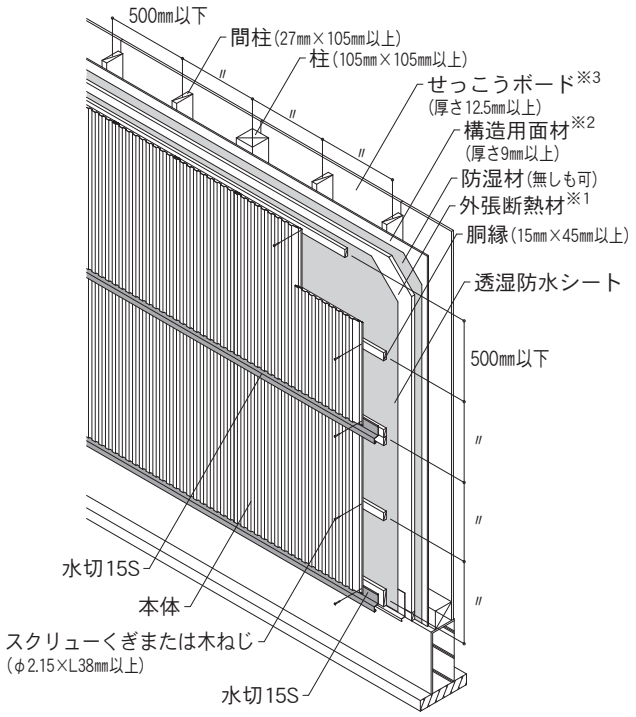
留め具※4
本体は、スクリューくぎ（φ2.15×L38㎜以上）または木ねじ（φ3.8×L32㎜以上）で留め付けてください。

木造下地防火構造
縦張り／横張り

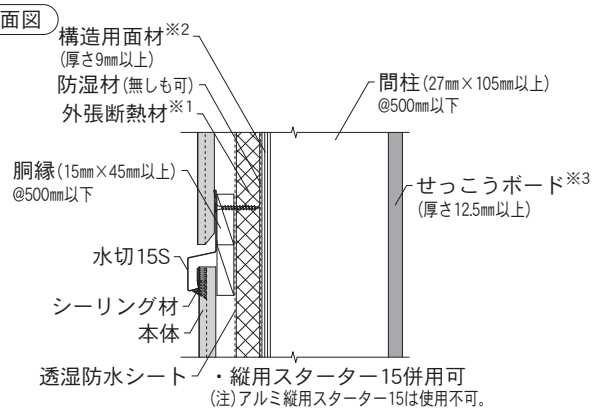
■外張断熱通気軸組仕様：PC030BE-0536

発泡プラスチック系断熱材の外張断熱工法に対応した防火構造認定です。
真壁（内装側）にも対応します。
充てん断熱材も併用できます。

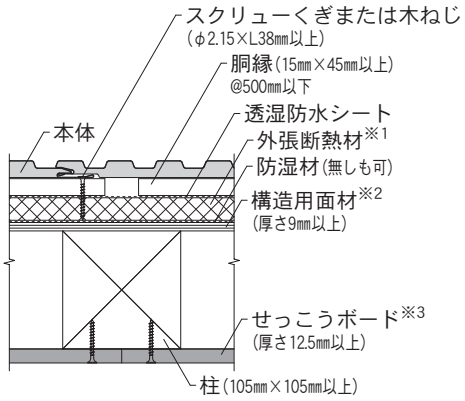
縦張り



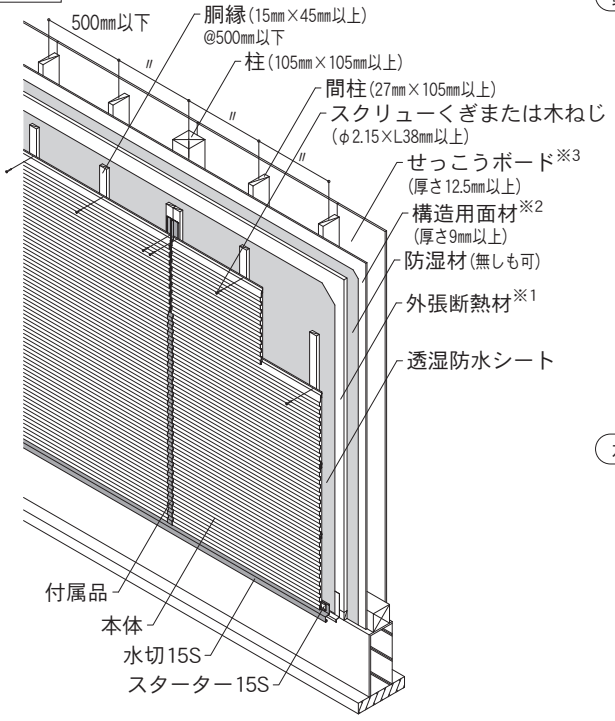
鉛直断面図



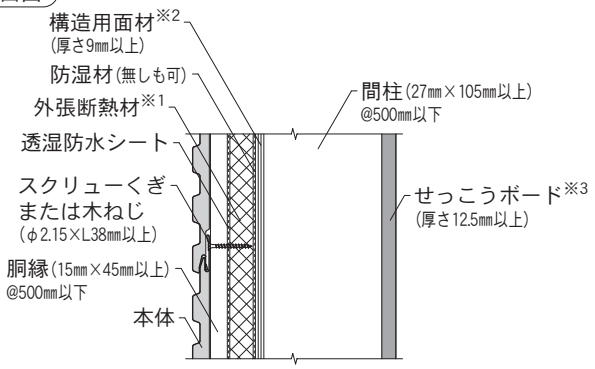
水平断面図



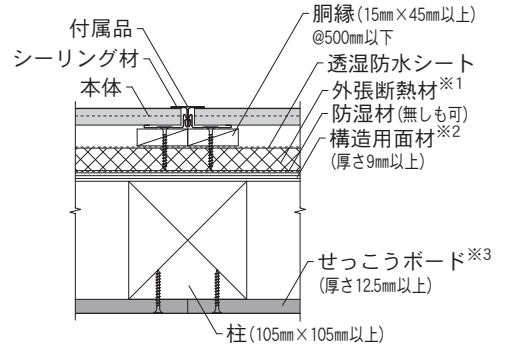
横張り



鉛直断面図



水平断面図



外張断熱材※1	
フェノールフォーム保温板	厚さ20㎜以上 105㎜以下
押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ15㎜以上 105㎜以下

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板 MDFなど

せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部 200㎜以下の間隔で留め付けてください。

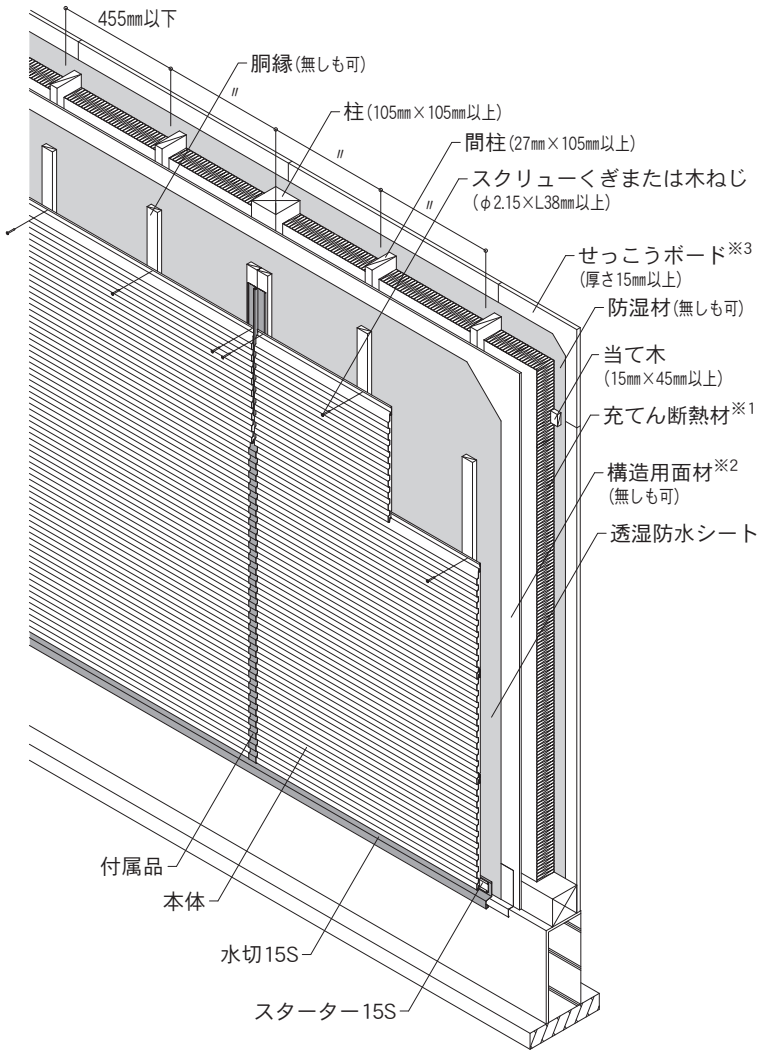
充てん断熱材(無しも可)
グラスウール ロックウール 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など

木造下地45分準耐火構造

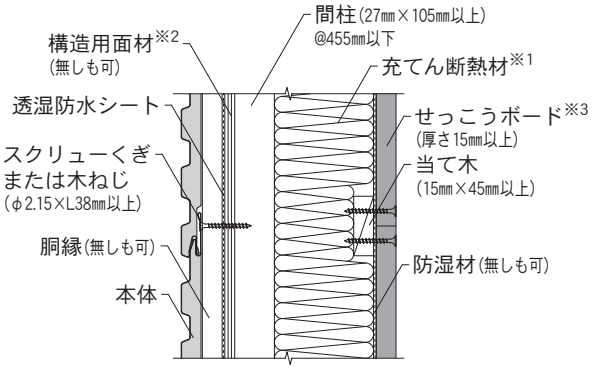
横張り

■充てん断熱軸組仕様：QF045BE-0345

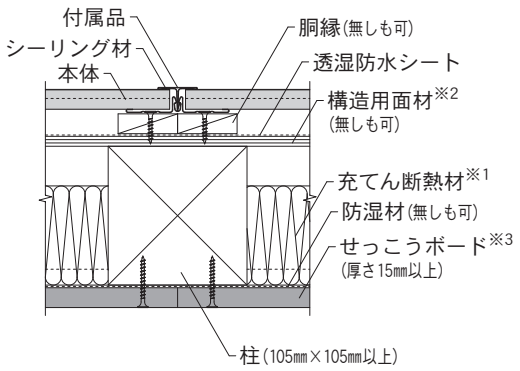
無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した45分準耐火構造認定です。
柱・間柱間隔455㎜以下です。「通気構法」、「直張工法」のいずれにも対応できます。
弊社の標準構法は、通気構法です。狭小地などの地域以外では、通気構法をご採用ください。
せっこうボードの横目地には、当て木（15㎜×45㎜以上）を入れてください。



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ75㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板 MDFなど

せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。せっこうボードの横目地には、当て木（15㎜×45㎜以上）を入れてください。

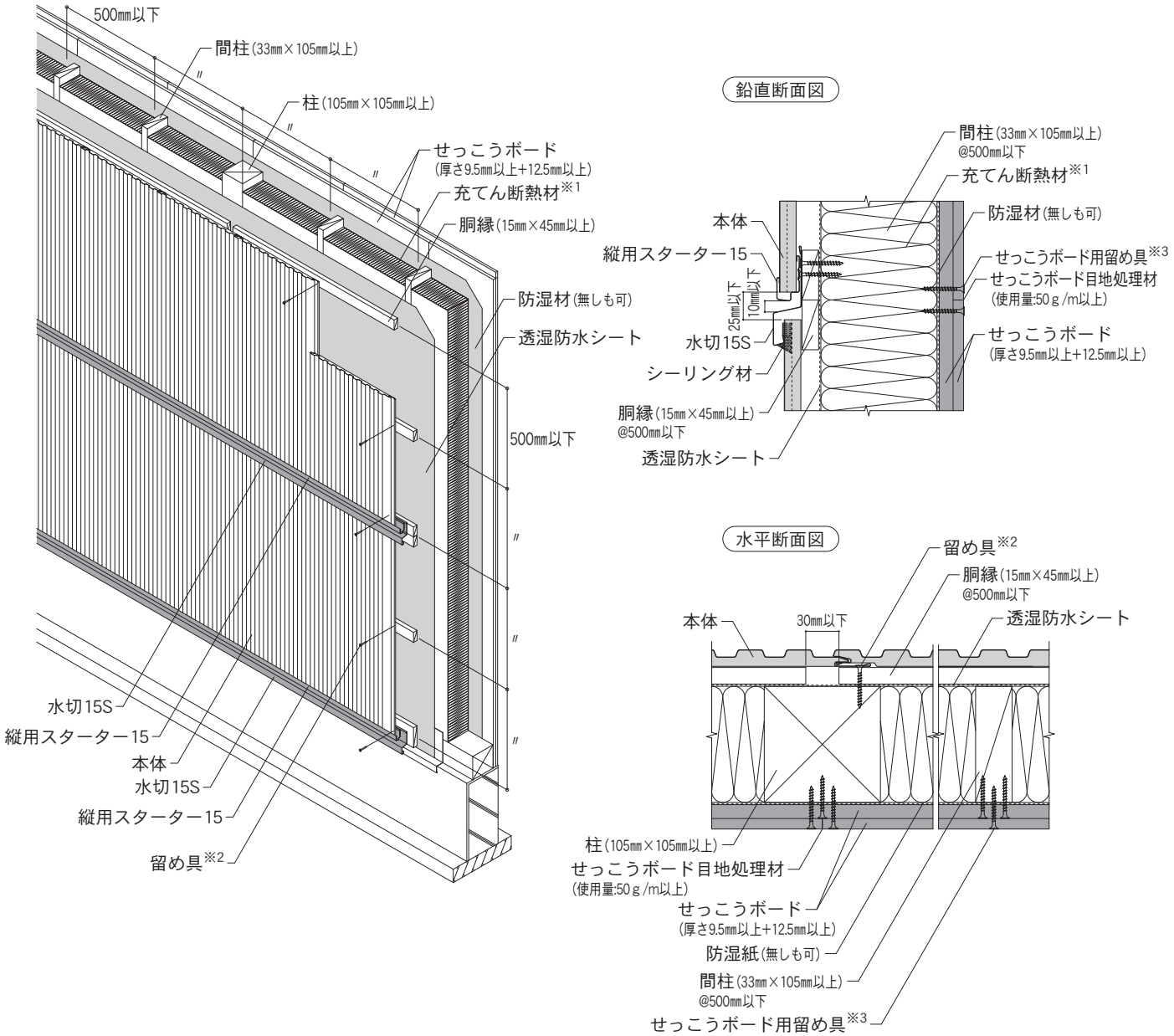
ポイント

・せっこうボードは、厚さ12.5㎜以上と厚さ9.5㎜以上の重ね張りも可能です。その際は、柱、間柱にくぎまたはねじ(φ2.34×L38.7㎜以上)を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。また、上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。

木造下地45分準耐火構造
縦張り

■充てん断熱通気軸組仕様(1)：QF045BE-0751

無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した45分準耐火構造認定です。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。



充てん断熱材※1	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ100㎜以上

留め具※2
スクリューくぎφ2.15×L38㎜以上 または木ねじφ3.5×L32㎜以上

せっこうボード用留め具※3	
[下張り用] くぎφ2.15×L38㎜以上または ねじφ3.8×L28㎜以上	[上張り用] くぎφ2.34×L38.1㎜以上または ねじφ3.8×L38㎜以上

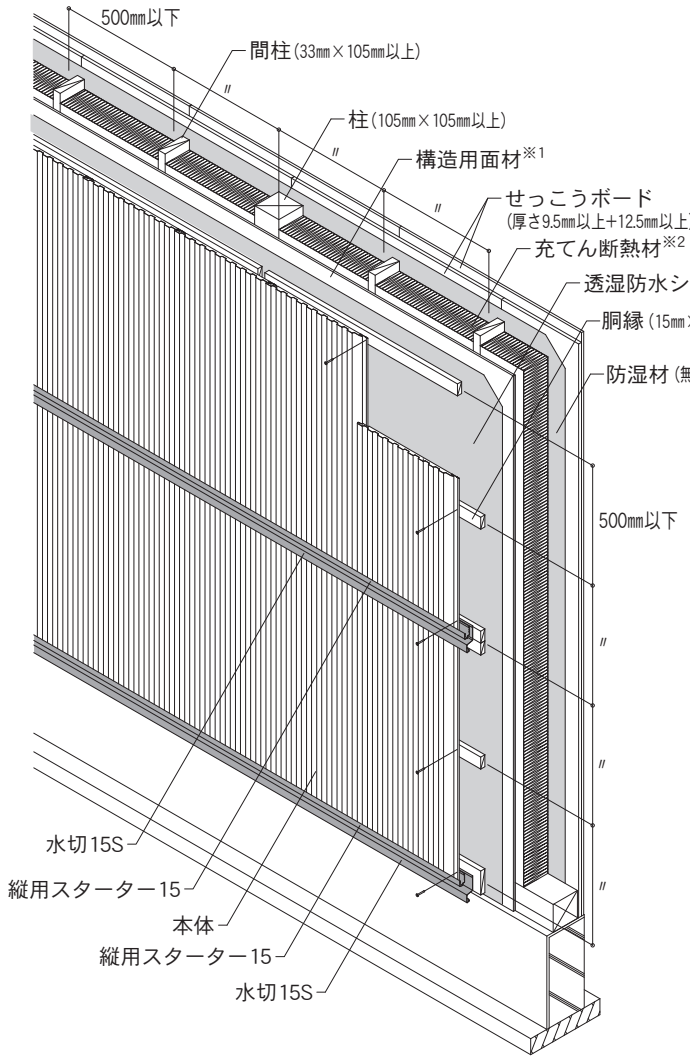
ポイント

・せっこうボードは、柱、間柱にせっこうボード用留め具を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。上張りの目地部には、せっこうボード目地処理材（使用量：50g/m以上）を施工してください。せっこうボード目地処理材は、せっこうボードメーカーの推奨するものを使用してください。
・この45分準耐火認定は、内装せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず室内面の目地処理が必須です。目地処理は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
・縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

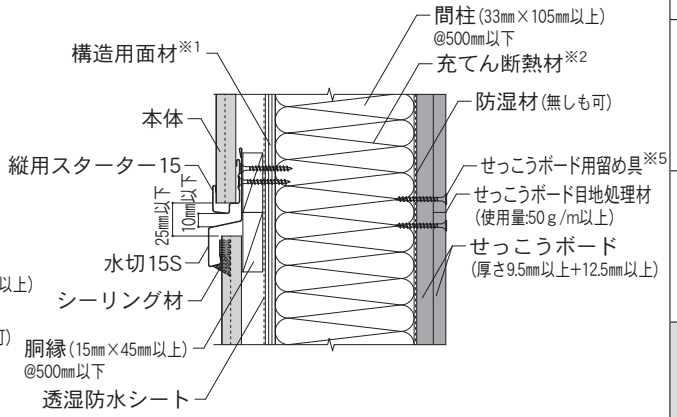
木造下地45分準耐火構造
縦張り

■充てん断熱通気軸組仕様(2)：QF045BE-0753 QF045BE-0754 QF045BE-0755 QF045BE-0756

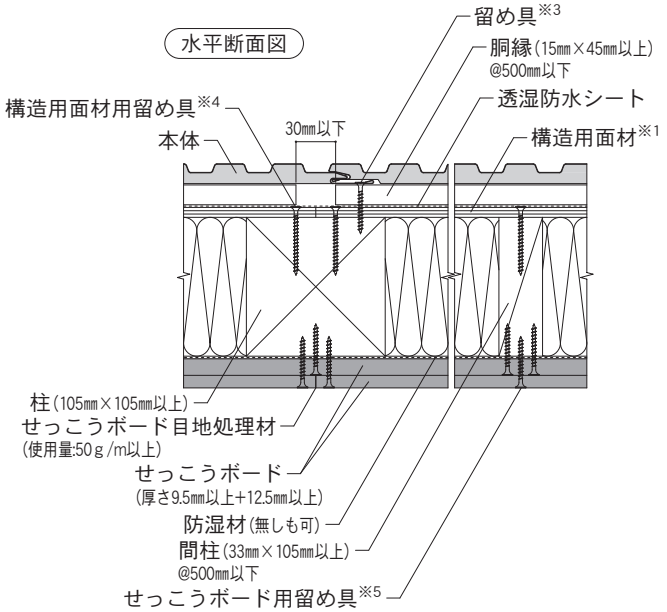
無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した
45分準耐火構造認定です。
認定番号は、使用する構造用面材によって違います。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。



鉛直断面図



水平断面図



認定番号	構造用面材※1	
QF045BE-0753	構造用合板	厚さ5㎜以上
	構造用パネル	厚さ9㎜以上
	パーティクルボード	厚さ9.5㎜以上
	ハードボード	厚さ5㎜、7㎜
	インシュレーションボード	厚さ9㎜以上
	MDF	厚さ7㎜以上
	ケナボードS	厚さ4.5㎜
QF045BE-0754	木質系セメント板	厚さ12㎜以上
	繊維強化セメント板	厚さ4㎜以上
	パルプセメント板	厚さ6㎜以上
QF045BE-0755	火山性ガラス質複層板	厚さ6㎜以上
QF045BE-0756	窯業系サイディング	厚さ14㎜以上

充てん断熱材※2	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ100㎜以上

留め具※3
スクリューくぎφ2.15×L38㎜以上または 木ねじφ3.5×L32㎜以上

構造用面材用留め具※4
くぎφ1.70×L25㎜以上または ねじφ1.70×L25㎜以上

せっこうボード用留め具※5	
[下張り用] くぎφ2.15×L38㎜以上または ねじφ3.8×L28㎜以上	[上張り用] くぎφ2.34×L38.1㎜以上または ねじφ3.8×L38㎜以上

ポイント

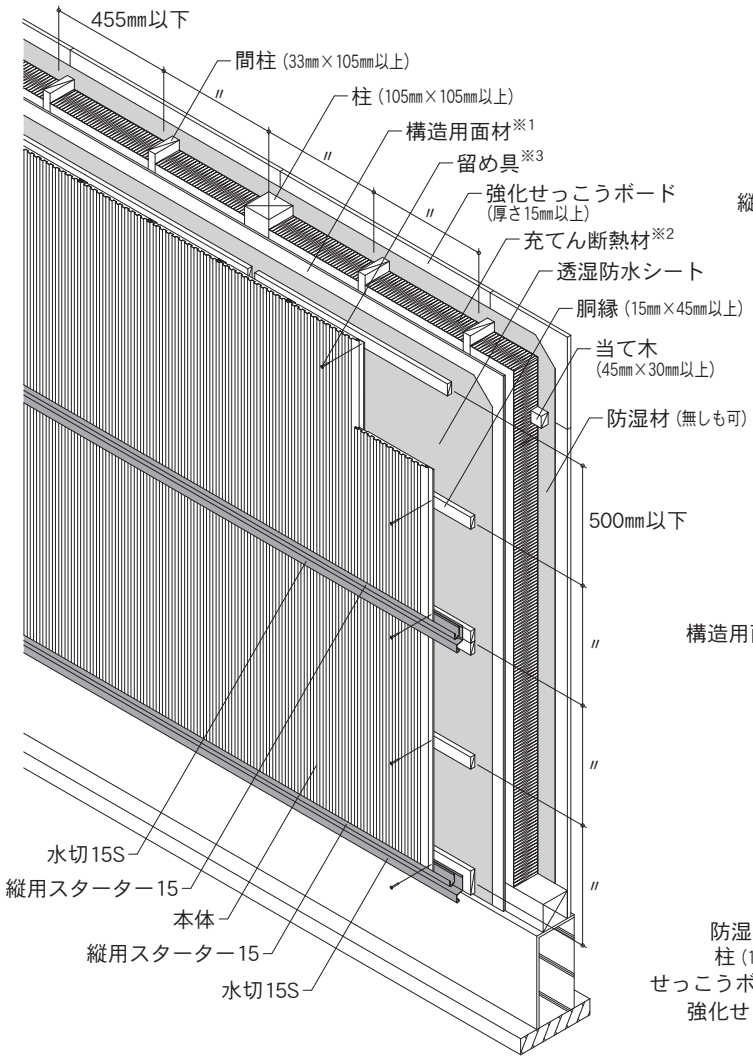
・構造用面材は、構造用面材用留め具を用いて、柱、間柱に200㎜以下の間隔で留め付けてください。
・せっこうボードは、柱、間柱にせっこうボード用留め具を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。上張りの目地部には、せっこうボード目地処理材（使用量：50g/m以上）を施工してください。せっこうボード目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。
・この45分準耐火認定は、内装せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず室内面の目地処理が必須です。目地処理は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
・縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

木造下地45分準耐火構造

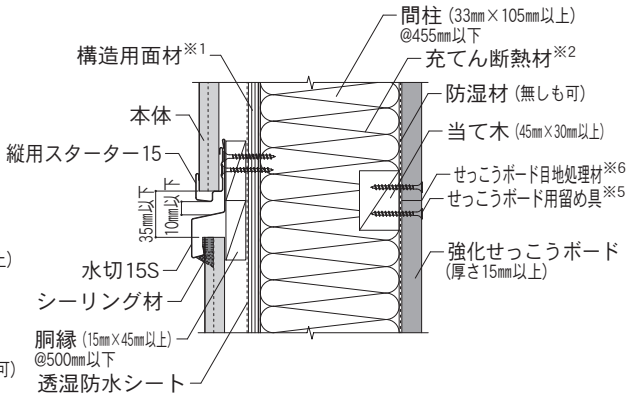
縦張り

■充てん断熱通気軸組仕様(3)：QF045BE-1130 QF045BE-1131 QF045BE-1132 QF045BE-1133

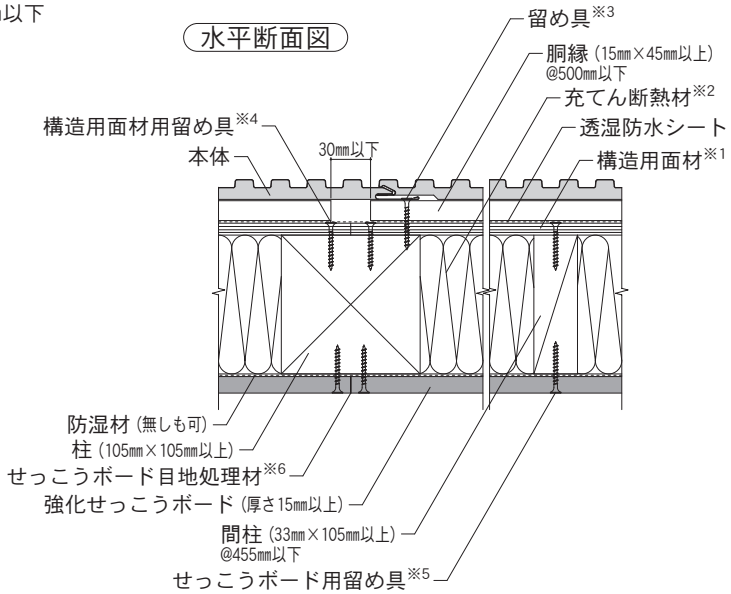
無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した
45分準耐火構造認定です。
認定番号は、使用する構造用面材によって違います。
対応商品は、ガルスパンSEiです。



鉛直断面図



水平断面図



認定番号	構造用面材※1	
QF045BE-1130	構造用合板	厚さ9㎜以上
	構造用パネル	
	パーティクルボード	
	MDF	
QF045BE-1131	木質系セメント板	厚さ9㎜以上
	繊維強化セメント板	
	繊維混入けい酸カルシウム板	
	パルプセメント板	
QF045BE-1132	火山性ガラス質複層板	厚さ9㎜以上
QF045BE-1133	せっこうボード	厚さ9.5㎜以上
	強化せっこうボード	厚さ12.5㎜以上

充てん断熱材※2	
グラスウール	密度16kg/m³以上
ロックウール	厚さ100㎜以上

留め具※3
スクリューくぎφ2.15×L38㎜以上 または木ねじφ3.5×L32㎜以上

構造用面材用留め具※4
くぎφ1.90×L32㎜以上 またはねじφ2.1×L32㎜以上

せっこうボード用留め具※5
くぎφ2.34×L38.1㎜以上 またはねじφ3.8×L32㎜以上

せっこうボード目地処理材※6
テープ（ガラス繊維：厚さ0.2㎜以上、幅50㎜以上） せっこうボード目地処理材 （せっこう系または炭酸カルシウム系：使用量30g/m以上）

ポイント

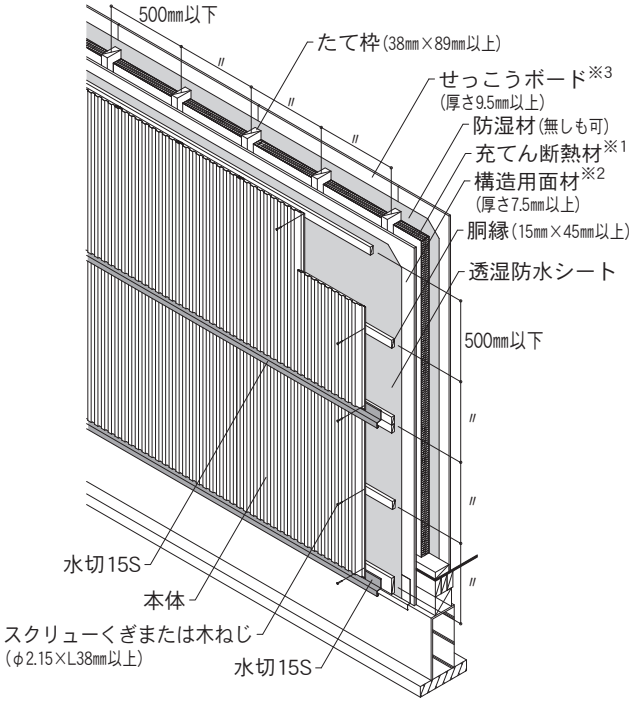
・構造用面材は、構造用面材用留め具を用いて、柱、間柱に外周部455㎜以下、中間部455㎜以下の間隔で留め付けてください。
・強化せっこうボード（厚さ15㎜以上）は、柱、間柱にせっこうボード用留め具※5を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。強化せっこうボードの目地部には、せっこうボード目地処理材※6を施工してください。
・強化せっこうボードは、厚さ12.5㎜以上の重ね張りも可能です。その際は、下張りは柱、間柱及び当て木に、上張りは柱、間柱にせっこうボード用留め具を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。また、上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。上張りの強化せっこうボードの目地部には、せっこうボード目地処理材を施工してください。
　せっこうボード用留め具 下張り：くぎφ2.34×L38.1㎜以上またはねじφ3.8×L28㎜以上
　せっこうボード用留め具 上張り：くぎφ2.45×L50.8㎜以上またはねじφ3.8×L42㎜以上
・せっこうボード目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。
・この45分準耐火構造認定は、内装せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず室内面の目地処理が必須です。目地処理は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
・縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

木造下地防火構造
縦張り／横張り

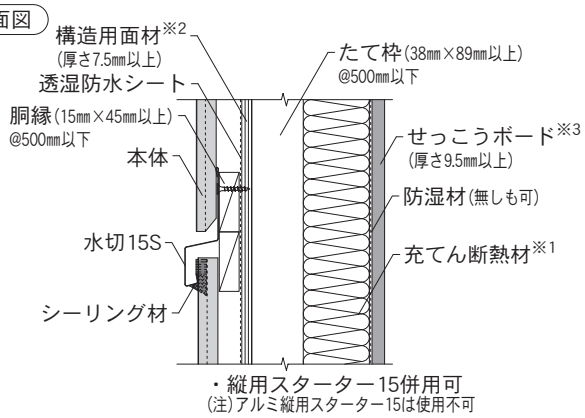
■充てん断熱通気枠組仕様 (1)：PC030BE-0704

無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。

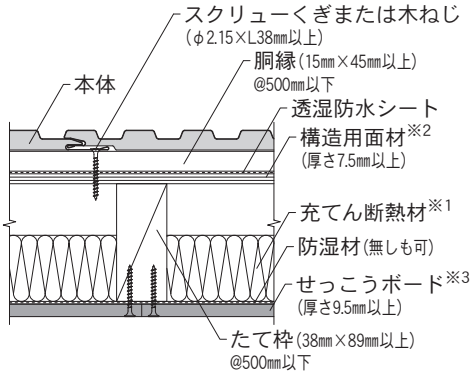
縦張り



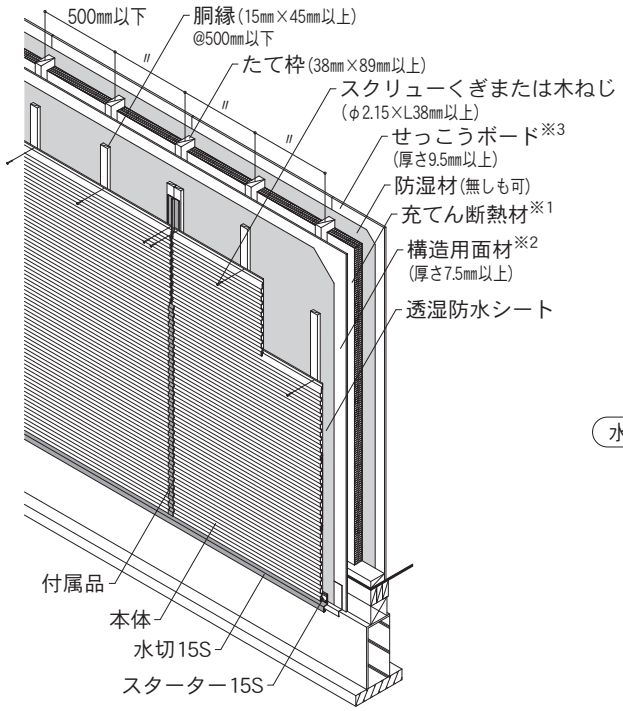
鉛直断面図



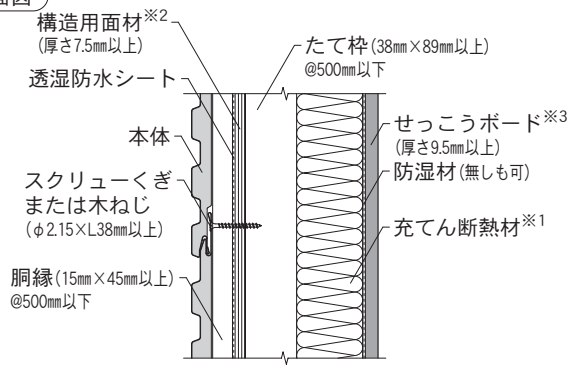
水平断面図



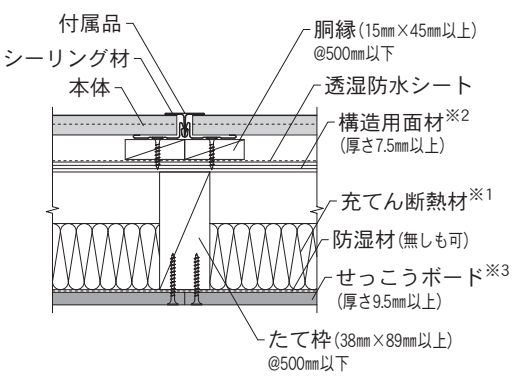
横張り



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ50㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板など

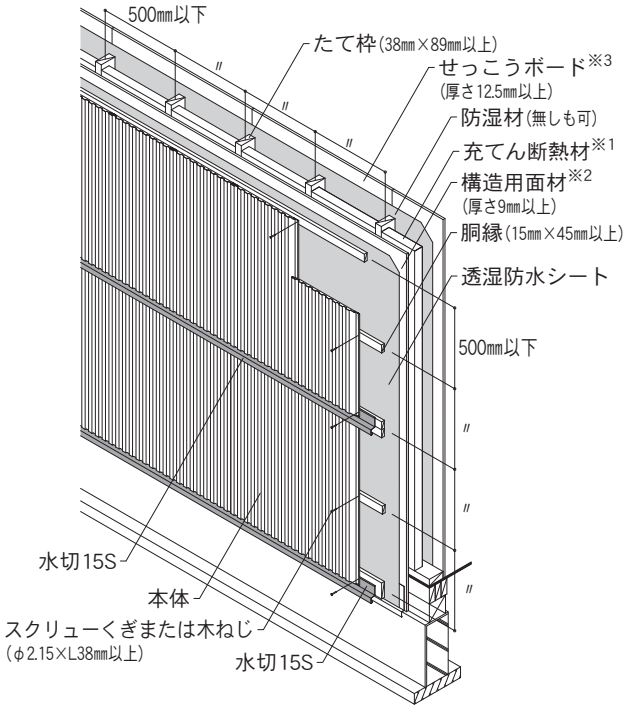
せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

木造下地防火構造
縦張り／横張り

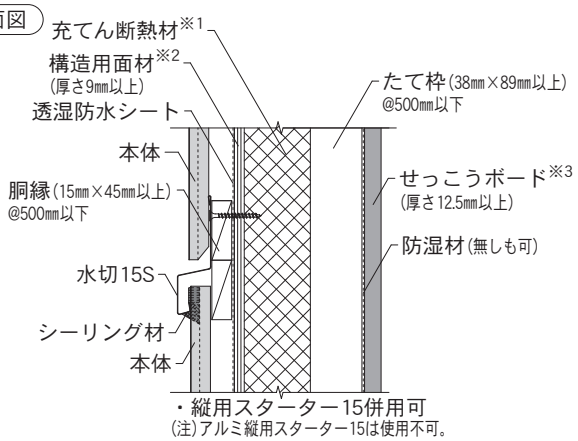
■充てん断熱通気枠組仕様 (2)：PC030BE-0559

発泡プラスチック系断熱材の充てん断熱工法に対応した防火構造認定です。
現場発泡断熱材、ボード状断熱材が使用できます。
外張断熱材も併用できます。

縦張り

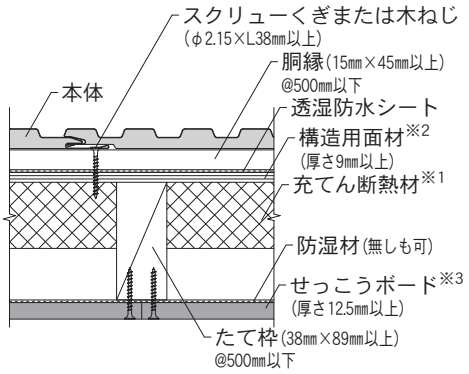


鉛直断面図

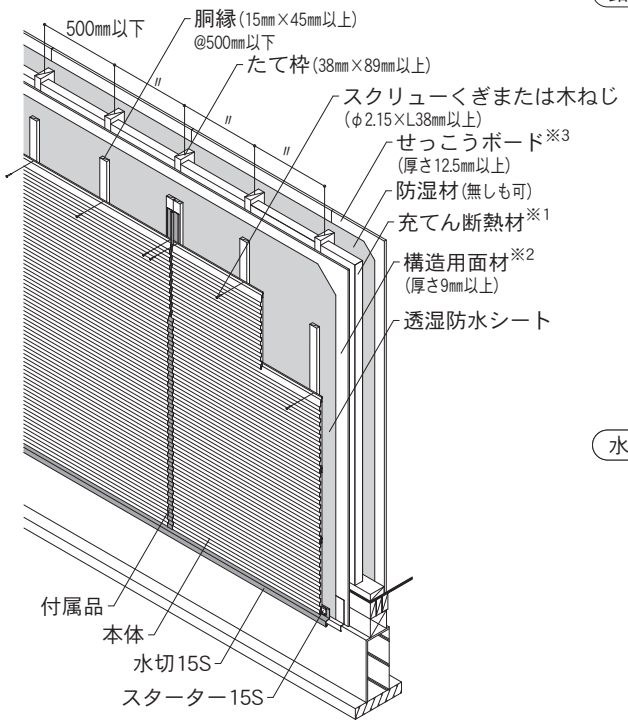


・縦用スターター15併用可
(注)アルミ縦用スターター15は使用不可。

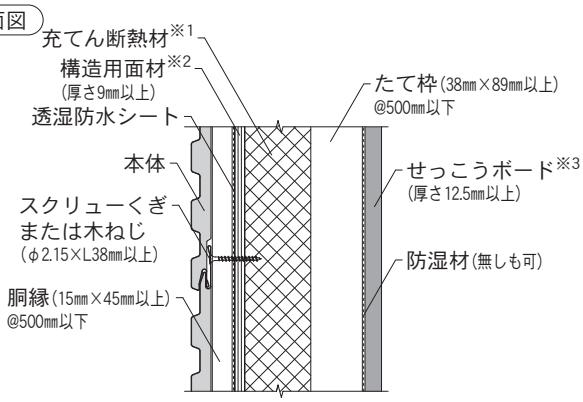
水平断面図



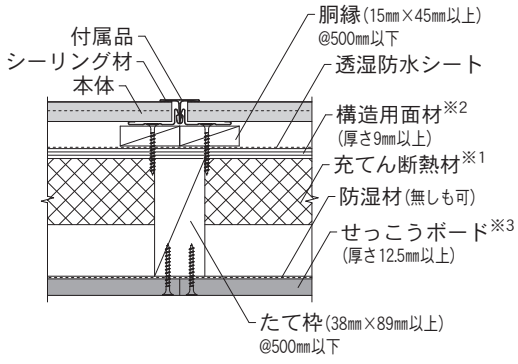
横張り



鉛直断面図



水平断面図



充てん断熱材※1	
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板 フェノールフォーム保温板など	厚さ15㎜以上 89㎜または たて枠の見込み 寸法以下
グラスウール ロックウール	密度10kg/m³以上 厚さ50㎜以上

構造用面材※2
構造用合板 構造用パネル（OSB） 火山性ガラス質複層板など

せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、外周部150㎜以下、中間部 200㎜以下の間隔で留め付けてください。

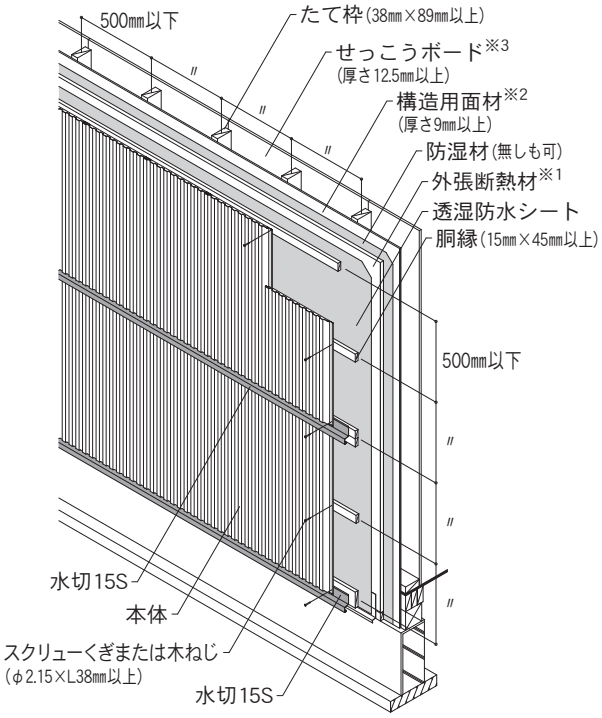
外張断熱材(無しも可)
フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など

木造下地防火構造
縦張り／横張り

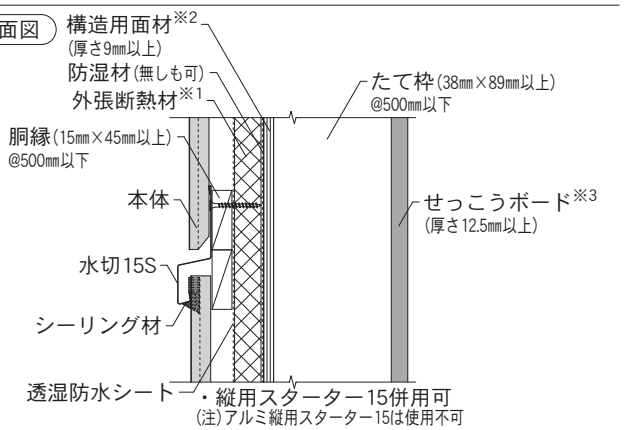
■外張断熱通気枠組仕様：PC030BE-0537

発泡プラスチック系断熱材の外張断熱工法に対応した防火構造認定です。
充てん断熱材も併用できます。

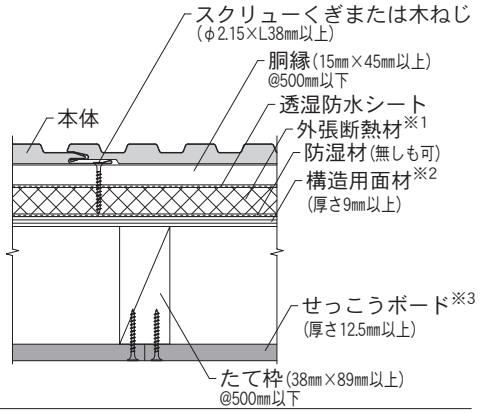
縦張り



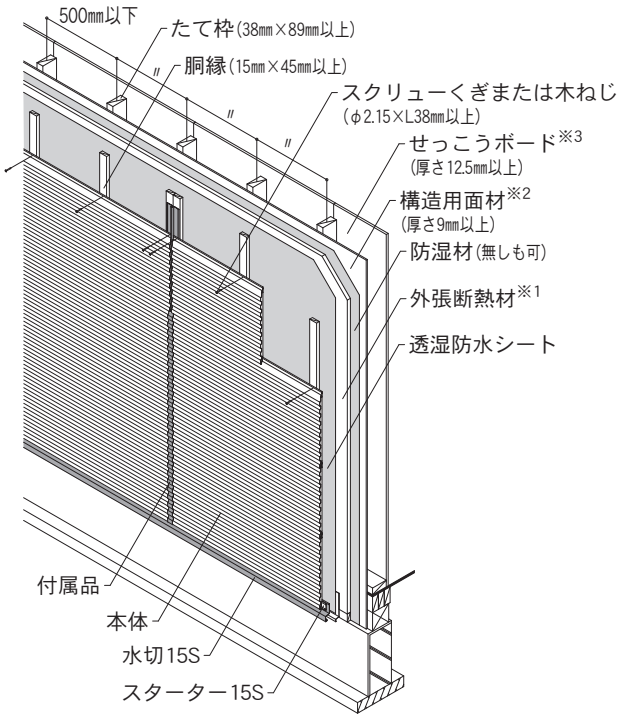
鉛直断面図



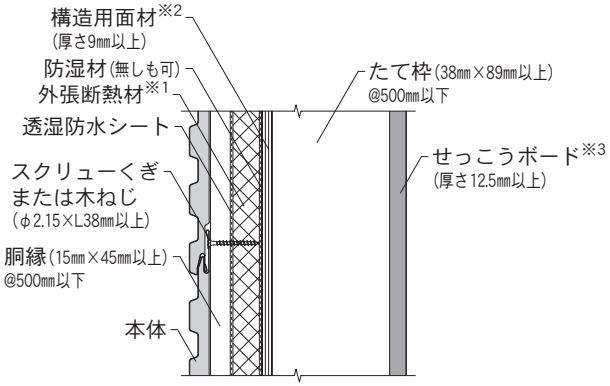
水平断面図



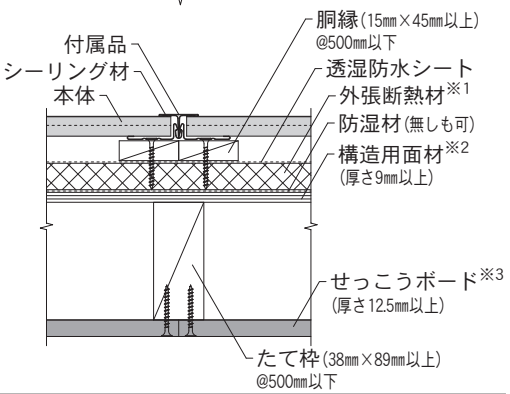
横張り



鉛直断面図



水平断面図



外張断熱材※1	
フェノールフォーム保温板 押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ15㎜以上105㎜以下

構造用面材※2
構造用合板　構造用パネル（OSB）　火山性ガラス質複層板など

せっこうボード※3
せっこうボードは、くぎまたは木ねじ（φ2.34×L38.7㎜以上）を使用し、 外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。

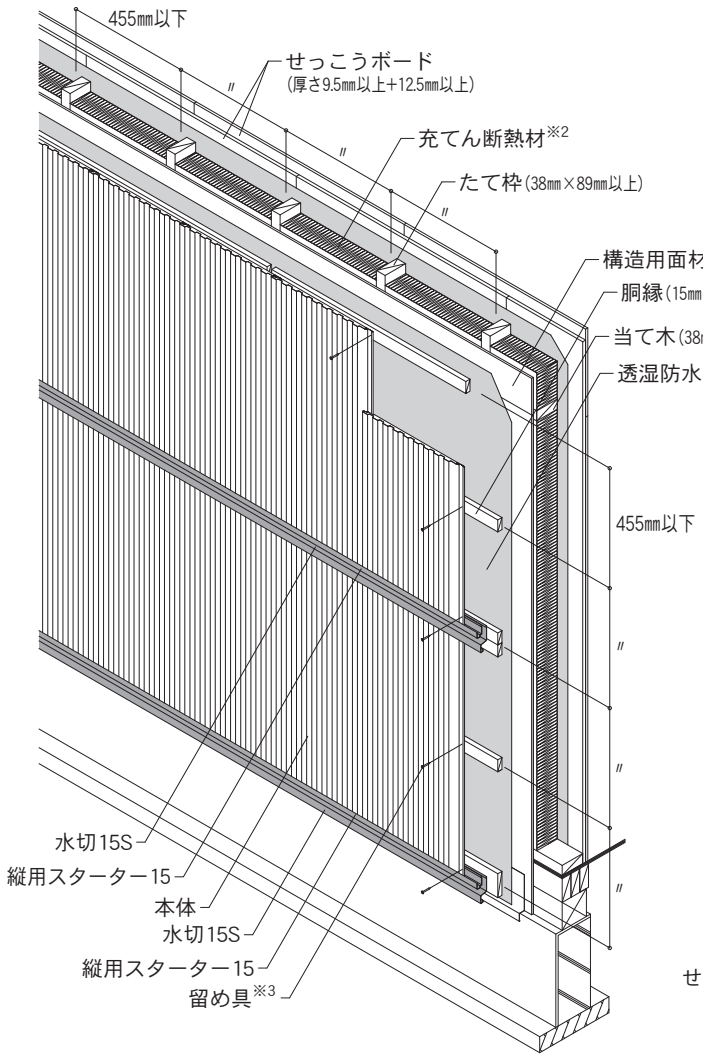
充てん断熱材（無しも可）
グラスウール ロックウール　フェノールフォーム保温板 吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材　押出法ポリスチレンフォーム保温板 硬質ウレタンフォーム保温板など

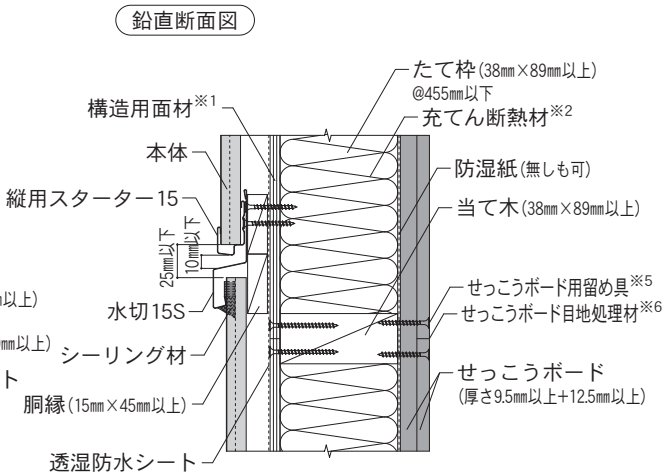
木造下地45分準耐火構造

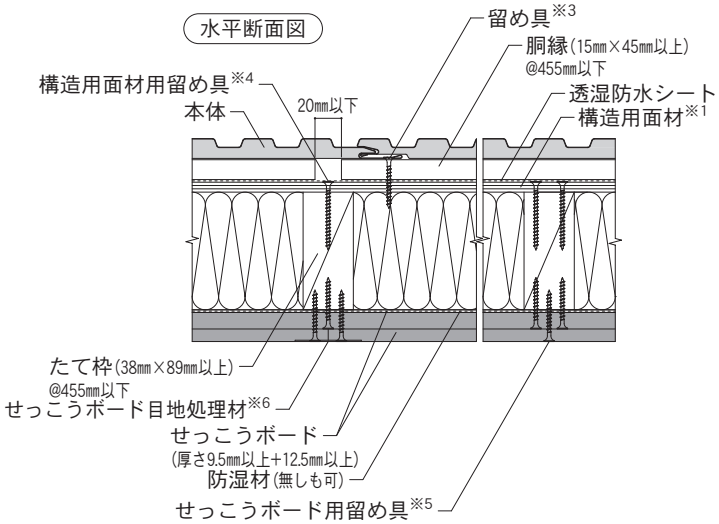
縦張り

■充てん断熱通気枠組仕様（1）：QF045BE-0761 QF045BE-0762 QF045BE-0763

無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した
45分準耐火構造認定です。
認定番号は、使用する構造用面材によって違います。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。







認定番号	構造用面材※1	
QF045BE-0761	構造用合板（密度0.47g/cm³以上） 構造用パネル（密度0.49g/cm³以上） パーティクルボード（密度0.55g/cm³以上） MDF（密度0.65g/cm³以上）	厚さ9㎜以上
QF045BE-0762	硬質木片セメント板	厚さ12㎜以上
QF045BE-0763	火山性ガラス質複層板	厚さ9㎜以上

充てん断熱材※2	
ロックウール	密度30kg/m³以上 厚さ90㎜以上

留め具※3
スクリューくぎφ2.15×L38㎜以上または 木ねじφ3.5×L32㎜以上

構造用面材用留め具※4
くぎまたはねじ φ2.87×L50.8㎜以上

せっこうボード用留め具※5	
［下張り用］ くぎφ2.15×L38㎜以上または ねじφ3.8×L28㎜以上	［上張り用］ くぎφ2.34×L38.1㎜以上または ねじφ3.8×L38㎜以上

せっこうボード目地処理材※6
テープ（ガラス繊維：厚さ0.2㎜以上、幅50㎜以上） せっこうボード目地処理材（使用量：50g/m以上）

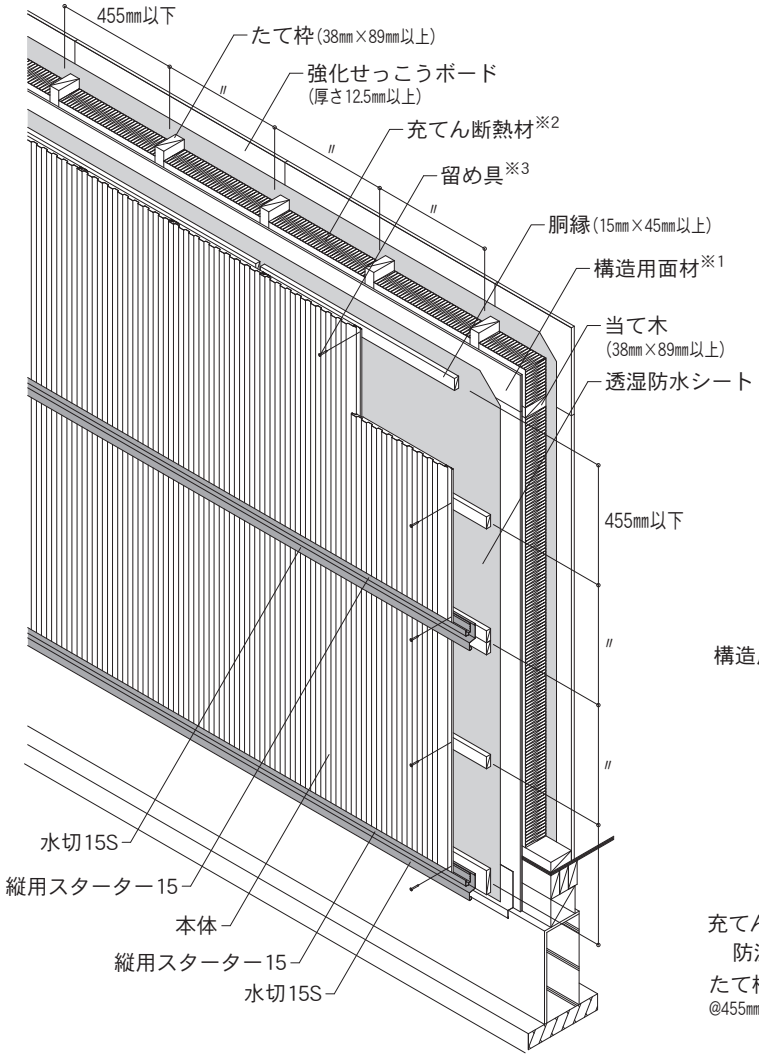
ポイント

・構造用面材及びせっこうボード（下張り）の横目地部となる箇所にはあらかじめ当て木を配置してください。
・構造用面材は、目地部にすき間のないように構造用面材用留め具を用いて外周部100㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。
・せっこうボードは、たて枠、上下の枠材及び当て木に、せっこうボード用留め具を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。上張りの目地部には、せっこうボード目地処理材を施工してください。せっこうボード目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。
・この45分準耐火認定は、内装せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず室内面の目地処理が必須です。目地処理は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
・せっこうボードのエッジタイプに関わらず、先にガラス繊維テープをせっこうボードの目地部に貼り付けてから、目地処理材を塗り付けてください。
・縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

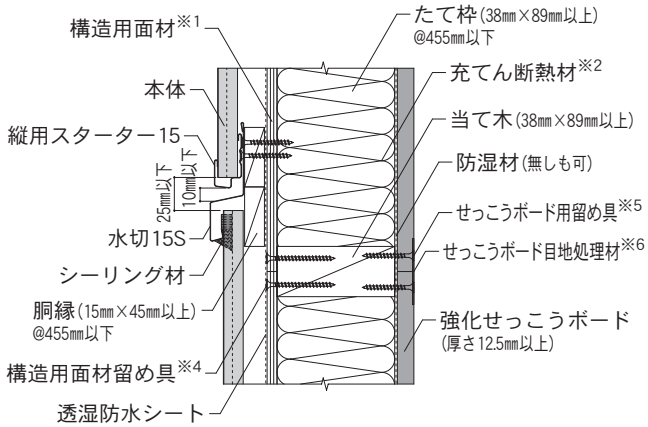
木造下地45分準耐火構造
縦張り

■充てん断熱通気枠組仕様（2）：QF045BE-0757 QF045BE-0759 QF045BE-0760

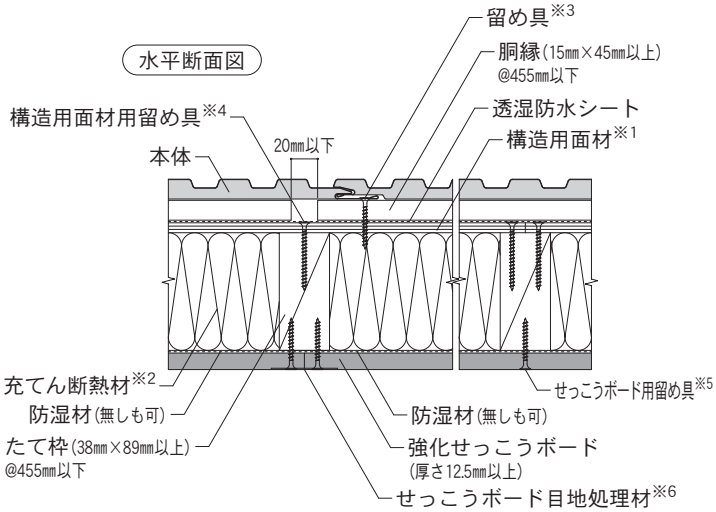
無機繊維系断熱材の充てん断熱工法に対応した
45分準耐火構造認定です。
認定番号は、使用する構造用面材によって違います。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。



鉛直断面図



水平断面図



認定番号	構造用面材※1	
QF045BE-0757	構造用合板（密度0.47g/cm³以上） 構造用パネル（密度0.49g/cm³以上） パーティクルボード（密度0.55g/cm³以上） MDF（密度0.65g/cm³以上）	厚さ9㎜以上
QF045BE-0759	硬質木片セメント板	厚さ12㎜以上
QF045BE-0760	火山性ガラス質複層板	厚さ9㎜以上

充てん断熱材※2	
ロックウール	密度30kg/m³以上 厚さ90㎜以上

留め具※3
スクリューくぎφ2.15×L38㎜以上または 木ねじφ3.5×L32㎜以上

構造用面材用留め具※4
くぎまたはねじ φ2.87×L50.8㎜以上

せっこうボード用留め具※5
くぎφ2.34×L38.1㎜以上または ねじφ3.8×L28㎜以上

せっこうボード目地処理材※6
テープ（ガラス繊維：厚さ0.2㎜以上、幅50㎜以上） せっこうボード目地処理材（使用量：50g/m以上）

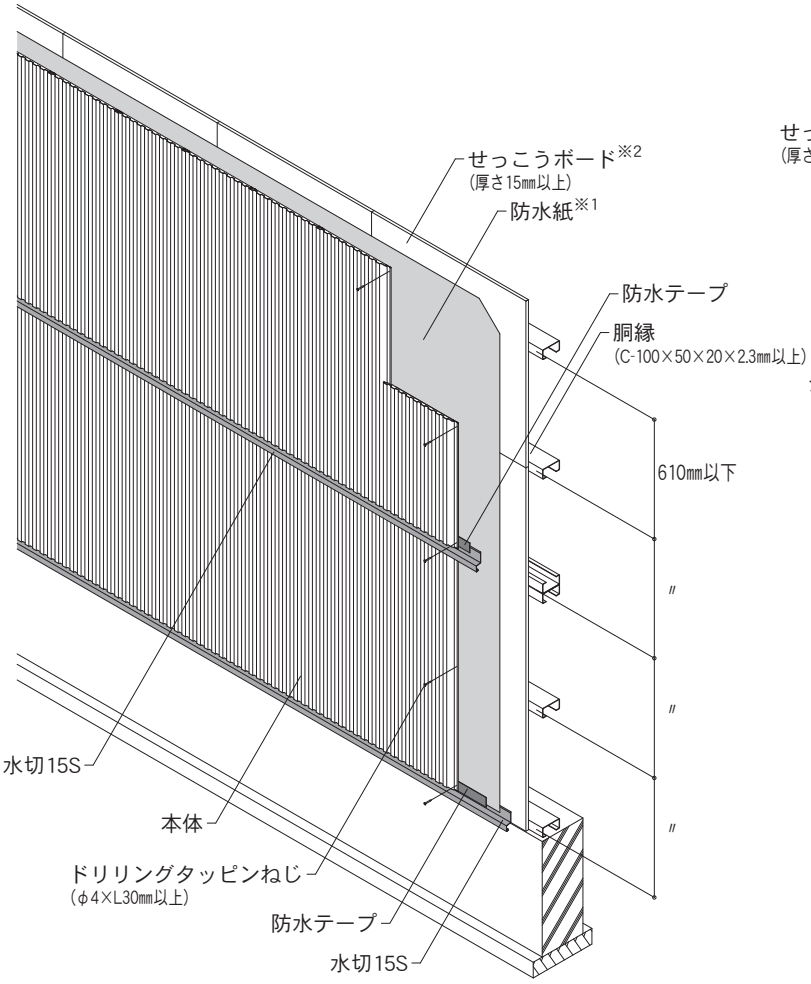
ポイント

・構造用面材及びせっこうボードの横目地部となる箇所にはあらかじめ当て木を配置してください。
・構造用面材は、目地部にすき間のないように構造用面材用留め具を用いて外周部100㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。
・せっこうボードは、たて枠及び上下の枠材及び当て木に、せっこうボード用留め具を用いて外周部150㎜以下、中間部200㎜以下の間隔で留め付けてください。目地部には、せっこうボード目地処理材を施工してください。せっこうボード目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。
・この45分準耐火認定は、内装せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず室内面の目地処理が必須です。目地処理は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
・せっこうボードのエッジタイプに関わらず、先にガラス繊維テープをせっこうボードの目地部に貼り付けてから、目地処理材を塗り付けてください。
・縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

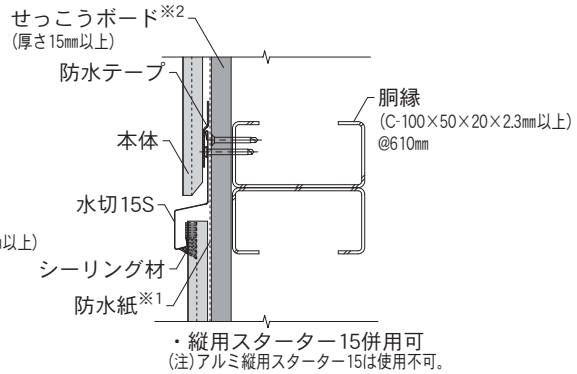
不燃下地防火構造
縦張り

■せっこうボード下張り仕様：PC030NE-0084

屋外側にせっこうボードの下張りに対応した防火構造認定です。

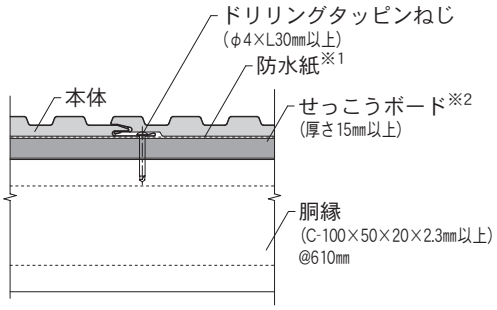


鉛直断面図



・縦用スターター15併用可
(注)アルミ縦用スターター15は使用不可。

水平断面図



防水紙※1
透湿防水シートまたはアスファルトフェルト430を使用してください。

せっこうボード※2
せっこうボードは、ドリリングタッピンねじ（φ4×L25㎜以上）を使用し、333㎜以下の間隔で留め付けてください。

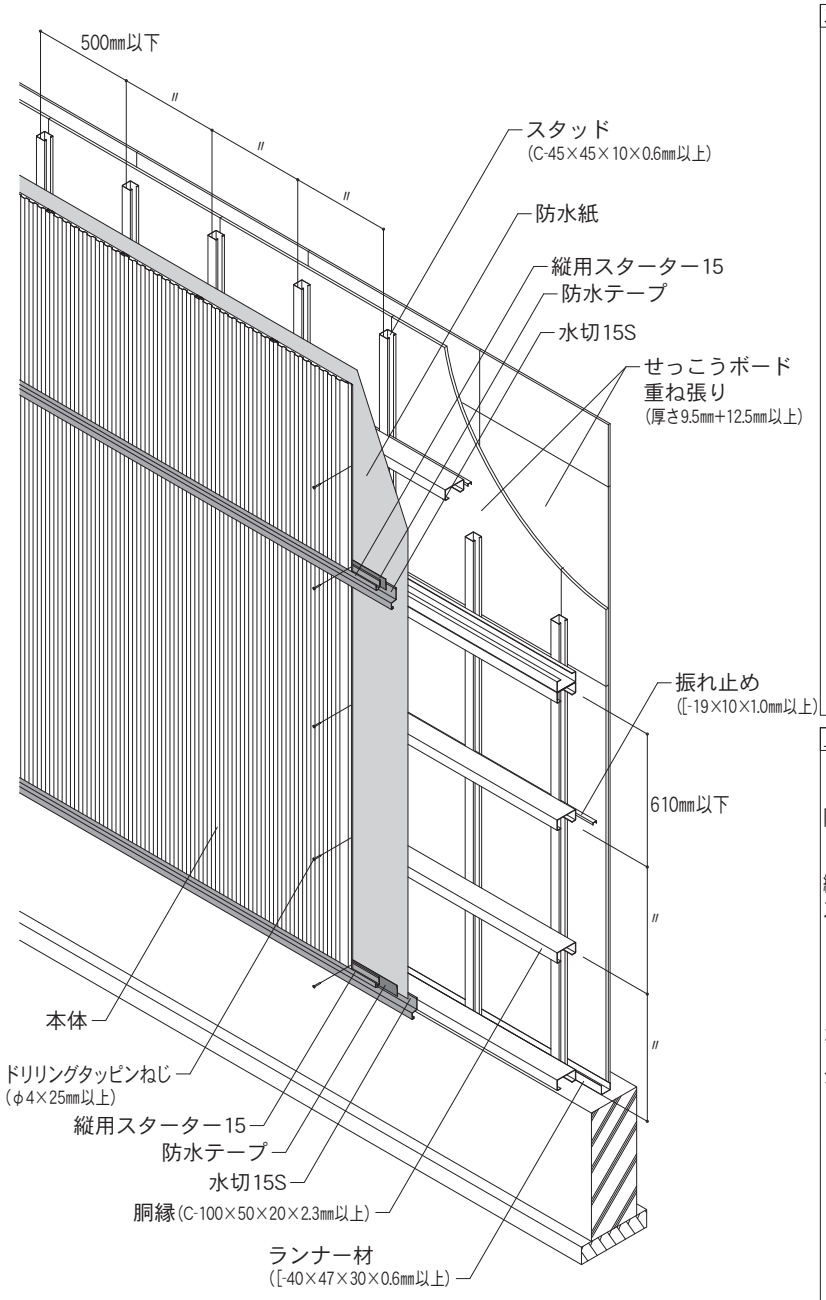
ポイント

・せっこうボードは、厚さ12.5㎜以上と厚さ9.5㎜以上の重ね張りも可能です。その際は、下張りは、ドリリングタッピンねじ（φ4×L20㎜以上）、上張りは、ドリリングタッピンねじ（φ4×L30㎜以上）で333㎜以下の間隔で胴縁に留め付けてください。また、上張りと下張りの目地はお互いに揃わないよう割り付けてください。

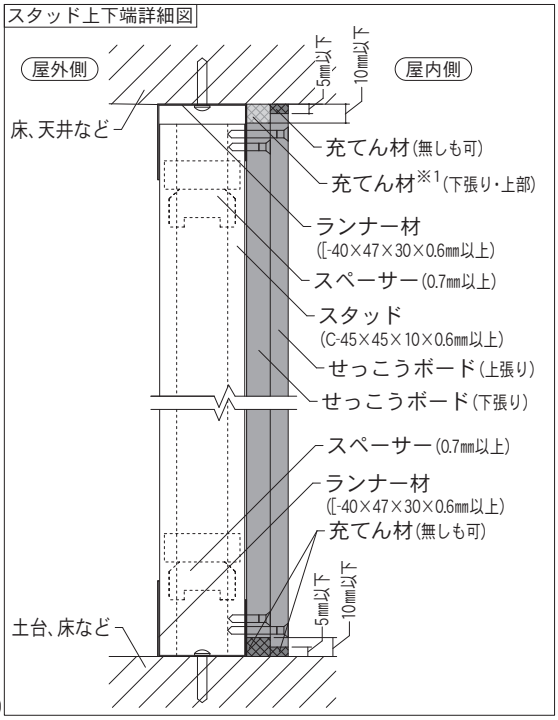
不燃下地防火構造
縦張り

■せっこうボード内装張り仕様：PC030NE-0159

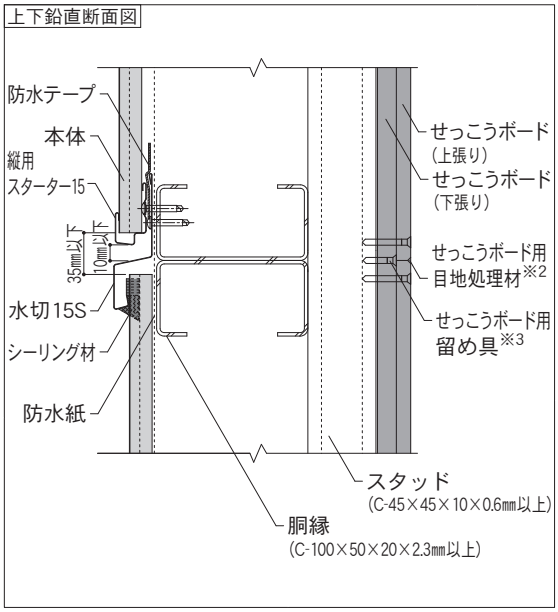
屋内側のせっこうボードの内装張りに対応した防火構造認定です。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。



スタッド上下端詳細図



上下鉛直断面図



充てん材※1(下張り・上部)	せっこうボード用目地処理材※2	せっこうボード用留め具※3
ロックウールフェルトなど (厚さ10㎜×幅10㎜、 密度:0.22g/cm³以上)	テープ(ガラス繊維:厚さ0.2㎜以上、幅50㎜以上) せっこうボード用目地処理材 (せっこう系または炭酸カルシウム系:使用量30g/m以上)	下張り ドリリングタッピンねじ（φ3.5×L22㎜以上） 上張り ドリリングタッピンねじ（φ3.5×L32㎜以上）

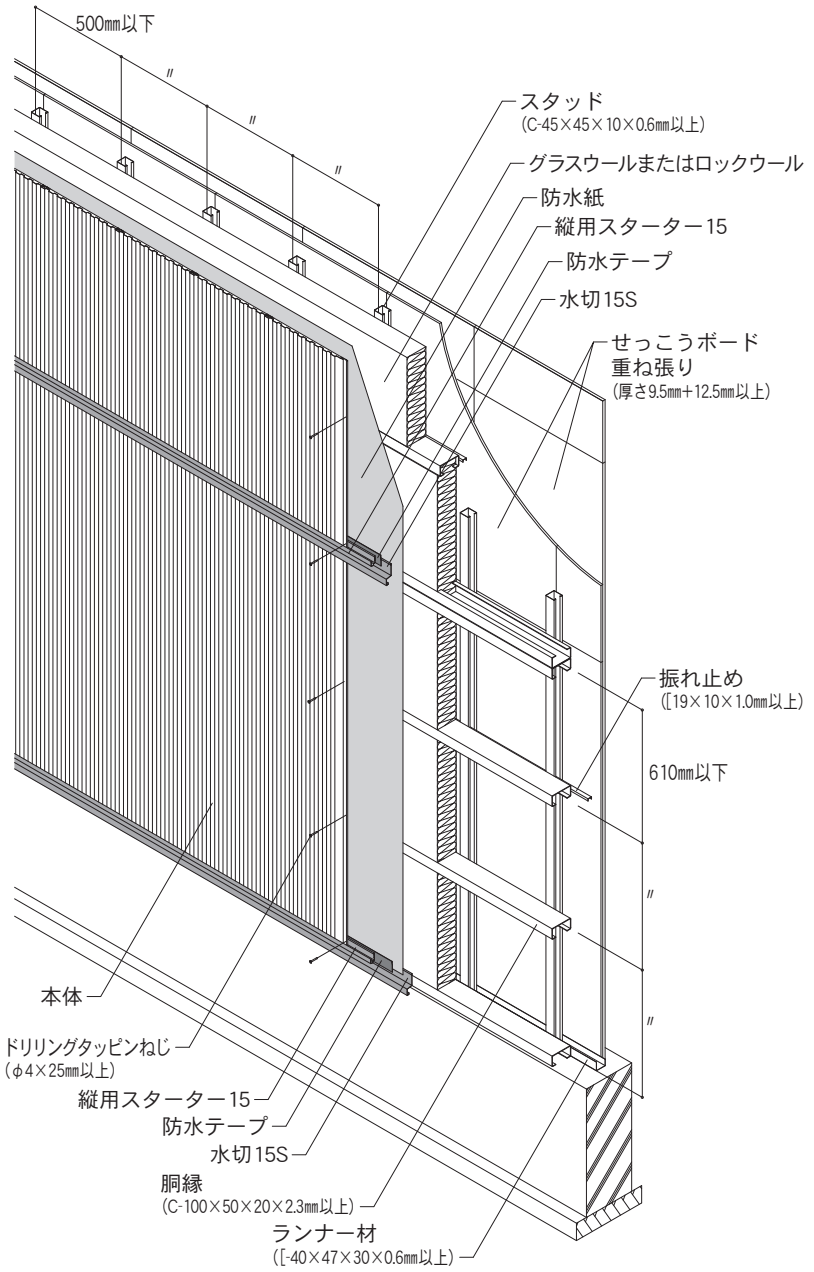
ポイント

- せっこうボードの下張り・上部と下部の目透かし幅は10㎜以下、上張り・上部と下部の目透かし幅は5㎜以下としてください。下張りと上張りの目地は、お互いに揃わないよう割り付けてください。
- せっこうボードの下張り・上部の目透かし部は、充てん材の施工が必須となります。その他の目透かし部には必要に応じて充てん材を施工してください。
- 下張りのせっこうボードは、外周部400㎜以下、中間部600㎜以下の間隔で留め付けてください。
- 上張りのせっこうボードは、外周部200㎜以下、中間部300㎜以下の間隔で留め付けてください。
- 上張りのせっこうボードの目地部には、せっこうボード用目地処理材を施工してください。せっこうボード用目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず上張りのせっこうボードには、目地処理が必須です。
- 目地処理材は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
- せっこうボードのエッジタイプに関わらず、先にガラス繊維テープをせっこうボードの目地部に貼り付けてから、目地処理材を塗り付けてください。
- 縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

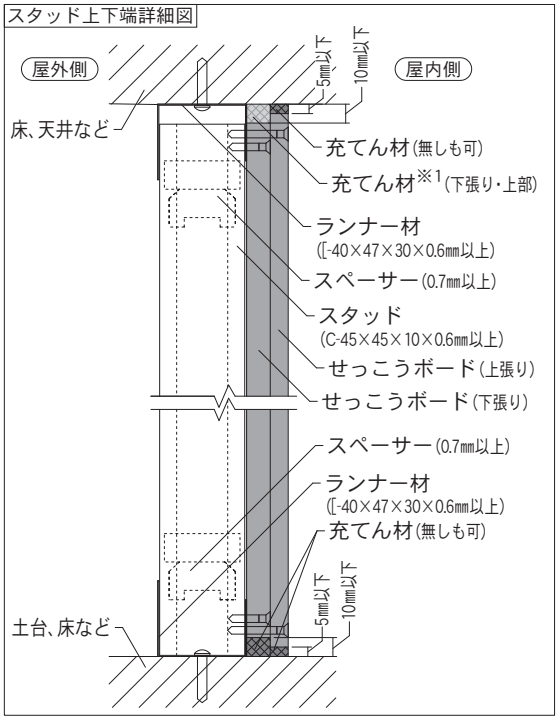
不燃下地防火構造
縦張り

■せっこうボード内装張り仕様：PC030NE-0160

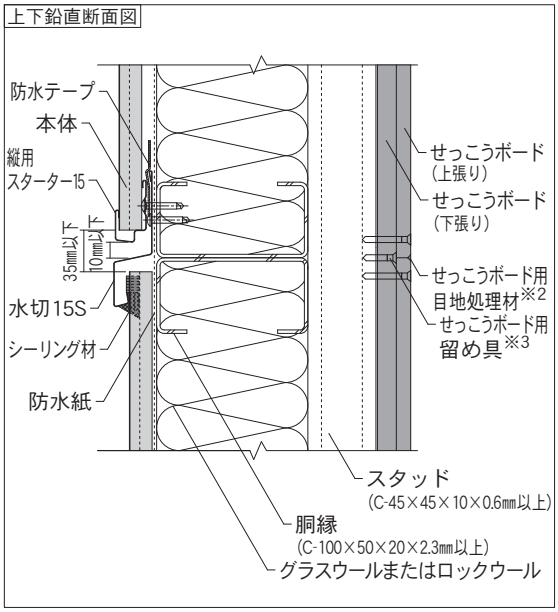
屋内側のせっこうボードの内装張りに対応した防火構造認定です。
無機繊維系の充てん断熱工法に対応しています。
対応商品は、ガルスパンNEO-Jフッ素です。



スタッド上下端詳細図



上下鉛直断面図



充てん材※1(下張り・上部)	せっこうボード用目地処理材※2	せっこうボード用留め具※3
ロックウールフェルトなど (厚さ10㎜×幅10㎜、 密度:0.22g/cm³以上)	テープ(ガラス繊維:厚さ0.2㎜以上、幅50㎜以上) せっこうボード用目地処理材 (せっこう系または炭酸カルシウム系:使用量30g/m以上)	下張り ドリリングタッピンねじ（φ3.5×L22㎜以上） 上張り ドリリングタッピンねじ（φ3.5×L32㎜以上）

ポイント

- せっこうボードの下張り・上部と下部の目透かし幅は10㎜以下、上張り・上部と下部の目透かし幅は5㎜以下としてください。下張りと上張りの目地は、お互いに揃わないよう割り付けてください。
- せっこうボードの下張り・上部の目透かし部は、充てん材の施工が必須となります。その他の目透かし部には必要に応じて充てん材を施工してください。
- 下張りのせっこうボードは、外周部400㎜以下、中間部600㎜以下の間隔で留め付けてください。
- 上張りのせっこうボードは、外周部200㎜以下、中間部300㎜以下の間隔で留め付けてください。
- 上張りのせっこうボードの目地部には、せっこうボード用目地処理材を施工してください。せっこうボード用目地処理材は、せっこうボードメーカーが推奨するものを使用してください。せっこうボードの仕上げ（クロス張り、ペイント塗り）の有無に関わらず上張りのせっこうボードには、目地処理が必須です。
- 目地処理材は内装工事業者様の担当になりますので、内装工事業者様にも確実な周知、徹底をお願い致します。
- せっこうボードのエッジタイプに関わらず、先にガラス繊維テープをせっこうボードの目地部に貼り付けてから、目地処理材を塗り付けてください。
- 縦継ぎ部には、水切15Sと縦用スターター15の施工が必須となります。アルミ縦用スターター15は使用できません。

施工の手順とポイント

「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」について
住宅の防水に関する施工方法は、加入している住宅瑕疵担保責任保険法人の設計施工基準を確認してください。

全体的な施工の流れ

・ロスを減らし手際よく施工を進めるために、あらかじめ割り付けを行い、本体、付属品の数量を算出してください。
・本体が極端に短くなる場合、または本体の幅が狭くなる割り付けはなるべく避けてください。

木造下地	鉄骨下地
柱・間柱・サッシなどのチェック	胴縁・サッシなどのチェック
↓	↓
水切の取り付け	水切15Sの取り付け
水切15Sを使用する場合は、胴縁の取り付け後に取り付けてください。	
↓	↓
透湿防水シート張り	防水紙張り （透湿防水シートまたはアスファルトフェルト430）
↓	↓
胴縁の取り付け	
↓	↓
墨出し	墨出し
↓	↓
水切15Sの取り付け	
↓	↓
先付け付属品の取り付け	
↓	↓
墨出し	
↓	↓
本体の施工	
↓	↓
後付け付属品の取り付け	
↓	↓
シーリング材の施工	
↓	↓
補修・点検・片付け・清掃	

施工に必要な工具

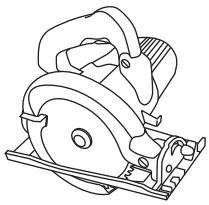
留め具

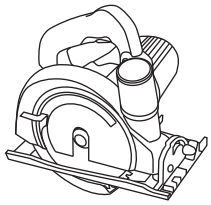
・木造下地ではスクリューくぎまたは木ねじを使用してください。鉄骨下地の場合はドリリングタッピンねじを使用してください。
・留め具の材質はステンレスまたは亜鉛めっきとしてください。
・留め具の長さは防耐火構造認定に従ってください。防耐火構造認定を必要としない場合は下記の表に従ってください。

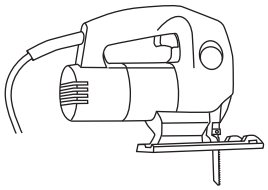
下地	留め具の種類	
木造下地	スクリューくぎ	φ2.15×L38㎜以上
	木ねじ※	φ3.1×L25㎜以上
鉄骨下地	ドリリングタッピンねじ	φ4×L25㎜以上

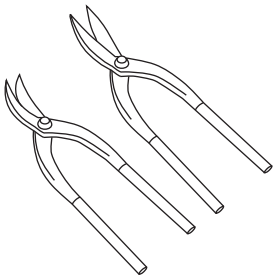
※木ねじは胴縁を貫通する長さを選定してください。

切断工具類

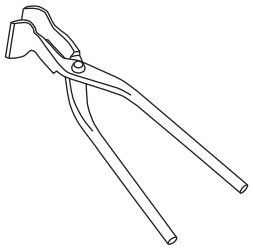

電動丸のこ


防塵丸のこ

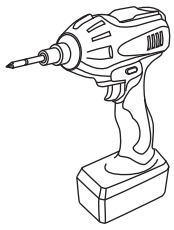

ジグソー

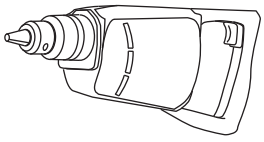

はさみ

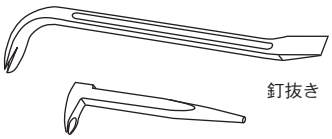
折り曲げ工具類

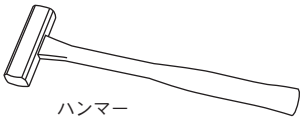

つかみ

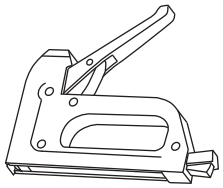
取り付け工具類

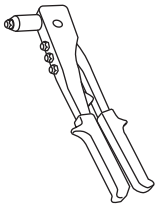

インパクトドライバー


電動ドリル

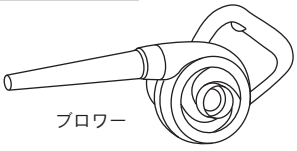



ハンマー

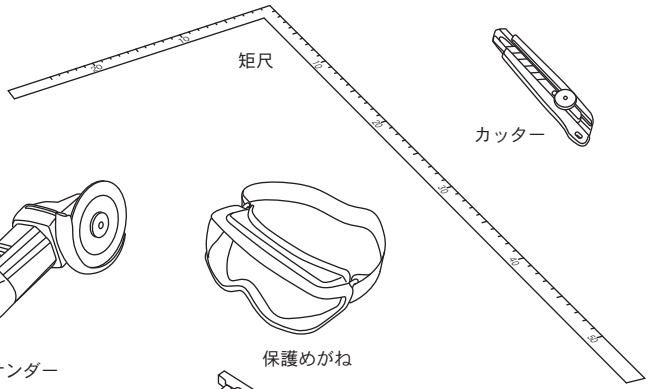

タッカー


リベッター

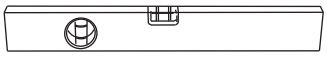
その他の工具類


ブロワー

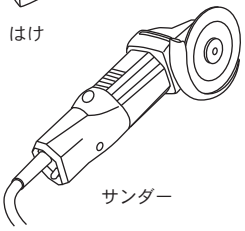
はけ



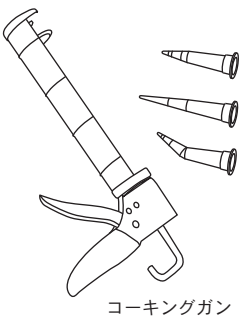
カッター

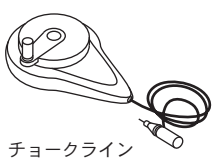

水平器

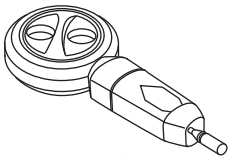
水糸

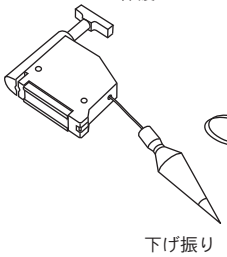

サンダー

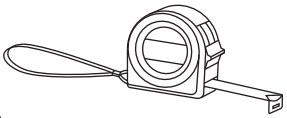
保護めがね


コーキングガン


チョークライン


墨つぼ（粉）

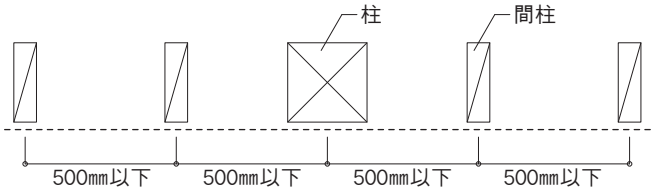

下げ振り


スケール

木造下地　縦張り・横張り共通

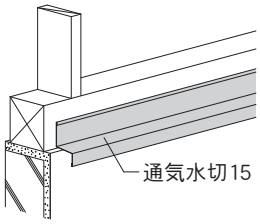
1 柱・間柱・サッシなどのチェック

・柱、間柱の間隔は500㎜以下としてください。（一部の防耐火構造認定では455㎜以下に指定されています。）
・サイディング本体に室内側から何らかの力が加わると、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。取り付け面に突起物がないことを確認してください。また、躯体とサイディング本体との間に充てん材などを施工する場合は、サイディング本体に充てん材などの反発力が作用しない構造としてください。
・入隅部、横継ぎ部などでは、胴縁の取り付け面を確保してください。（納まり図を確認してください。P52～参照）
・サッシは、半外付けサッシまたは外付けサッシを使用してください。

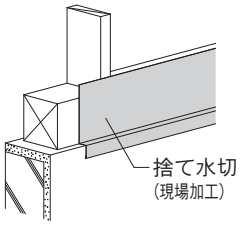


2 水切の取り付け

〇通気水切15を使用する場合
・通気水切15は、胴縁を施工する前に取り付けてください。

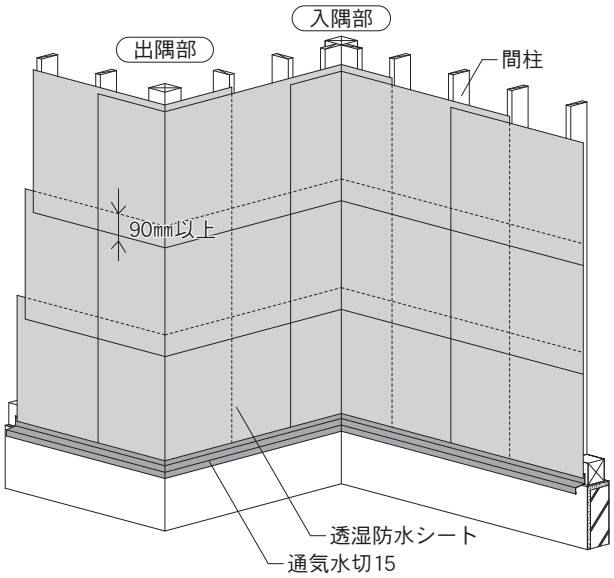


〇水切15Sを使用する場合
・捨て水切（現場加工）は、胴縁を施工する前に取り付けてください。

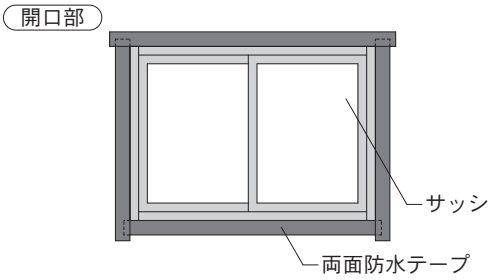


3 透湿防水シート張り

・透湿防水シートは横張りを原則とし、下から上へ張り上げてください。重ね合わせは鉛直方向で、90㎜以上、水平方向で耐力面材のない場合は、間柱（柱）と間柱の間とし、耐力面材のある場合は150㎜以上としてください。
・換気口、配管回り、その他の壁貫通口などの周囲は、防水テープを貼り、すき間ができないように透湿防水シートと密着してください。



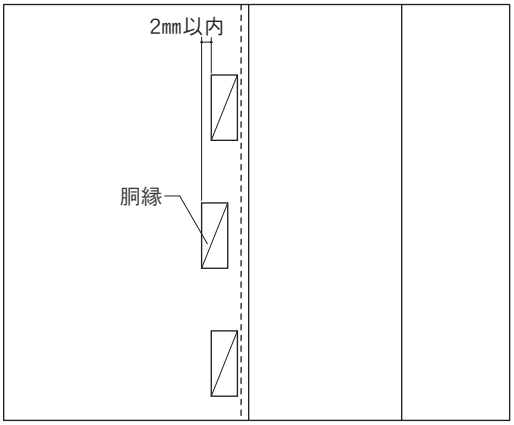
・開口部ではサッシ枠周囲に両面防水テープを貼り、すき間ができないように透湿防水シートを密着してください。

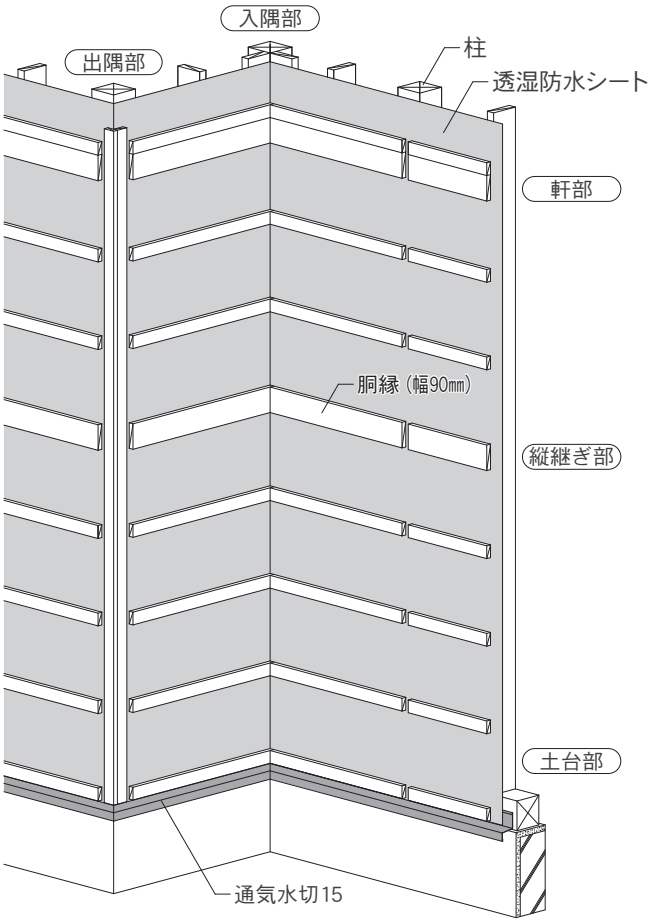


木造下地　縦張りの場合

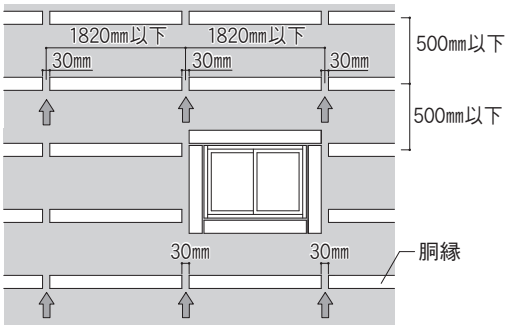
4 胴縁の取り付け

・防耐火構造認定は、木胴縁15×45㎜以上で取得していますが、横胴縁にサイディング本体と付属品を直接留め付けることになりますので十分な強度が必要となります。耐風圧などを考慮して、18×45㎜以上を推奨します。気候風土などを考慮して厚みと材質を選定してください。
・軒部、縦継ぎ部、開口部などの指定箇所では、90㎜幅以上のものを使用してください。
・胴縁間隔は、耐風圧や防耐火構造認定を確認してください。
・積雪のある地域では、雪の積る高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。（下屋見切りの部分も同様）
・通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
・サイディング本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、木造下地の場合は2㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。



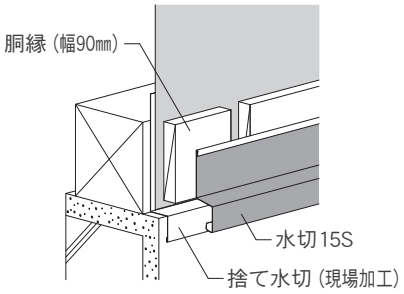


・胴縁は、1820㎜以下（メーターモジュールの場合は2000㎜以下）につき、30㎜程度の割合ですき間をあけてください。
・開口部周囲は30㎜程度のすき間をあけ、通気を妨げないようにしてください。

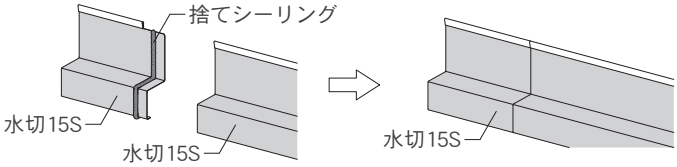


5 水切15Sの取り付け

・水切15Sは、胴縁を施工してから取り付けてください。



・水切15Sの片側には切り欠き加工がされており、左右の接続が容易に行えます。切断して左右を接続する場合は、同様に切り欠き加工してください。
・捨てシーリングを施工してから接続してください。

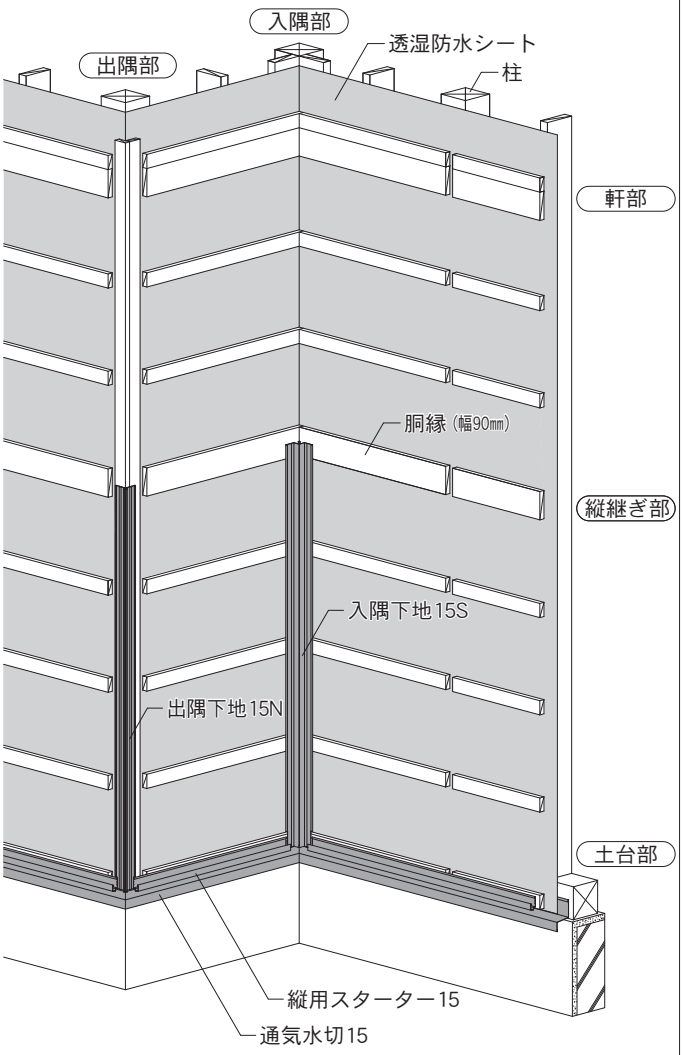


6 先付け付属品の取り付け①

・本体を施工する前に、先付け付属品を取り付けてください。
・先付け付属品と後付け付属品は、組み合わせ、数量を確認の上、施工してください。
・付属品は加工が必要になります。P117からの付属品の加工方法を参照してください。
・土台部や縦継ぎ部などでは、縦用スターター15を併用することもできます。
・縦継ぎを設ける場合は、先に1階部分の付属品を施工してから、2階部分を施工します。出隅下地15N、入隅下地15Sを、縦継ぎの位置まで施工してください。
・準標準品などの長尺を使用し、縦継ぎを設けない場合は、軒部に止縁C15または止縁捨板15を取り付けてから、出隅下地15N、入隅下地15Sを取り付けてください。
・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。

	先付け付属品	後付け付属品
土台部※	通気水切15	-
	水切15S	-
	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
出隅部	出隅下地15N	出隅キャップ15-25S
入隅部	入隅下地15S	入隅キャップ15-25S
縦継ぎ部	水切15S	-
	縦用スターター15	-
軒部	止縁C15	-
	止縁捨板15	止縁キャップC15
	通気軒見切15-25	-
下屋見切り部※	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
下がり壁	下がり壁水切15-25	-
	縦用スターター15	-
開口部上	水切15S	-
	小口カバー15	-
	捨板（15×85）	-
開口部左右	止縁C15	-
開口部下	止縁捨板15	止縁キャップC15
開口部	-	ワンタッチコーナーキャップ15-25

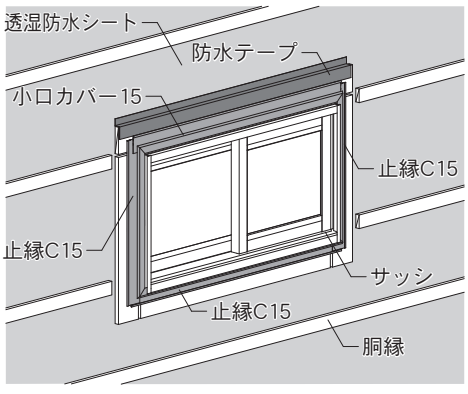
※積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。（P51参照）



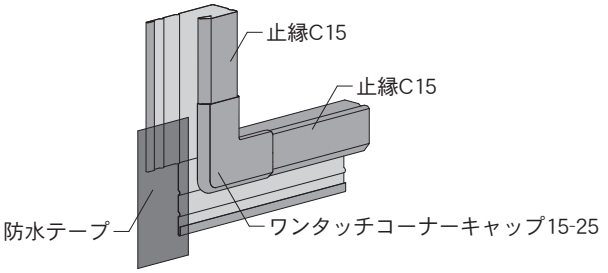
○開口部の納まり
使用する付属品の組み合わせは下のとおりです。使用する付属品の納まり図を参照してください。

	開口部上	開口部下・開口部左右
1	小口カバー15/捨板（15×85）	止縁C15
2	小口カバー15/捨板（15×85）	止縁キャップC15/止縁捨板15
3	水切15S	止縁C15
4	水切15S	止縁キャップC15/止縁捨板15
5	捨板（15×85）	-

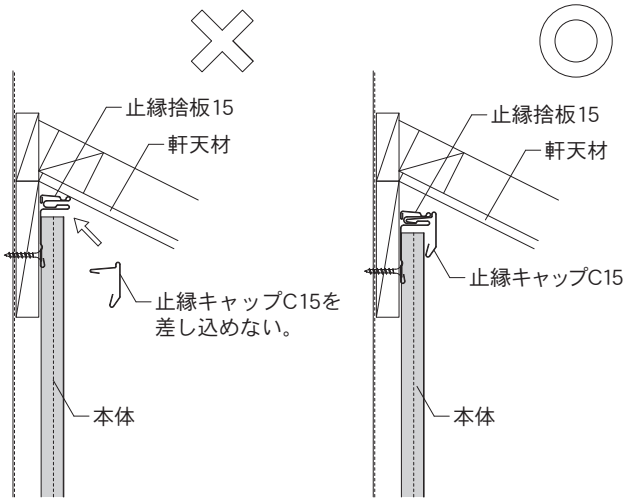
開口部の付属品の加工方法は、P124～を参照してください。



・開口部周囲で、小口カバー15、止縁C15または止縁キャップC15/止縁捨板15を使用する場合は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することができます。

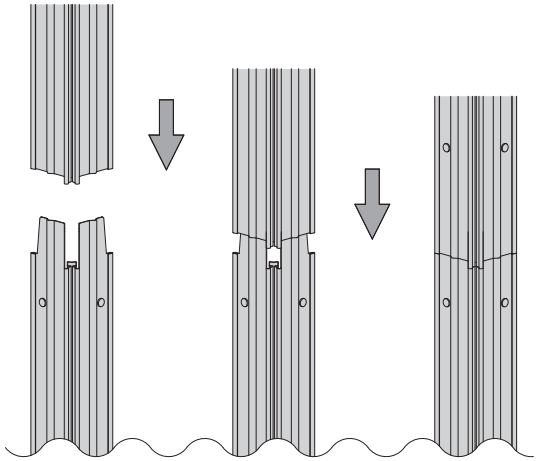


・軒部で止縁キャップC15と止縁捨板15の組み合わせを使用する際は、軒天材の角度によっては止縁キャップC15が差し込めなくなる場合がありますので、止縁捨板15の取り付け位置に注意してください。

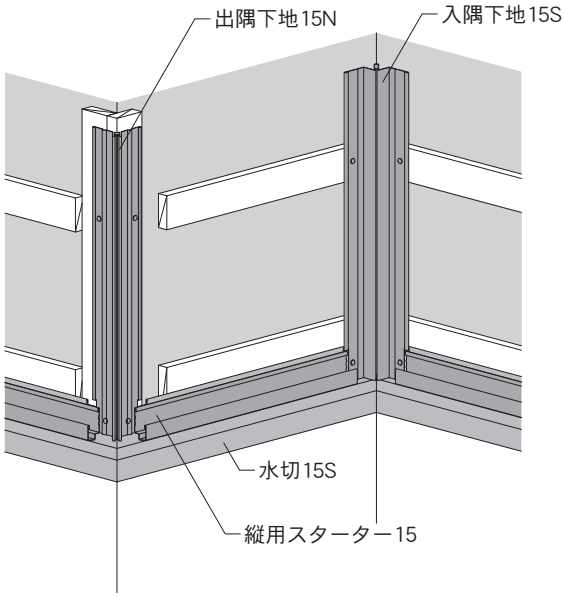


・付属品の片側には切り欠き加工がされており、接続が容易に行えます。

例：出隅下地15N

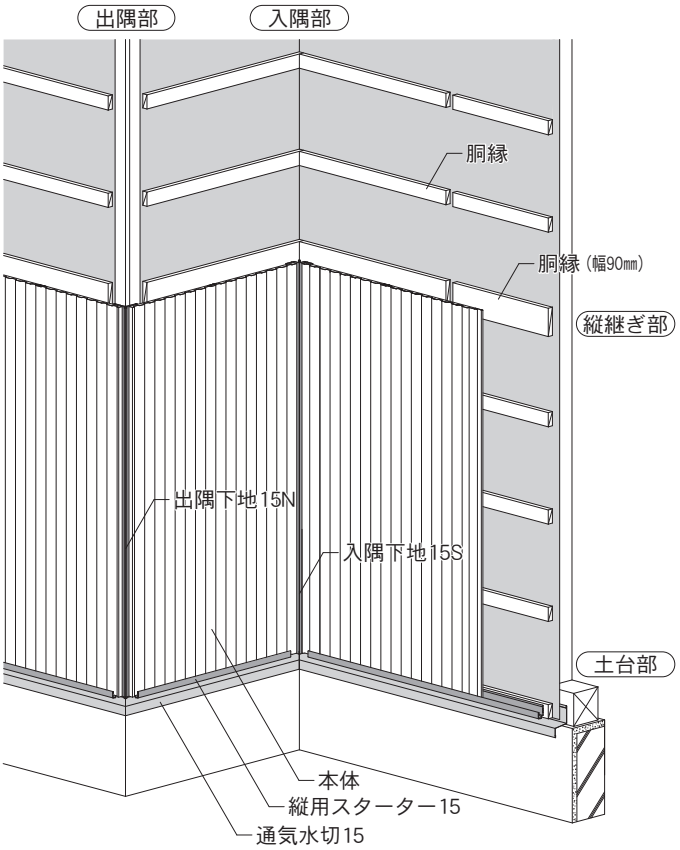


・土台部に水切15Sを使用する際は、出隅下地15Nや入隅下地15Sを水切15Sの上に施工してください。
・付属品は加工が必要になります。P117からの付属品の加工方法を参照してください。



7 本体の施工①

・縦継ぎを設ける場合は、1階部分の各部位に先付けの付属品が施工されていることを確認してから本体の施工を行ってください。
・働き幅で施工しない場合、水密性や耐風圧強度などで十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。また、目地ずれにもつながります。
・働き幅の墨出し線に合わせて施工してください。
・施工期間中は、笠木などの部分から雨水が入らないよう養生してください。



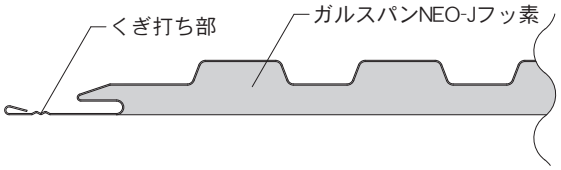
留め具

・木造下地ではスクリューくぎまたは木ねじを使用してください。
・留め具の材質はステンレスまたは亜鉛めっきとしてください。
・留め具の長さは防耐火構造認定に従ってください。防耐火構造認定を必要としない場合は下の表に従ってください。

下地	留め具の種類	
木造下地	スクリューくぎ	φ2.15×L38㎜以上
	木ねじ※	φ3.1×L25㎜以上

※木ねじは胴縁を貫通する長さを選定してください。

・ガルスパンNEO-Jフッ素は、くぎ打ち部の目安となるリブが付いています。



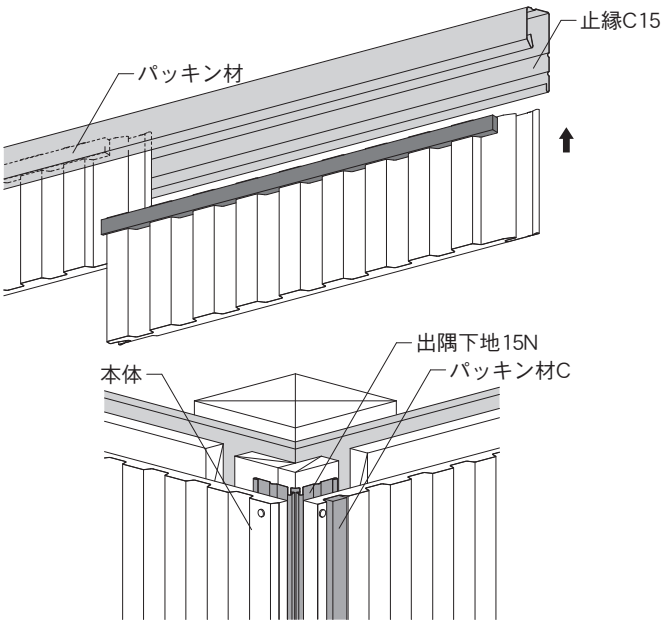
・パッキン材はシーリング材のバックアップ材として使用します。出隅部、入隅部、縦継ぎ部、軒部などでは、必要に応じて貼り付けてください。

ガルスパンNEO-Jフッ素

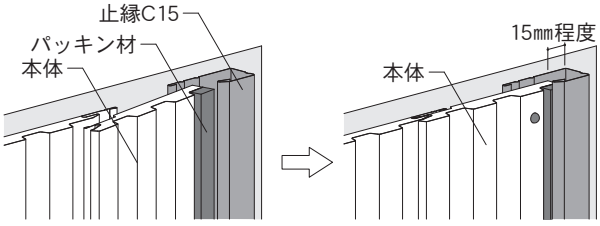
パッキン材D	
パッキン材C	

ガルスパンSEi

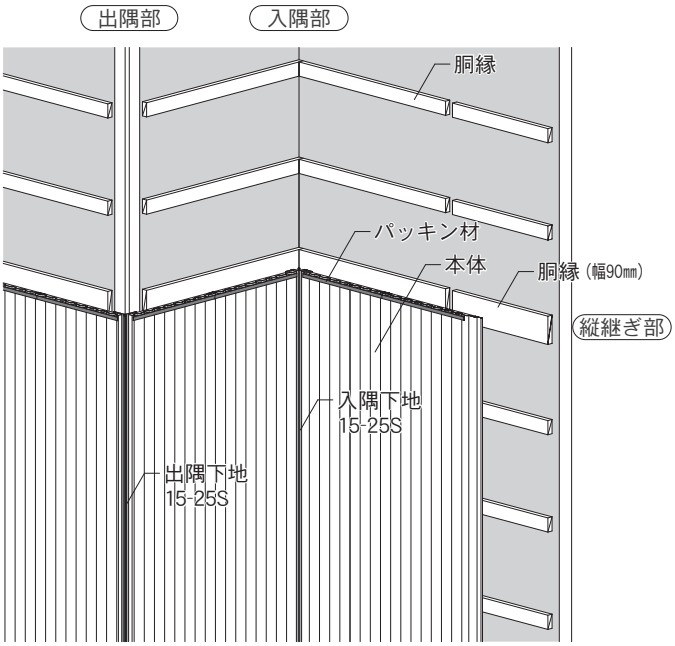
段パッキンSE	
平パッキンSE	



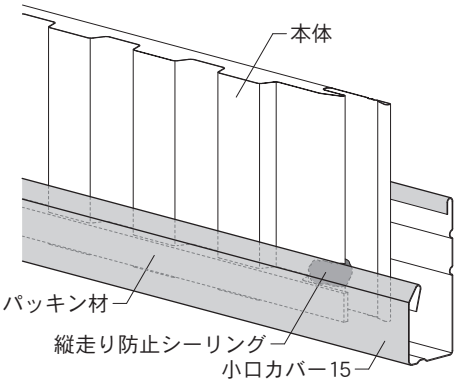
・軒部や開口部などで止縁C15を使用する際は、本体にパッキン材を貼り付けてから止縁C15に差し込んでください。
・付属品だけで本体を固定するのは不十分です。本体は必ず留め具で直接下地に留め付けてください。



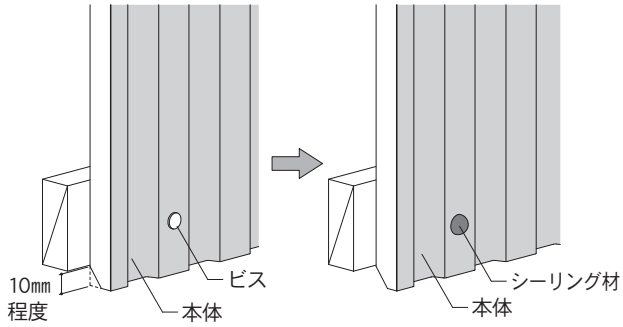
・縦継ぎ部では、水切15Sを施工する前にパッキン材を本体に貼り付けてください。



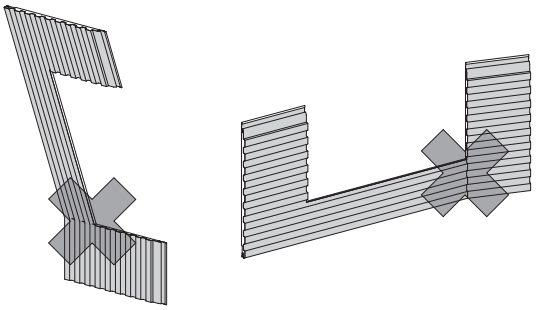
・開口部上に小口カバー15を施工する場合は、本体端部からの雨水の浸入を防止するため、一枚ごとに縦走り防止シーリングを施工してください。
・開口部上の本体施工終了後、本体と小口カバー15の間に施工するシーリング材は、縦走り防止シーリングと連続するように施工してください。



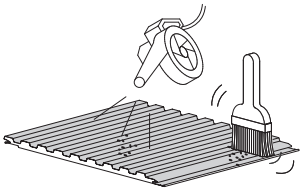
・土台部、開口部、下屋見切り部、下がり壁部などで、本体を切断して納める際は、しん材の吸水を防ぐために、本体下部からしん材を10㎜程度取り除いてください。
・本体を脳天打ちしたくぎやねじ頭が見える場合は、シーリング材の施工またはタッチアップペイントでの塗装をしてください。



・開口部などで本体を切り欠く際は、各部材の位置を確認し本体に無理な力がかからないように切り欠き寸法を設定し切断してください。また、本体を変形させるような無理なはめ込みは避けてください。
・本体を切り欠き加工すると強度が低下し破損しやすくなります。持ち運び時には切り欠き部に当て板を当てるなどして、破損しないように注意してください。オスメス両側を切り欠いた際は特に注意してください。

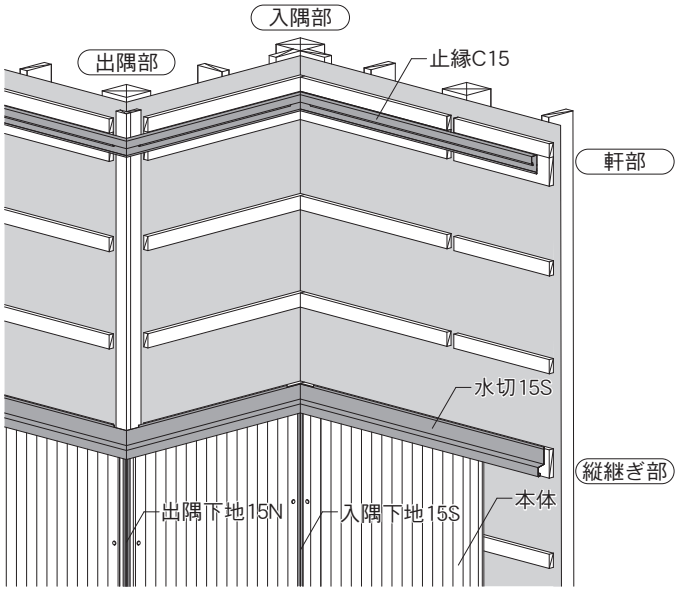


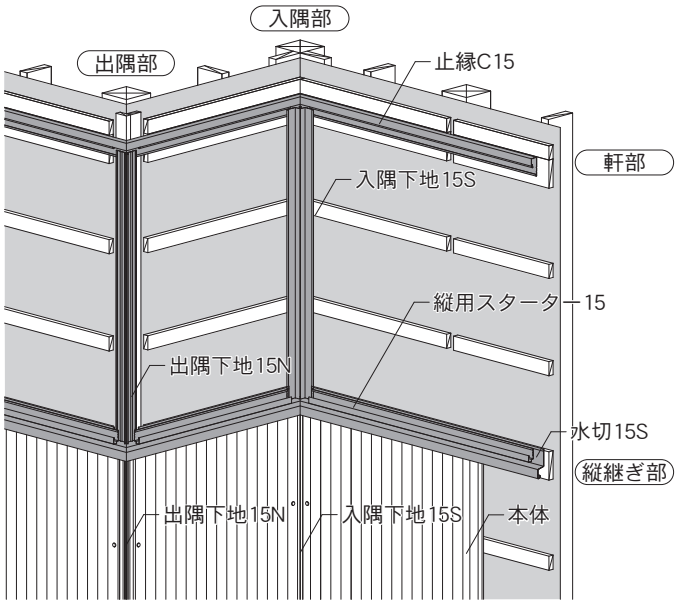
・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。



8 先付け付属品の取り付け②

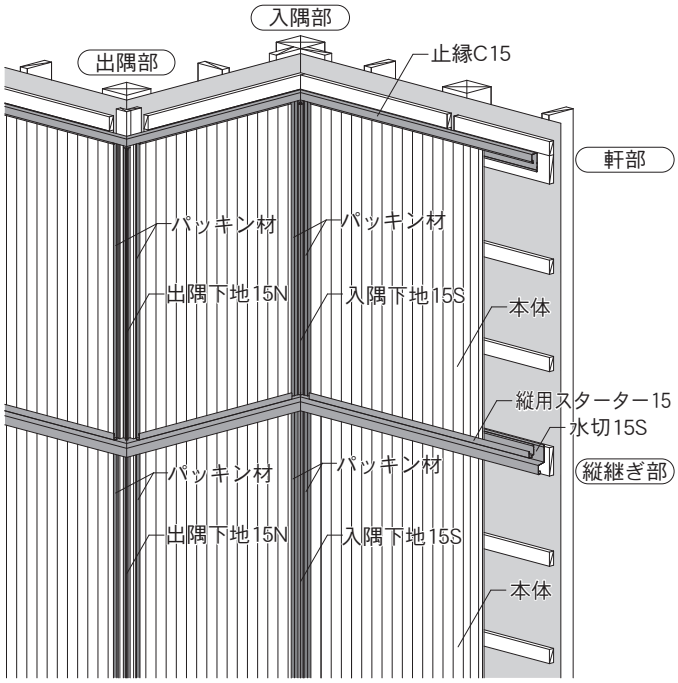
・縦継ぎを設ける場合、縦継ぎ部の水切15Sは、1階部分の付属品及び本体が施工されていることを確認してから、施工してください。縦用スターター15を併用することもできます。
・詳細は、納まり図（P52～）、付属品の加工方法（P117～）を参照してください。
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。





9 本体の施工②

・各部位に先付け付属品が確実に施工されていることを確認してから本体の施工を行ってください。
・働き幅の墨出し線に合わせて2階部分の本体を施工してください。

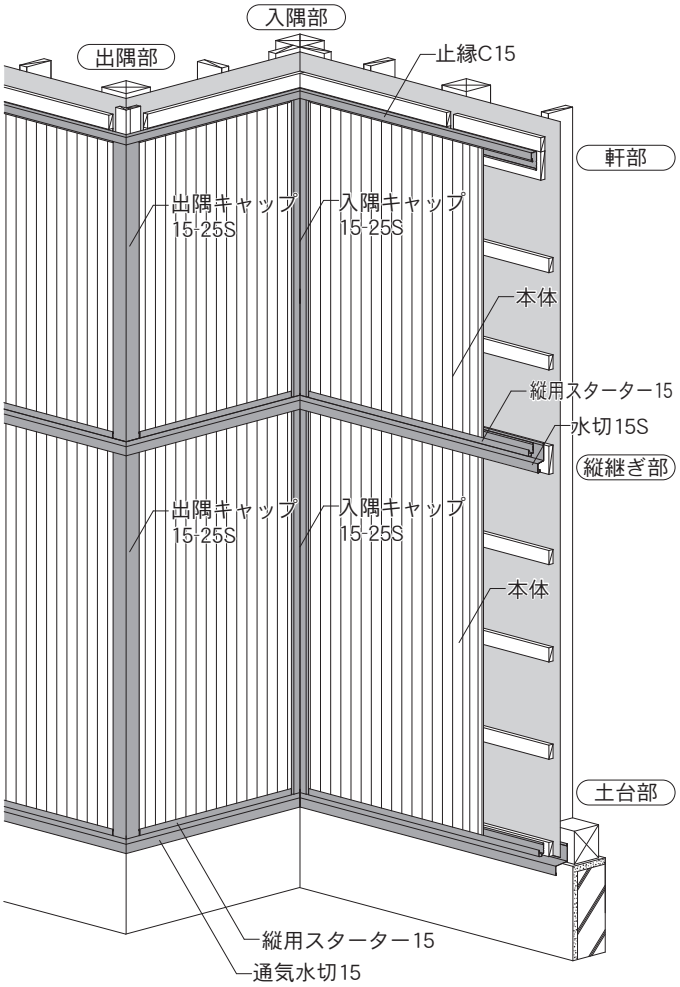


10 後付け付属品の取り付け

・後付け付属品を施工する際は、出隅部、入隅部、縦継ぎ部、開口部などの指定箇所に捨てシーリングを施工してください。詳細は、納まり図（P52～）、付属品の加工方法（P117～）を参照してください。
・鉛直方向に施工する付属品は下から上へ張り上げてください。

	先付け付属品	後付け付属品
土台部※	通気水切15	-
	水切15S	-
	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
出隅部	出隅下地15N	出隅キャップ15-25S
入隅部	入隅下地15S	入隅キャップ15-25S
縦継ぎ部	水切15S	-
	縦用スターター15	-
軒部	止縁C15	-
	止縁捨板15	止縁キャップC15
	通気軒見切15-25	-
下屋見切り部※	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
下がり壁	下がり壁水切15-25	-
	縦用スターター15	-
開口部上	水切15S	-
	小口カバー15	-
	捨板（15×85）	-
開口部左右	止縁C15	-
開口部下	止縁捨板15	止縁キャップC15
開口部	-	ワンタッチコーナーキャップ15-25

※積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。（P51参照）

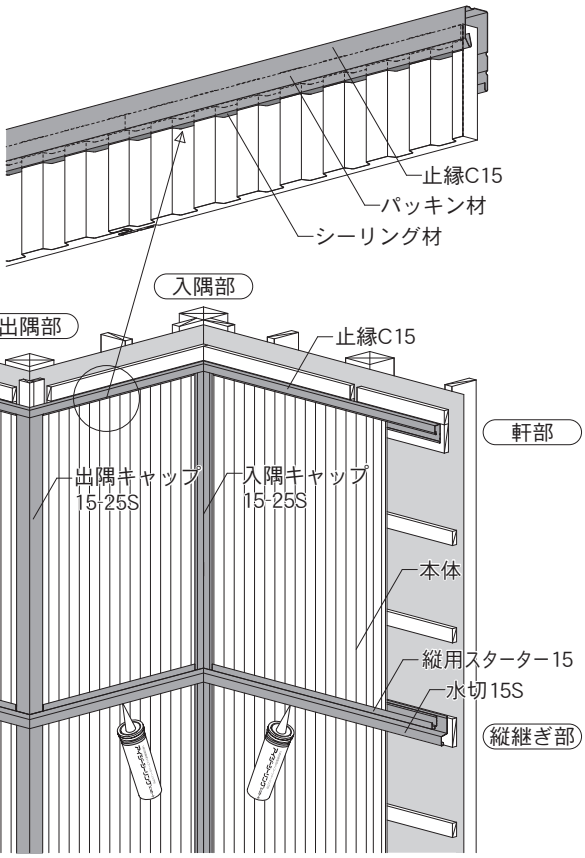


11 シーリング材の施工

・シーリング材は、接着面が乾燥している状態で施工してください。
・本体と付属品のすき間からの雨水の浸入を防ぐため、納まり図（P52～）を参考にシーリング材を施工してください。
・接着面が高温の場合には、工事を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどにも注意してください。
・本体を脳天打ちしたくぎやねじ頭が見える場合は、シーリング材の施工またはタッチアップペイントでの塗装をしてください。

12 補修・点検・片付け・清掃

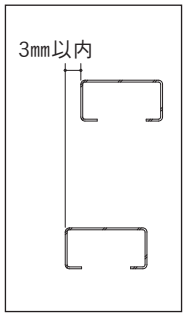
・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。



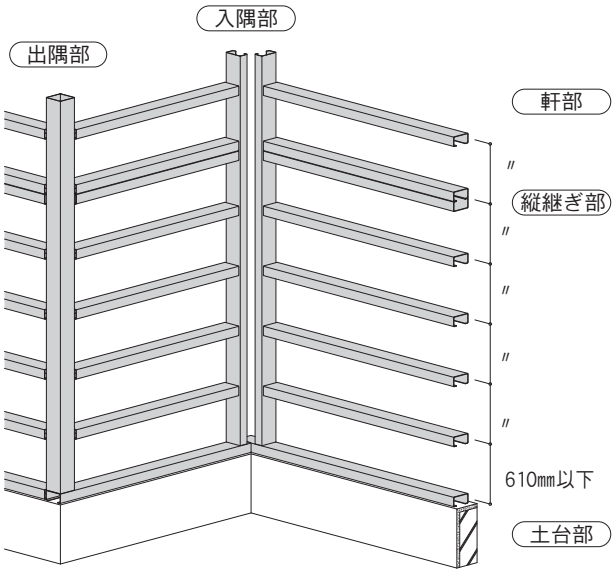
鉄骨下地 縦張りの場合

1 胴縁・サッシなどのチェック

・胴縁間隔は610㎜以下、C-100×50×20×2.3㎜以上の材料を標準としてください。縦継ぎ部などには、C型鋼をダブルで取り付けるか、角型鋼管100×100×2.3㎜を取り付けてください。
・積雪地域では雪の積る高さまで、補強胴縁を入れてください。
・建物の高さが13mを超える部分にキャップ系付属品を使用する場合は、脱落防止のため、脳天ビス留めをしてください。
・サイディング本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、鉄骨下地の場合は3㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。

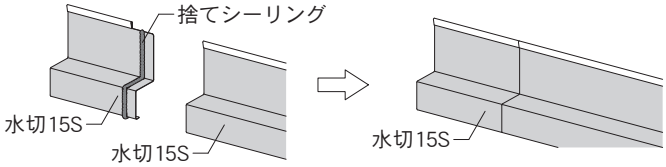


・サイディング本体に室内側から何らかの力が加わると、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。取り付け面に突起物がないことを確認し施工してください。また、躯体とサイディング本体との間に充てん材などを施工する場合は、サイディング本体に充てん材などの反発力が作用しない構造としてください。



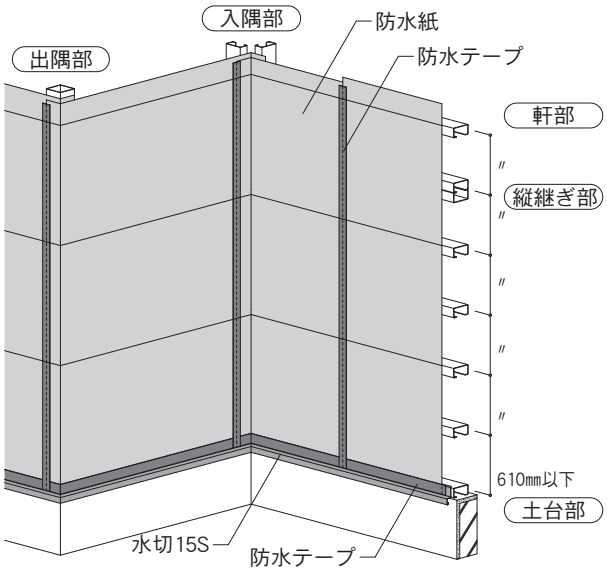
2 水切15Sの取り付け

・水切15Sの片側には切り欠き加工がされており、左右の接続が容易に行えます。切断して左右を接続する場合は、同様に切り欠き加工してください。
・捨てシーリングを施工してから接続してください。

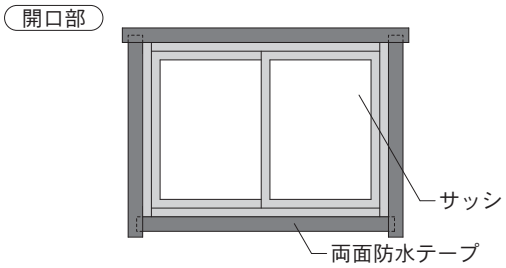


3 防水紙張り

・防水紙は、アスファルトフェルト430または透湿防水シートを使用してください。
・防水紙は横張りを原則とし、下から上へ張り上げてください。
・出隅部、入隅部は防水紙を二重張りとしてください。
・換気口、配管回り、その他の壁貫通口などの周囲は、防水テープを貼り、すき間ができないように防水紙と密着してください。
・防水紙の重ね代は上下90㎜以上、左右150㎜以上としてください。確実に留め付けるため、土台部の張りはじめと鉛直方向の重ね代に、防水テープを貼り付けてください。
・その他の部位に関しては、防水紙メーカーの推奨する方法に従ってください。



・開口部では、サッシ枠周囲に両面防水テープを貼り、すき間ができないよう防水紙を密着してください。



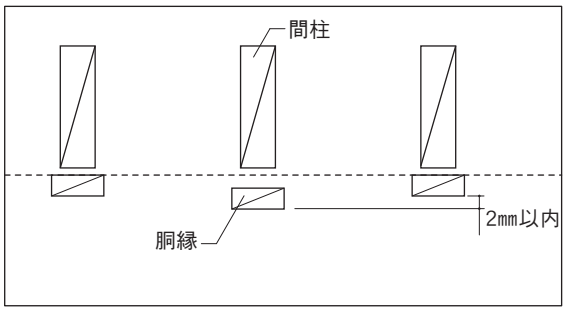
これ以後の施工の手順とポイントは、木造下地 縦張り 5 ～ 12 (P36～42) と同様の手順となります。
本体を施工する留め具は、P34を参照してください。
付属品の施工、本体の施工は、P73～88の納まり参考図を確認してください。

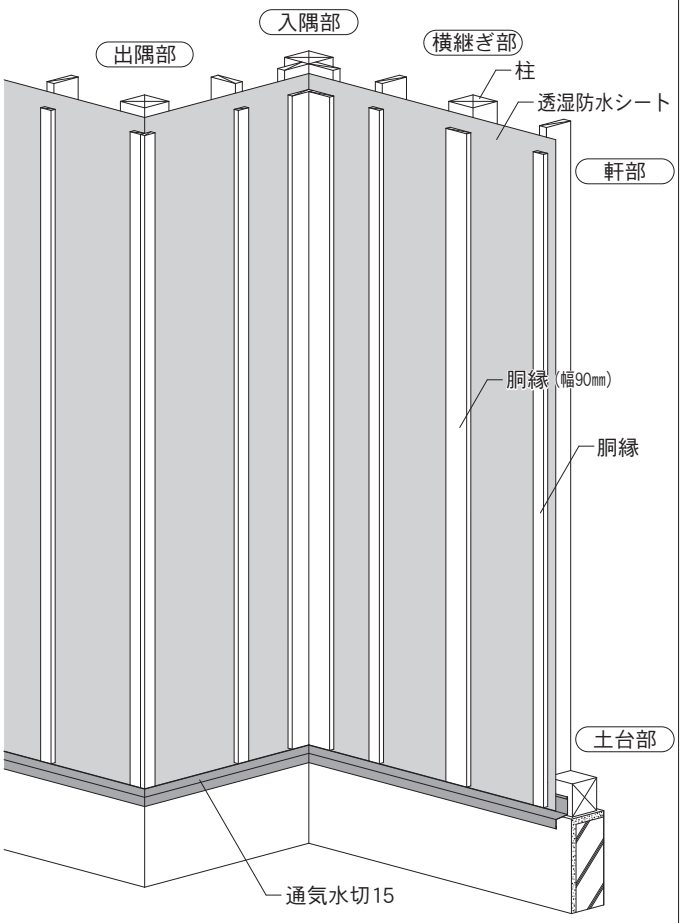
木造下地　横張りの場合

〈木造下地　縦張り・横張り共通 1 ～ 3 P35参照〉

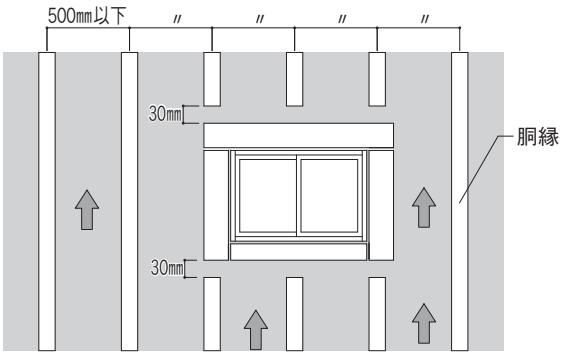
4 胴縁の取り付け

・防耐火構造認定では、木胴縁15×45㎜以上で取得していますが、気候風土などを考慮して厚みと材質を選定してください。
・入隅部、横継ぎ部、開口部などの指定箇所では、90㎜幅以上のものを使用してください。
・胴縁は、柱・間柱に沿わせて施工してください。
・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、雪の積る高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。（下屋見切り部分も同様）
・通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
・サイディング本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、木造下地の場合は2㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。



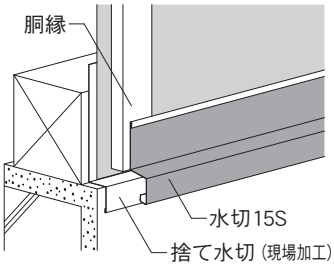


・開口部周囲は30㎜程度のすき間をあけ、通気を妨げないようにしてください。

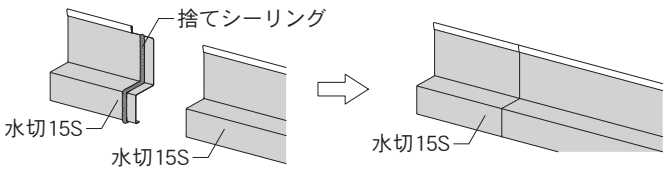


5 水切15Sの取り付け

・水切15Sは、胴縁を施工してから取り付けてください。



・水切15Sの片側には切り欠き加工がされており、左右の接続が容易に行えます。切断して左右を接続する場合は、同様に切り欠き加工してください。
・捨てシーリングを施工してから接続してください。

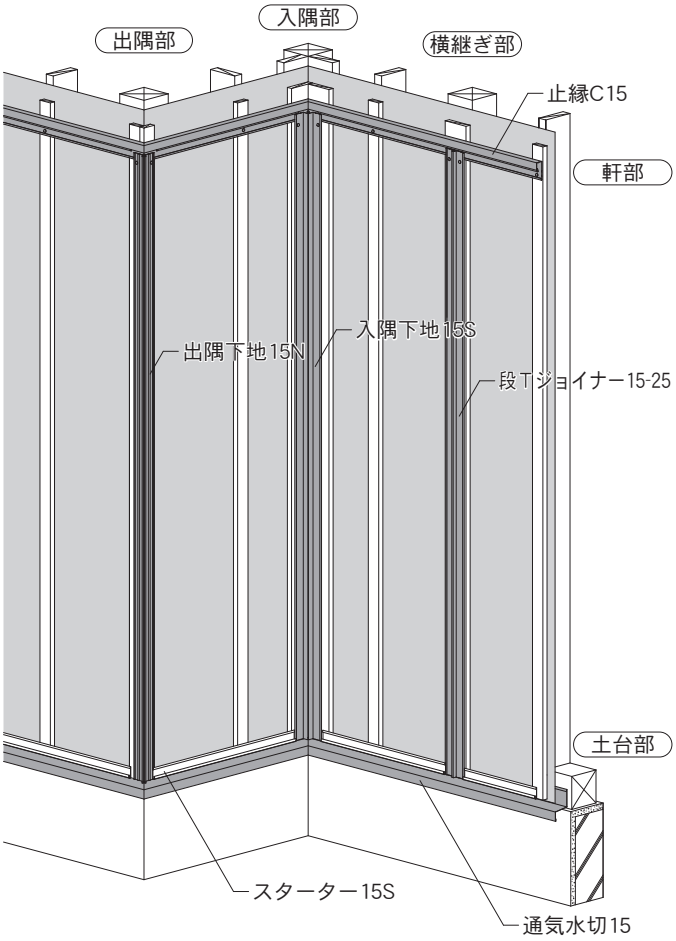


6 先付け付属品の取り付け

・本体を施工する前に、先付け付属品を取り付けてください。
・先付け付属品と後付け付属品は、組み合わせ、数量を確認の上、施工してください。
・付属品は加工が必要になります。P117からの付属品の加工方法を参照してください。
・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。

	先付け付属品	後付け付属品
土台部	通気水切15	-
	水切15S	-
	スターター15S	-
出隅部	出隅下地15N	出隅キャップ15-25S
入隅部	入隅下地15S	入隅キャップ15-25S
横継ぎ部	段Tジョイナー15-25	段キャップ
軒部	止縁C15	-
	止縁捨板15	止縁キャップC15
	通気軒見切15-25	-
下屋見切り部※	スターター15S	-
	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
下がり壁	下がり壁水切15-25	-
	スターター15S	-
	縦用スターター15	-
開口部上	水切15S	-
	小口カバー15	-
	捨板（15×85）	-
開口部左右	止縁C15	-
開口部下	止縁捨板15	止縁キャップC15
開口部	-	ワンタッチコーナーキャップ15-25

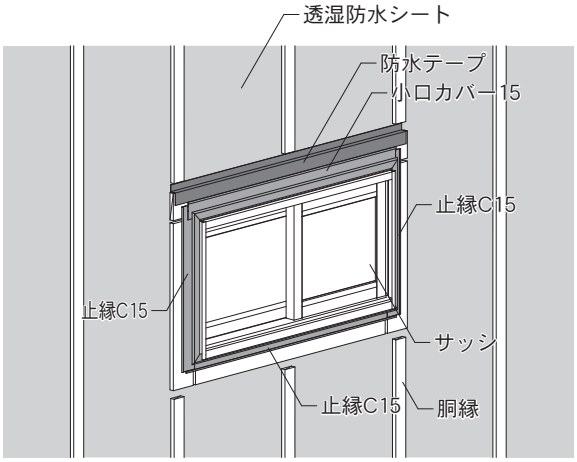
※積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。（P51参照）



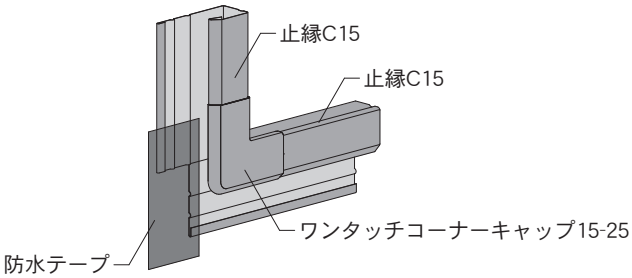
○開口部の納まり
使用する付属品の組み合わせは下のとおりです。使用する付属品の納まり図を参照してください。

	開口部上	開口部下・開口部左右
1	小口カバー15／捨板（15×85）	止縁C15
2	小口カバー15／捨板（15×85）	止縁キャップC15/止縁捨板15
3	水切15S	止縁C15
4	水切15S	止縁キャップC15/止縁捨板15
5	捨板（15×85）	-

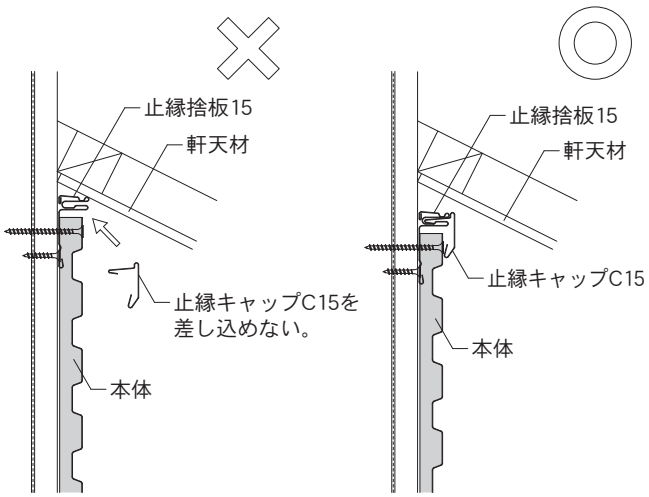
開口部の付属品の加工方法は、P124～を参照してください。



・開口部周囲で止縁C15または、止縁キャップC15/止縁捨板15を使用する場合は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することができます。

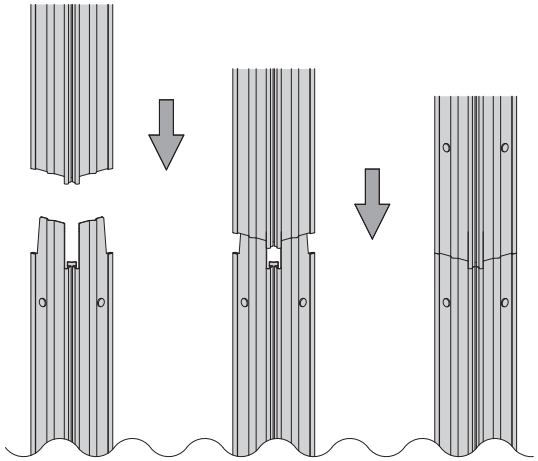


・軒部で止縁キャップC15と止縁捨板15の組み合わせを使用する際は、軒天材の角度によっては止縁キャップC15が差し込めなくなる場合がありますので、止縁捨板15の取り付け位置に注意してください。

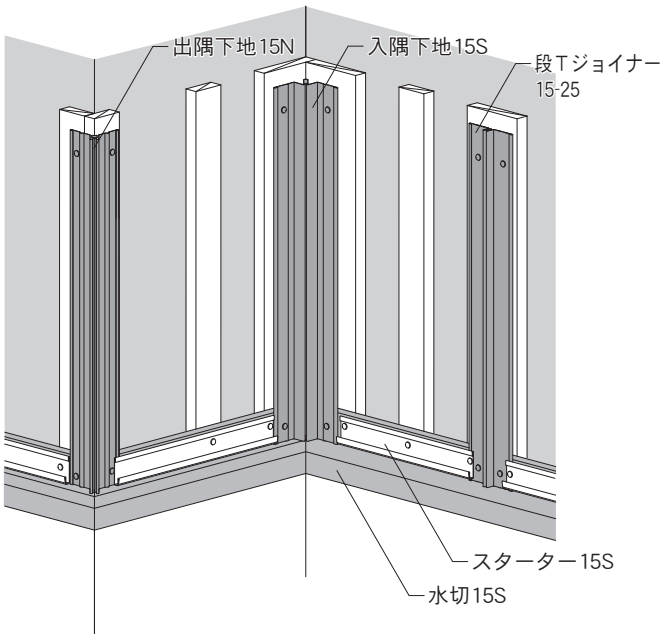


・付属品の片側には切り欠き加工がされており、接続が容易に行えます。

例：出隅下地15N

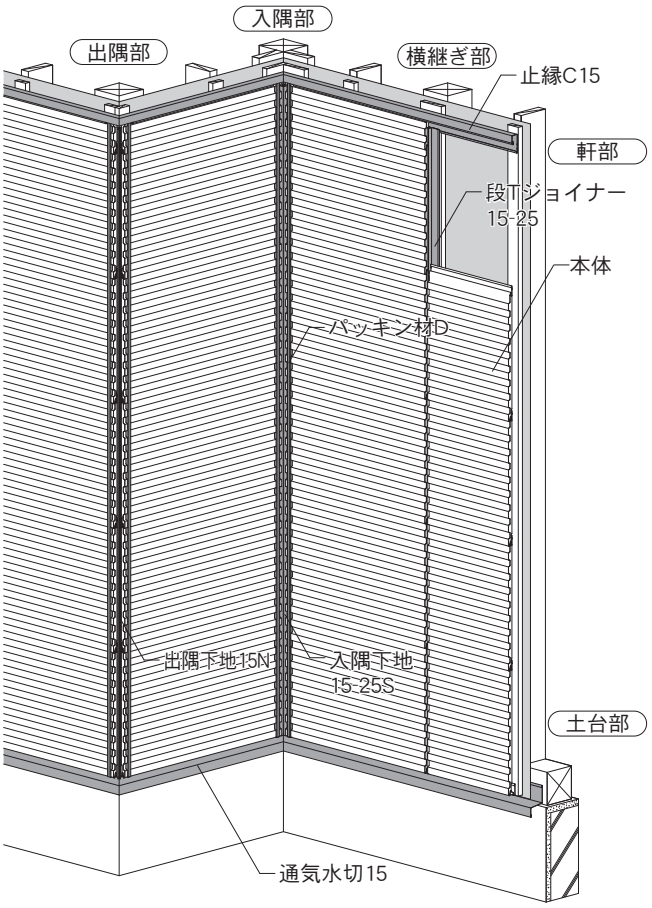


・土台部に水切15Sを使用する際は、出隅下地15Nや入隅下地15Sを水切15Sの上に施工してください。
・付属品は加工が必要になります。P117からの付属品の加工方法を参照してください。



7 本体の施工

・各部位に先付け付属品が施工されていることを確認してから本体を施工してください。
・働き幅の墨出し線に合わせて施工してください。
・働き幅で施工しない場合、水密性や耐風圧強度などで十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。また、目地ずれにもつながります。
・施工期間中は、笠木などの部分から雨水が入らないよう養生してください。



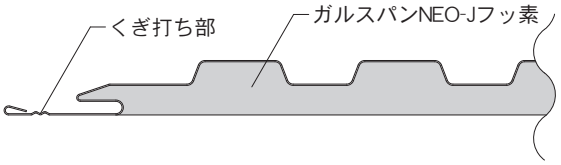
留め具

・木造下地ではスクリューくぎまたは木ねじを使用してください。
・留め具の材質はステンレスまたは亜鉛めっきとしてください。
・留め具の長さは防耐火構造認定に従ってください。防耐火構造認定を必要としない場合は下の表に従ってください。

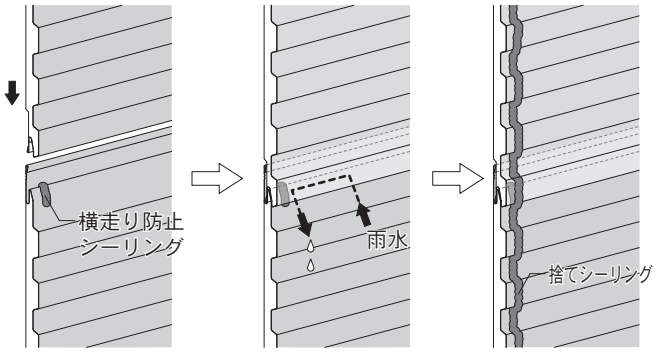
下地	留め具の種類	
木造下地	スクリューくぎ	φ2.15×L38㎜以上
	木ねじ※	φ3.1×L25㎜以上

※木ねじは胴縁を貫通する長さを選定してください。

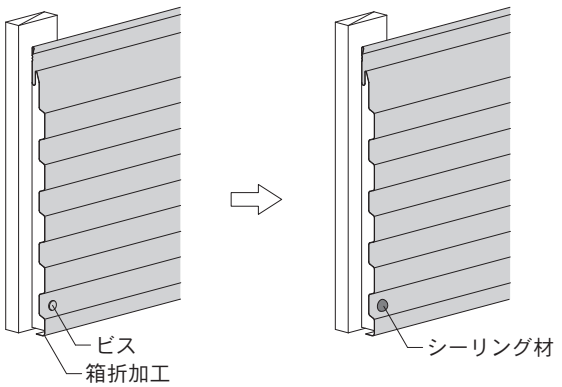
・ガルスパンNEO-Jフッ素は、くぎ打ち部の目安となるリブが付いています。



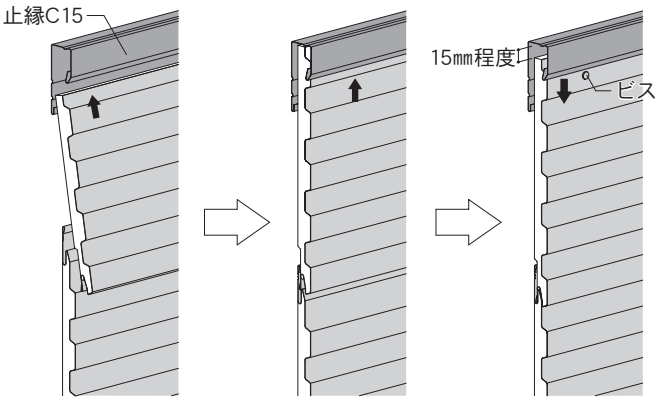
・出隅部、入隅部、横継ぎ部や開口部の左右などでは、本体端部からの雨水の浸入を防止するため、一枚ごとに横走り防止シーリングを図のように施工してください。
・本体施工終了後、本体と付属品の間に行う捨てシーリングは、横走り防止シーリングと連続するように施工してください。



・開口部、下屋見切り部、下がり壁部などで本体を切断して納める際は箱折加工を施してください。
・本体を脳天打ちしたくぎやねじ頭が見える場合は、シーリング材の施工またはタッチアップペイントでの塗装をしてください。
・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。
・本体を切り欠く際は、破損しないように注意してください。

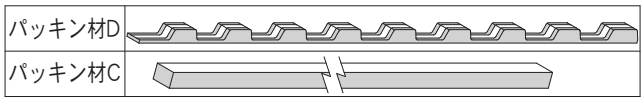


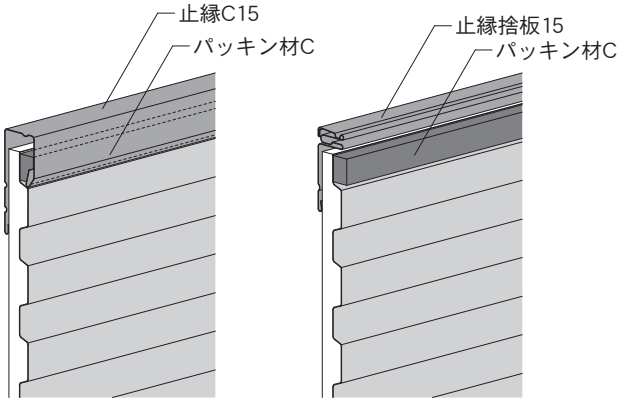
・本体の張り終わりなどで止縁C15に差し込む際は、15㎜程度のはめ込み代が必要となります。採寸時に注意してください。
・付属品だけで本体を固定するのは不十分です。本体は必ず留め具で直接下地に留め付けてください。
・本体を脳天打ちしたくぎやねじ頭が見える場合は、シーリング材の施工またはタッチアップペイントでの塗装をしてください。



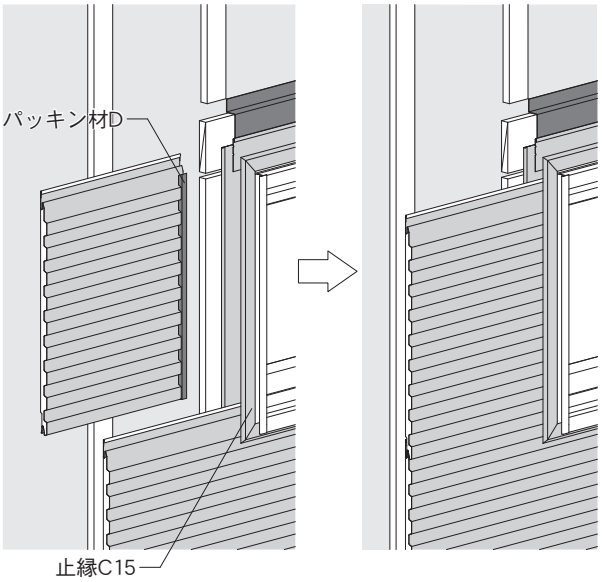
・パッキン材は、シーリング材のバックアップ材として使用します。出隅部、入隅部、軒部、開口部などでは、必要に応じて貼り付けてください。

ガルスパンNEO-Jフッ素

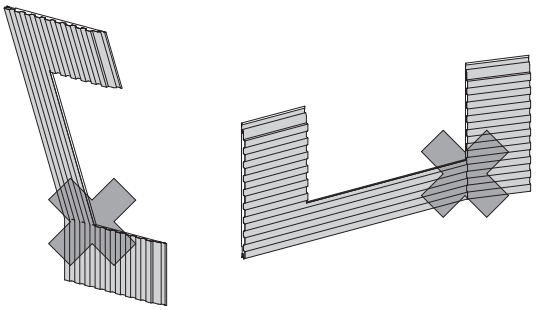




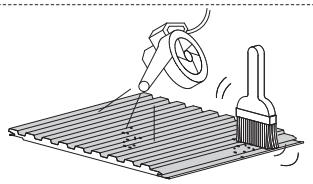
・開口部などで、止縁C15を使用する際は、本体にパッキン材Dを貼り付けてから止縁C15に差し込んでください。



・開口部などで本体を切り欠く際は、各部材の位置を確認し本体に無理な力がかからないように切り欠き寸法を設定し切断してください。また、本体を変形させるような無理なはめ込みは避けてください。
・本体を切り欠き加工すると強度が低下し破損しやすくなります。持ち運び時には切り欠き部に当て板を当てるなどして、破損しないように注意してください。オスメス両側を切り欠いた際は特に注意してください。



・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因になります。必ず除去してください。

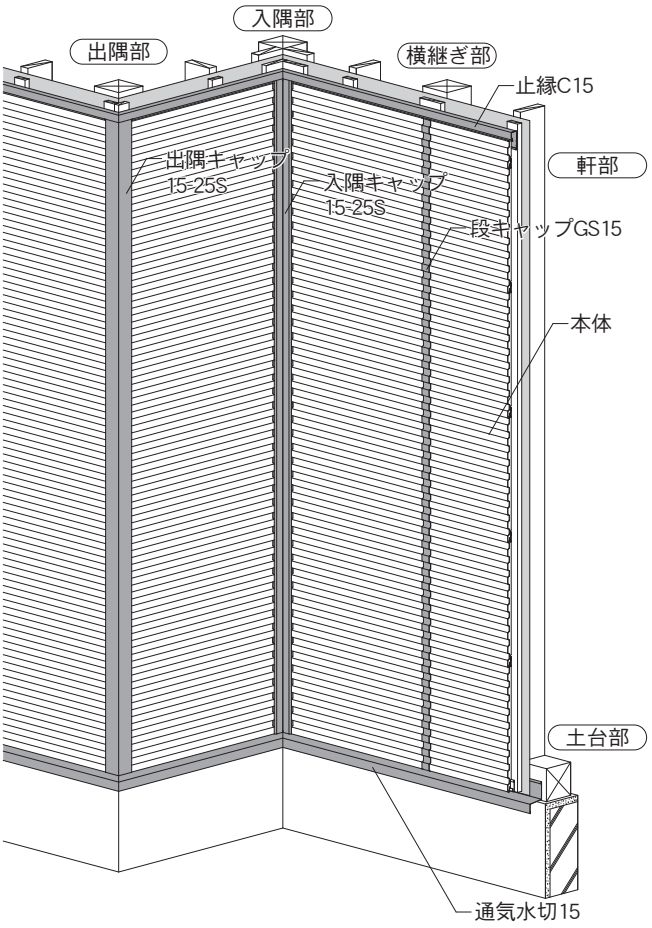


8 後付け付属品の取り付け

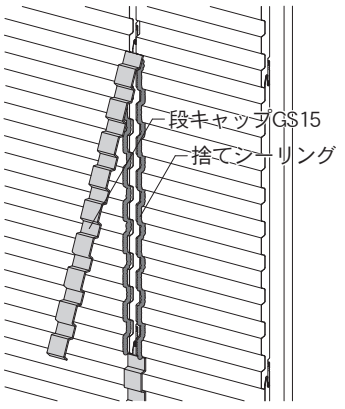
・後付け付属品を施工する際は、出隅部、入隅部、横継ぎ部、開口部などの指定箇所に捨てシーリングを施工してください。詳細は、納まり図(P89～)、付属品の加工方法(P117～)を参照してください。
・鉛直方向に施工する付属品は、下から上へ張り上げてください。

	先付け付属品	後付け付属品
土台部	通気水切15	-
	水切15S	-
	スターター15S	-
出隅部	出隅下地15N	出隅キャップ15-25S
入隅部	入隅下地15S	入隅キャップ15-25S
横継ぎ部	段Tジョイナー15-25	段キャップ
軒部	止縁C15	-
	止縁捨板15	止縁キャップC15
	通気軒見切15-25	-
下屋見切り部※	スターター15S	-
	縦用スターター15	-
	アルミ縦用スターター15	-
下がり壁	下がり壁水切15-25	-
	スターター15S	-
	縦用スターター15	-
開口部上	水切15S	-
	小口カバー15	-
	捨板（15×85）	-
開口部左右	止縁C15	-
開口部下	止縁捨板15	止縁キャップC15
開口部	-	ワンタッチコーナーキャップ15-25

※積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。（P51参照）

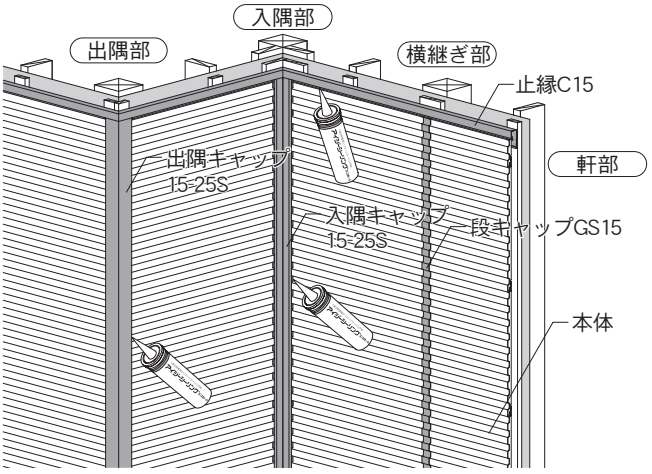


・段キャップGS15は、右図のように上端を本体のかん合部に差し込んで施工してください。



9 シーリング材の施工

・シーリング材は、接着面が乾燥している状態で施工してください。
・本体と付属品のすき間からの雨水の浸入を防ぐため、納まり図(P89～)を参考にシーリング材を施工してください。
・接着面が高温の場合には、施工を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどにも注意してください。
・本体を脳天打ちしたくぎやねじ頭が見える場合は、シーリング材の施工またはタッチアップペイントでの塗装をしてください。



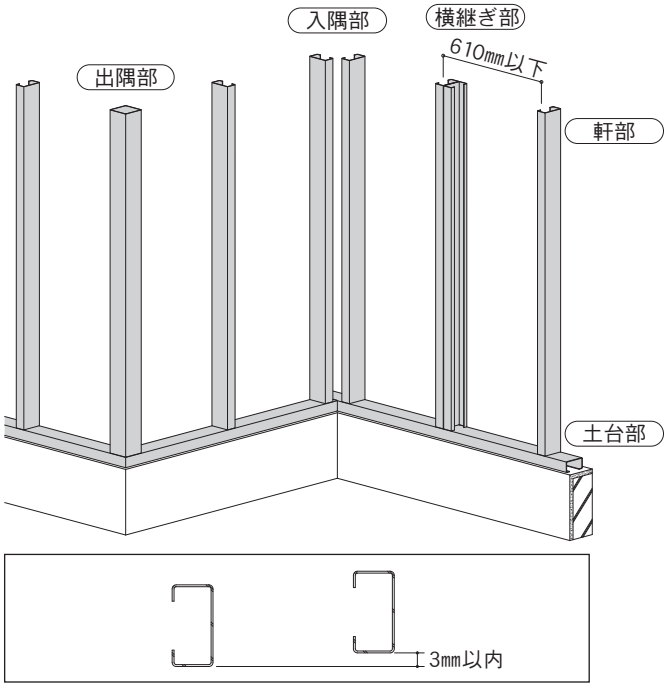
10 補修・点検・片付け・清掃

・切断時に発生するバリ、切粉はさびの原因となります。必ず除去してください。

鉄骨下地 横張りの場合

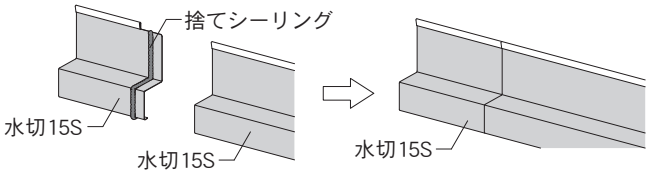
1 胴縁・サッシなどのチェック

・胴縁間隔は610㎜以下、C-100×50×20×2.3㎜以上の材料を標準としてください。横継ぎ部などには、C型鋼をダブルで取り付けるか、角型鋼管100×100×2.3㎜を取り付けてください。
・積雪地域では雪の積る高さまで、補強胴縁を入れてください。
・建物の高さが13mを超える部分にキャップ系付属品を使用する場合は、脱落防止のため、脳天ビス留めをしてください。鉄骨下地で、脳天ビス留めを施す横継ぎ部には、C型鋼ではなく、角型鋼管100×100×2.3㎜を使用してください。
・サイディング本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、鉄骨下地の場合は3㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。
・サイディング本体に室内側から何らかの力が加わると、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。取り付け面に突起物がないことを確認し施工してください。また、躯体とサイディング本体との間に充てん材などを施工する場合は、サイディング本体に充てん材などの反発力が作用しない構造としてください。



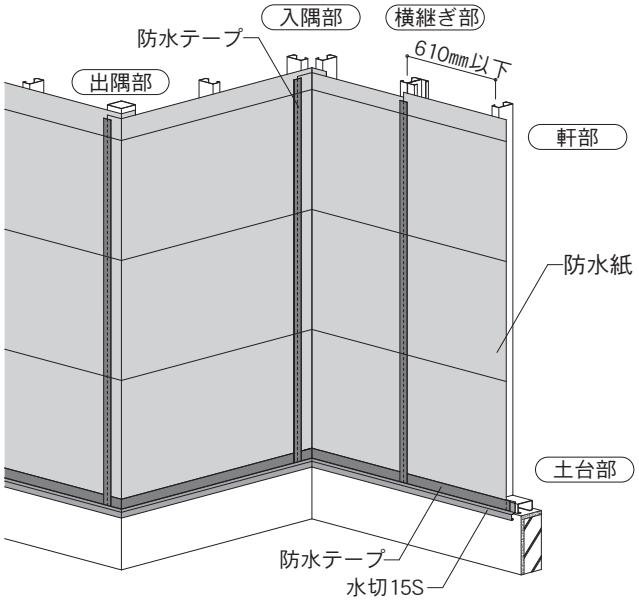
2 水切15Sの取り付け

・水切15Sの片側には切り欠き加工がされており、左右の接続が容易に行えます。切断して左右を接続する場合は、同様に切り欠き加工してください。
・捨てシーリングを施工してから接続してください。

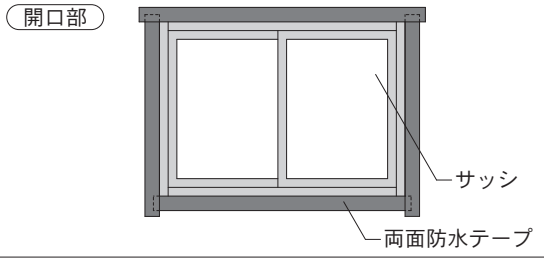


3 防水紙張り

・防水紙は、アスファルトフェルト430または透湿防水シートを使用してください。
・防水紙は横張りを原則とし、下から上へ張り上げてください。
・出隅部、入隅部は防水紙を二重張りとしてください。
・換気口、配管回り、その他の壁貫通口などの周囲は、防水テープを貼り、すき間ができないように防水紙と密着してください。
・防水紙の重ね代は上下90㎜以上、左右150㎜以上としてください。確実に留め付けるため、土台部の張りはじめと鉛直方向の重ね代に、防水テープを貼り付けてください。
・その他の部位に関しては、防水紙メーカーの推奨する方法に従ってください。



・開口部では、サッシ枠周囲に両面防水テープを貼り、すき間ができないよう防水紙を密着してください。

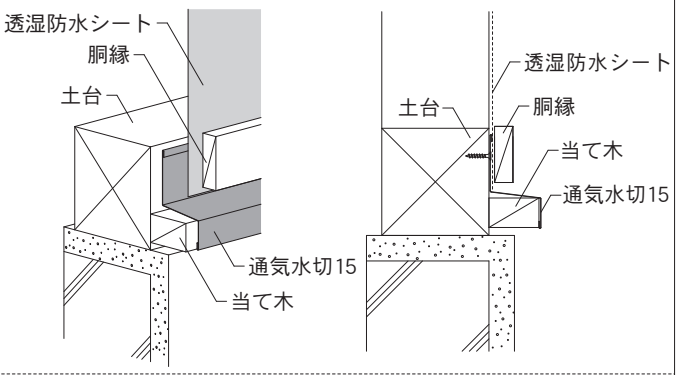


これ以後の施工の手順とポイントは、木造下地　横張り 6 ～ 10 (P47～51) と同様の手順となります。
本体を施工する留め具は、P34を参照してください。
付属品の施工、本体の施工は、P102～111の納まり参考図を確認してください。

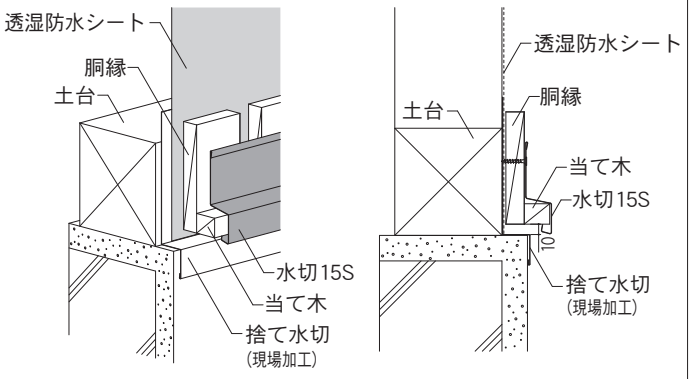
積雪の影響（雪の負荷）のある地域での対処

土台部

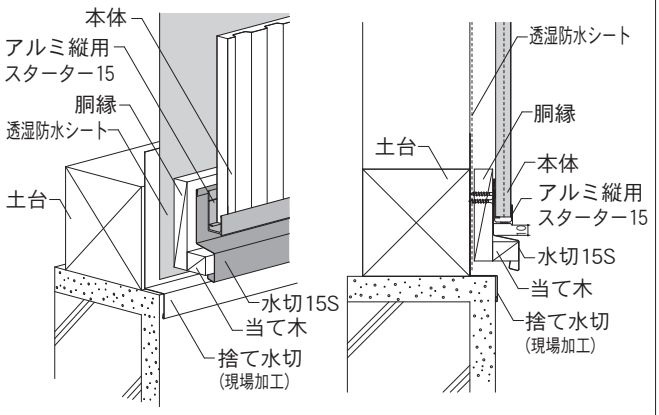
・雪の積る高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。
・サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
・通気水切15は、雪の重みで変形するおそれがありますので、通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。図は、縦張りですが、横張りも同様に当て木などを入れるなどの対処をしてください。



・雪の積る高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。
・サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
・水切15Sは雪の重みで変形するおそれがあります。水切15Sの下に当て木を入れるなどの対処をしてください。図は、縦張りですが、横張りも同様に当て木などを入れるなどの対処をしてください。

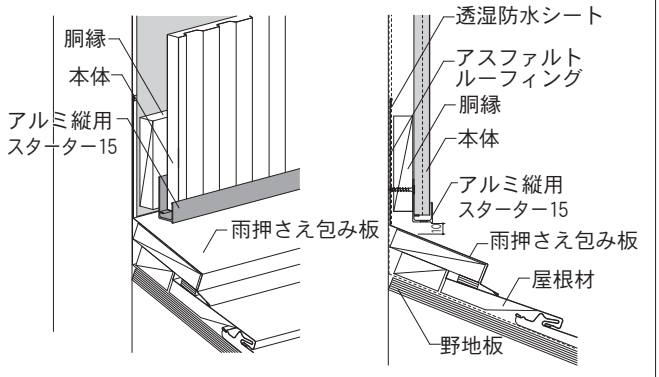


・サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
・土台部で縦用スターターを使用する場合、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。



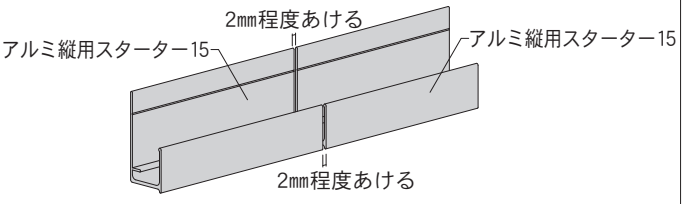
下屋見切り部

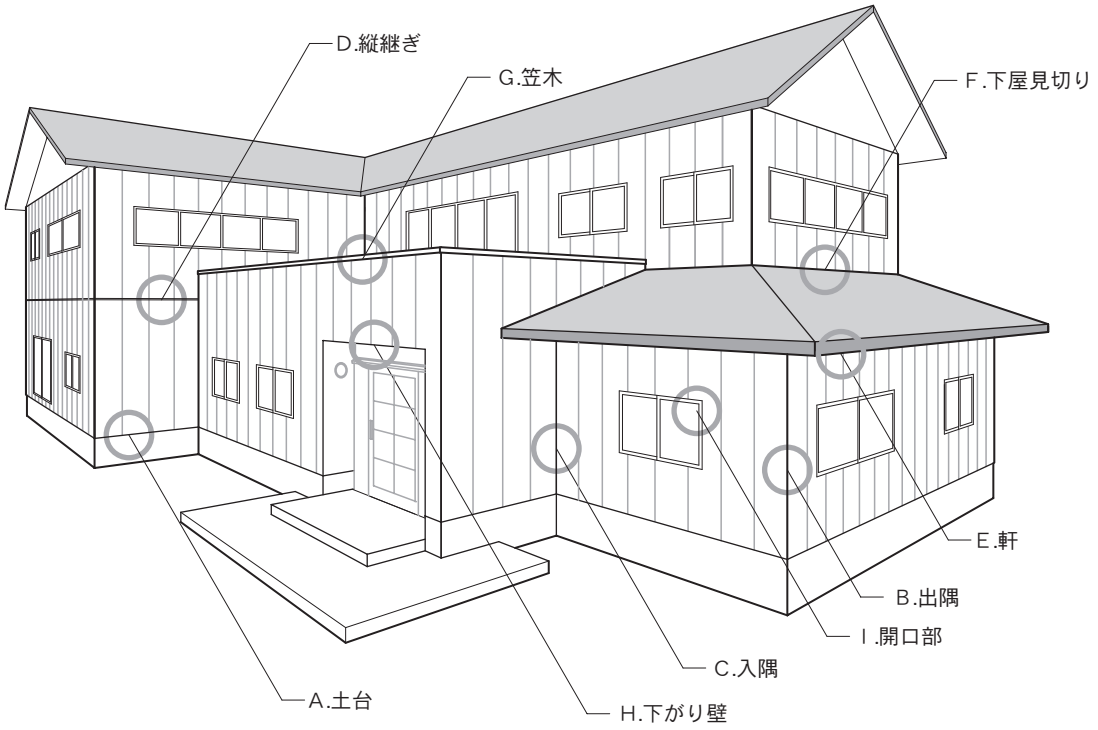
・雪の積る高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。
・サイディング本体と付属品に積雪による荷重や屋根からの落雪、除雪の固まりが当たらないよう対処をしてください。
・下屋見切り部で縦用スターターを使用する場合、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。



アルミ縦用スターター15

・アルミ縦用スターター15同士を接続する際は、熱伸縮を考慮し2㎜程度のすき間をあけて施工してください。
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。
・アルミ縦用スターター15と商品は塗装方法が異なりますので、商品と同じ色名でも色調に差があります。あらかじめご了承ください。



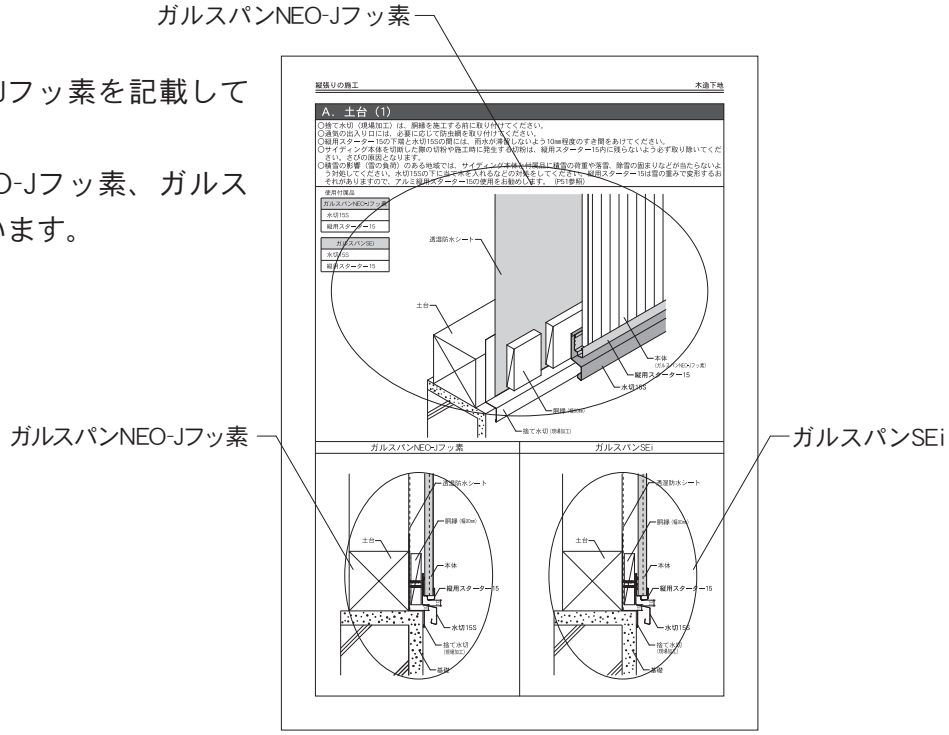


A．土台	P53～56	F．下屋見切り	P65～66
B．出隅	P57	G．笠木	P67
C．入隅	P58～59	H．下がり壁	P68～69
D．縦継ぎ	P60～61	I．開口部	P70～72
E．軒	P62～64		

付属品の継ぎ手などの加工方法及び他の部位との納まりについては、
P117～128の「付属品の加工方法」を参照してください。

施工図の見方

- 斜視図はガルスパンNEO-Jフッ素を記載しています。
- 断面図は、ガルスパンNEO-Jフッ素、ガルスパンSEiの２つを記載しています。



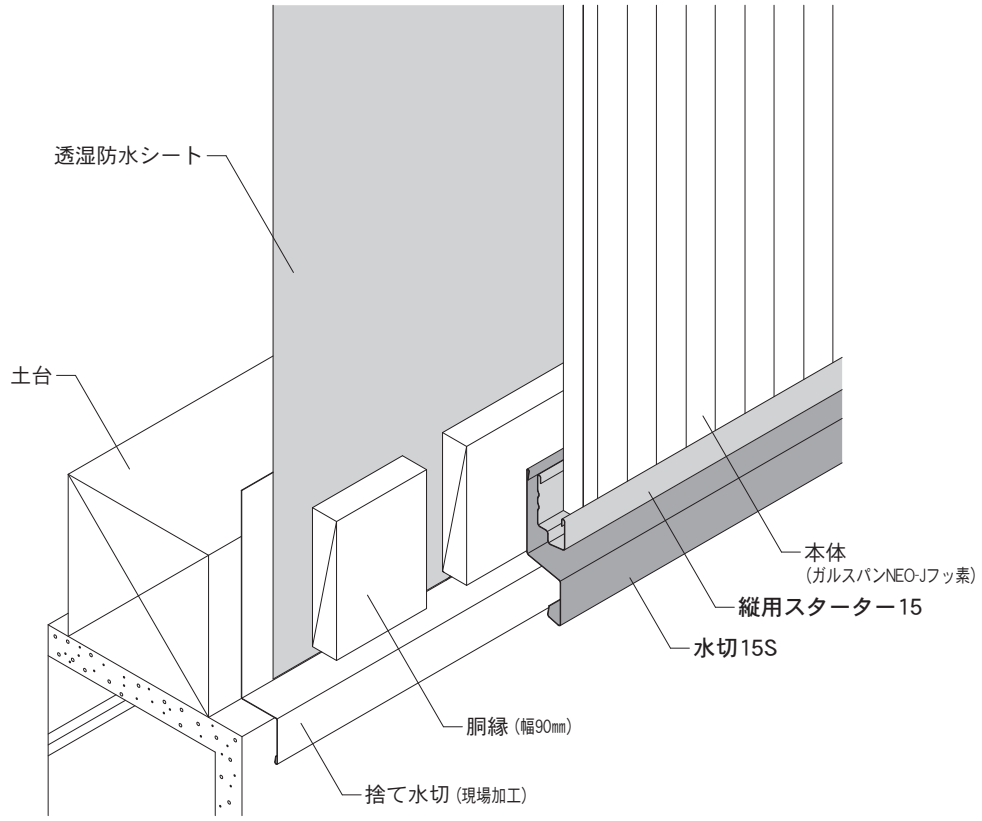
A．土台（1）

○捨て水切（現場加工）は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○縦用スターター15の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切15Sの下に当て木を入れるなどの対処をしてください。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。（P51参照）

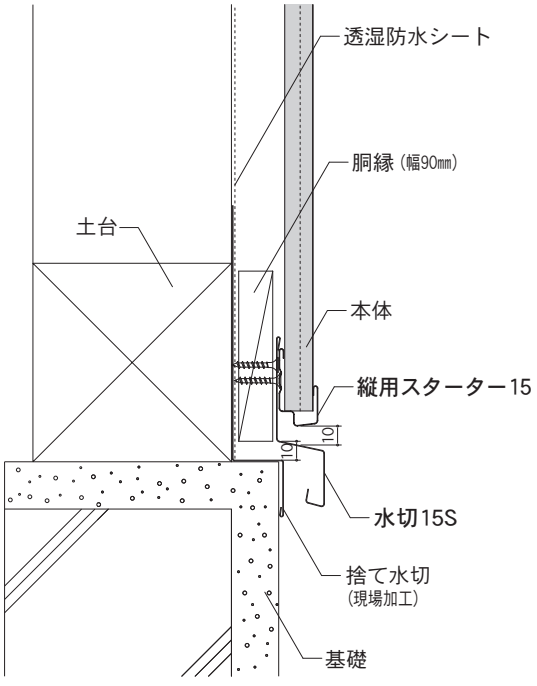
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
縦用スターター15

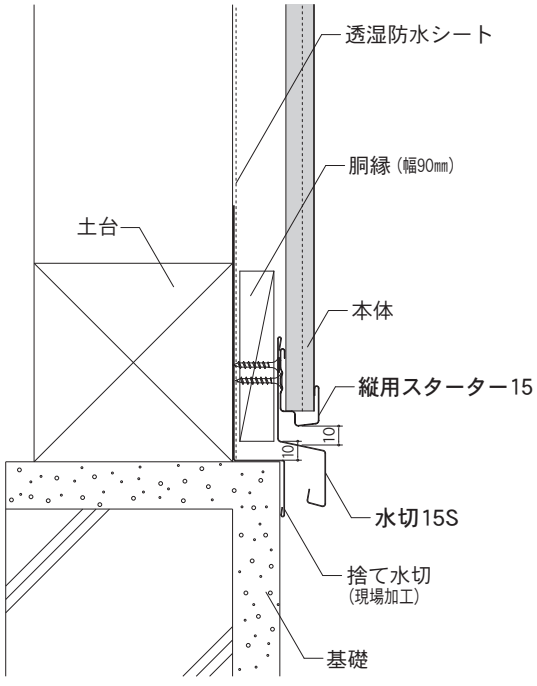
ガルスパンSEi
水切15S
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



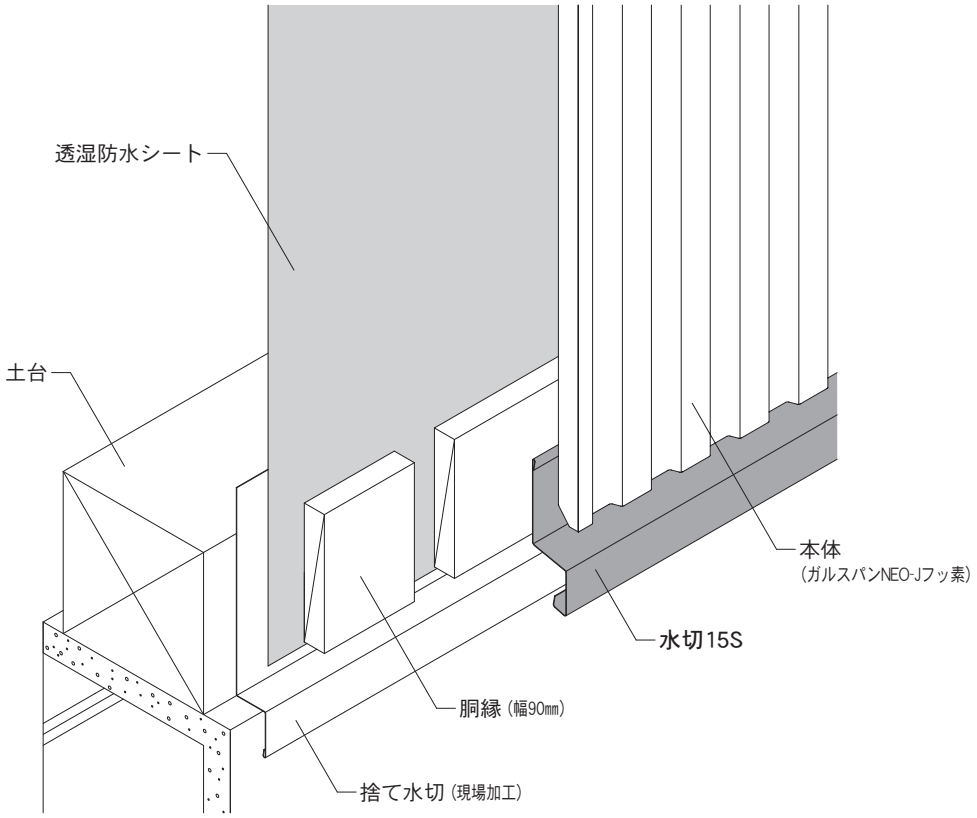
A．土台（2）

○捨て水切（現場加工）は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○本体の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切15Sの下に当て木を入れるなどの対処をしてください。（P51参照）

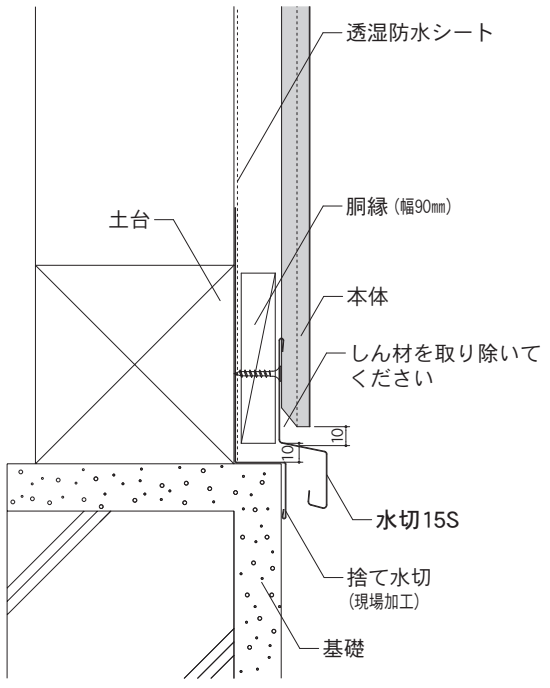
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S

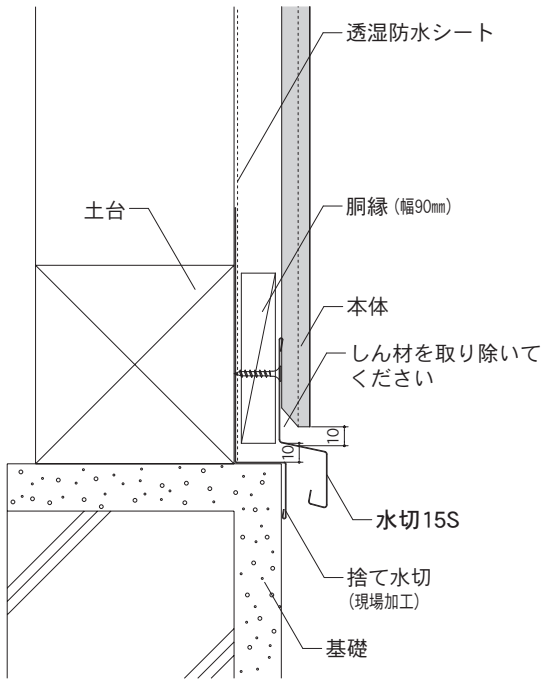
ガルスパンSEi
水切15S



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



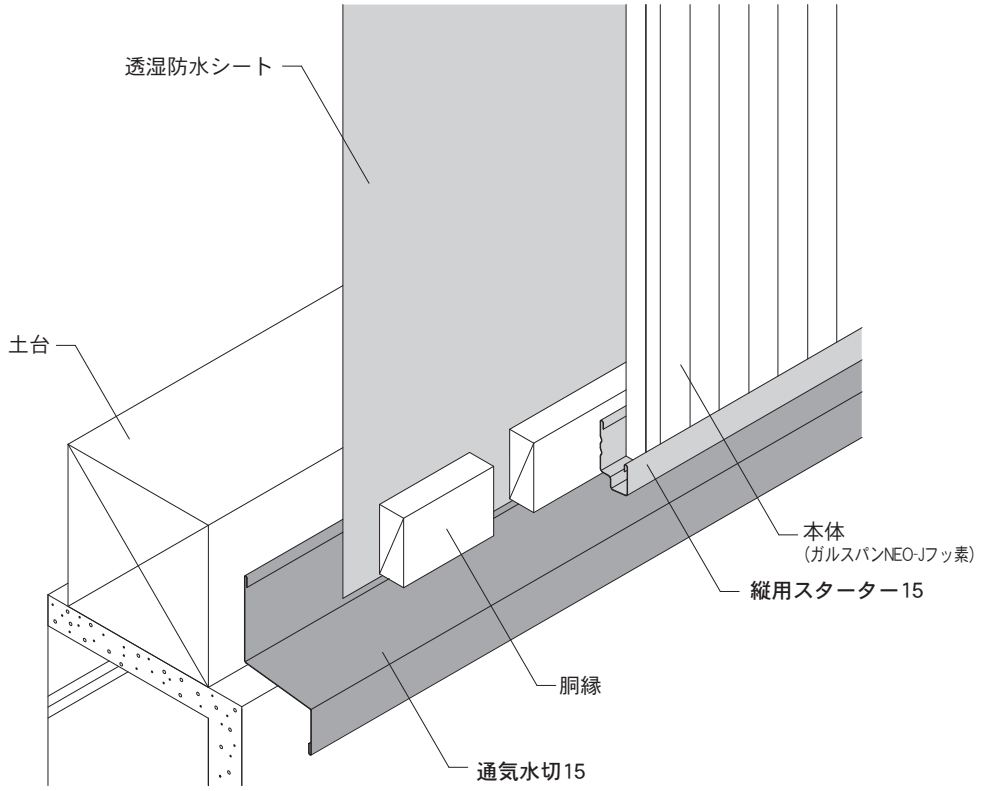
A．土台（3）

○通気水切15は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○縦用スターター15の下端と通気水切15の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。（P51参照）

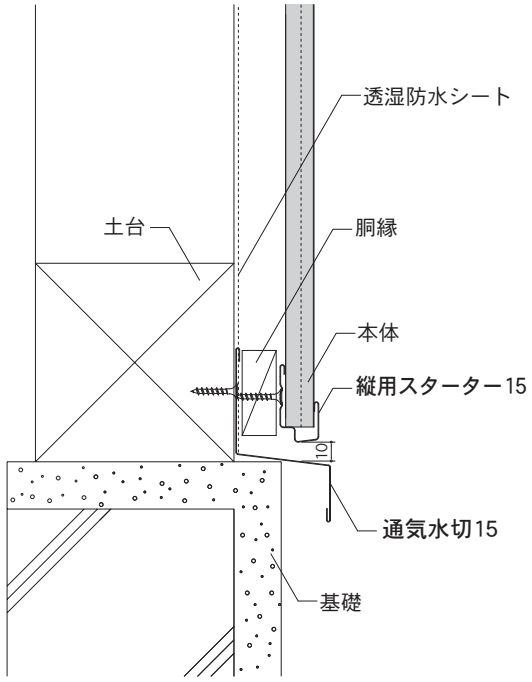
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
通気水切15
縦用スターター15

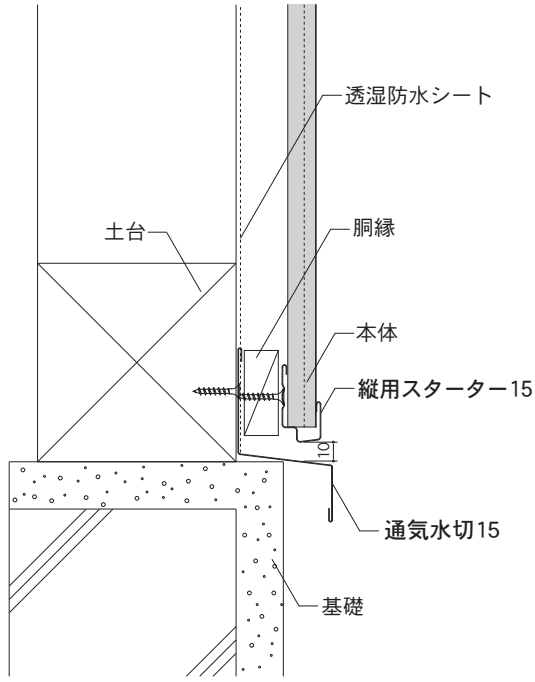
ガルスパンSEi
通気水切15
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



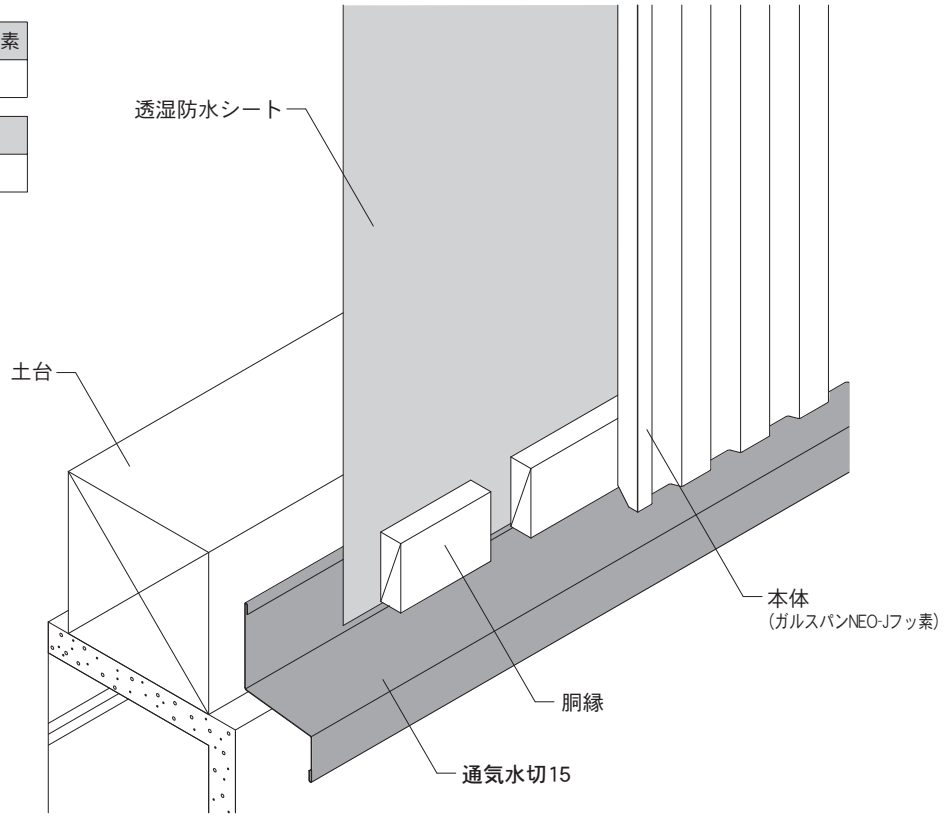
A．土台（4）

〇通気水切15は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
〇通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
〇本体の下端と通気水切15の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
〇積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。（P51参照）

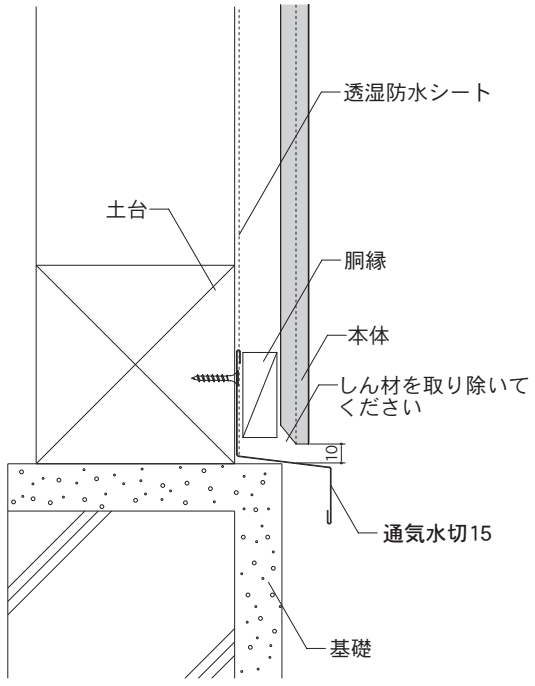
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
通気水切15

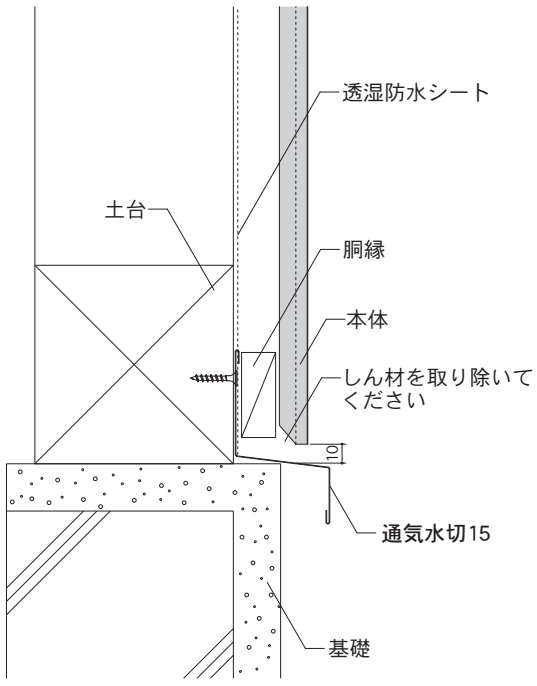
ガルスパンSEi
通気水切15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



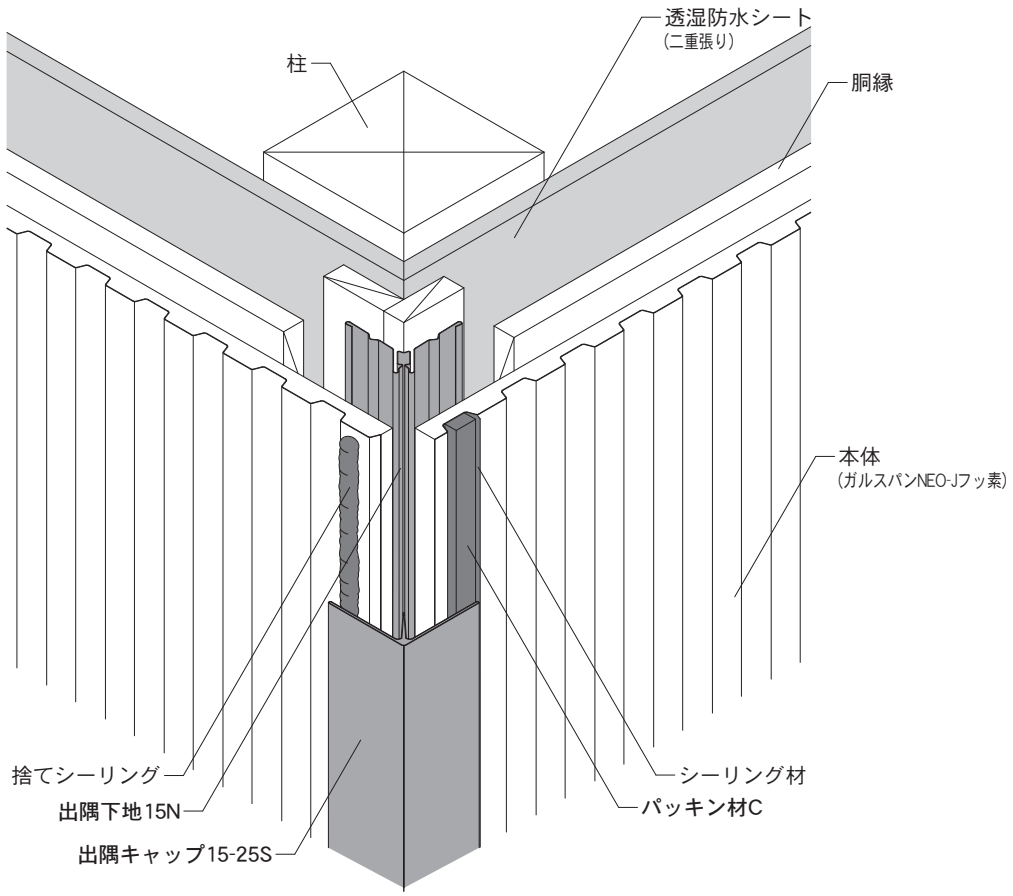
B．出隅

○本体凹部と出隅キャップ15-25Sが重なる場合は、パッキン材を使用してください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

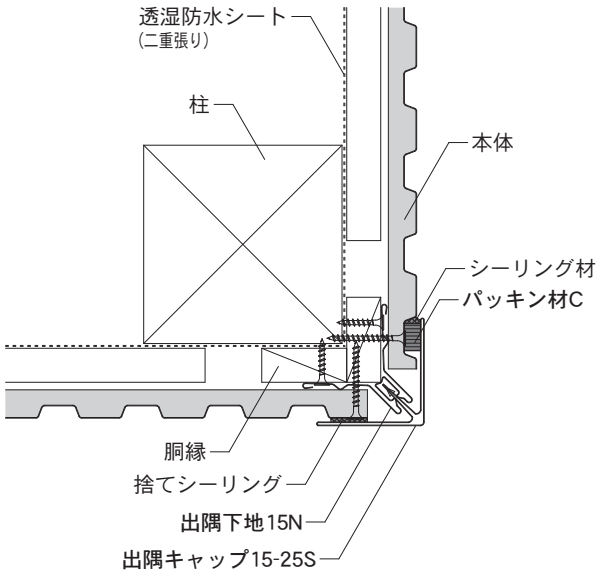
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
出隅キャップ15-25S
出隅下地15N
パッキン材C

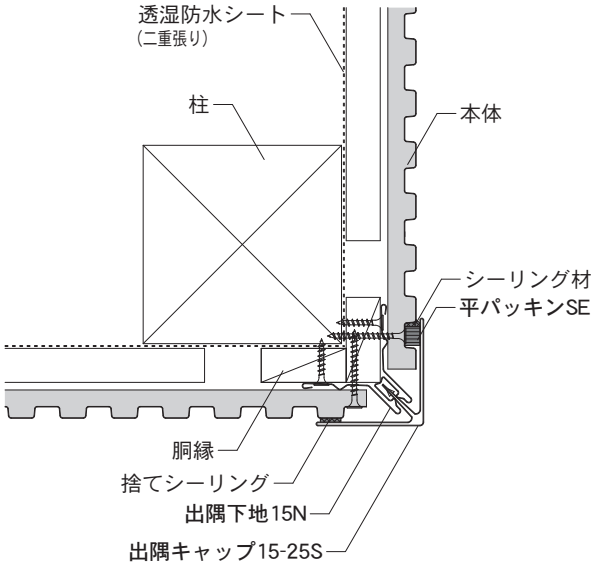
ガルスパンSEi
出隅キャップ15-25S
出隅下地15N
平パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



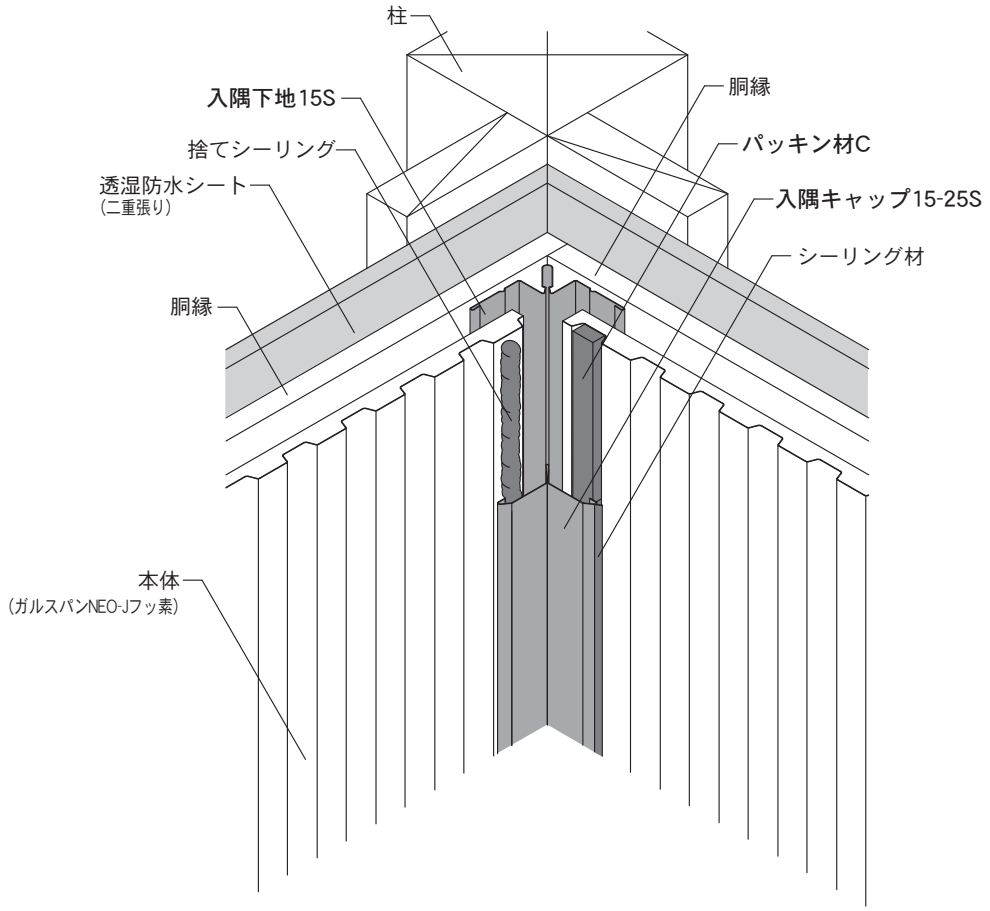
C．入隅（1）

〇本体凹部と入隅キャップ15-25Sが重なる場合は、パッキン材を使用してください。
〇本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

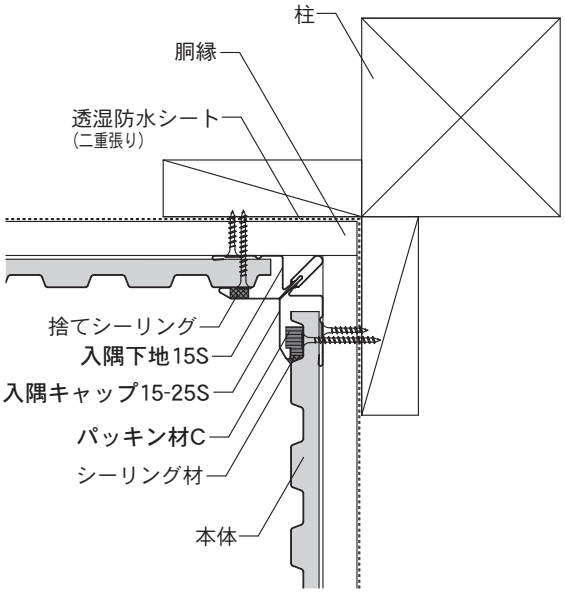
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
入隅キャップ15-25S
入隅下地15S
パッキン材C

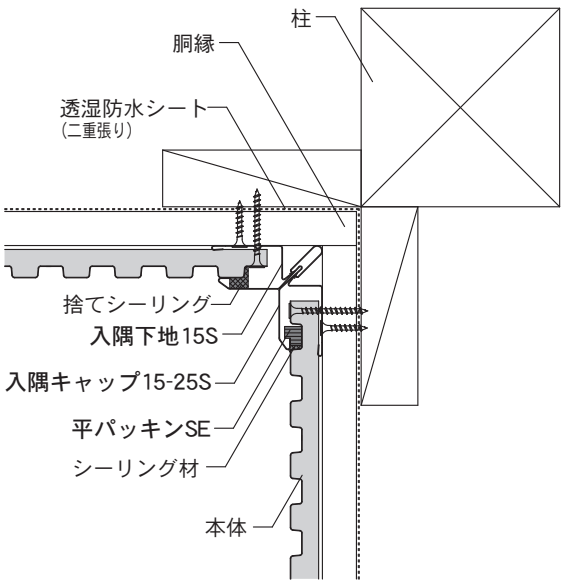
ガルスパンSEi
入隅キャップ15-25S
入隅下地15S
平パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



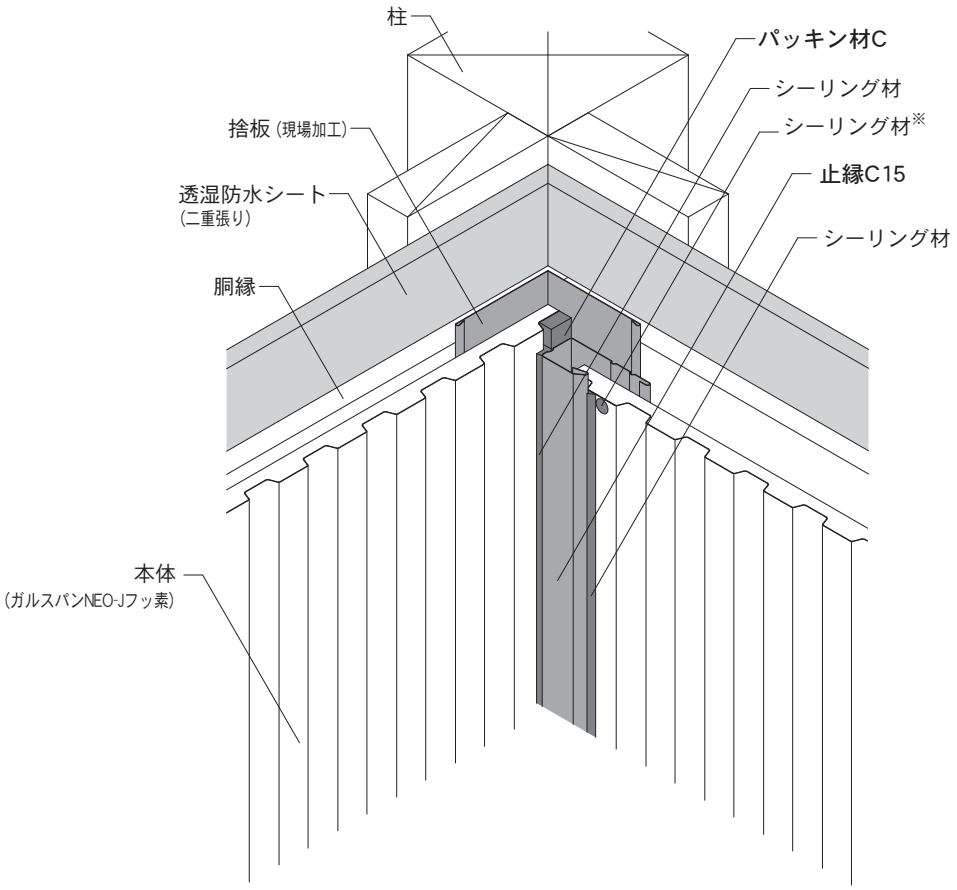
C．入隅（2）

○本体凹部と止縁C15が重なる場合は、パッキン材を使用してください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

使用付属品

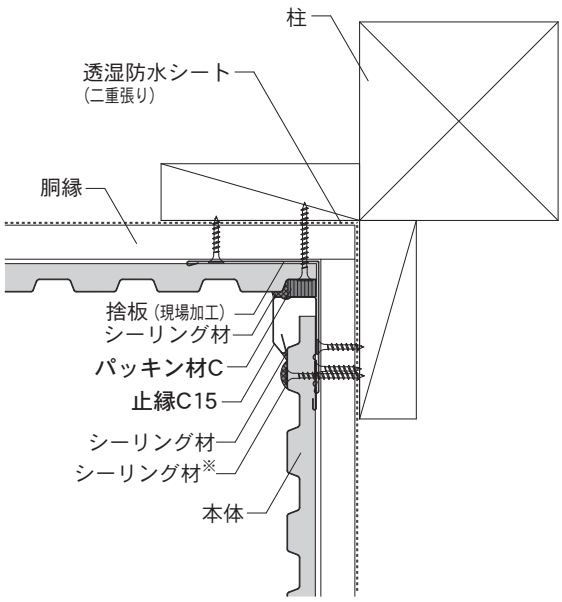
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁C15
パッキン材C

ガルスパンSEi
止縁C15
平パッキンSE

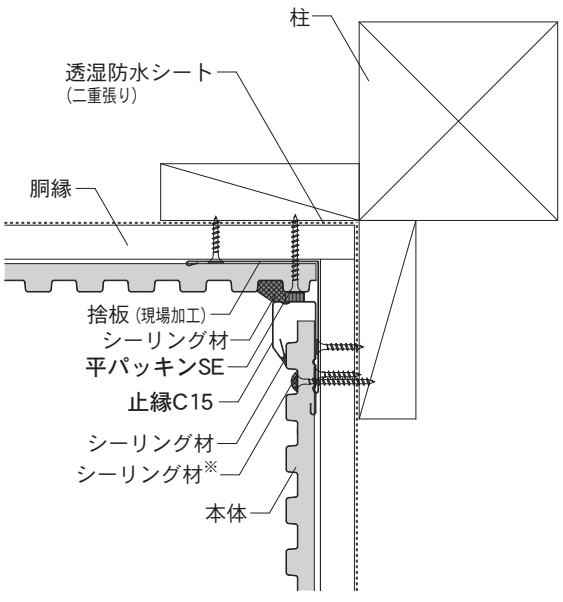


※ くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



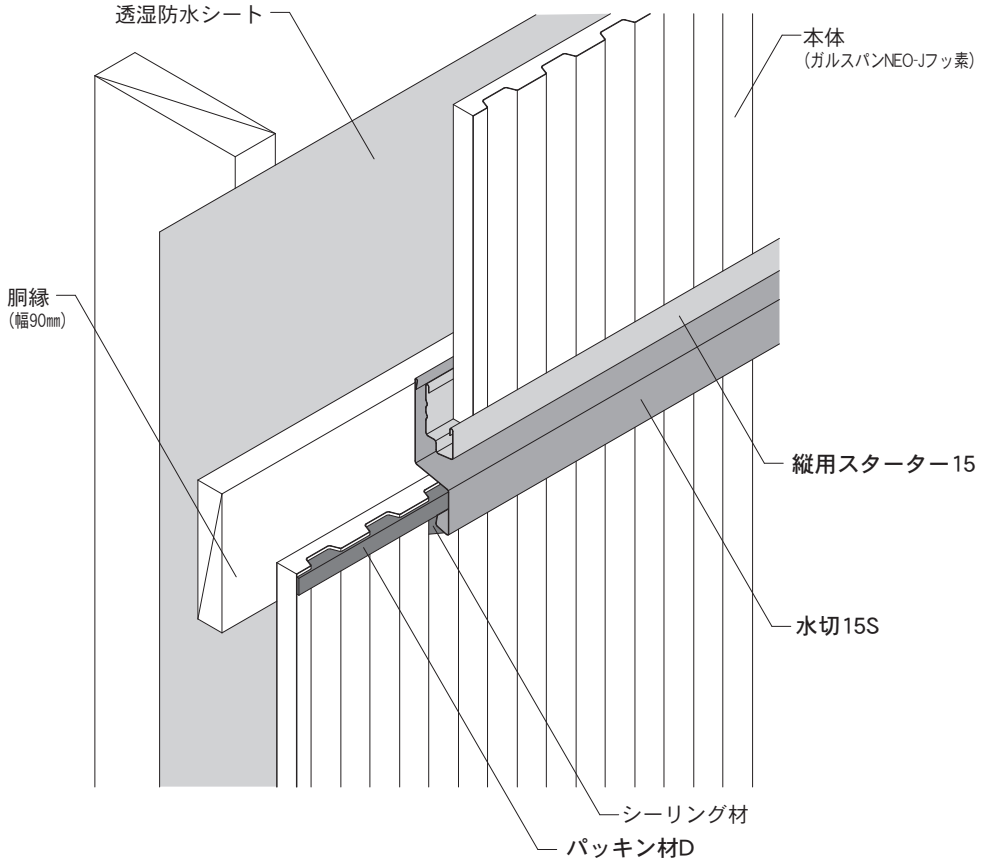
D．縦継ぎ（1）

○本体にパッキン材を貼り付けてから、水切15Sに差し込んでください。
○縦用スターター15の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○45分準耐火構造の場合は、P22～P24、P28～P29の認定仕様を参照してください。
○縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

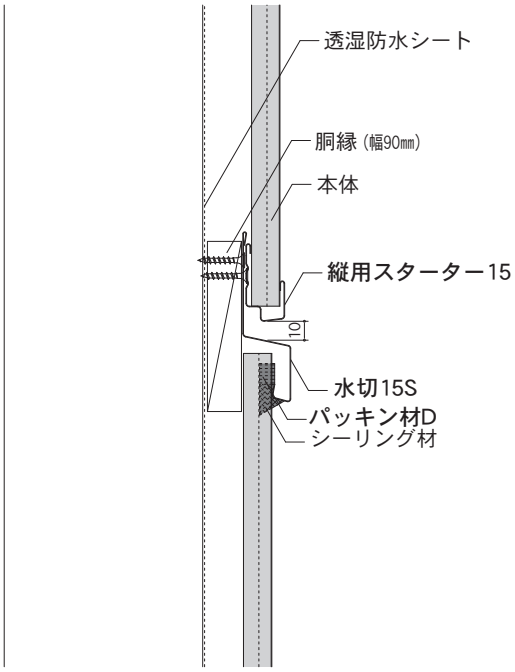
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
パッキン材D
縦用スターター15

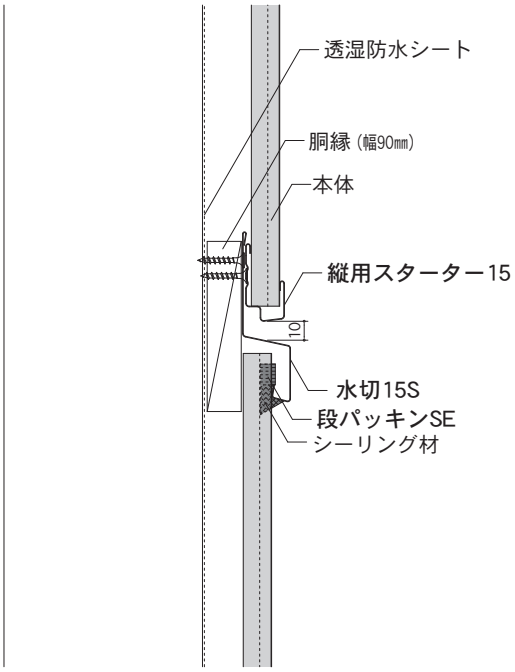
ガルスパンSEi
水切15S
段パッキンSE
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



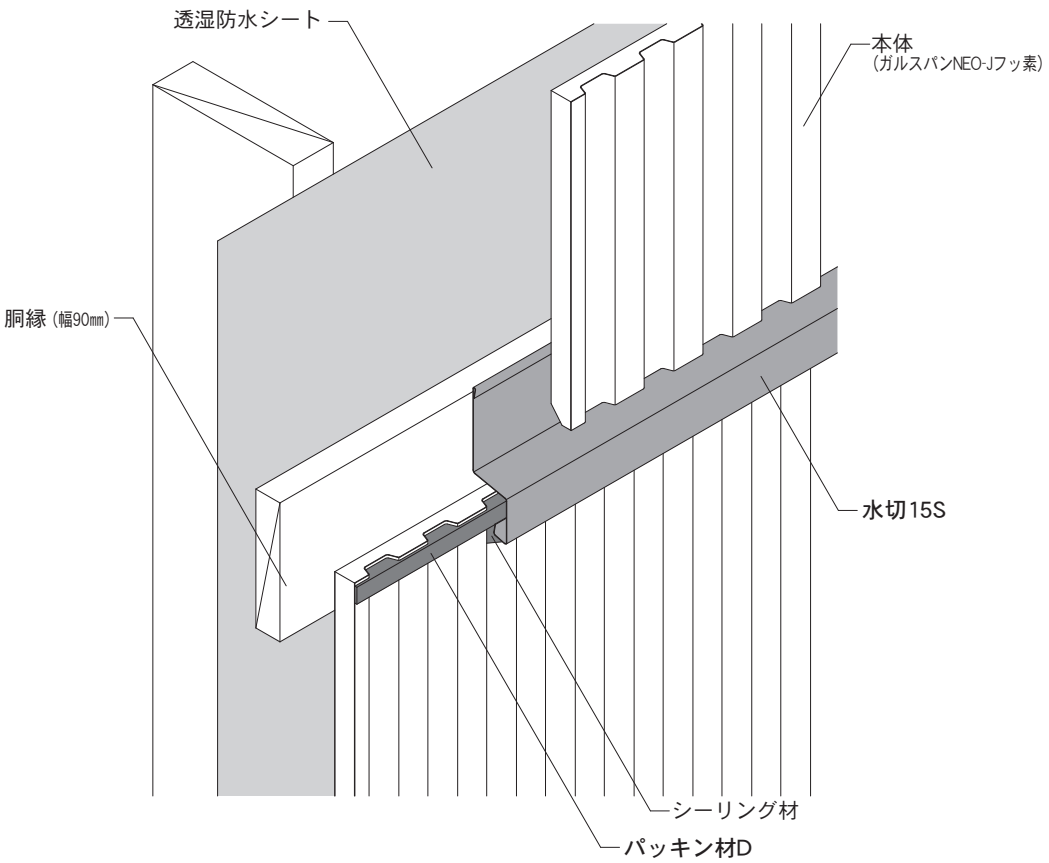
D．縦継ぎ（2）

○本体にパッキン材を貼り付けてから、水切15Sに差し込んでください。
○本体の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○45分準耐火構造の場合は、縦用スターター15の施工が必須です。P22～P24、P28～P29の認定仕様を参照してください。

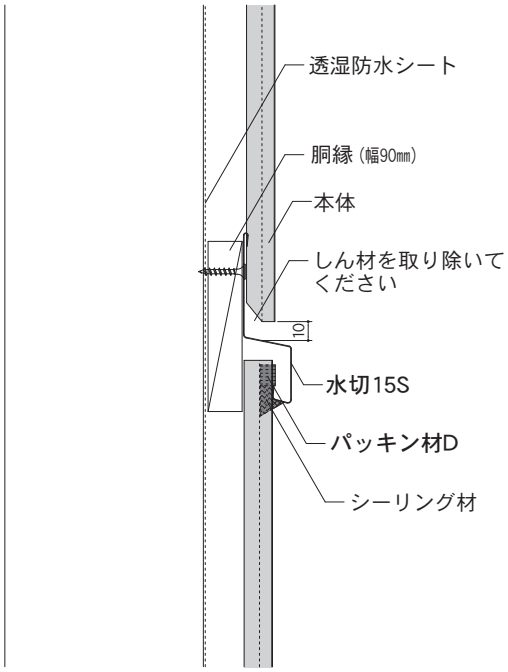
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
パッキン材D

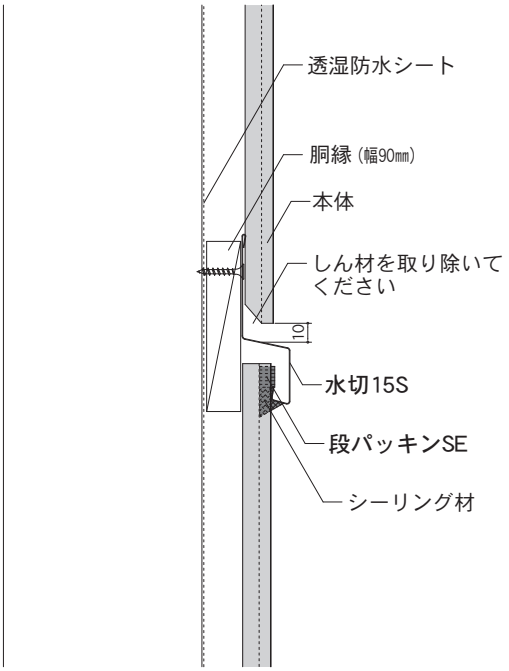
ガルスパンSEi
水切15S
段パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



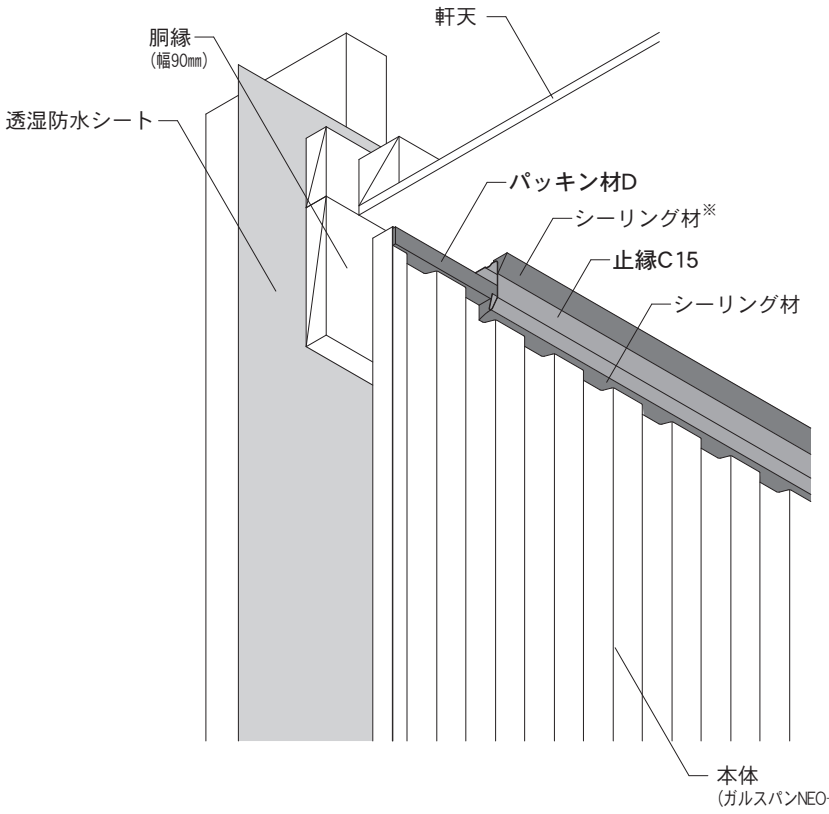
E．軒（1）

〇本体にパッキン材を貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。
〇軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。

使用付属品

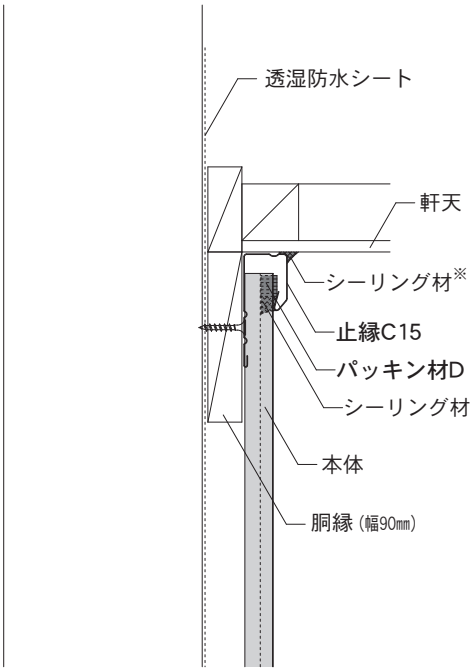
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁C15
パッキン材D

ガルスパンSEi
止縁C15
段パッキンSE

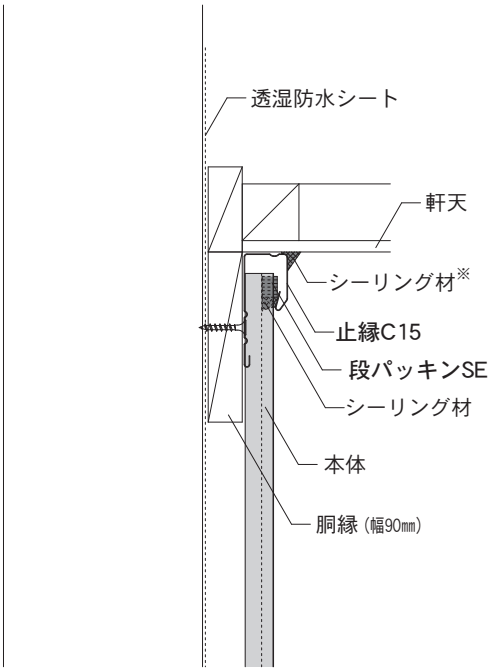


※軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



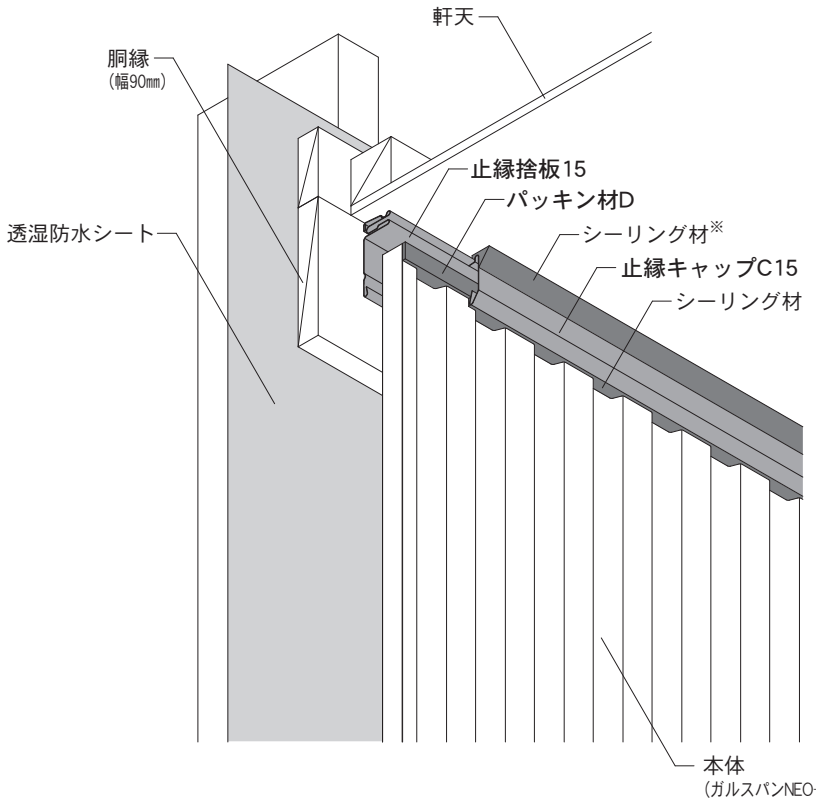
E．軒（2）

○止縁キャップC15を取り付ける前に、本体にパッキン材を貼り付けてください。
○軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。

使用付属品

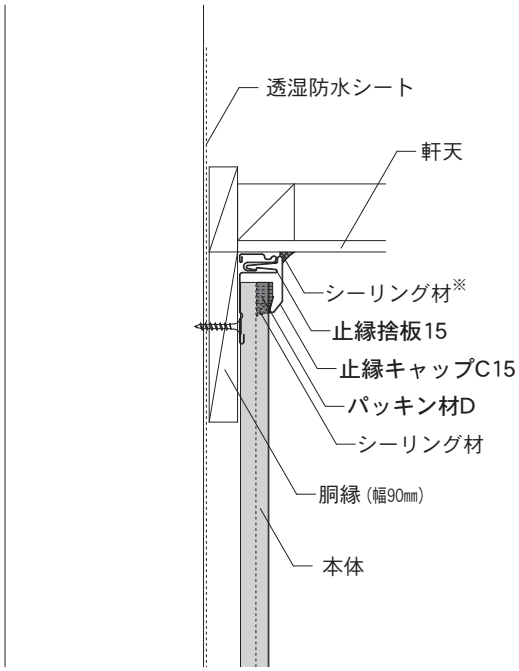
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁キャップC15
止縁捨板15
パッキン材D

ガルスパンSEi
止縁キャップC15
止縁捨板15
段パッキンSE

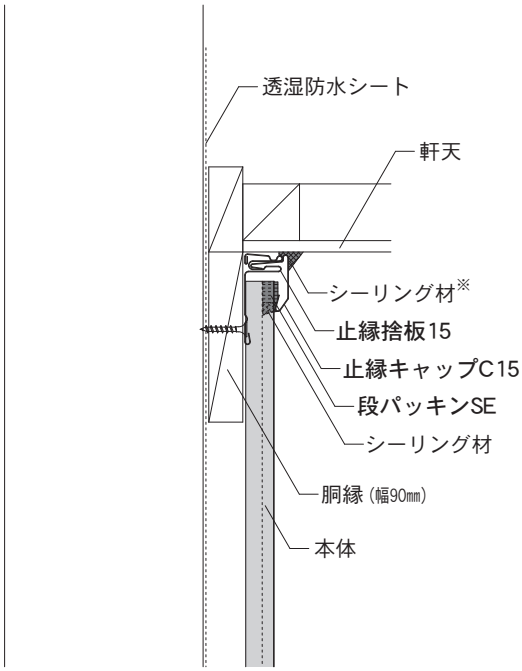


※軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



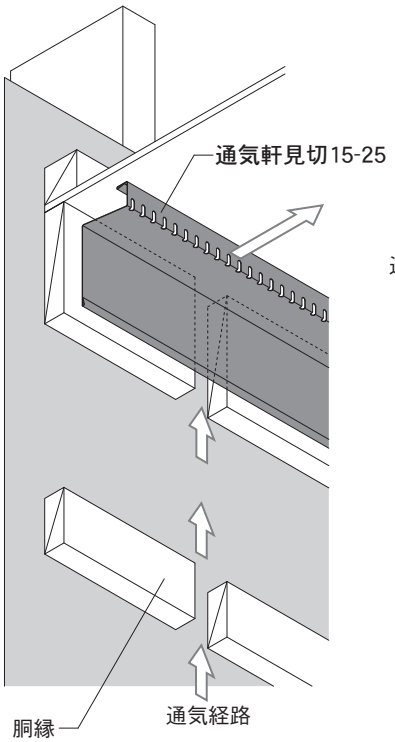
E．軒（3）

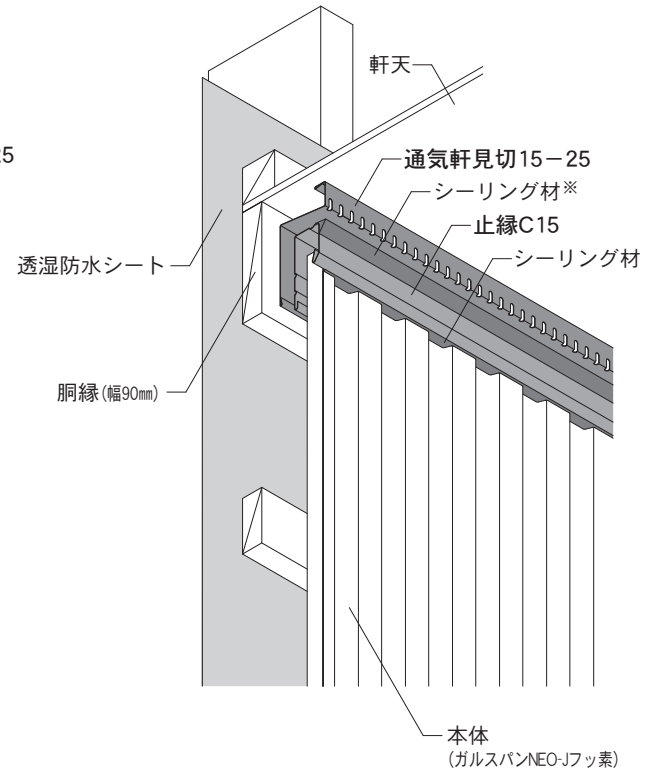
○本体にパッキン材を貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。
○軒裏や小屋裏への通気を行わない場合でも、通気軒見切15-25を使用することで通気構法が可能となります。

使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁C15
パッキン材D
通気軒見切15-25

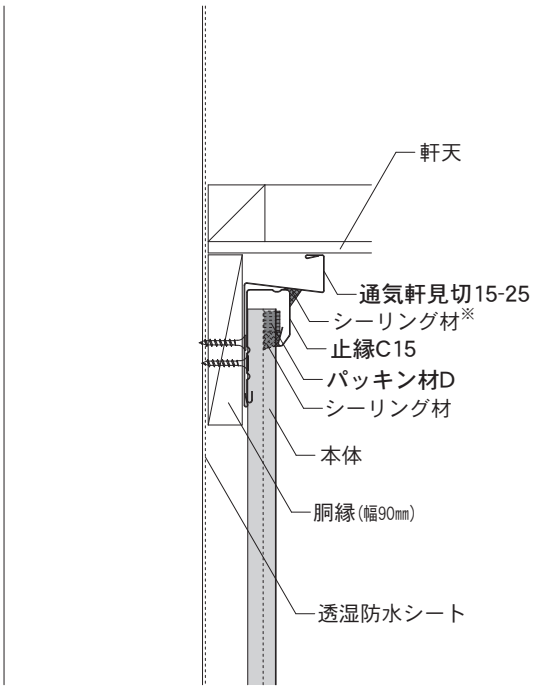
ガルスパンSEi
止縁C15
段パッキンSE
通気軒見切15-25



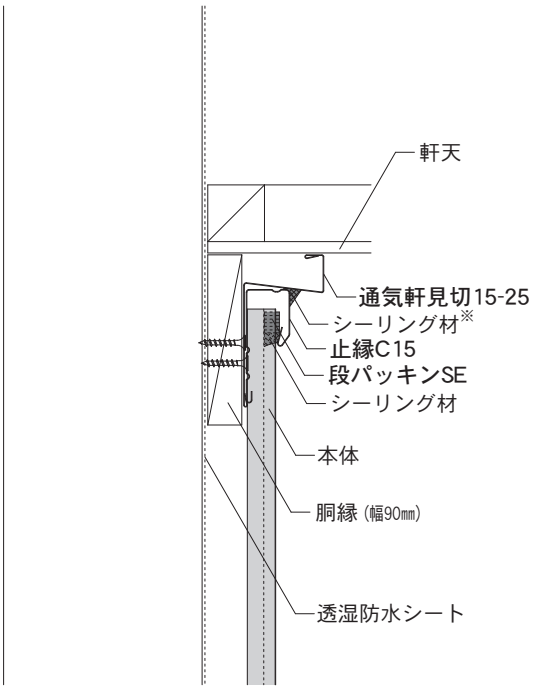


※ 軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



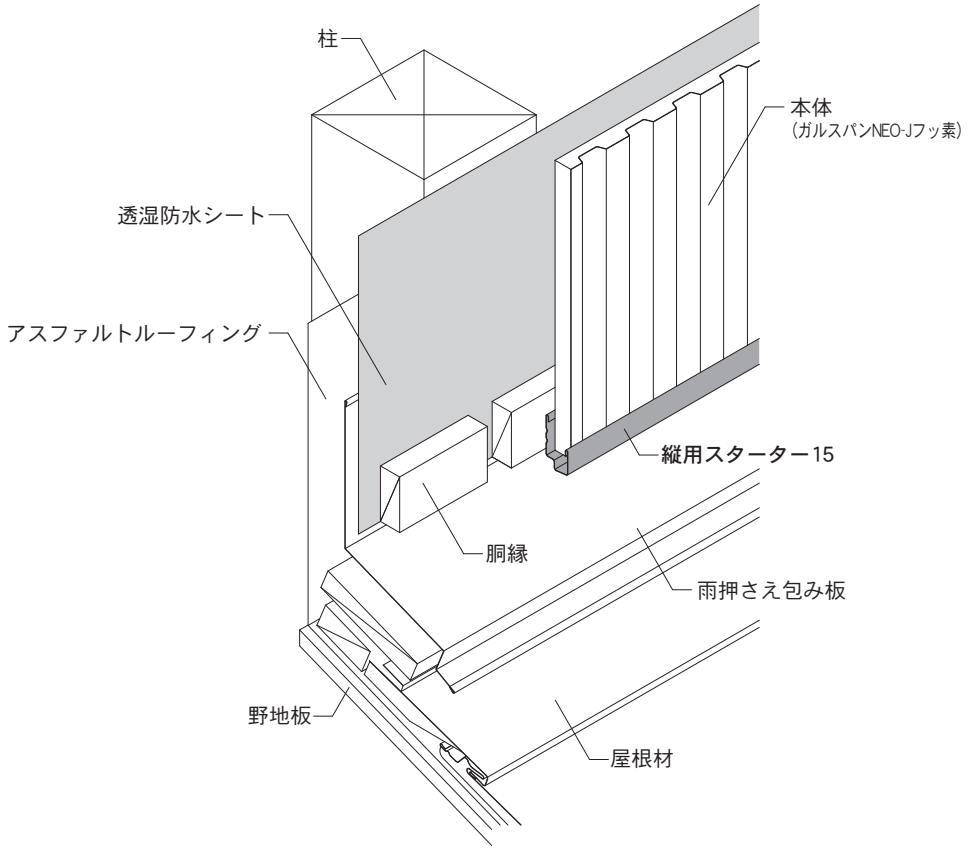
F．下屋見切り（1）

○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○縦用スターター15の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。（P51参照）

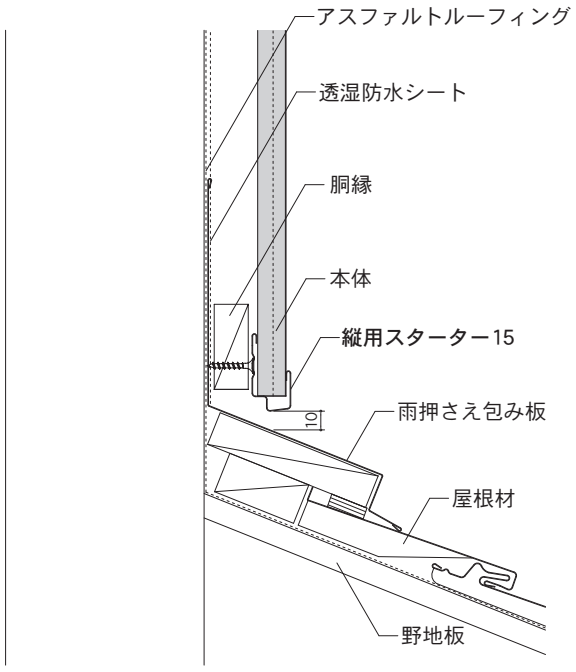
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
縦用スターター15

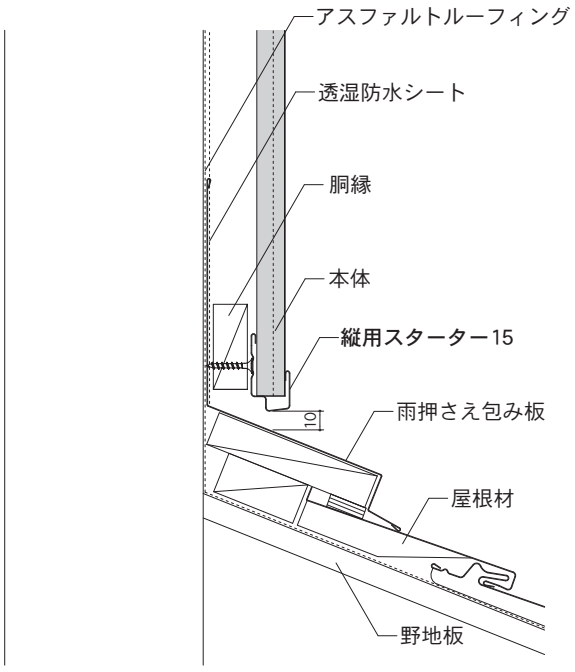
ガルスパンSEi
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素

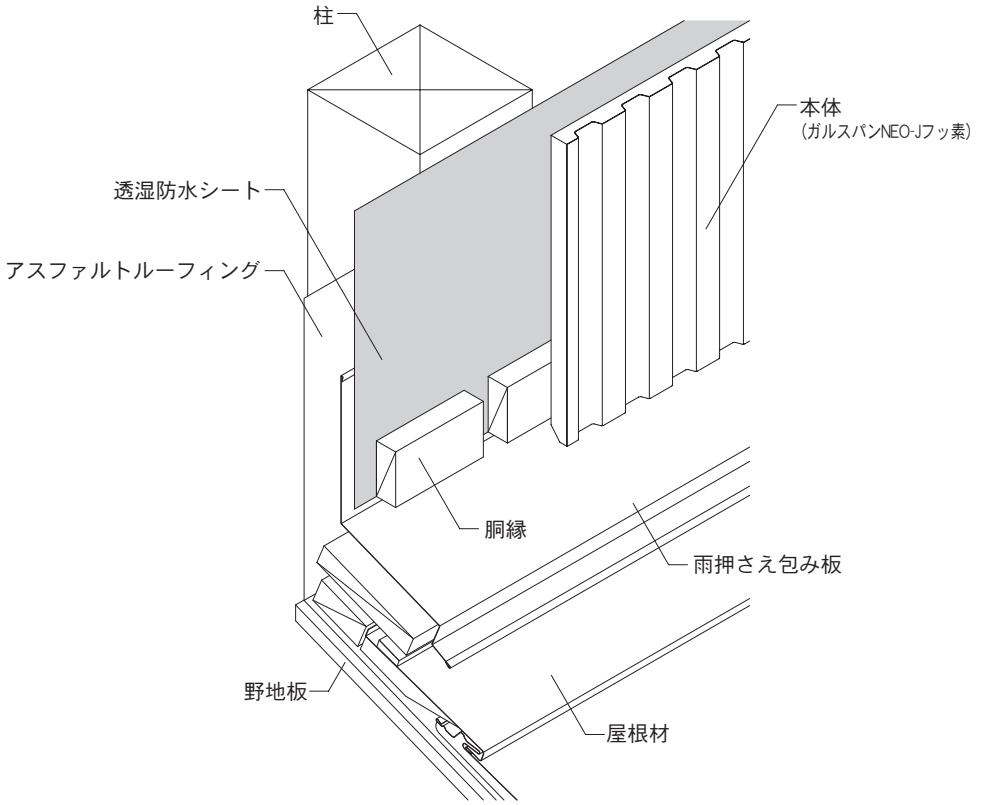


ガルスパンSEi

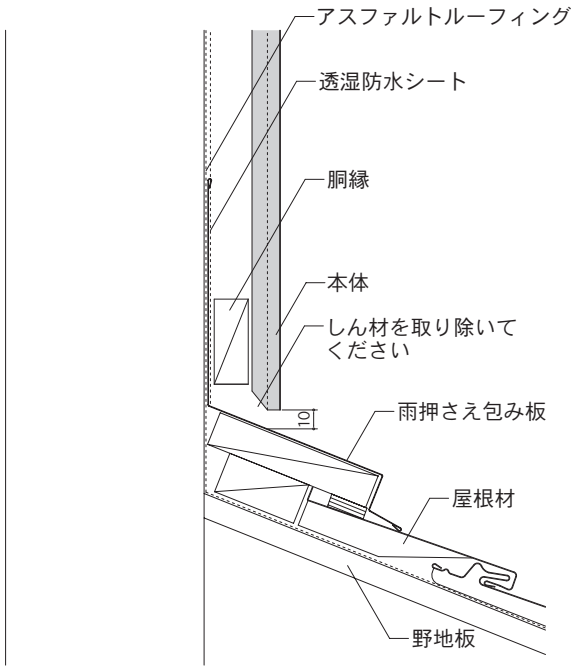


F．下屋見切り（2）

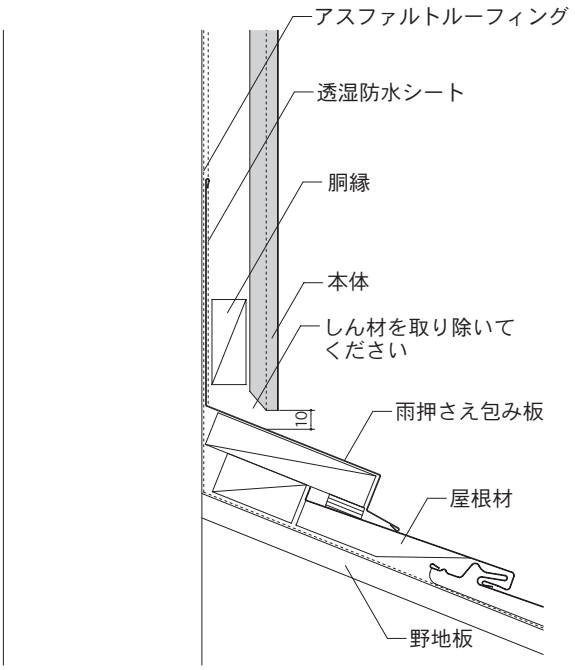
○本体の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



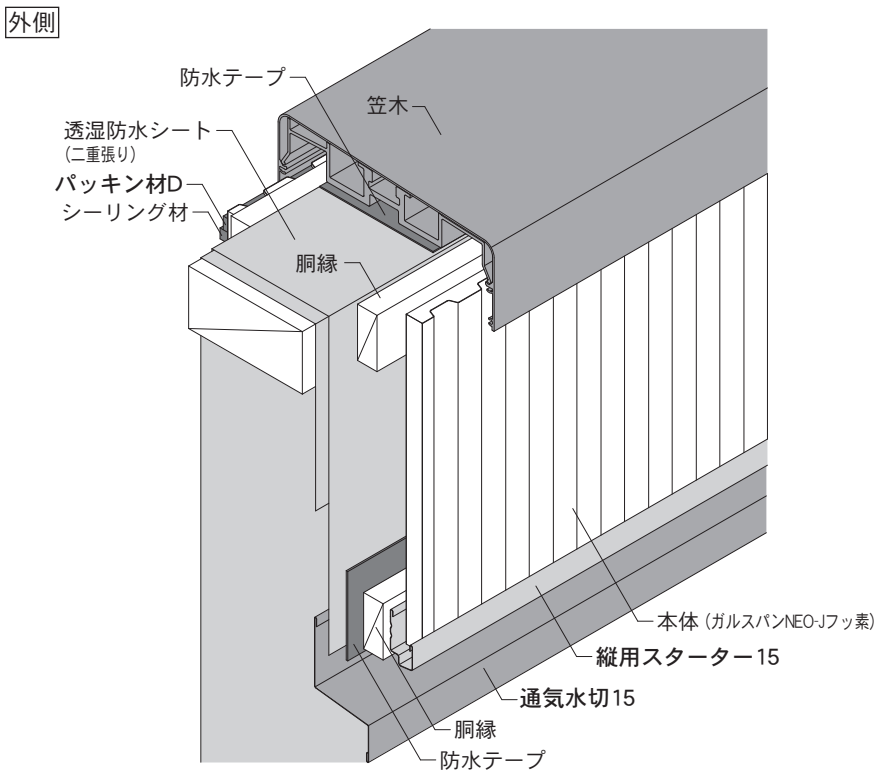
G．笠木

○防水上万全を期すため、透湿防水シートを二重張りにしてください。
○通気経路を確保してください。
○通気口から直接雨水が入らないように配慮してください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○縦用スターター15の下端と通気水切15の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。(P51参照)

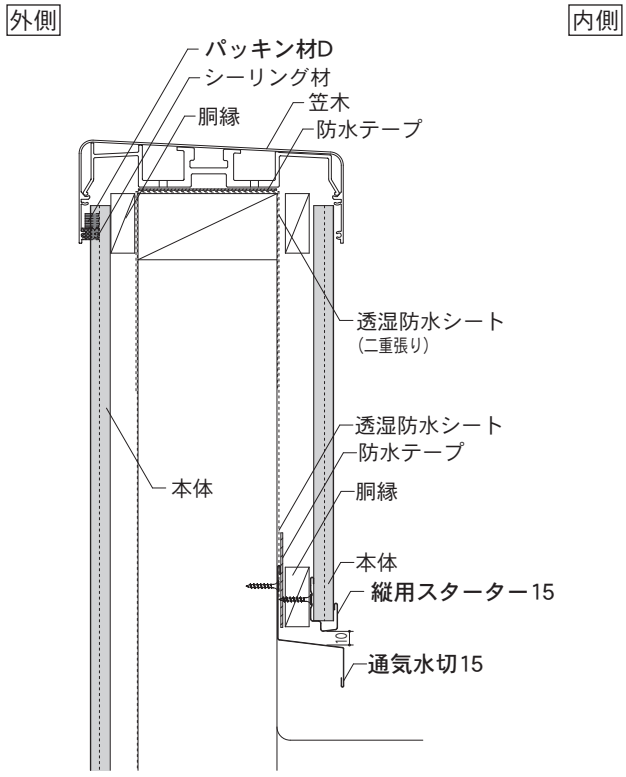
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
パッキン材D
縦用スターター15
通気水切15

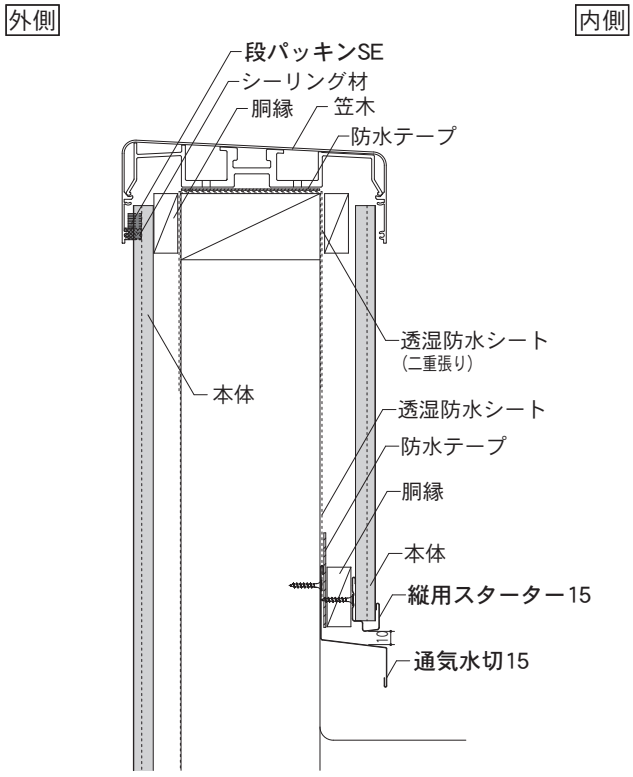
ガルスパンSEi
段パッキンSE
縦用スターター15
通気水切15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



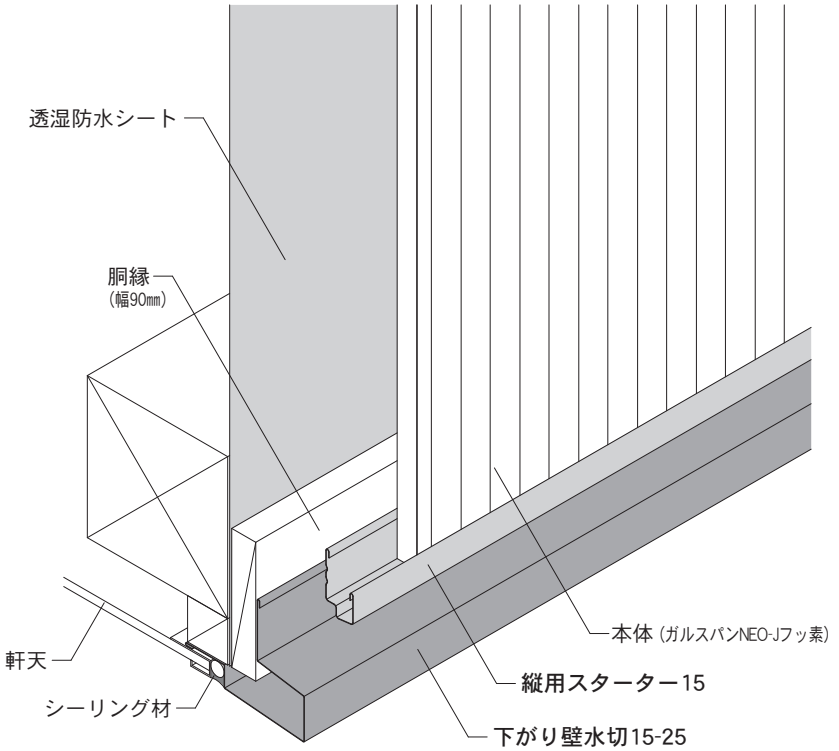
H. 下がり壁（1）

〇下がり壁水切15-25には、通気穴（直径5㎜）を50㎜間隔であけてください。
〇縦用スターター15の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
〇サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。

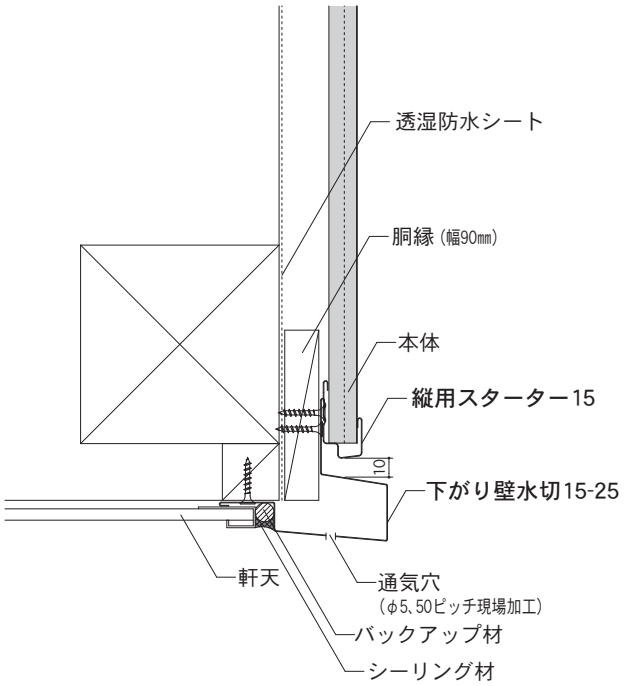
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
下がり壁水切15-25
縦用スターター15

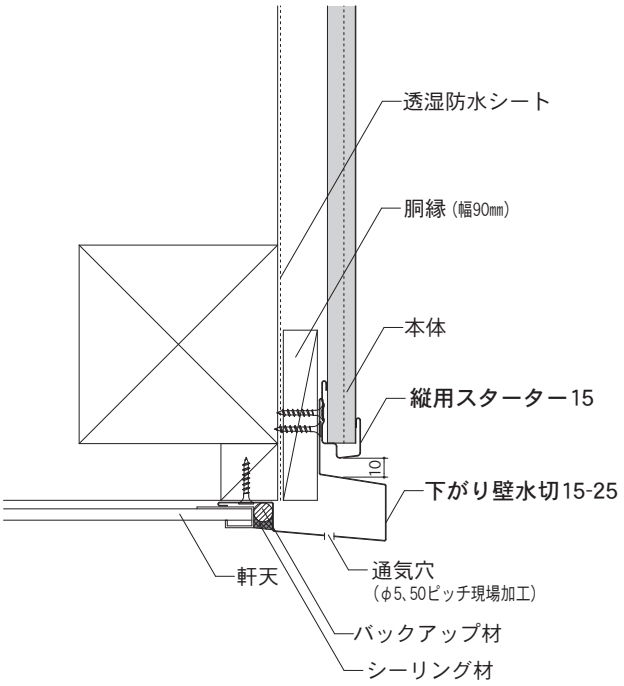
ガルスパンSEi
下がり壁水切15-25
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



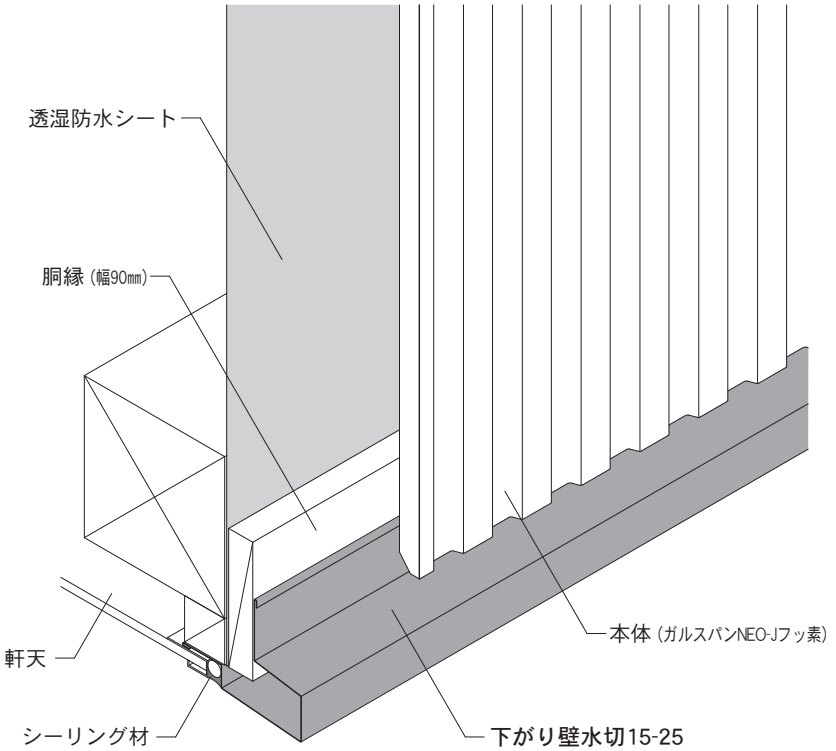
H. 下がり壁（2）

〇下がり壁水切15-25には、通気穴（直径5㎜）を50㎜間隔であけてください。
〇本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。

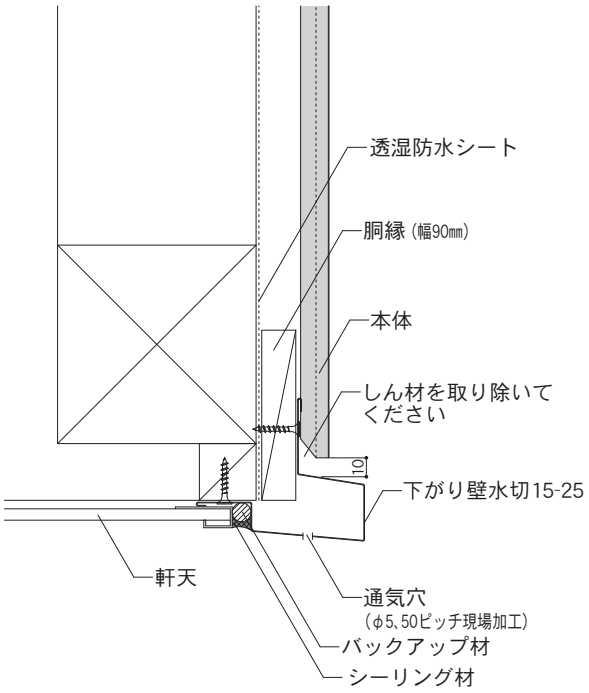
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
下がり壁水切15-25

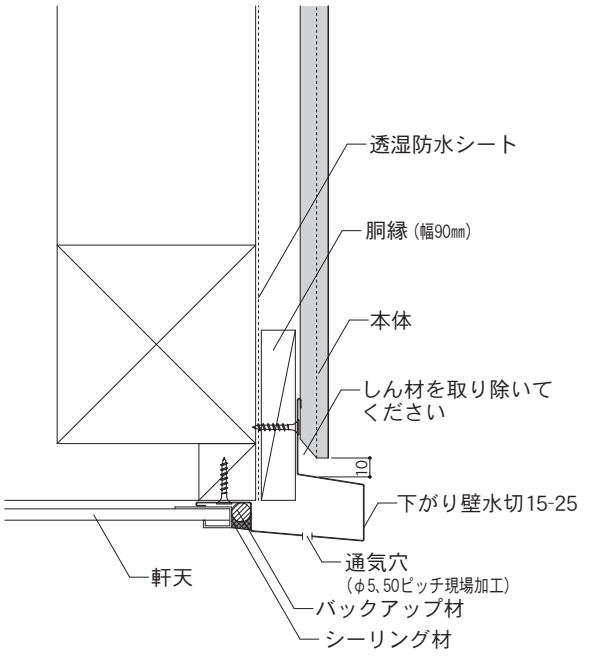
ガルスパンSEi
下がり壁水切15-25



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi

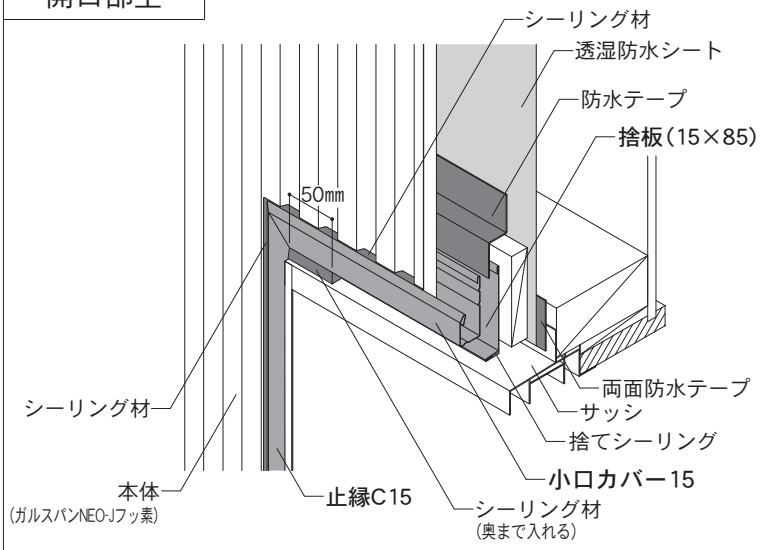


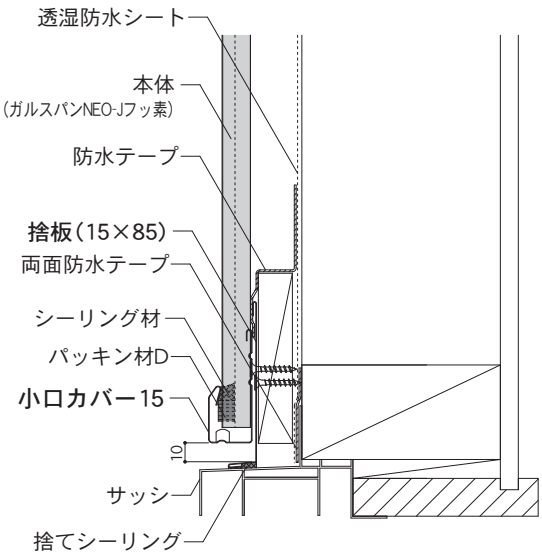
Ⅰ．開口部（1）

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/捨板（15×85）

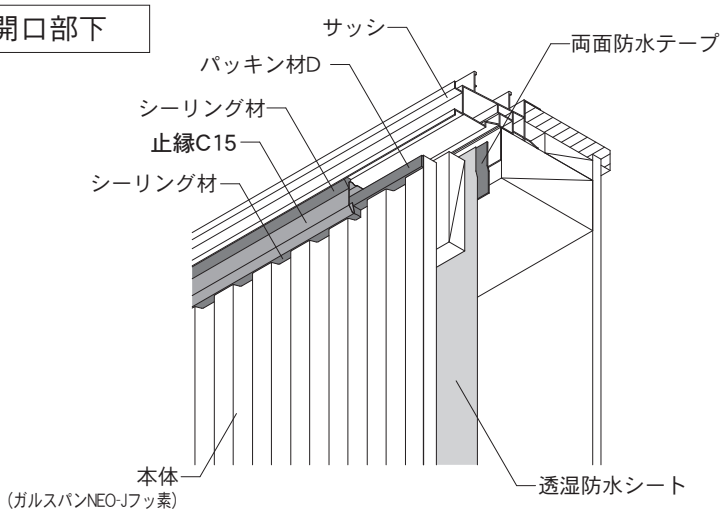
○開口部上では、小口カバー15の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP126～128の「付属品の加工方法」を参照してください。
○止縁C15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。
○開口部上では、本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P40参照）
○ガルスパンSEiを施工する際は、パッキン材Dではなく段パッキンSEを使用してください。

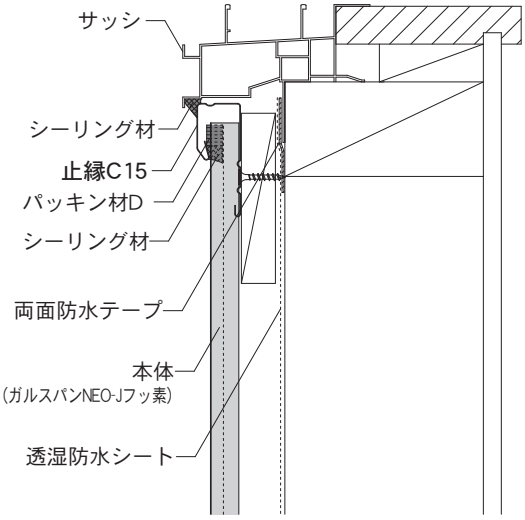
開口部上



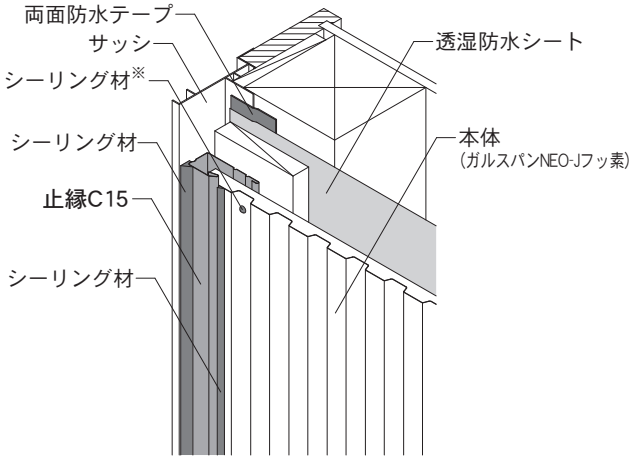


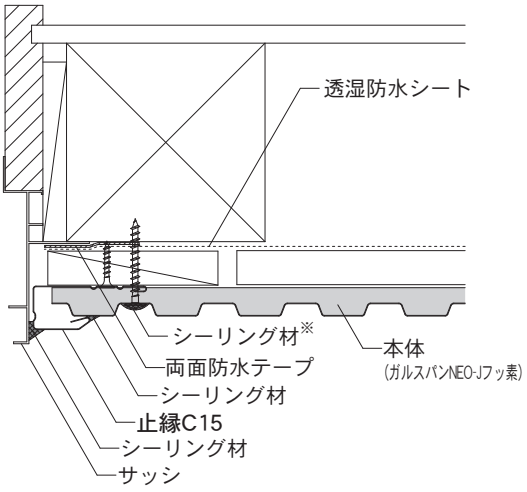
開口部下





開口部左右





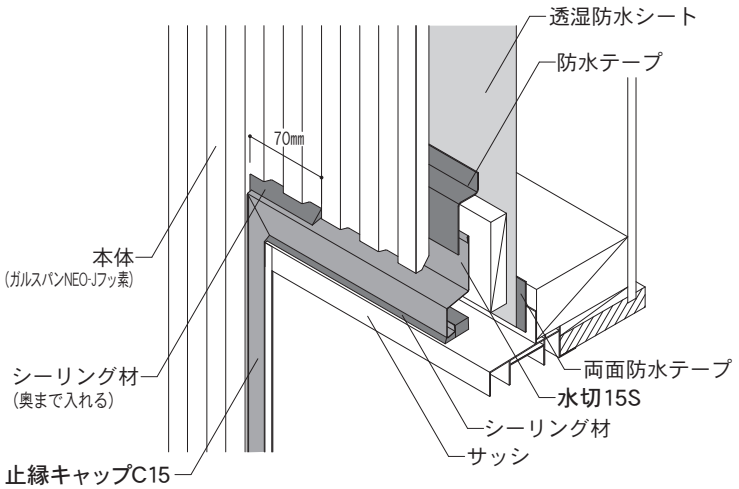
※ くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

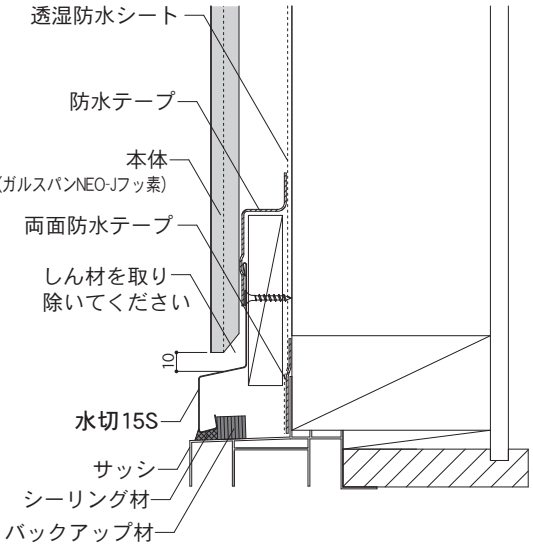
Ⅰ．開口部（2）

使用付属品：水切15S/止縁キャップC15/止縁捨板15

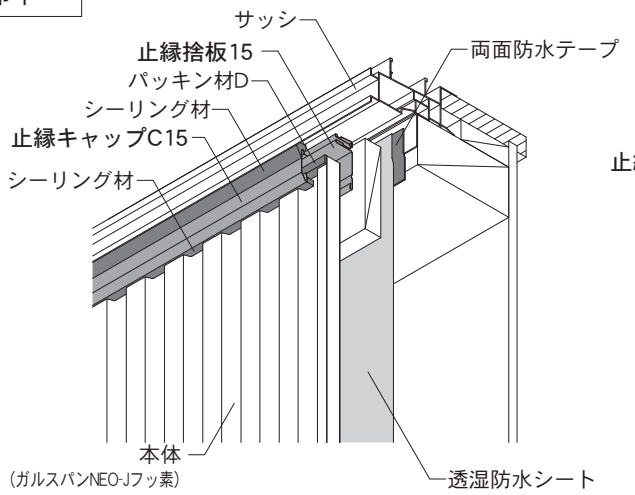
○開口部上では、本体の下端と水切15Sの間は、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右70㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP125の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部下と開口部左右の止縁キャップC15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。
○ガルスパンSEiを施工する際は、パッキン材Dではなく段パッキンSEを使用してください。

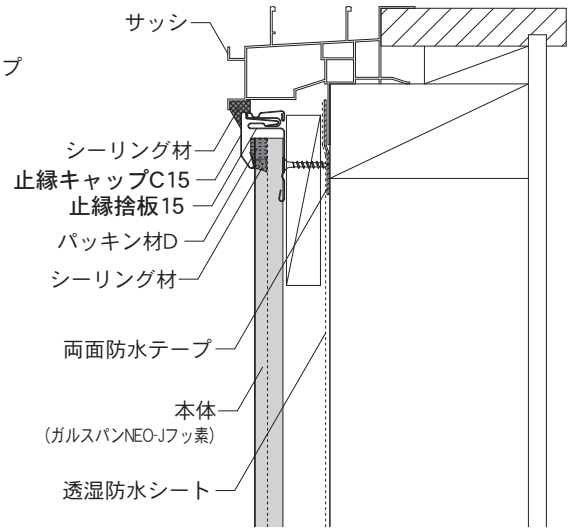
開口部上



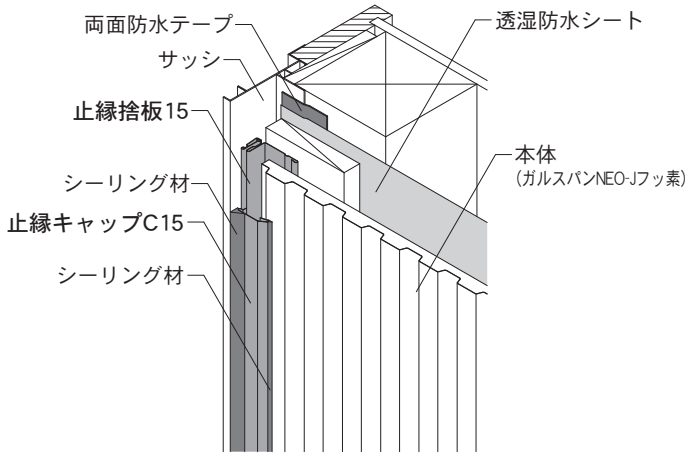


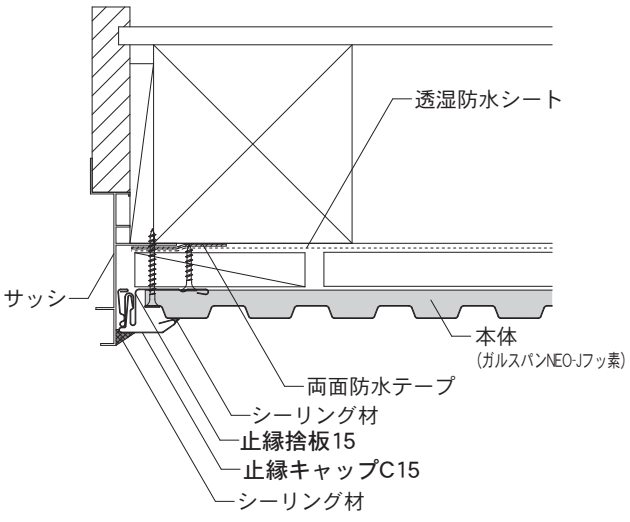
開口部下





開口部左右

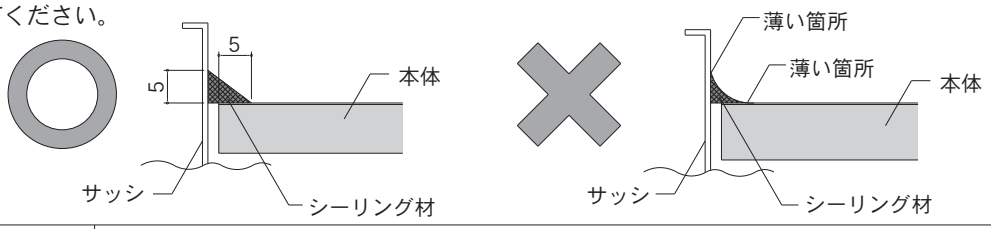




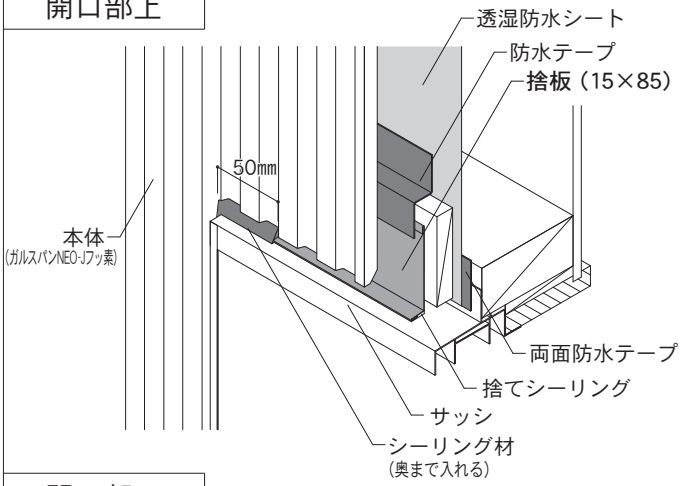
Ⅰ．開口部（3）

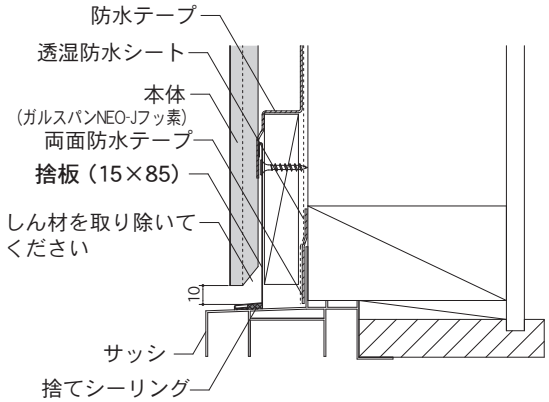
使用付属品：捨板（15×85）

○シーリング切れが生じても漏水しないよう、サッシと透湿防水シートを両面防水テープで確実に密着してください。
○本体とサッシの取り合いに施工するシーリング材は、接着断面の長さをともに5㎜以上とし、両端が薄くならないよう均一に施工してください。
○シーリング材が薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。
○シーリング材のこまめな点検、補修が必要です。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部上では、サッシと本体の間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。

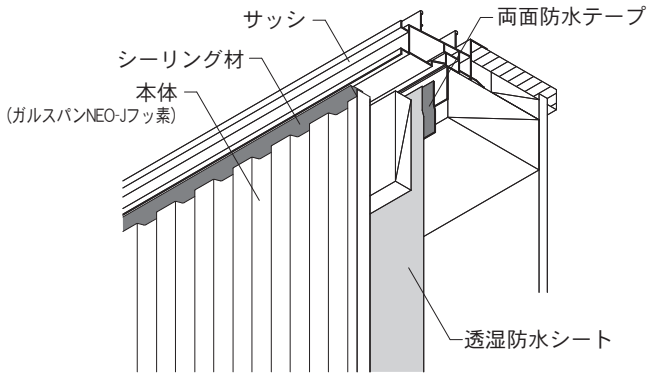


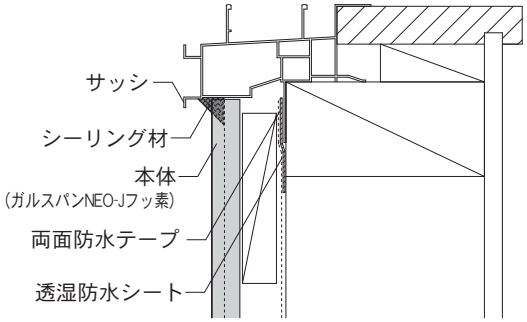
開口部上



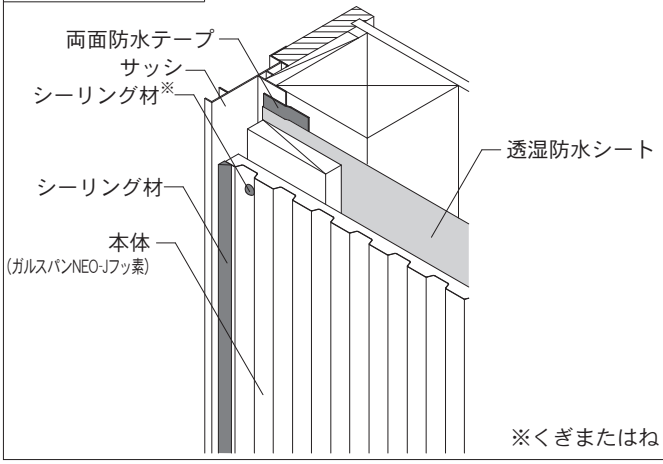


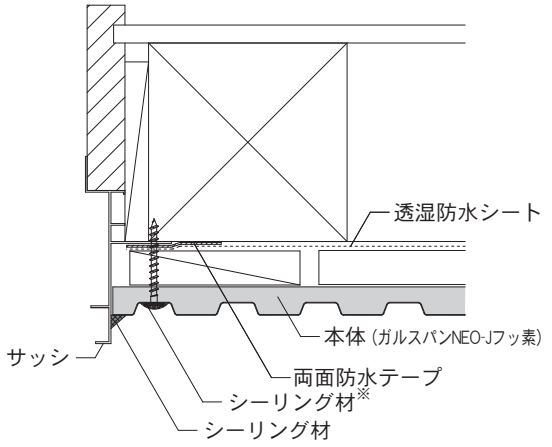
開口部下



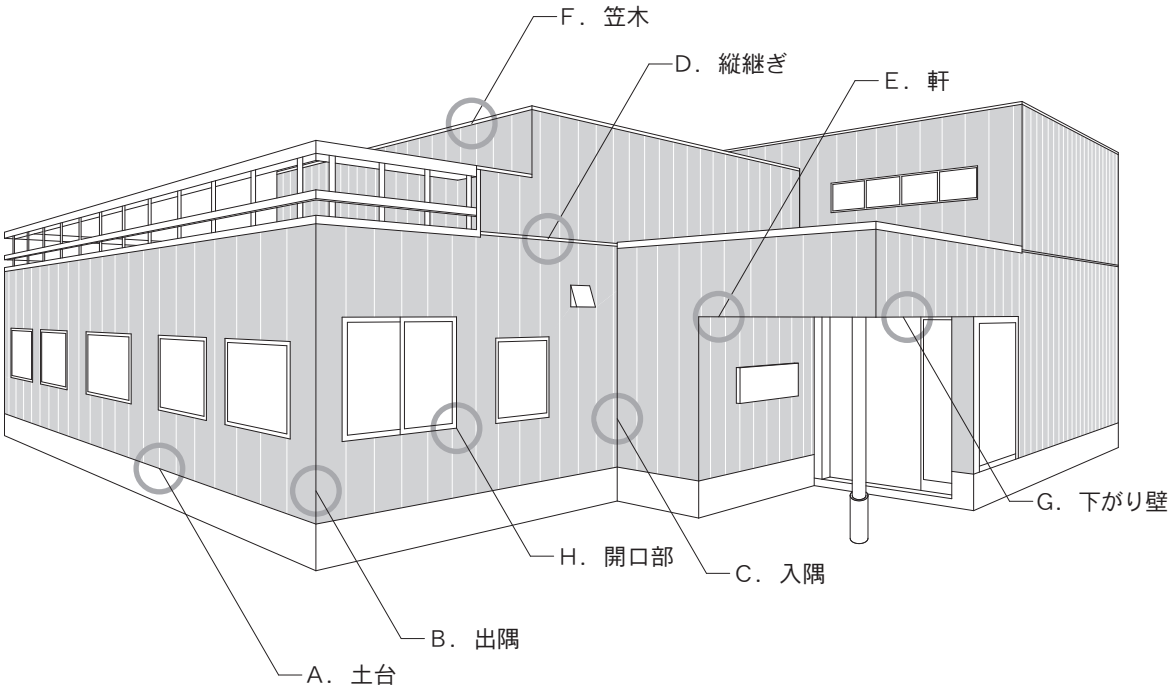


開口部左右





※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

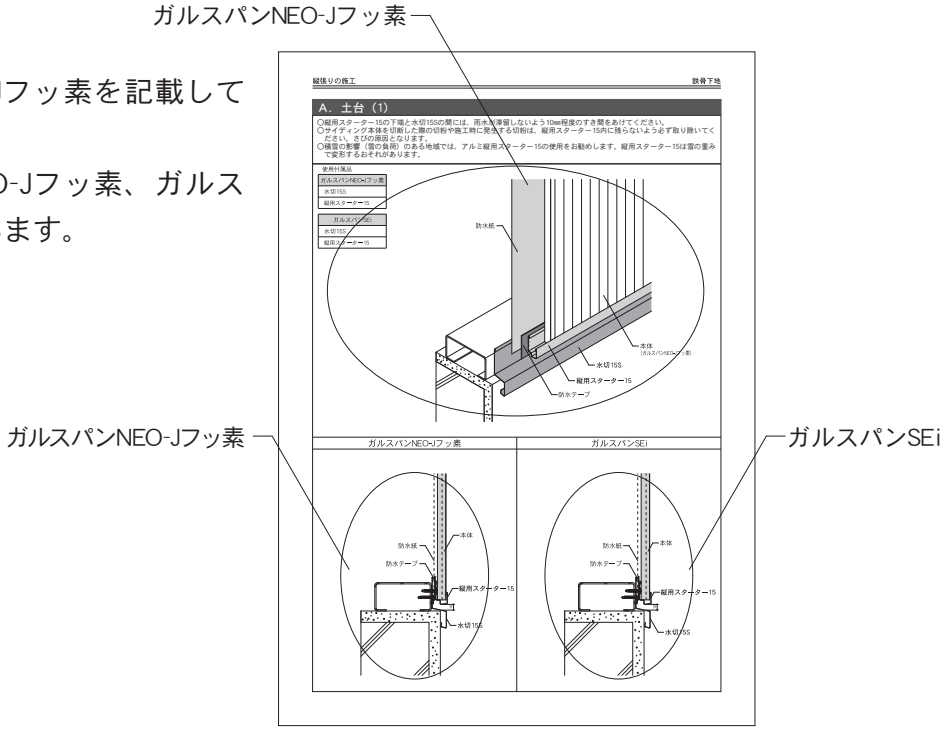


A．土台	P74～75	F．笠木	P83
B．出隅	P76	G．下がり壁	P84～85
C．入隅	P77～78	H．開口部	P86～88
D．縦継ぎ	P79～80		
E．軒	P81～82		

付属品の継ぎ手などの加工方法及び他の部位との納まりについては、
P 117～128の「付属品の加工方法」を参照してください。

施工図の見方

・斜視図はガルスパンNEO-Jフッ素を記載しています。
・断面図は、ガルスパンNEO-Jフッ素、ガルスパンSEiの２つを記載しています。



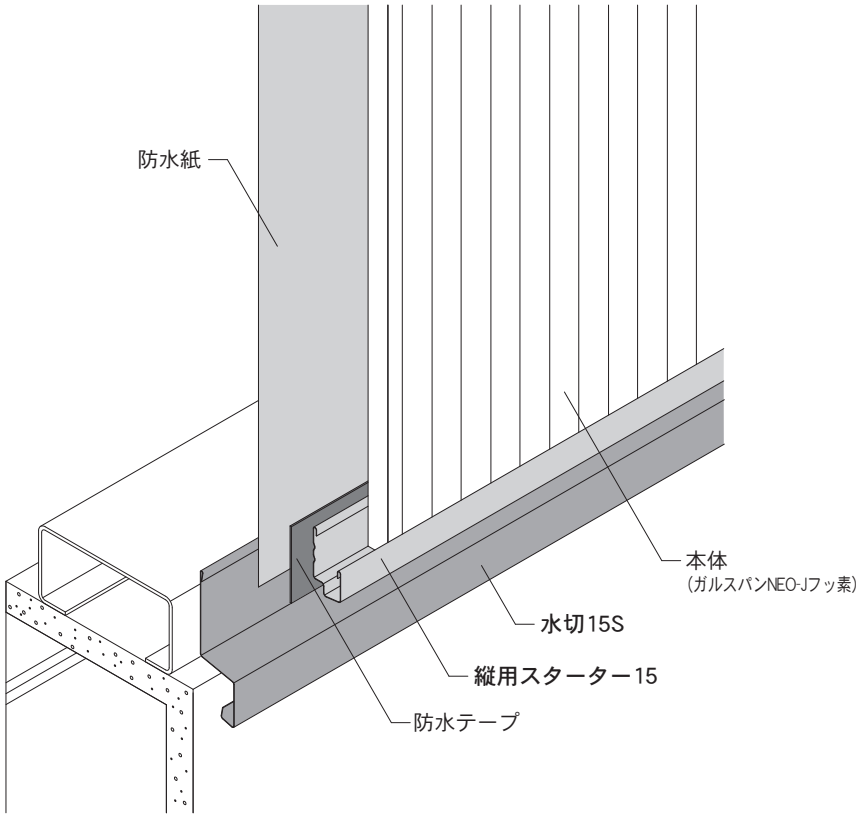
A．土台（1）

〇縦用スターター15の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
〇サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
〇積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがあります。

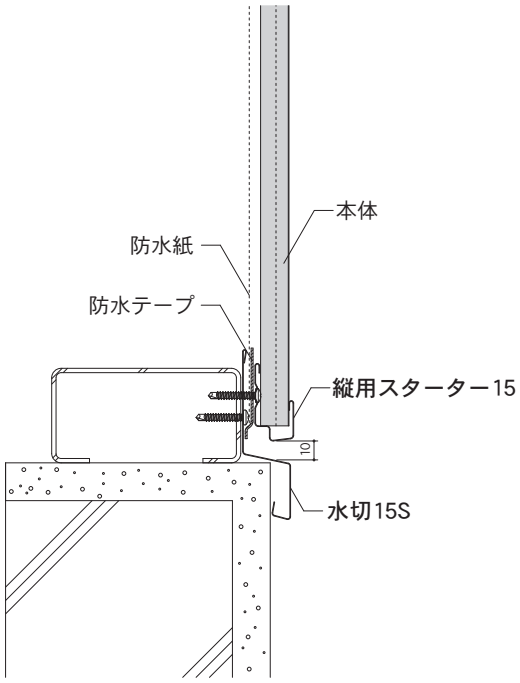
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
縦用スターター15

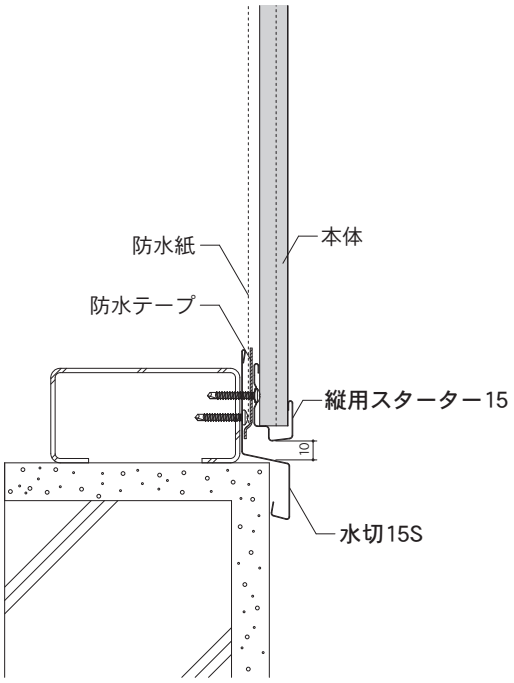
ガルスパンSEi
水切15S
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



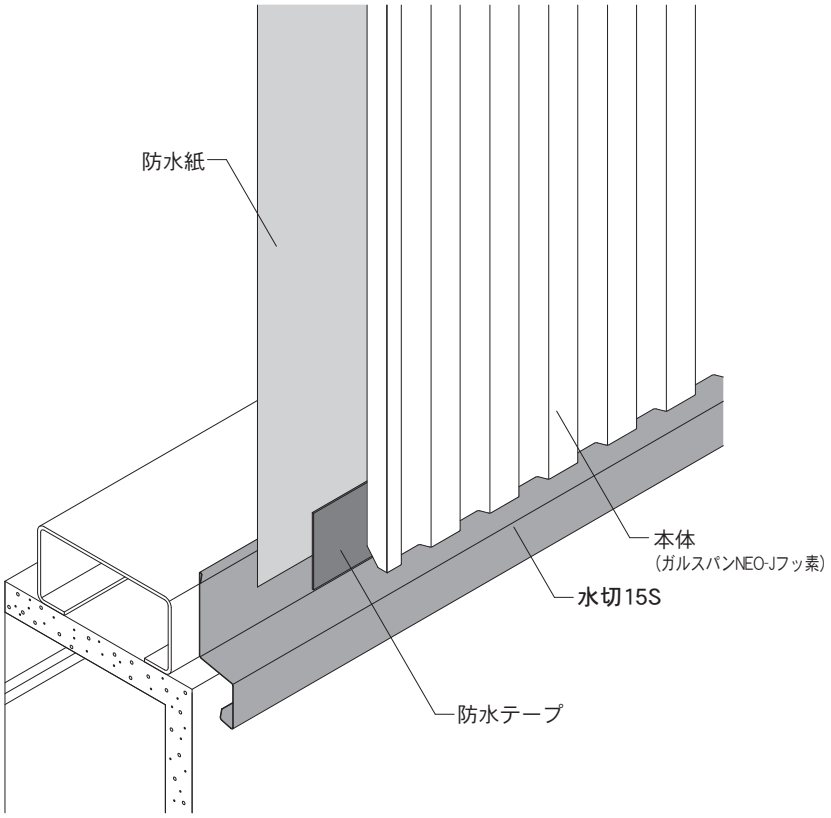
A．土台（2）

○本体の下端と水切の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。

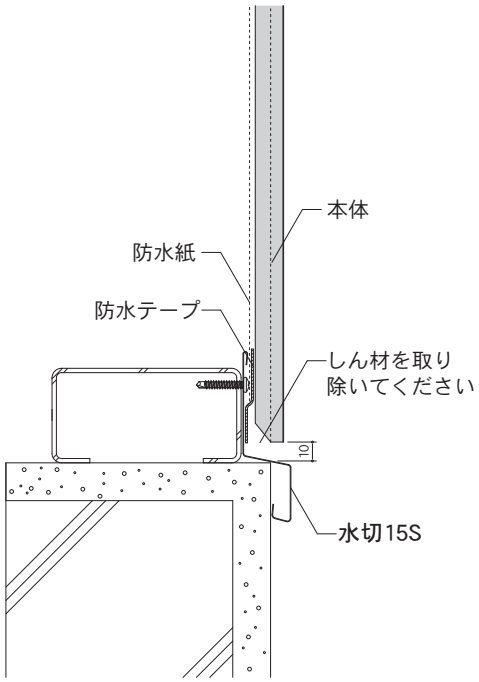
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S

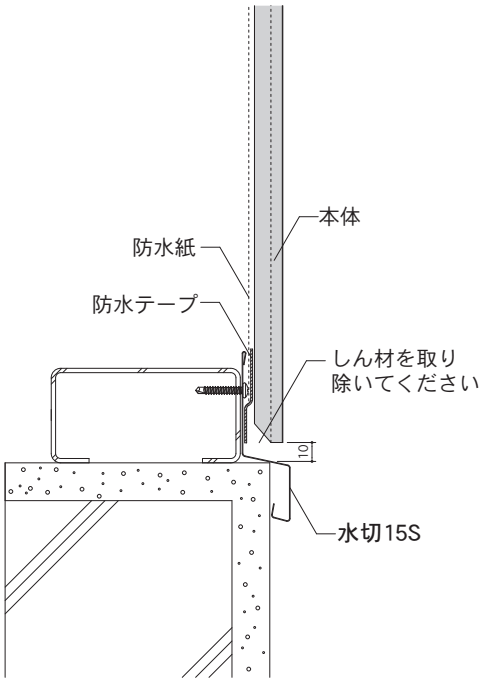
ガルスパンSEi
水切15S



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



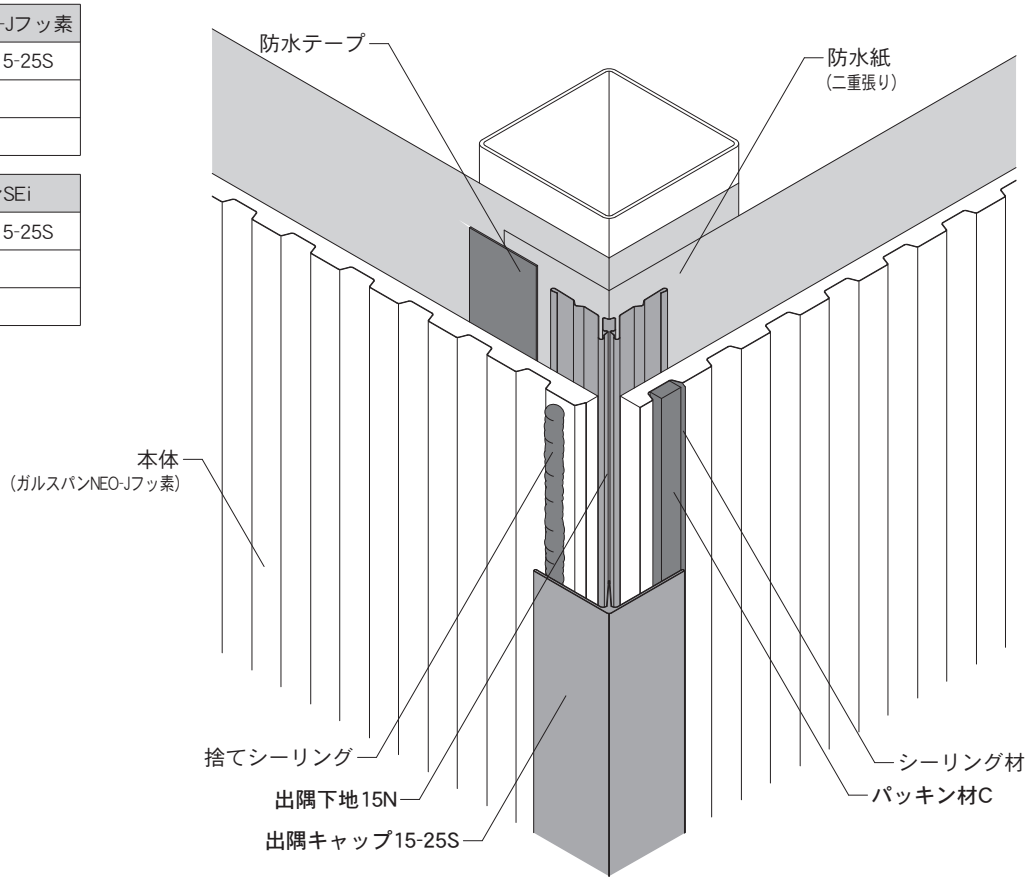
B．出隅

〇本体凹部と出隅キャップ15-25Sが重なる場合は、パッキン材を使用してください。
〇本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

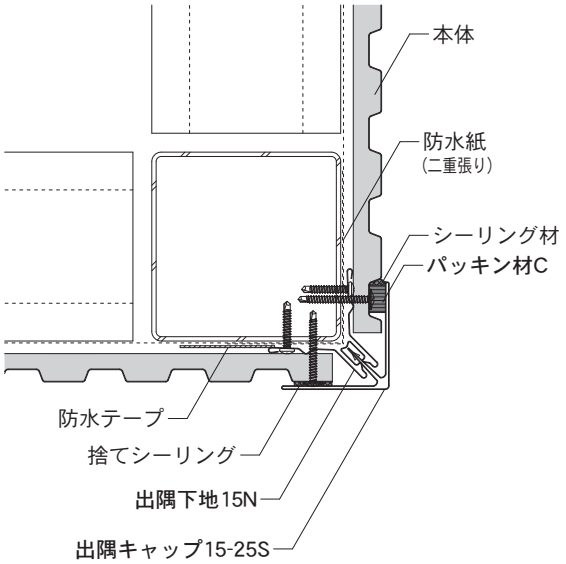
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
出隅キャップ15-25S
出隅下地15N
パッキン材C

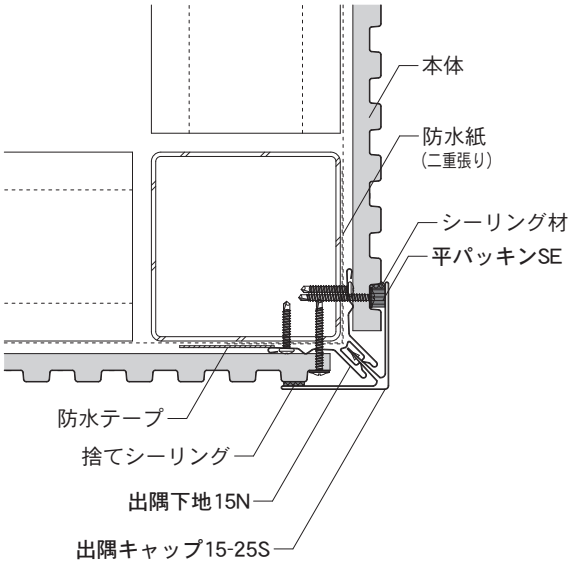
ガルスパンSEi
出隅キャップ15-25S
出隅下地15N
平パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



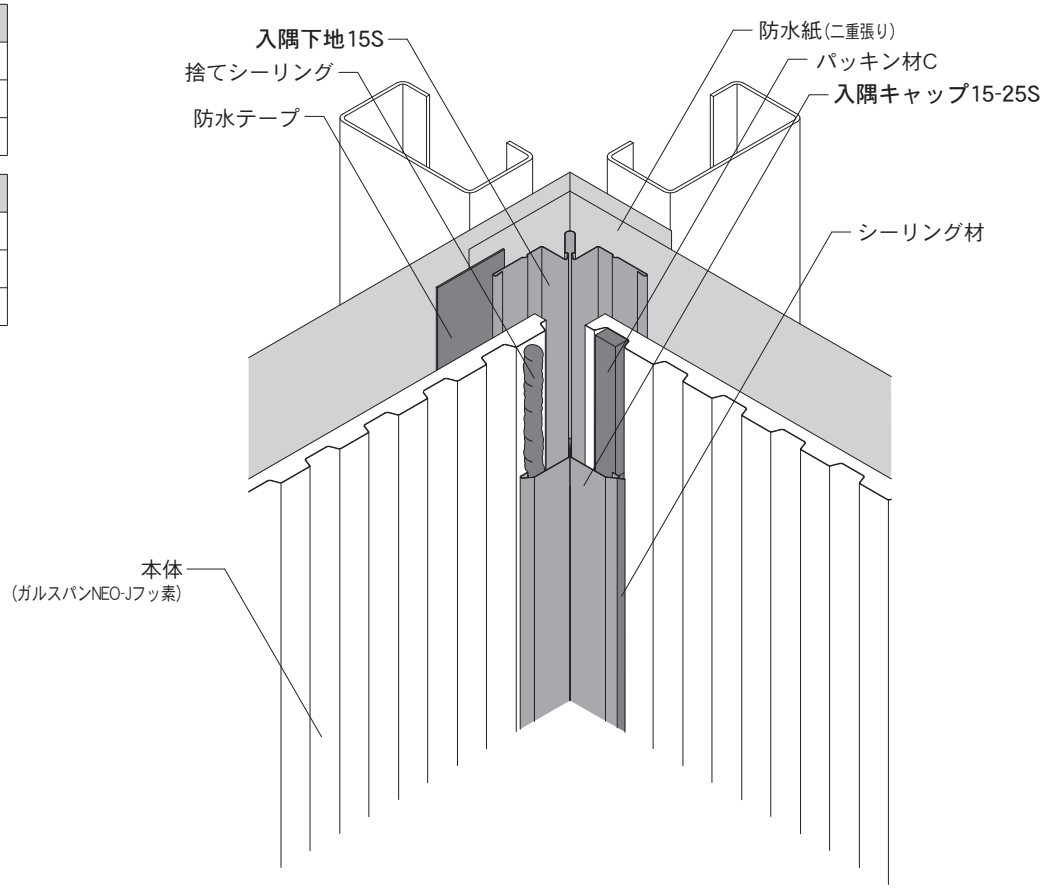
C．入隅（1）

〇本体凹部と入隅キャップ15-25Sが重なる場合は、パッキン材を使用してください。
〇本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

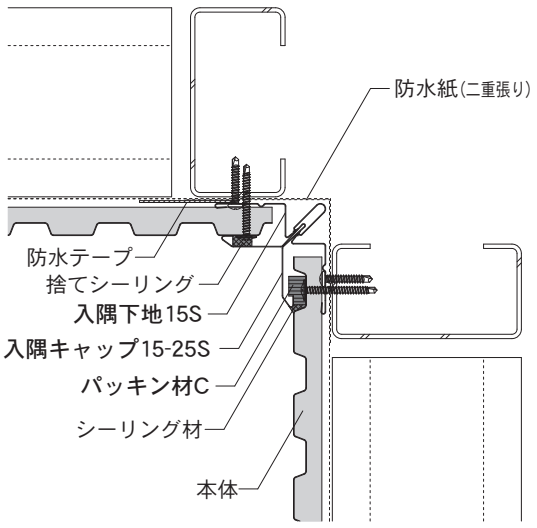
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
入隅キャップ15-25S
入隅下地15S
パッキン材C

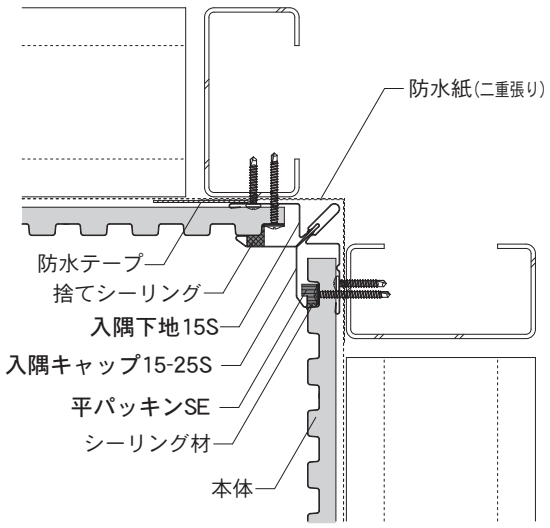
ガルスパンSEi
入隅キャップ15-25S
入隅下地15S
平パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



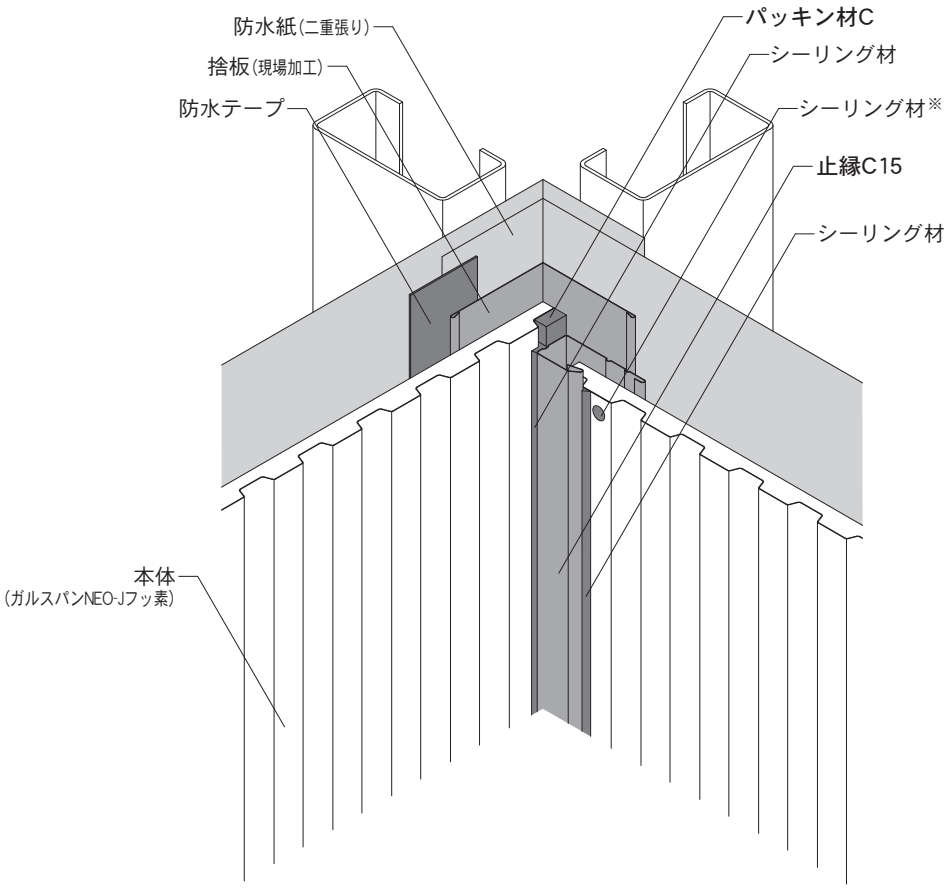
C．入隅（2）

〇本体凹部と止縁C15が重なる場合は、パッキン材を使用してください。
〇本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

使用付属品

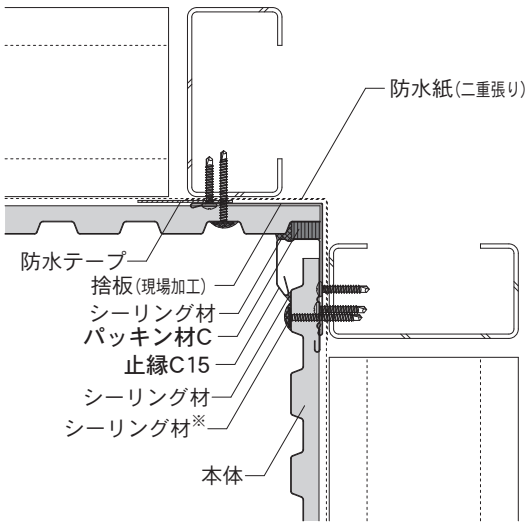
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁C15
パッキン材C

ガルスパンSEi
止縁C15
平パッキンSE

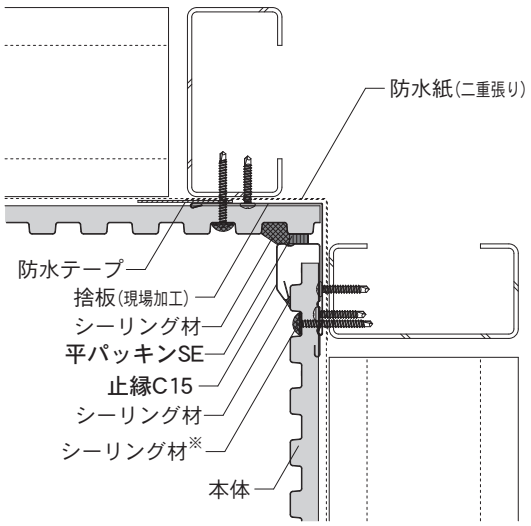


※ くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



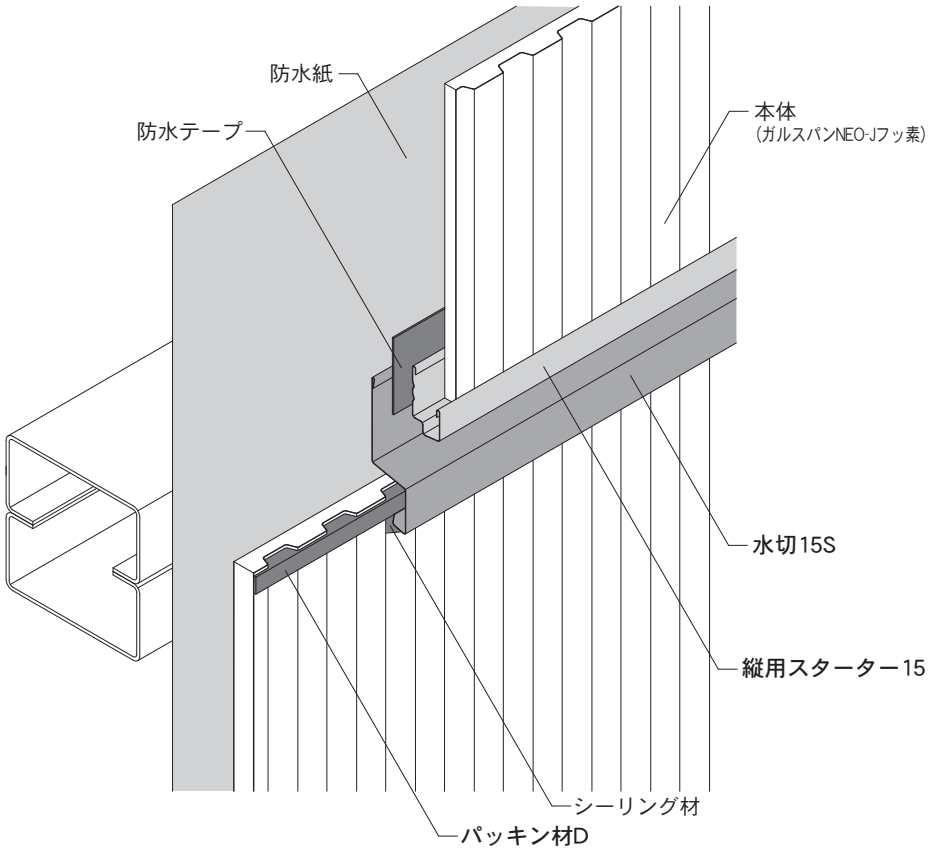
D．縦継ぎ（1）

○本体にパッキン材を貼り付けてから、水切15Sに差し込んでください。
○縦用スターター15の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○防火構造認定の番号によっては、縦用スターター15が必須となりますので、使用する認定仕様を参照してください。
○縦継ぎ部にアルミ縦用スターター15を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

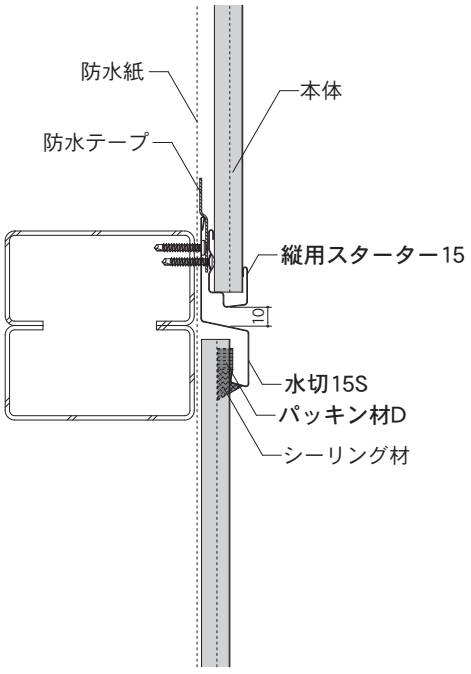
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
パッキン材D
縦用スターター15

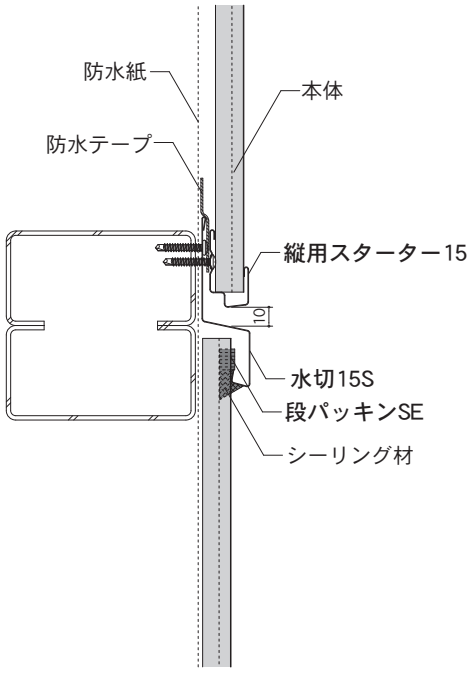
ガルスパンSEi
水切15S
段パッキンSE
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



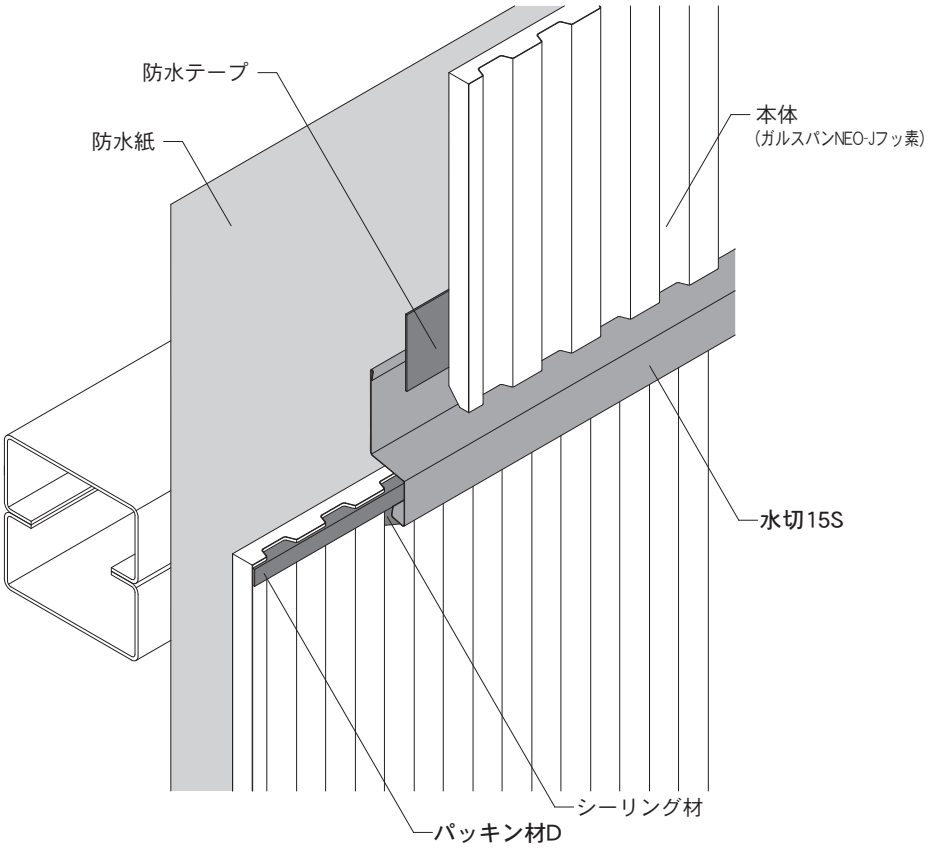
D．縦継ぎ（2）

○本体にパッキン材を貼り付けてから、水切に差し込んでください。
○本体の下端と水切の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○防火構造認定の番号によっては、縦用スターター15が必須となりますので、使用する認定仕様を参照してください。

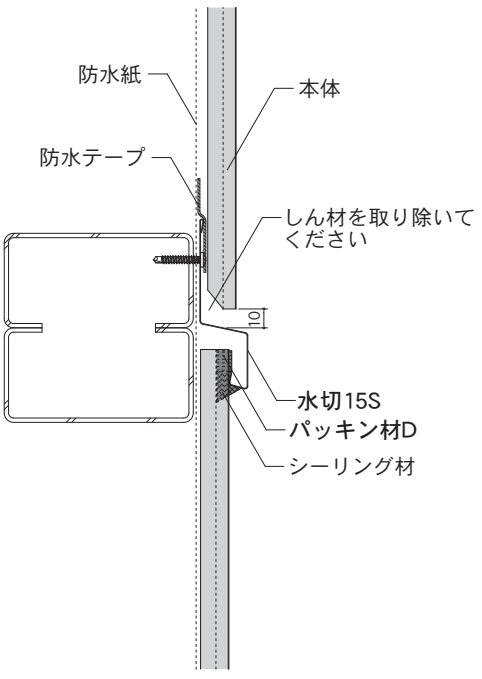
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
水切15S
パッキン材D

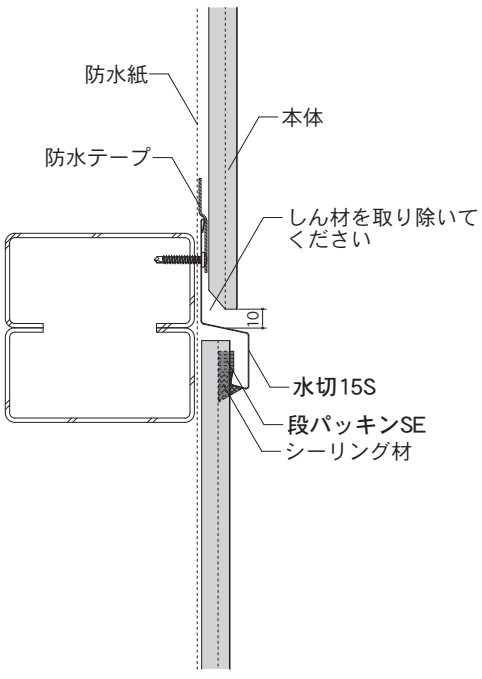
ガルスパンSEi
水切15S
段パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



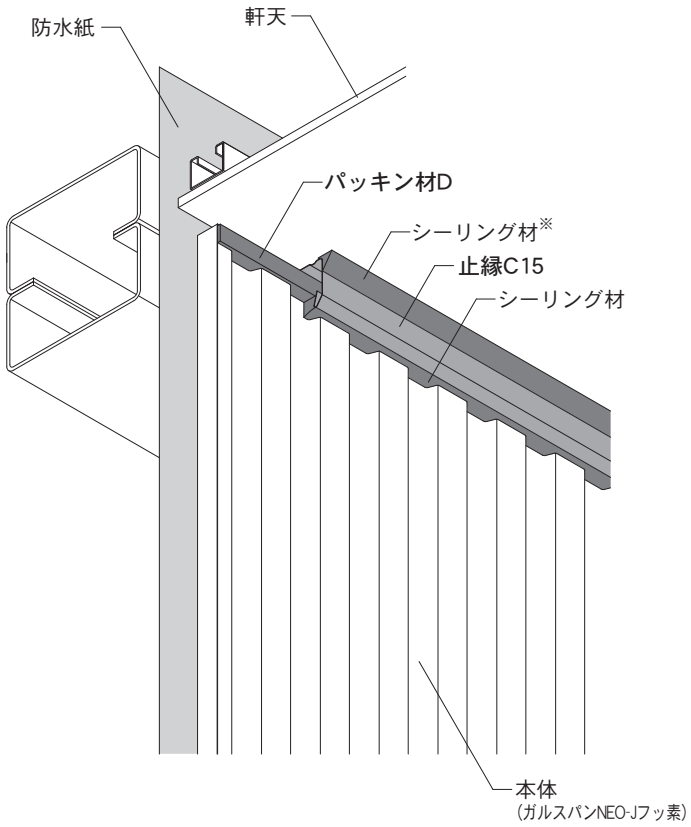
E．軒（1）

○本体にパッキン材を貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。

使用付属品

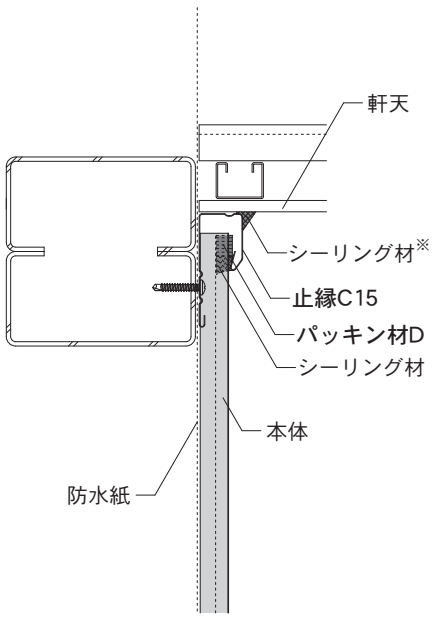
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁C15
パッキン材D

ガルスパンSEi
止縁C15
段パッキンSE

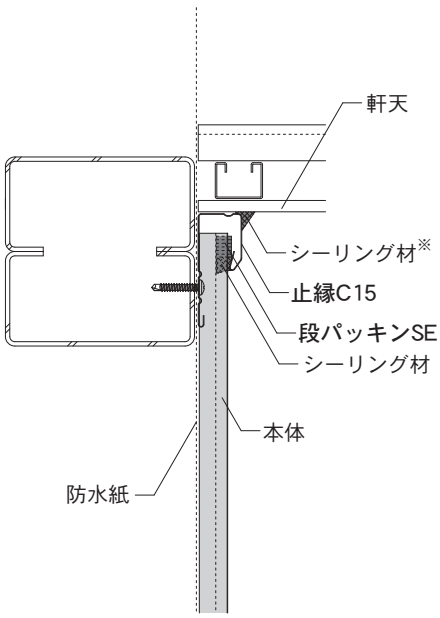


※軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



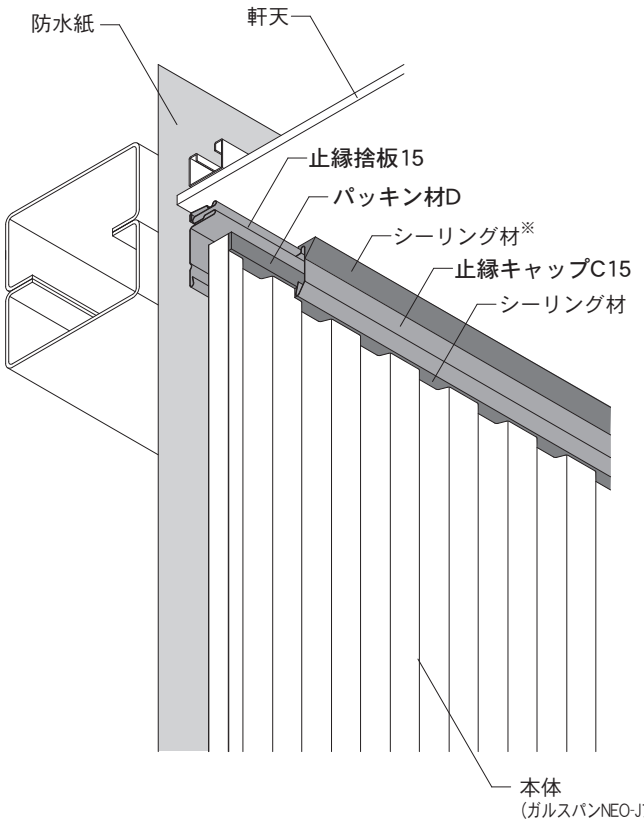
E．軒（2）

○止縁キャップC15を取り付ける前に、本体にパッキン材を貼り付けてください。

使用付属品

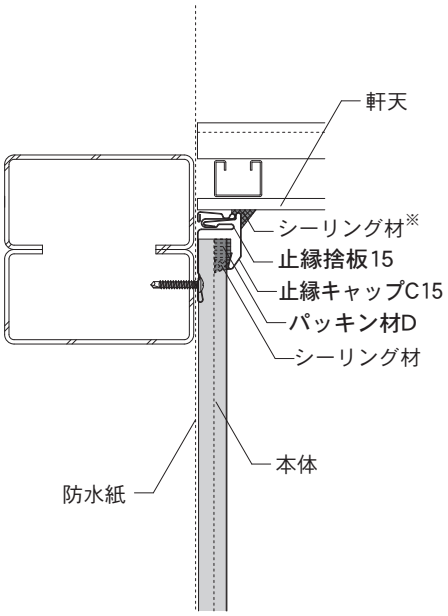
ガルスパンNEO-Jフッ素
止縁キャップC15
止縁捨板15
パッキン材D

ガルスパンSEi
止縁キャップC15
止縁捨板15
段パッキンSE

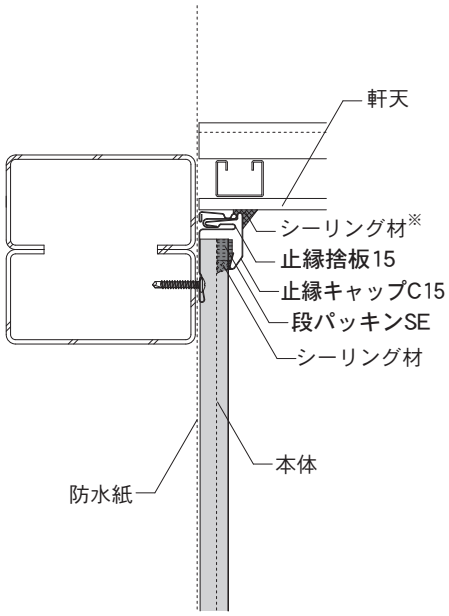


※軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



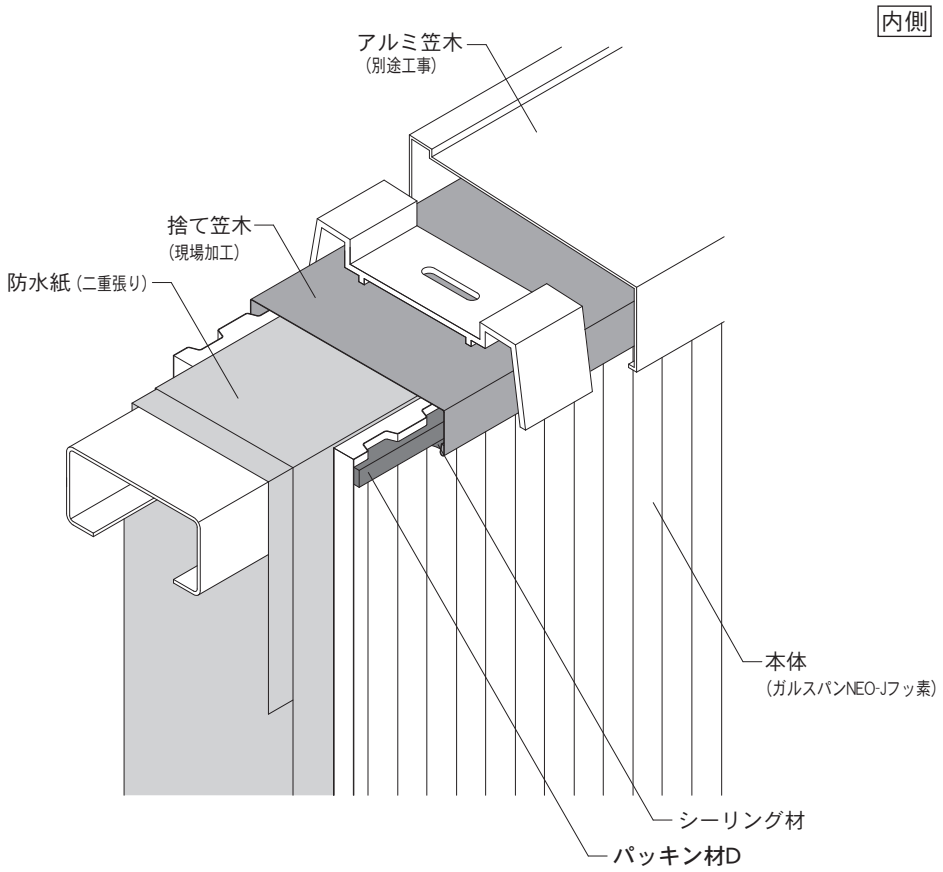
F．笠木

○防水上万全を期すため、防水紙を二重張りにしてください。

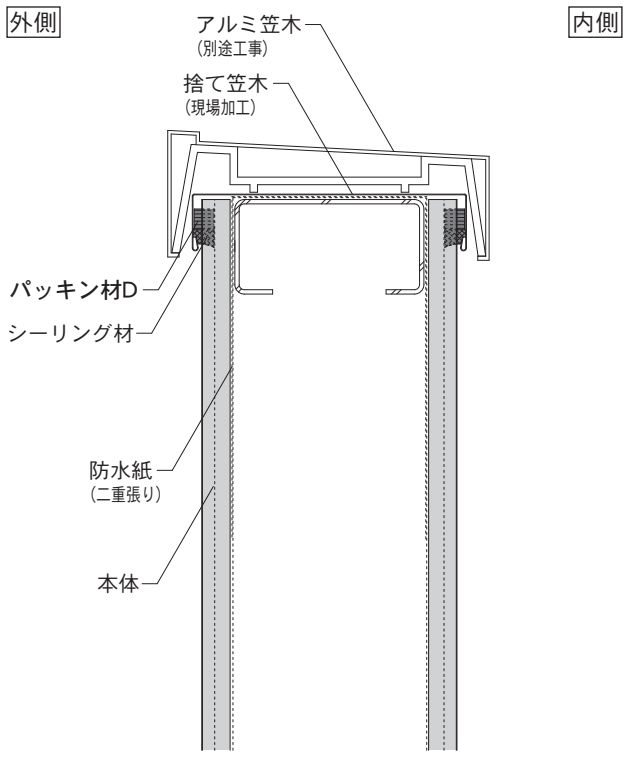
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
パッキン材D

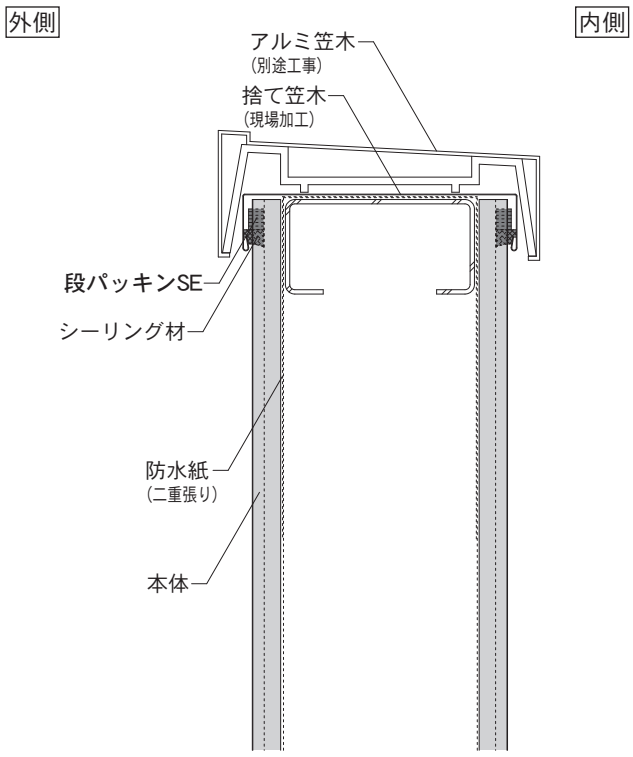
ガルスパンSEi
段パッキンSE



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



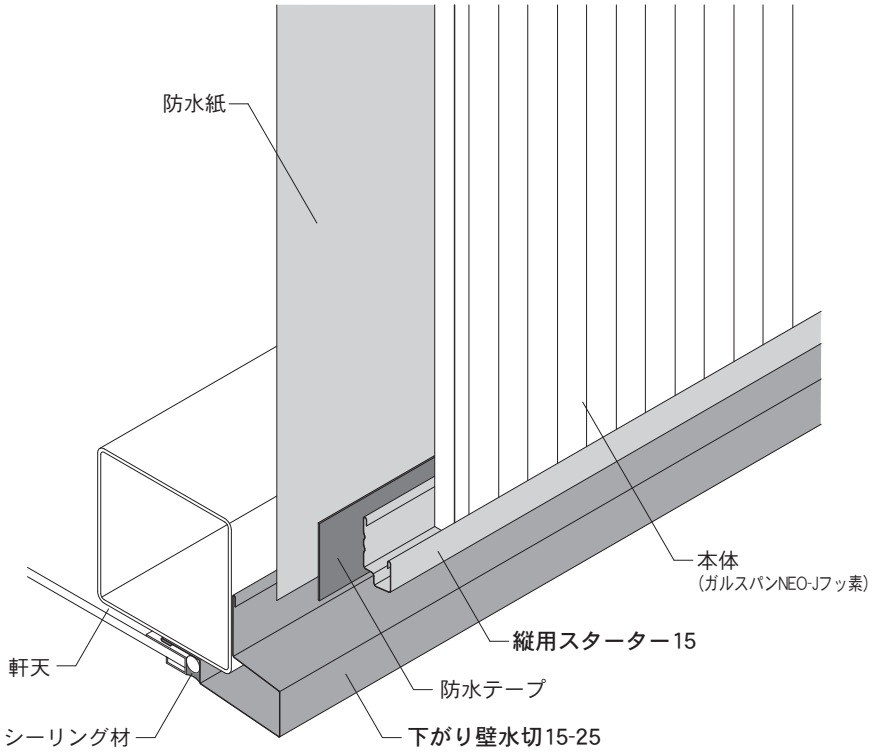
G. 下がり壁（1）

〇縦用スターター15の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
〇サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。

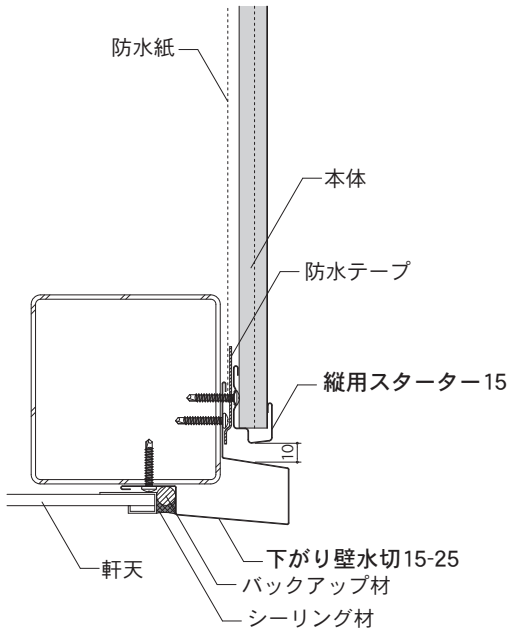
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
下がり壁水切15-25
縦用スターター15

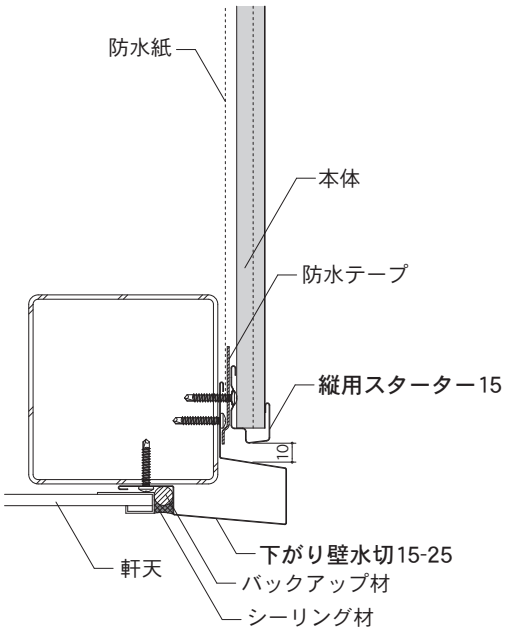
ガルスパンSEi
下がり壁水切15-25
縦用スターター15



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi



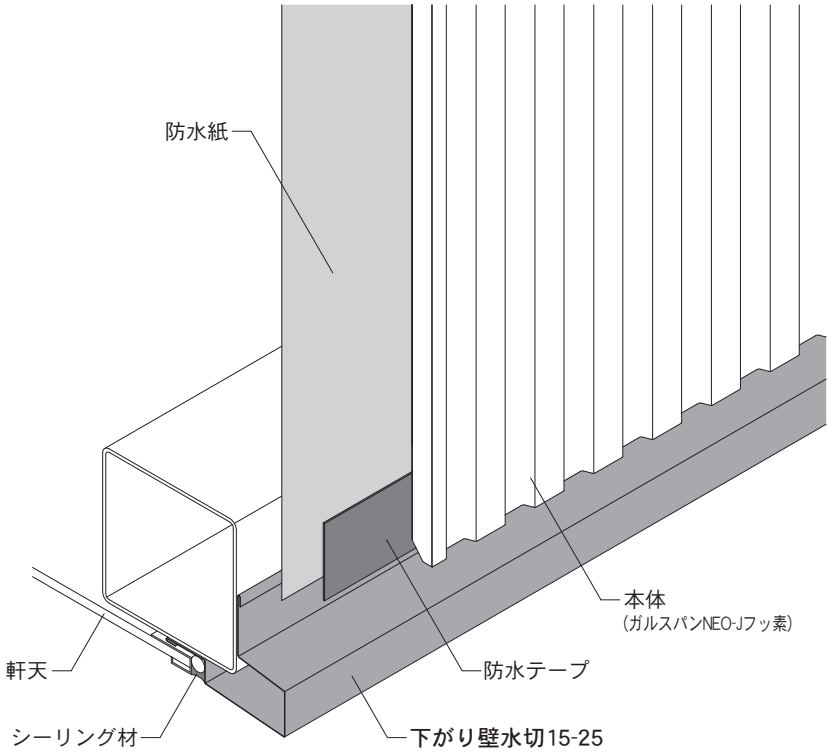
G. 下がり壁（2）

〇本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。

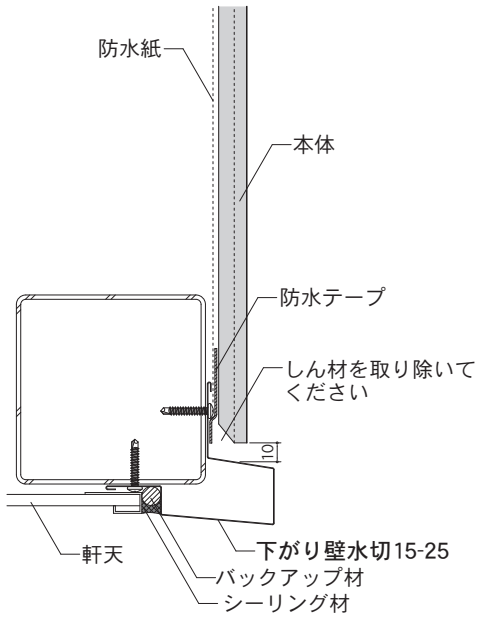
使用付属品

ガルスパンNEO-Jフッ素
下がり壁水切15-25

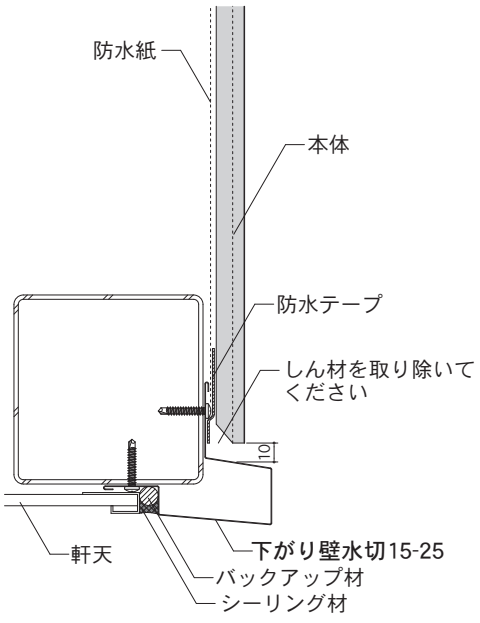
ガルスパンSEi
下がり壁水切15-25



ガルスパンNEO-Jフッ素



ガルスパンSEi

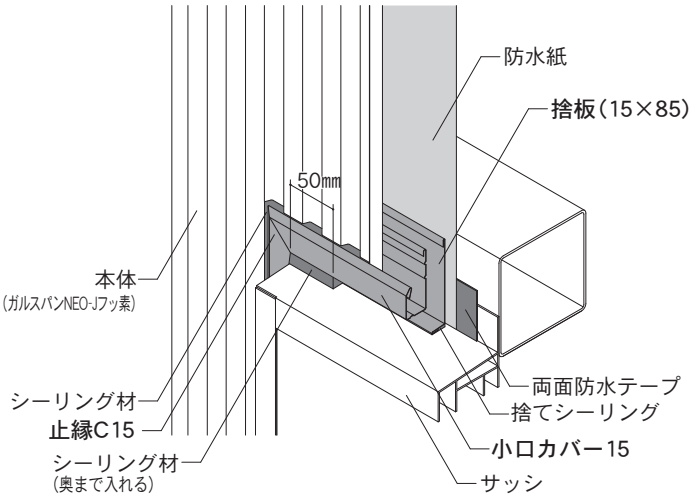


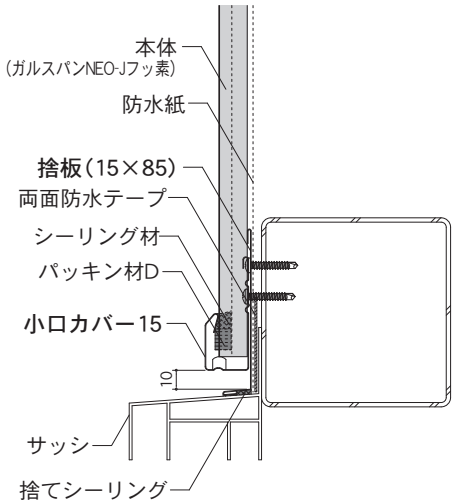
H. 開口部（1）

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/捨板（15×85）

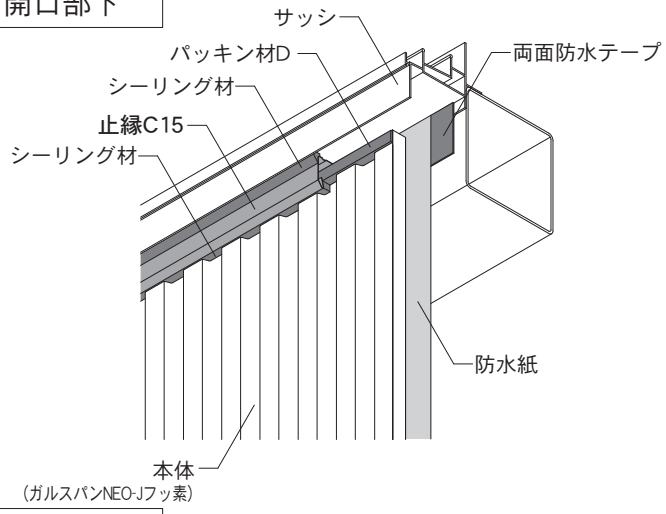
○開口部上では、小口カバー15の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP126～128の「付属品の加工方法」を参照してください。
○止縁C15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。
○開口部上では、本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P40参照）
○ガルスパンSEiを施工する際は、パッキン材Dではなく段パッキンSEを使用してください。

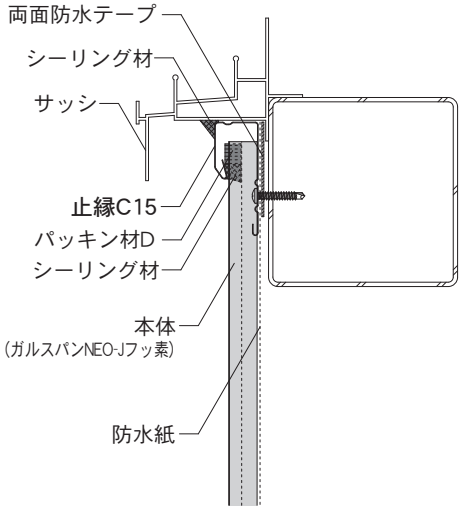
開口部上



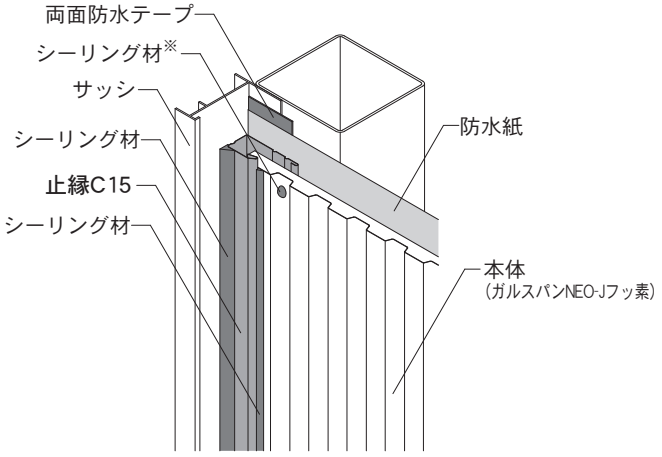


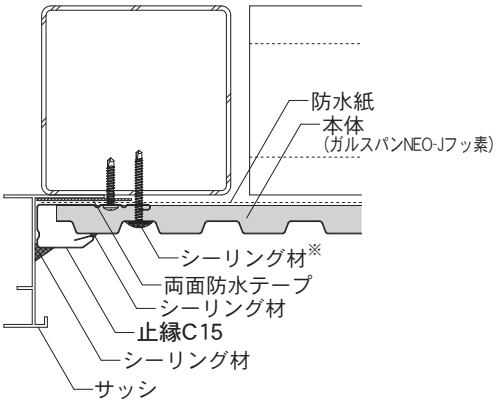
開口部下





開口部左右





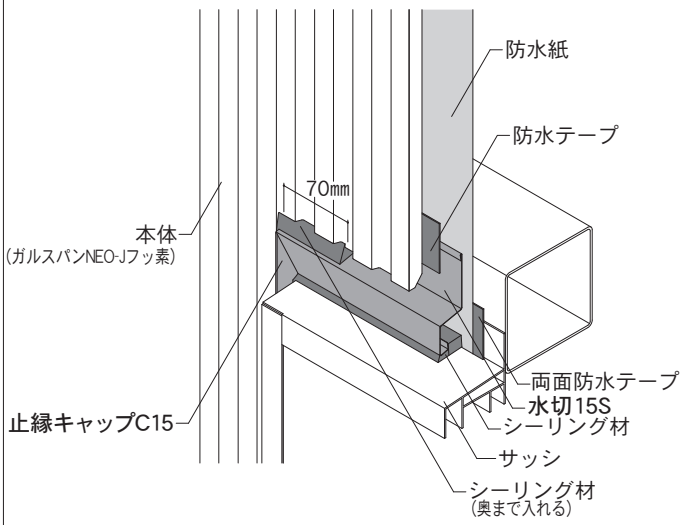
※ くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

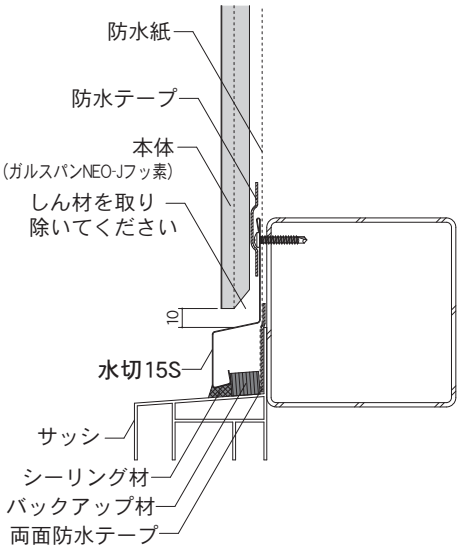
H. 開口部（2）

使用付属品：水切15S/止縁キャップC15/止縁捨板15

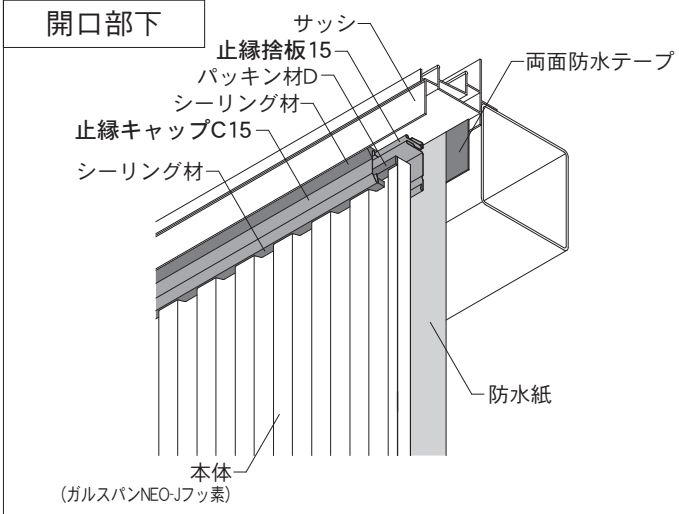
○開口部上では、本体の下端と水切15Sの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右70㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP125の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部下と開口部左右の止縁キャップC15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。
○ガルスパンSEiを施工する際は、パッキン材Dではなく段パッキンSEを使用してください。

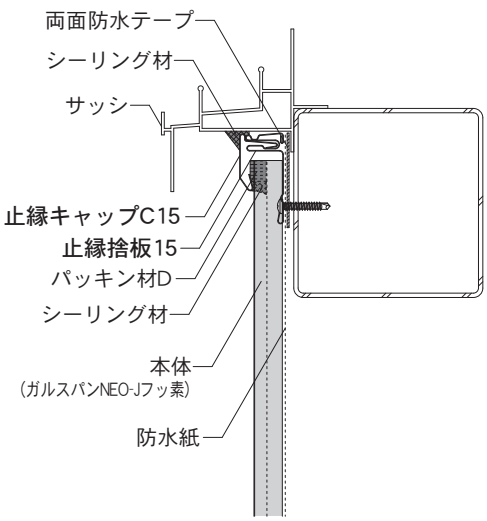
開口部上



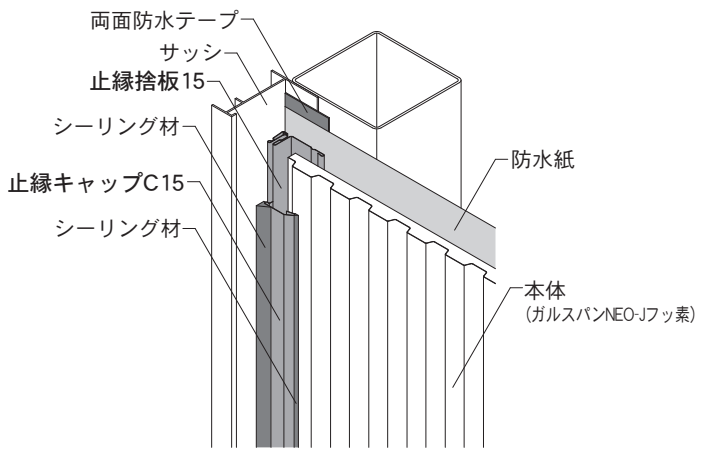


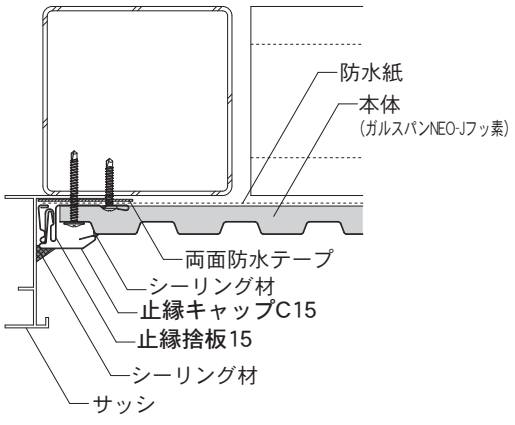
開口部下





開口部左右

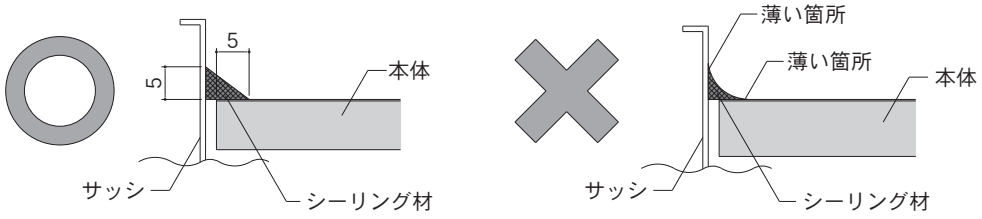




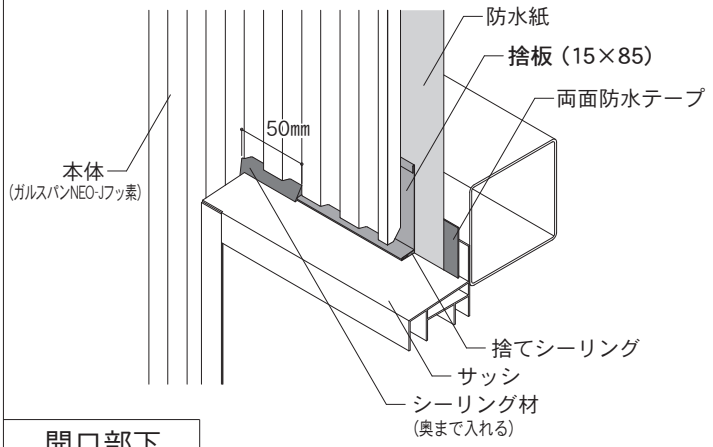
H. 開口部（3）

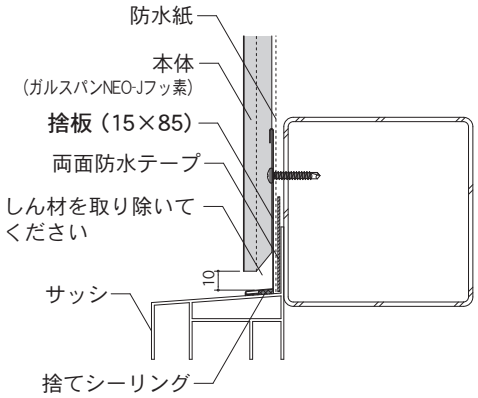
使用付属品：捨板（15×85）

○シーリング切れが生じても漏水しないよう、サッシと透湿防水シートを両面防水テープで確実に接着してください。
○本体とサッシの取り合いに施工するシーリング材は、接着断面の長さをともに5㎜以上とし、両端が薄くならないよう均一に施工してください。
○シーリングが薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。
○シーリング材のこまめな点検、補修が必要です。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部上では、本体の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。

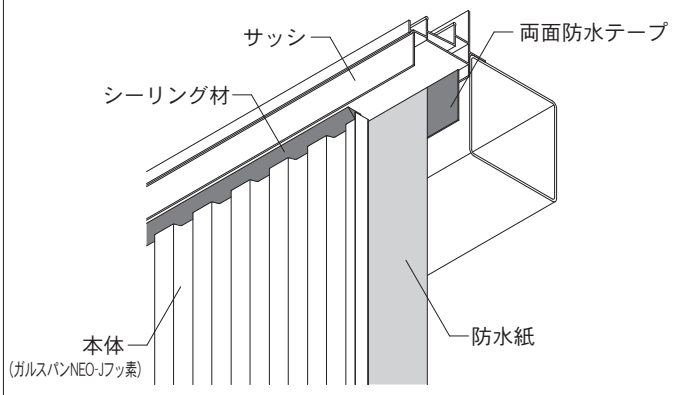


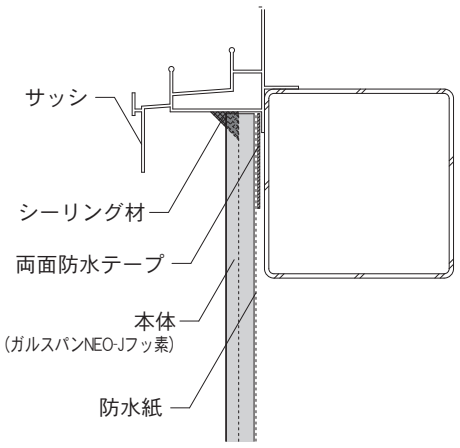
開口部上



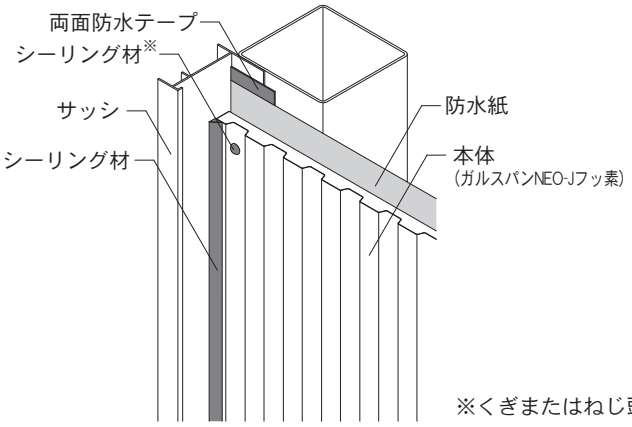


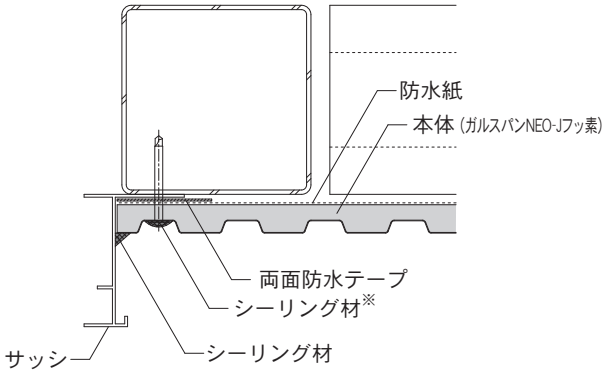
開口部下



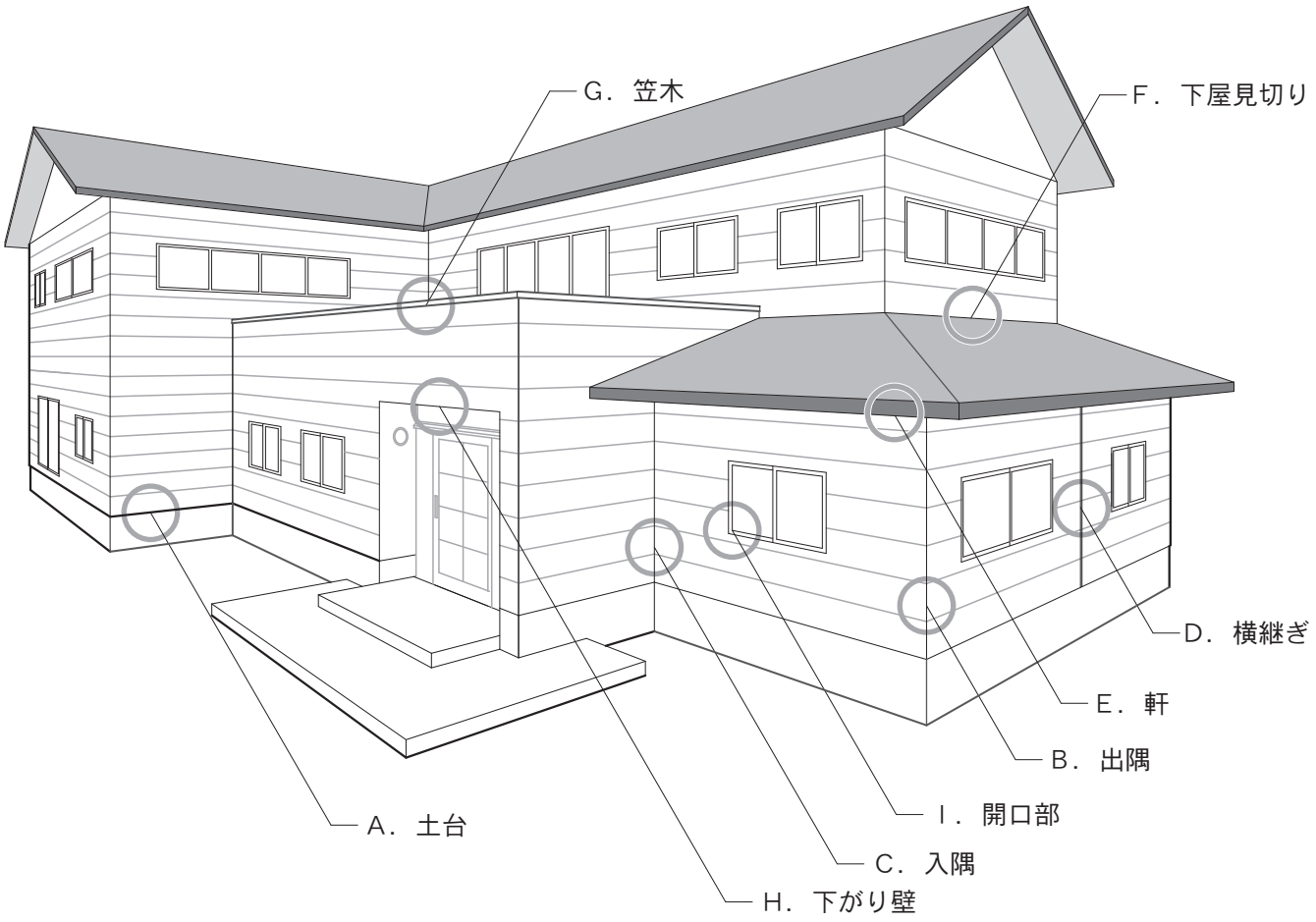


開口部左右





※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。



A．土台	P90	F．下屋見切り	P95～96
B．出隅	P91	G．笠木	P97
C．入隅	P91～92	H．下がり壁	P97～98
D．横継ぎ	P92	I．開口部	P99～101
E．軒	P93～94		

付属品の継ぎ手などの加工方法及び他の部位との納まりについては、
P117～128の「付属品の加工方法」を参照してください。

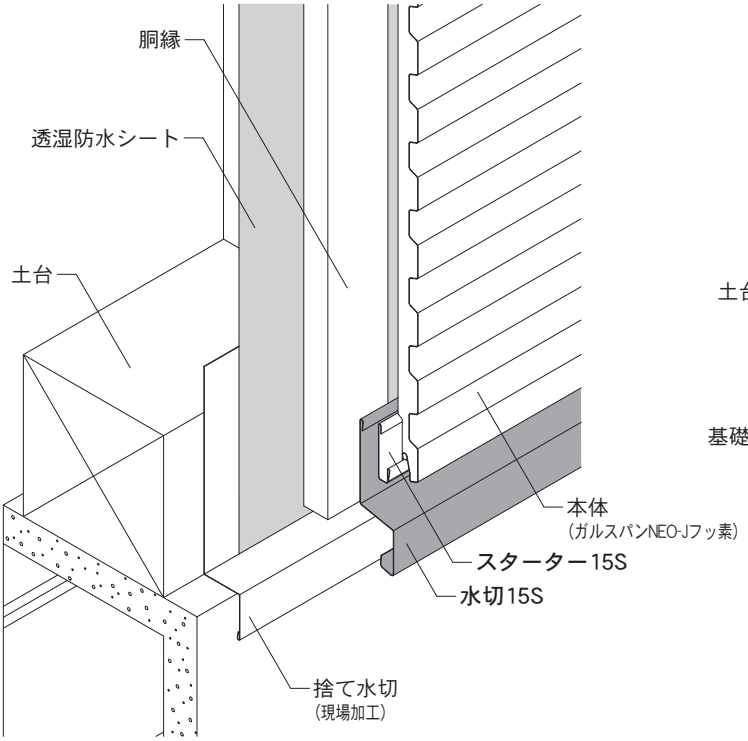
施工図の見方

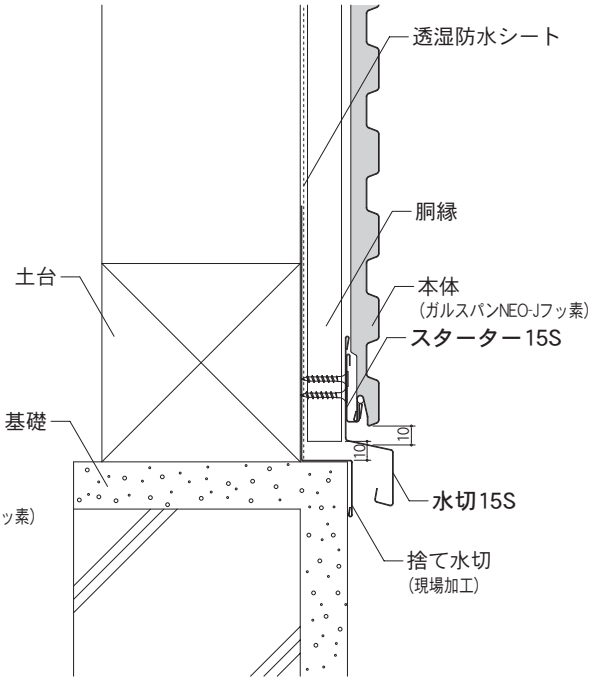
・図はガルスパンNEO-Jフッ素を記載しています。

A．土台（1）

使用付属品：水切15S/スターター15S

○捨て水切（現場加工）は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○本体の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切15Sの下に当て木を入れるなどの対処をしてください。（P51参照）

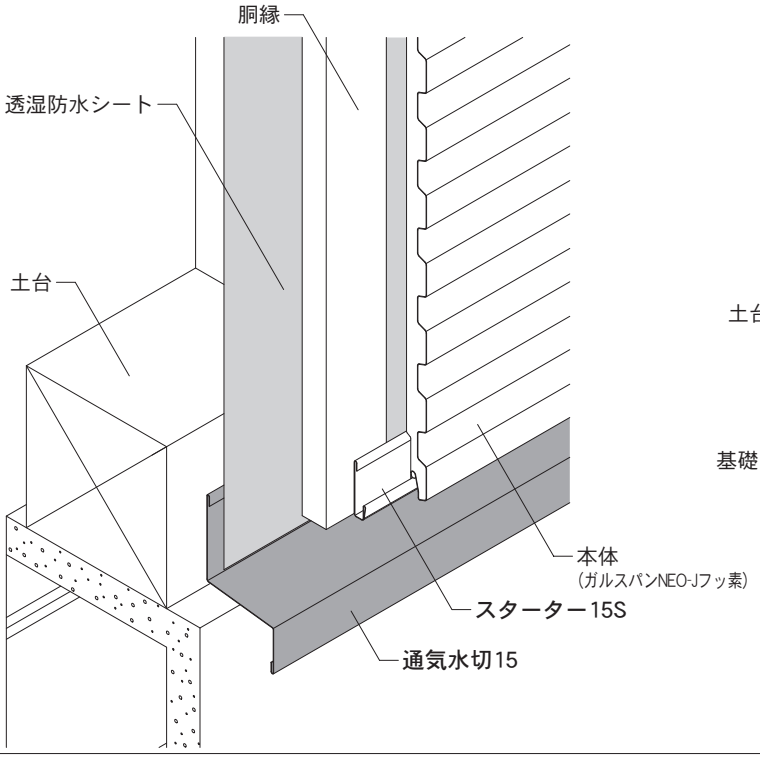


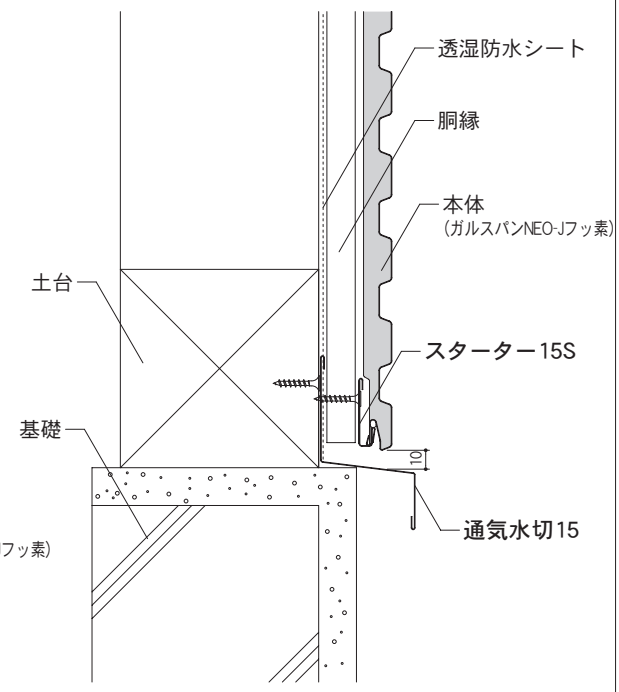


A．土台（2）

使用付属品：通気水切15/スターター15S

○通気水切15は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○本体の下端と通気水切15の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。（P51参照）

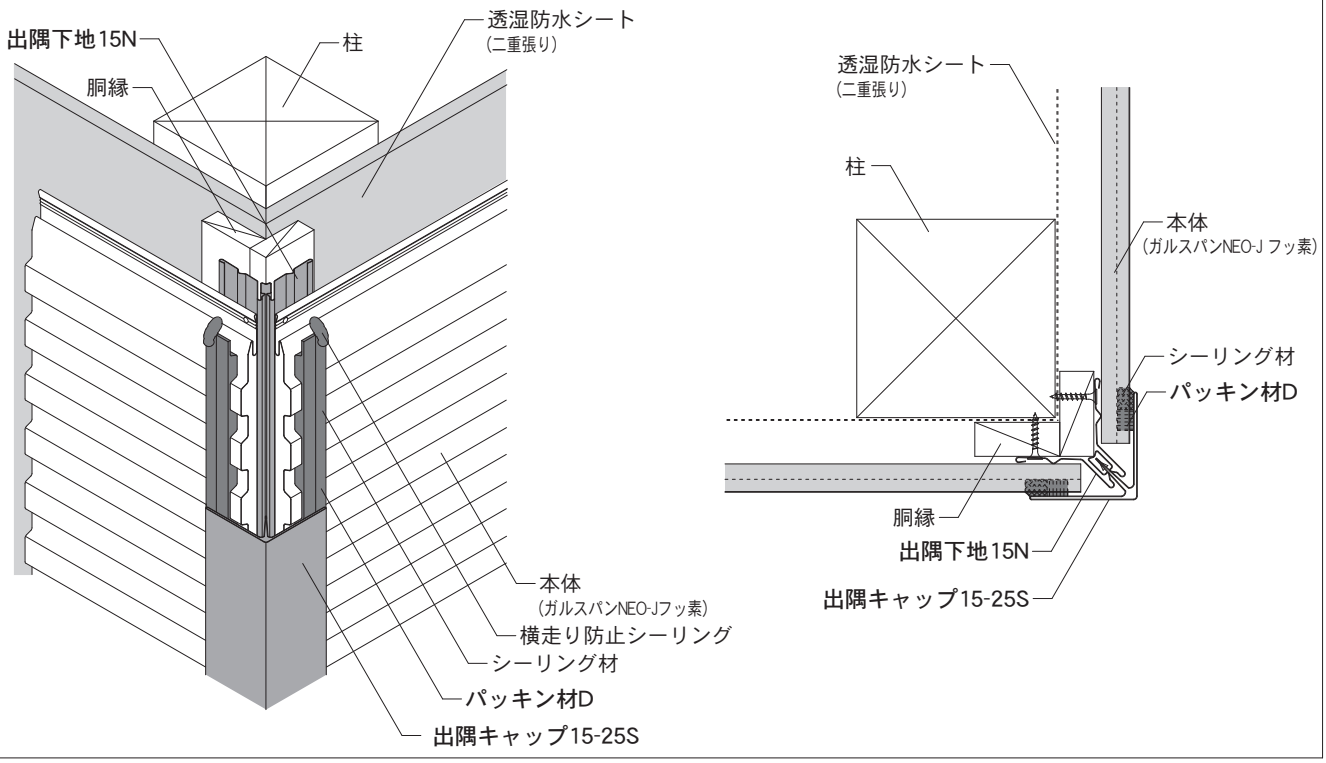




B．出隅

使用付属品：出隅キャップ15-25S/出隅下地15N/パッキン材D

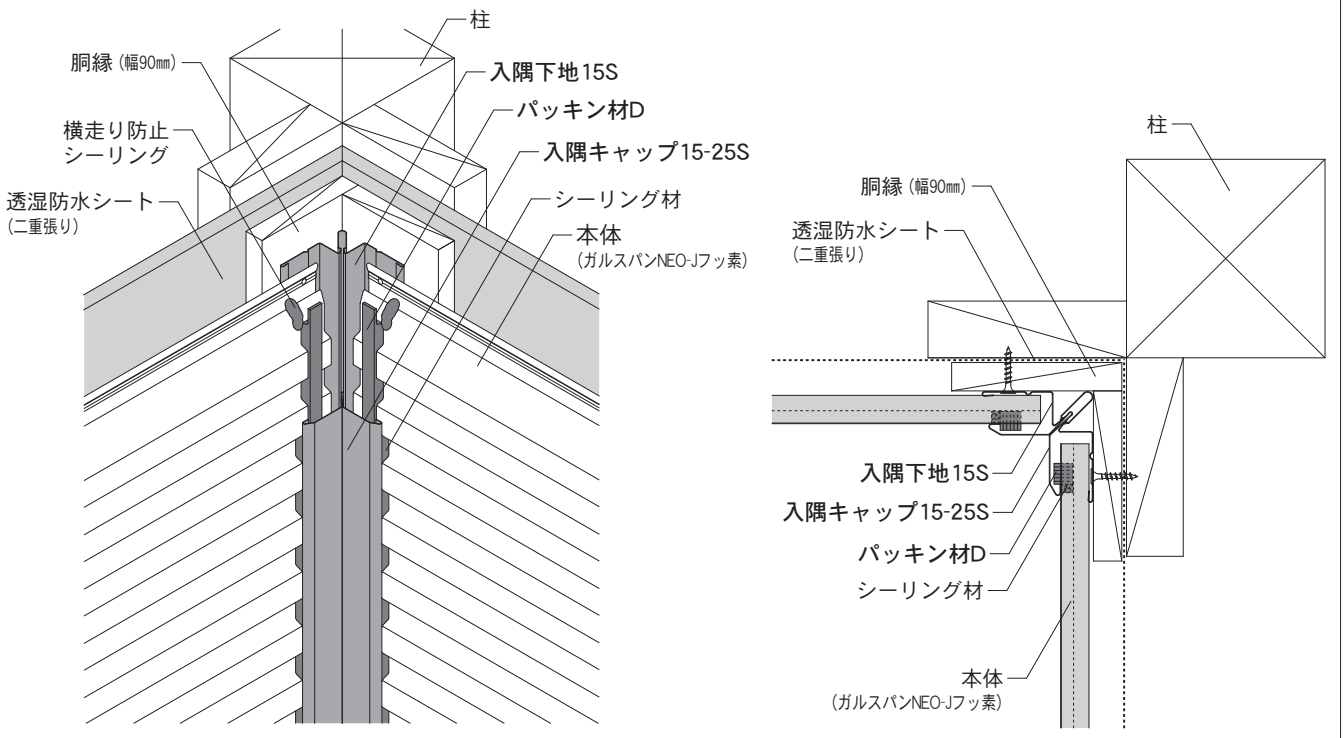
○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○出隅キャップ15-25Sを取り付ける前に、本体にパッキン材Dを貼り付けてください。



C．入隅（1）

使用付属品：入隅キャップ15-25S/入隅下地15S/パッキン材D

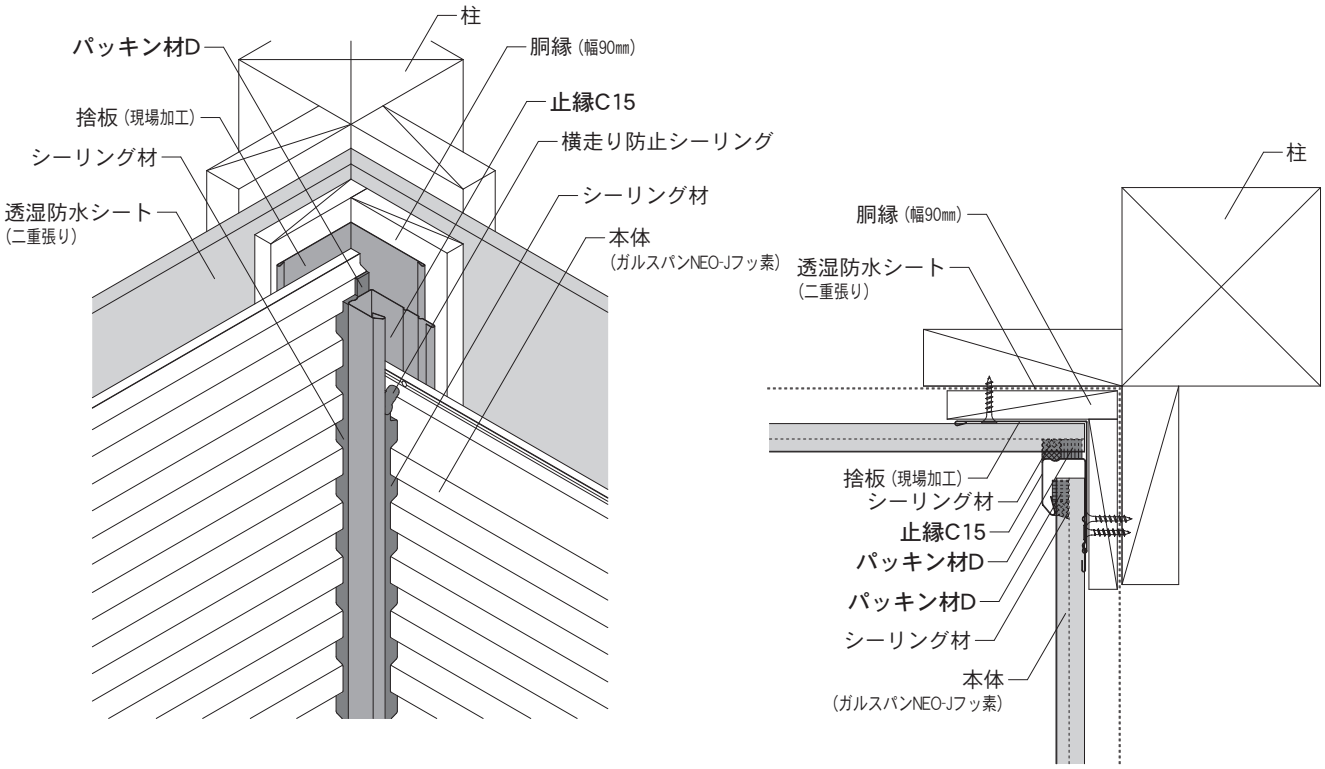
○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○入隅キャップ15-25Sを取り付ける前に、本体にパッキン材を貼り付けてください。



C．入隅（2）

使用付属品：止縁C15/パッキン材D

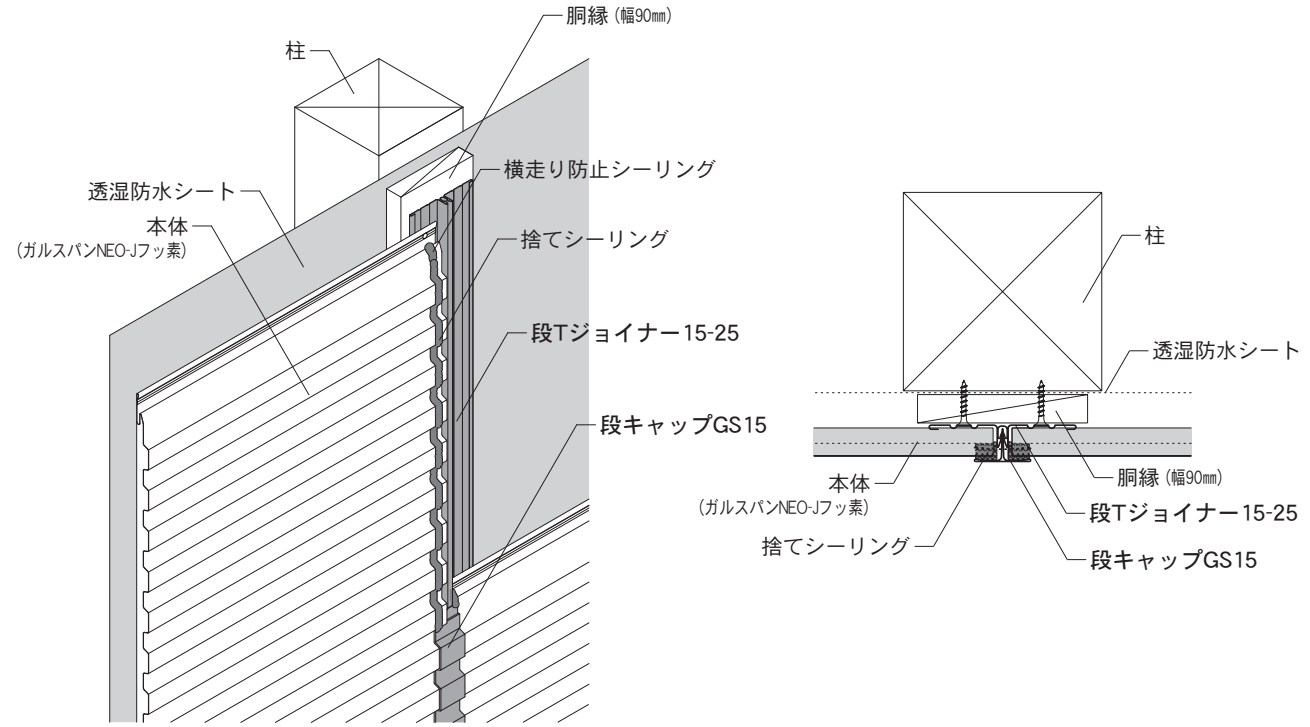
○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○本体にパッキン材Dを貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。



D．横継ぎ

使用付属品：段キャップGS15/段Tジョイナー15-25

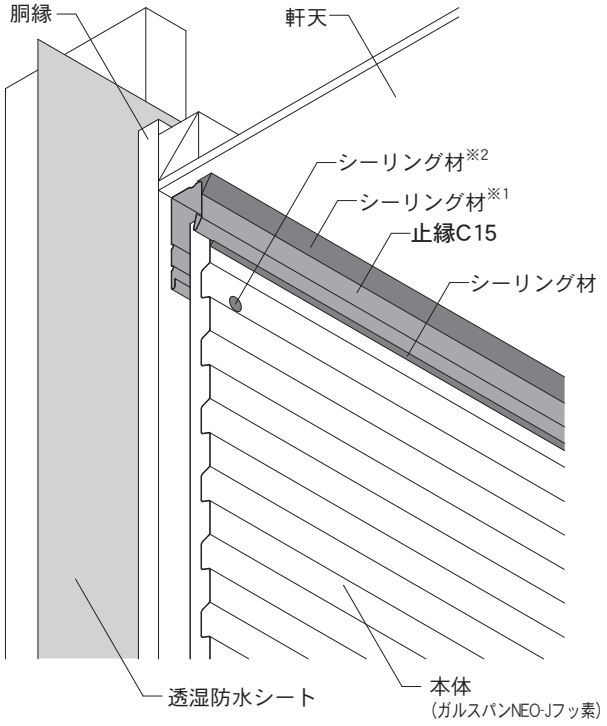
○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）

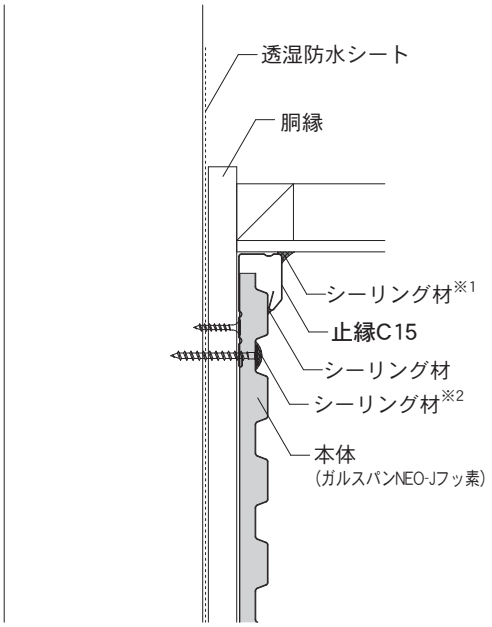


E．軒（1）

使用付属品：止縁C15

○本体凹部と止縁C15が重なる場合は、本体にパッキン材Cを貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。



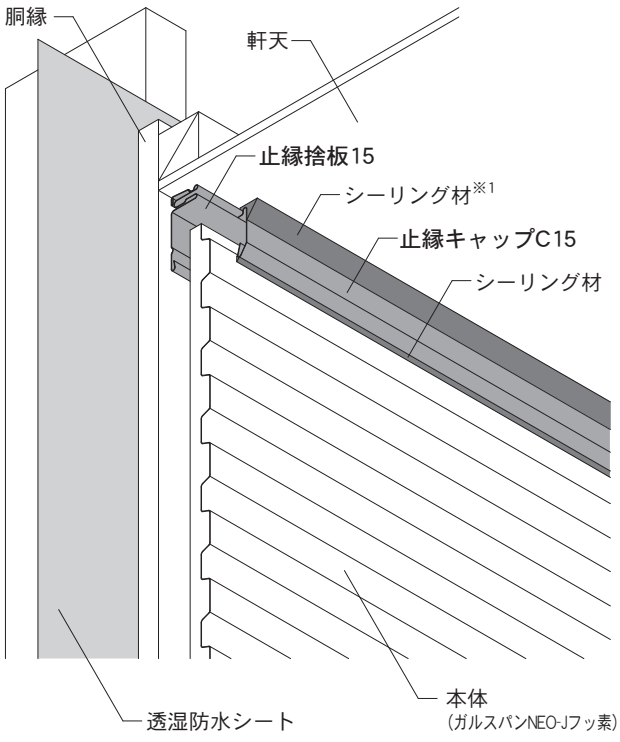


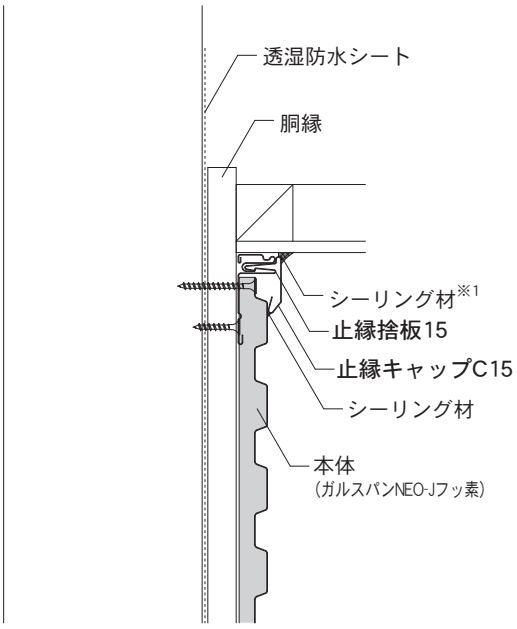
※1　軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。
※2　くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

E．軒（2）

使用付属品：止縁キャップC15/止縁捨板15

○本体凹部と止縁キャップC15が重なる場合は、本体にパッキン材Cを貼り付けてから止縁キャップC15を取り付けてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。



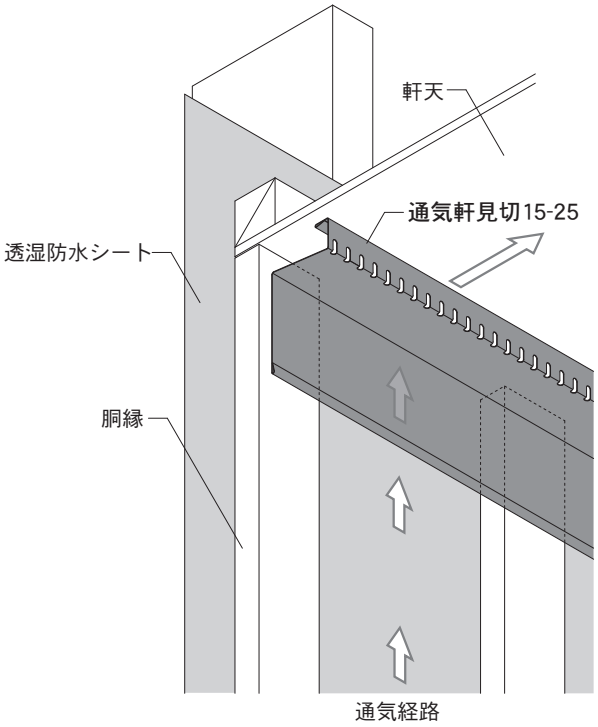


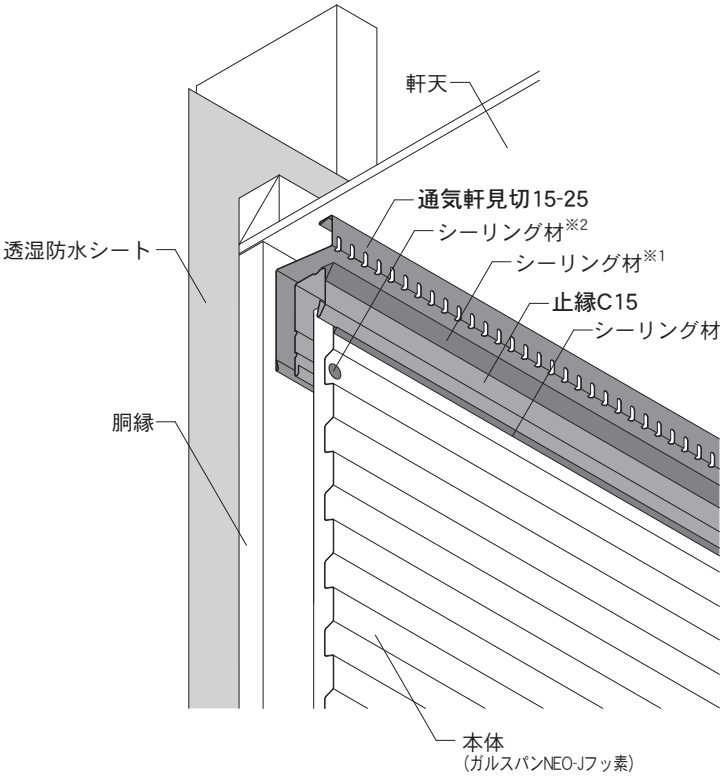
※1　軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

E．軒（3）

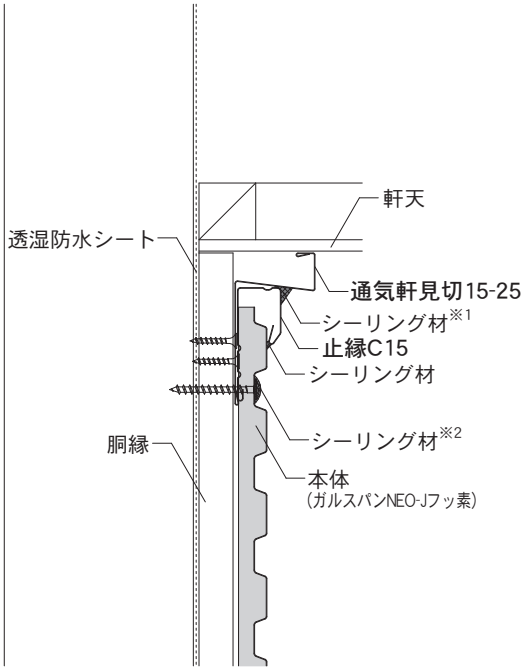
使用付属品：通気軒見切15-25/止縁C15/止縁キャップC15/止縁捨板15

〇本体凹部と止縁C15が重なる場合は、パッキン材Cを使用してください。
〇本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
〇軒裏や小屋裏への通気を行わない場合でも、通気軒見切15-25を使用することで通気構法が可能となります。

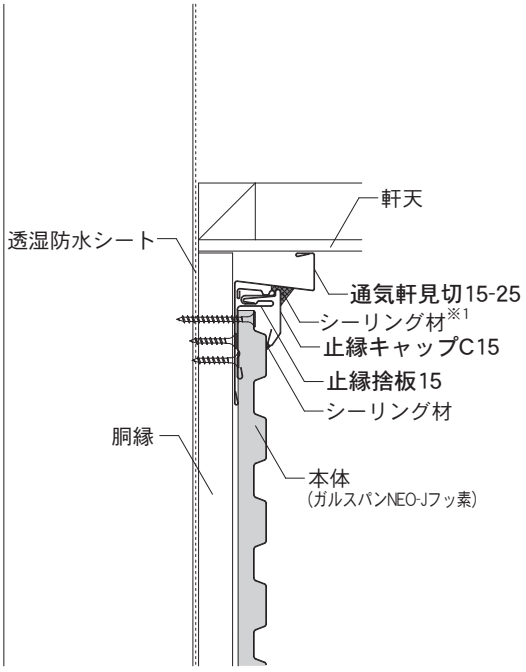




〇止縁C15と併用する場合



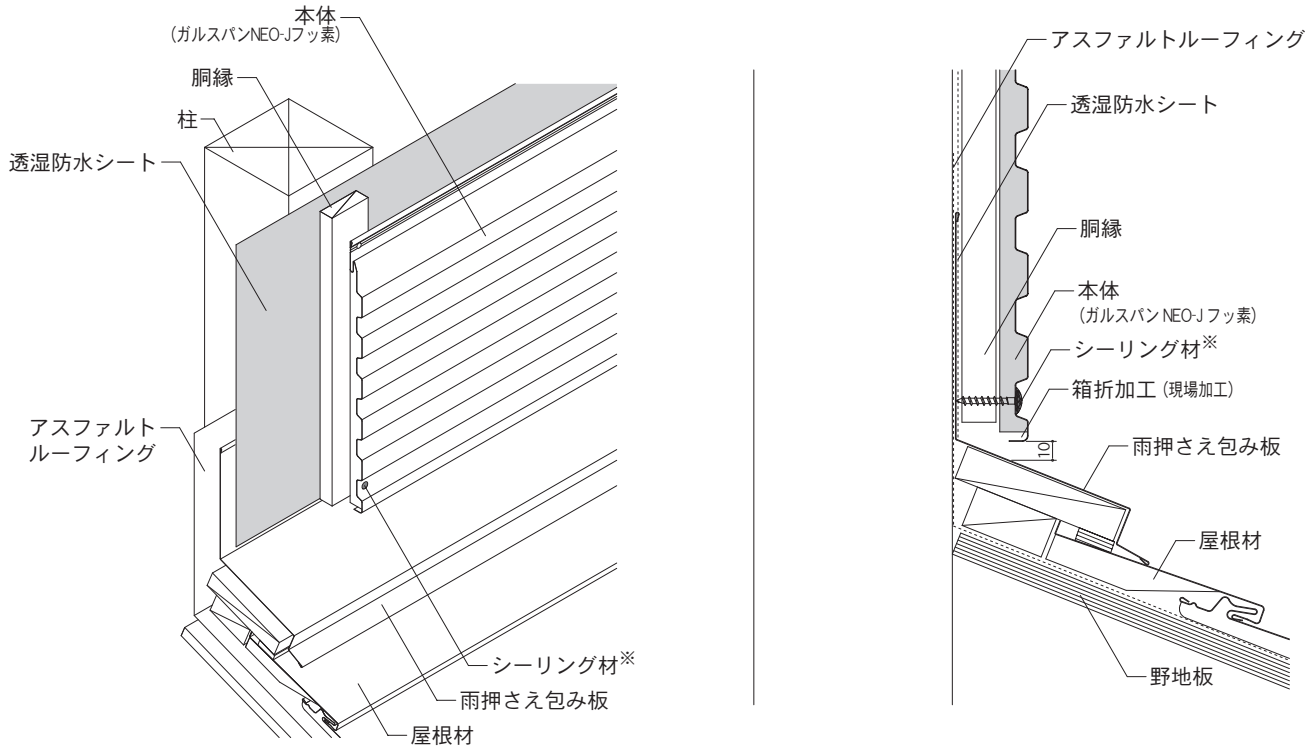
〇止縁キャップC15／止縁捨板15と併用する場合



※1　軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。
※2　くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

F．下屋見切り（1）

○本体の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。

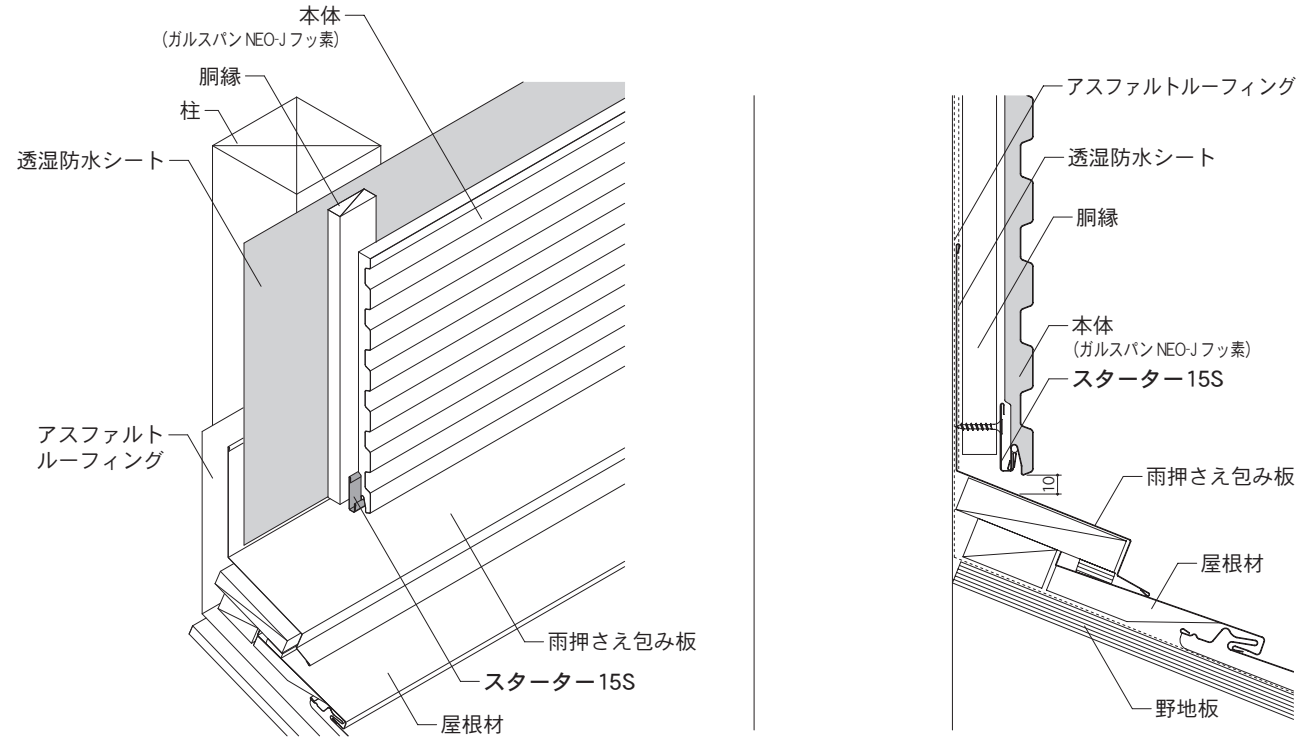


※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

F．下屋見切り（2）

使用付属品：スターター15S

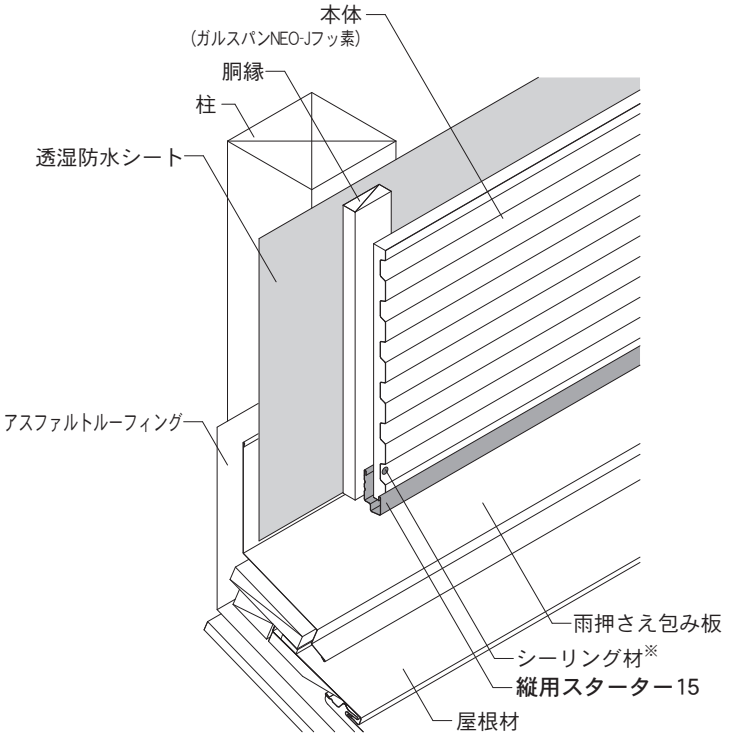
○本体の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。

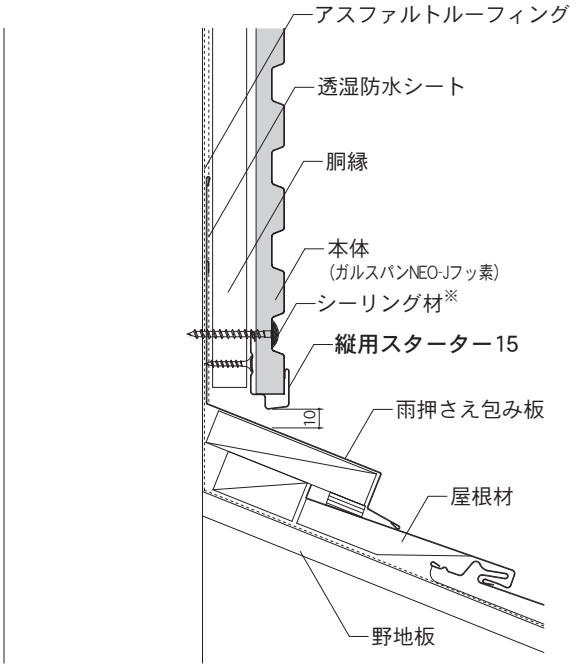


F．下屋見切り（3）

使用付属品：縦用スターター15

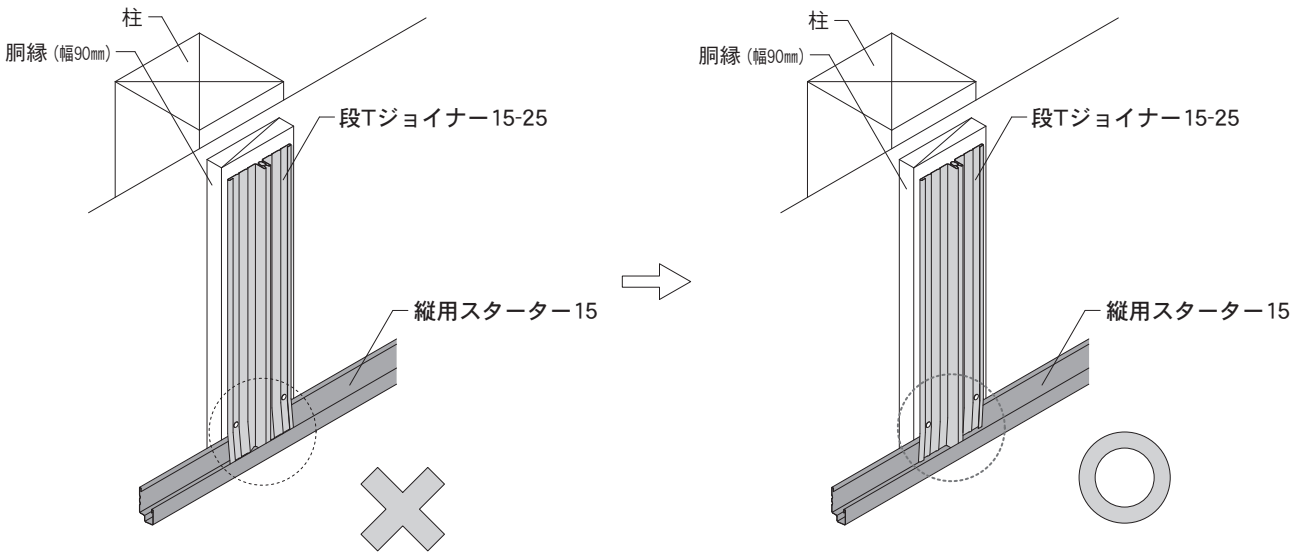
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○縦用スターター15の下端と雨押さえ包み板の間は、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。縦用スターター15は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター15の使用をお勧めします。（P51参照）





※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

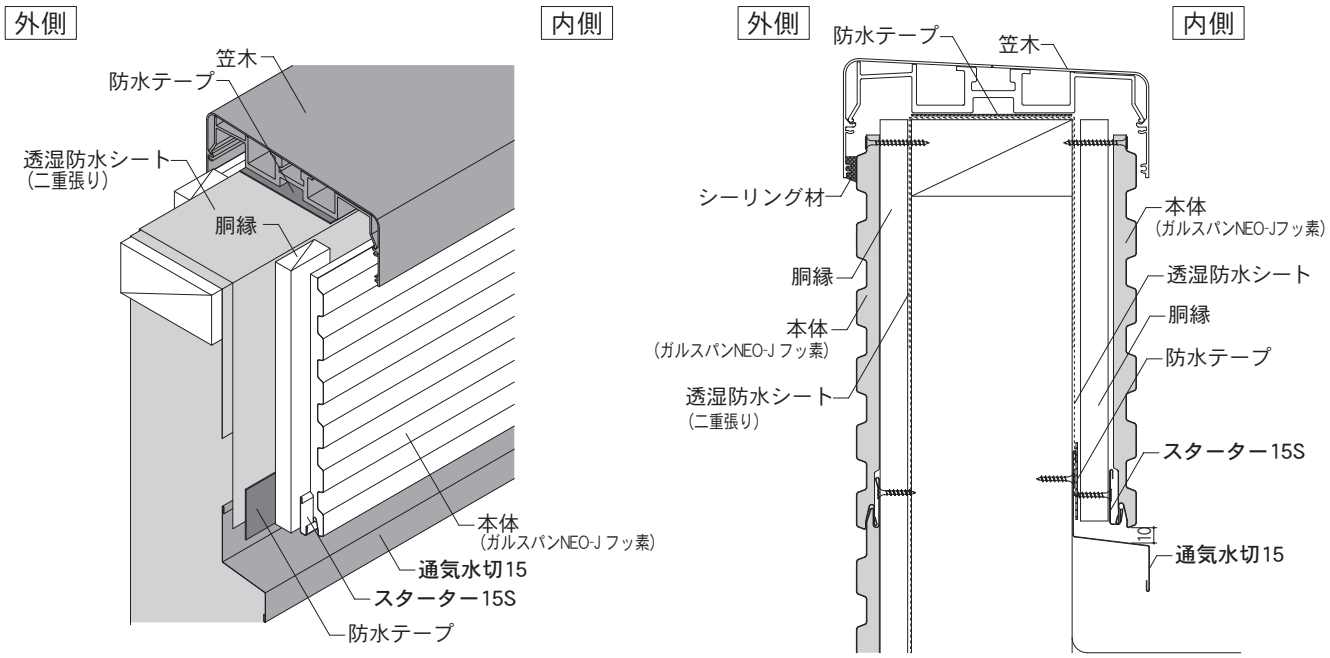
○下図のように段Tジョイナー15-25を留め付けた際に変形があった場合は、端部をたたいて変形を直してください。
本体の仕上がりに影響することがあります。



G. 笠木

使用付属品：通気水切15/スターター15S

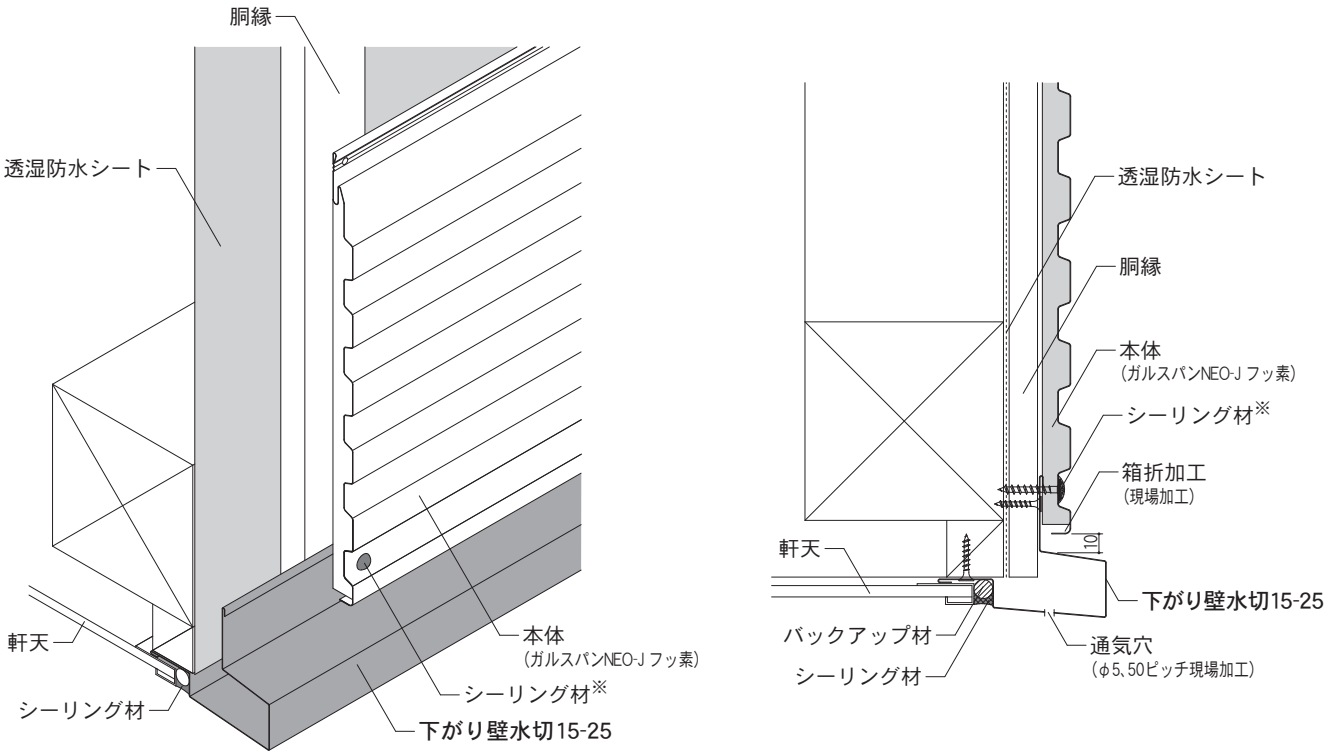
○防水上万全を期すため、透湿防水シートを二重張りにしてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○通気経路を確保してください。
○通気口から直接雨水が入らないように配慮してください。
○通気水切15は、胴縁を施工する前に取り付けてください。
○本体の下端と通気水切15の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○通気の出入り口には、必要に応じて防虫網を取り付けてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。通気水切15の下に当て木を入れるなどの対処をしてください。(P51参照)



H. 下がり壁（1）

使用付属品：下がり壁水切15-25

○下がり壁水切15-25には、通気穴（直径5㎜）を50㎜間隔であけてください。
○本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

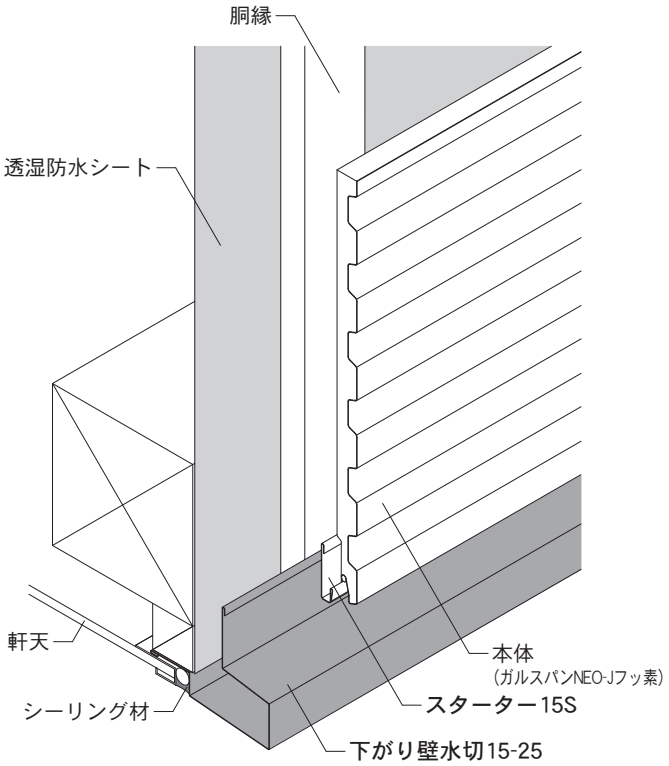


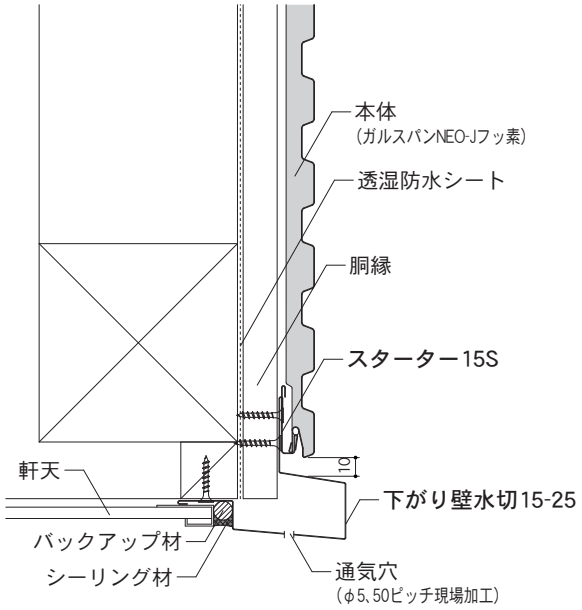
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

H. 下がり壁（2）

使用付属品：下がり壁水切15-25/スターター15S

○下がり壁水切15-25には、通気穴（直径5㎜）を50㎜間隔であけてください。
○本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。

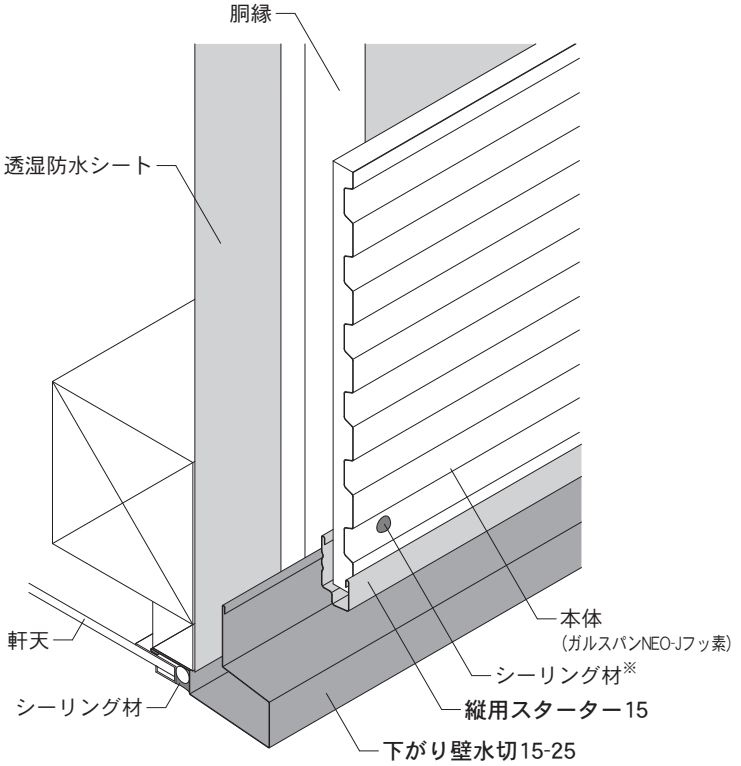


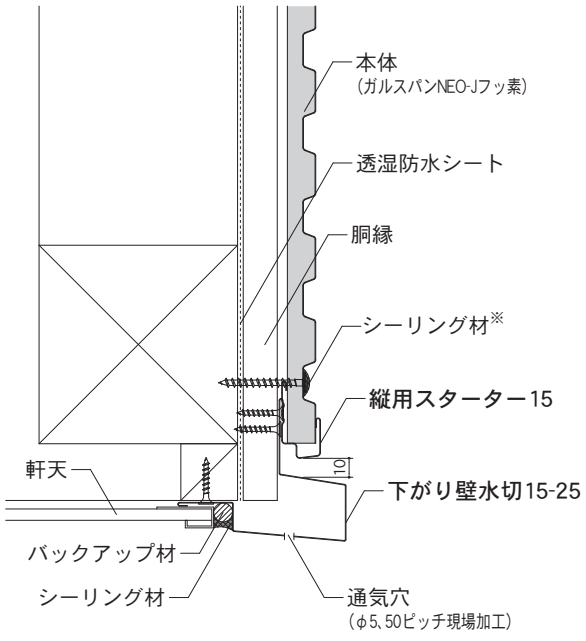


H. 下がり壁（3）

使用付属品：下がり壁水切15-25/縦用スターター15

○下がり壁水切15-25には、通気穴（直径5㎜）を50㎜間隔であけてください。
○縦用スターター15の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。





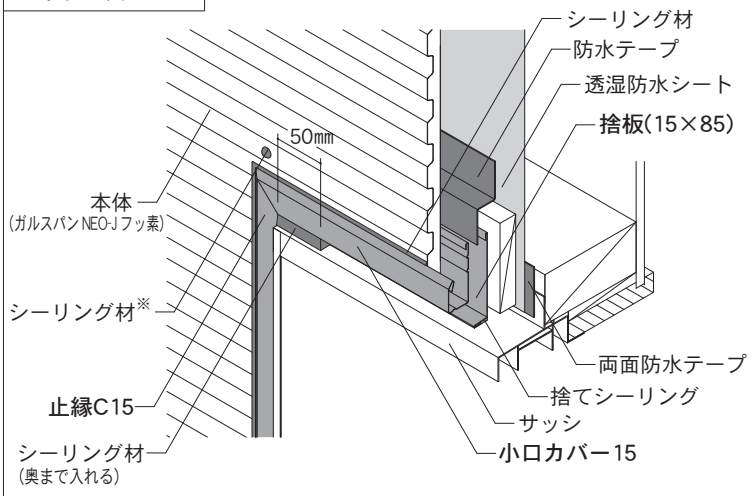
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

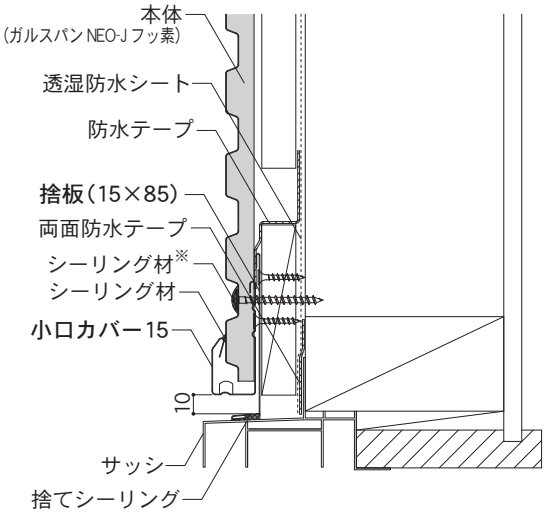
Ⅰ．開口部（1）

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/捨板(15×85)/パッキン材D

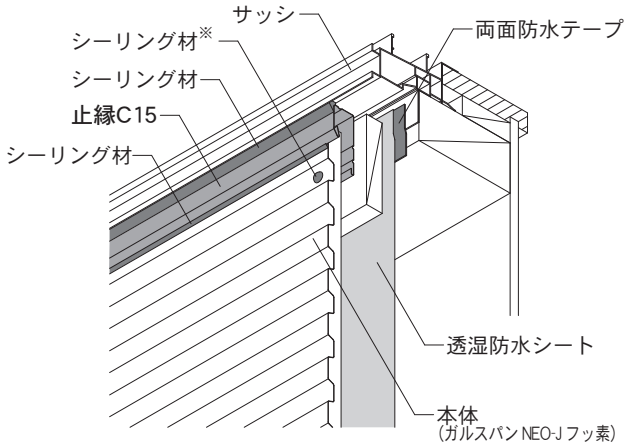
○開口部上では、小口カバー15の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP126～128の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部左右では本体1枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○止縁C15同士の取り合い部には、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。

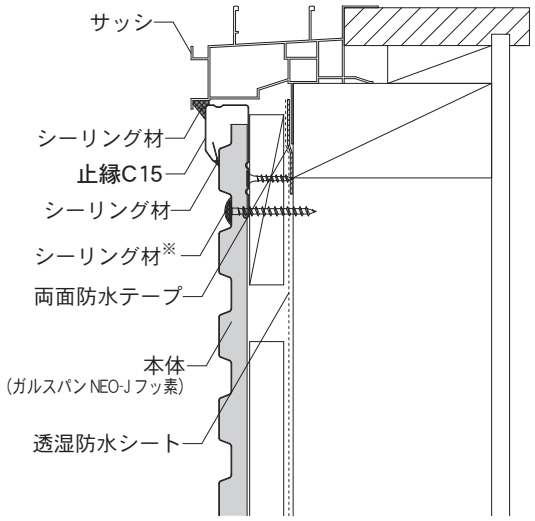
開口部上



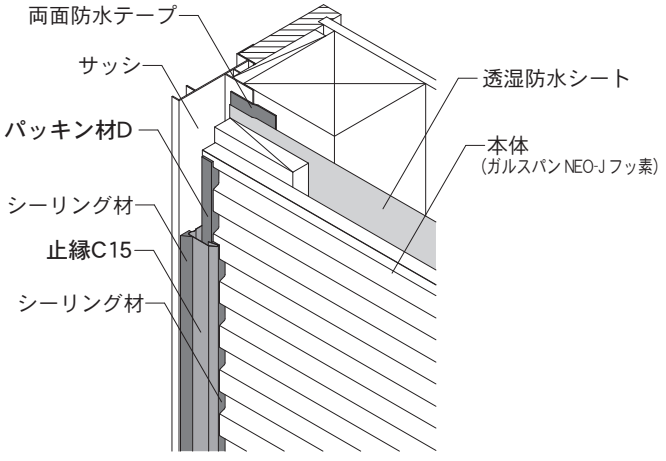


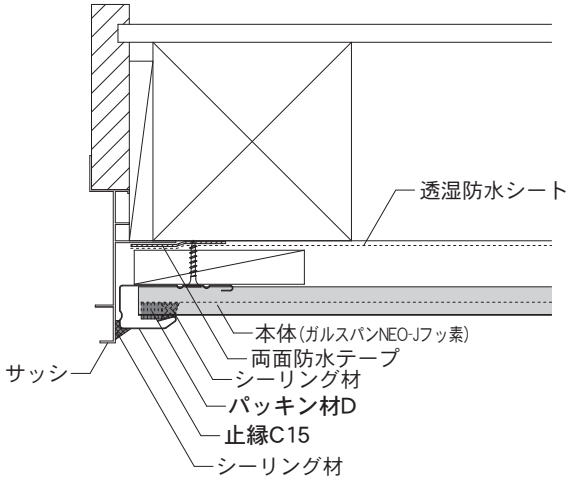
開口部下





開口部左右





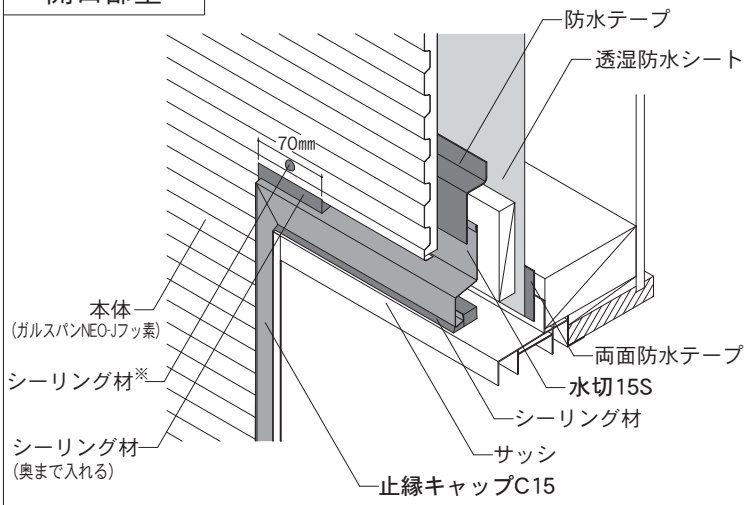
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

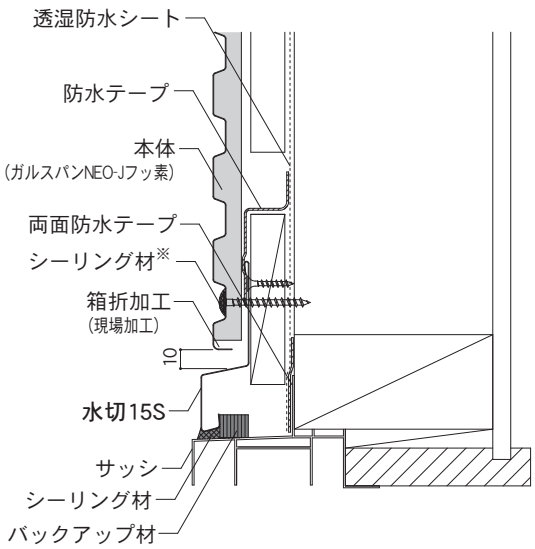
Ⅰ．開口部（2）

使用付属品：水切15S/止縁キャップC15/止縁捨板15/パッキン材D

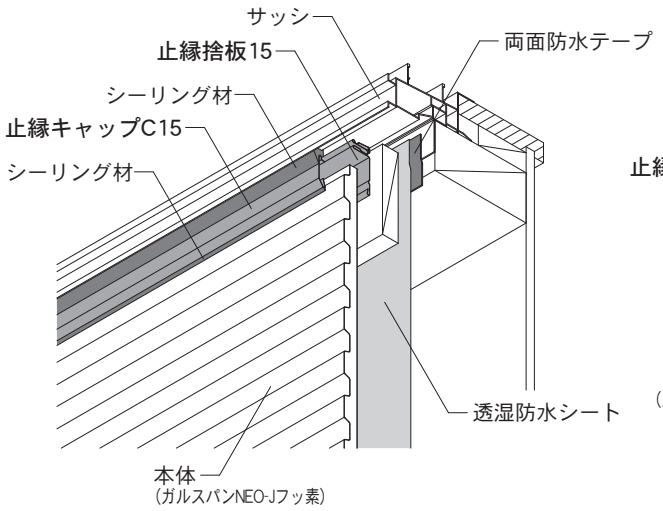
○開口部上では、本体の下端と水切15Sの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右70㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP125の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部左右では本体1枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○開口部下と開口部左右の止縁キャップC15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。

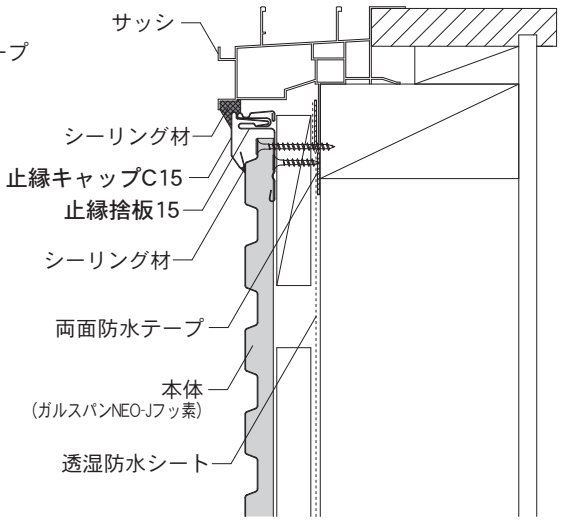
開口部上



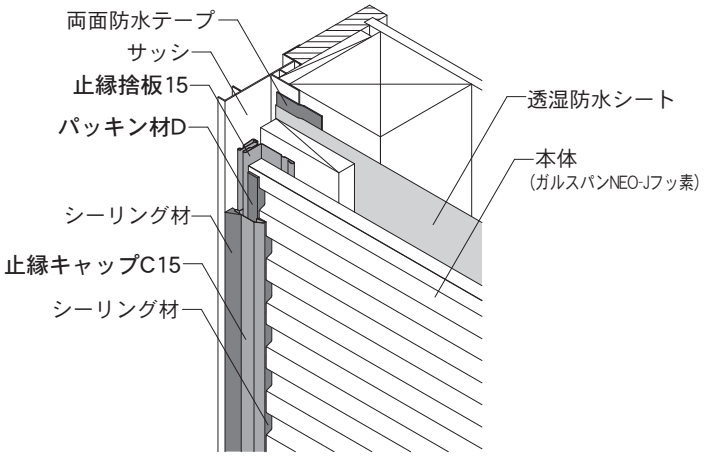


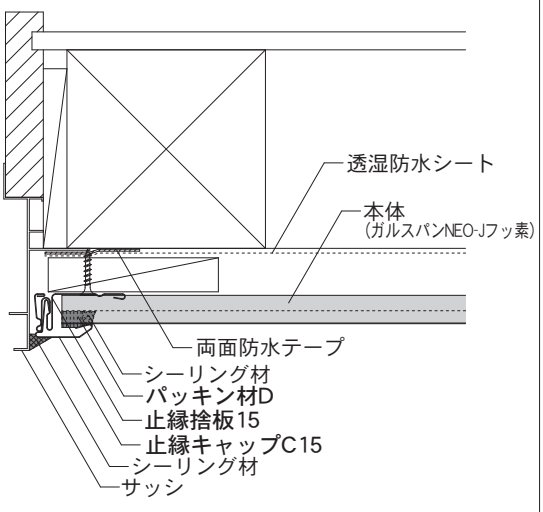
開口部下





開口部左右



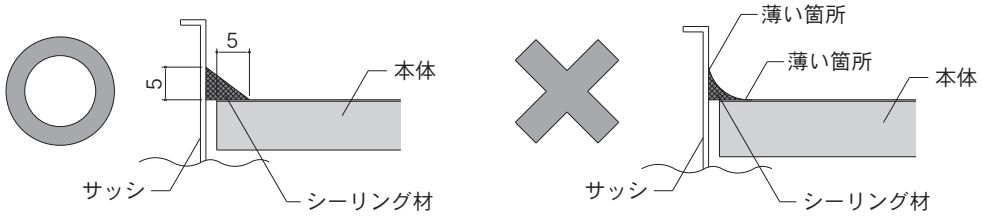


※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

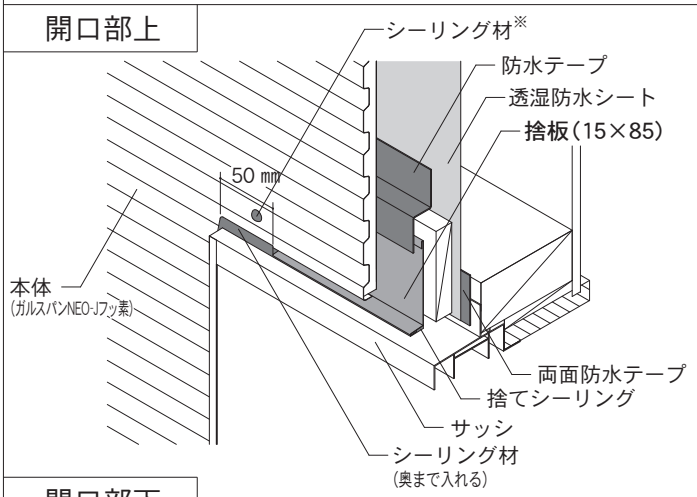
Ⅰ．開口部（3）

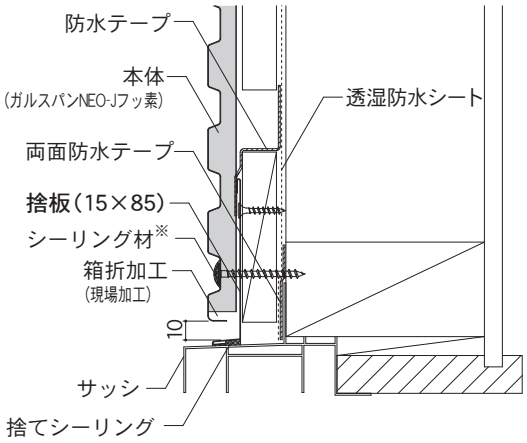
使用付属品：捨板（15×85）

○シーリング切れが生じても漏水しないよう、サッシと透湿防水シートを両面防水テープで確実に接着してください。
○本体とサッシの取り合いに施工するシーリング材は、接着断面の長さをともに5㎜以上とし、両端が薄くならないよう均一に施工してください。
○シーリング材が薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。
○シーリング材のこまめな点検、補修が必要です。
○本体は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部上では、本体の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○開口部左右では本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）

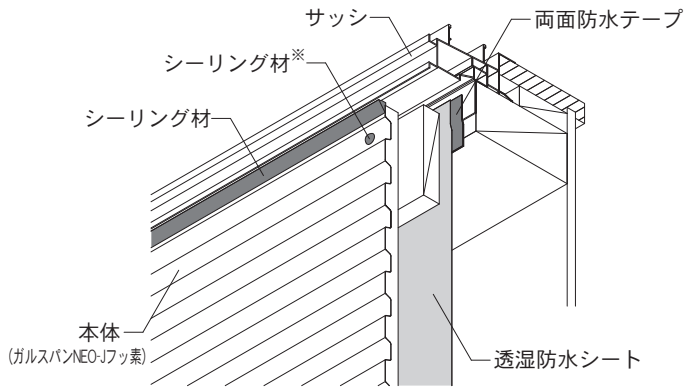


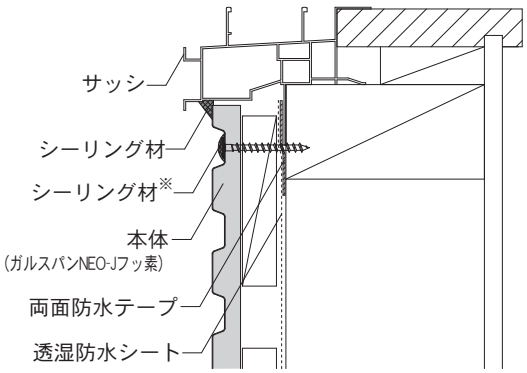
開口部上



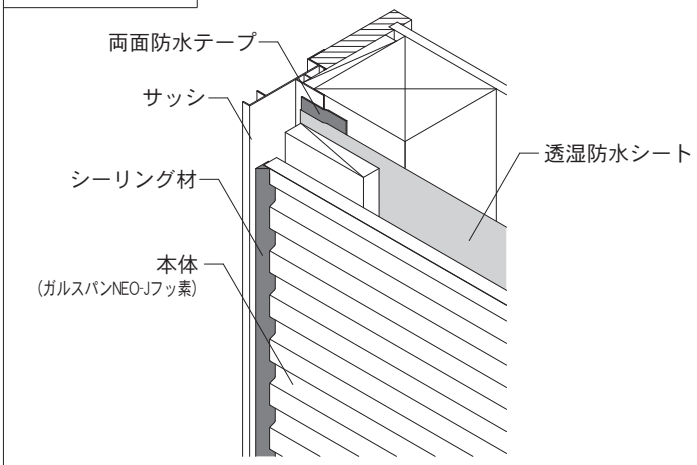


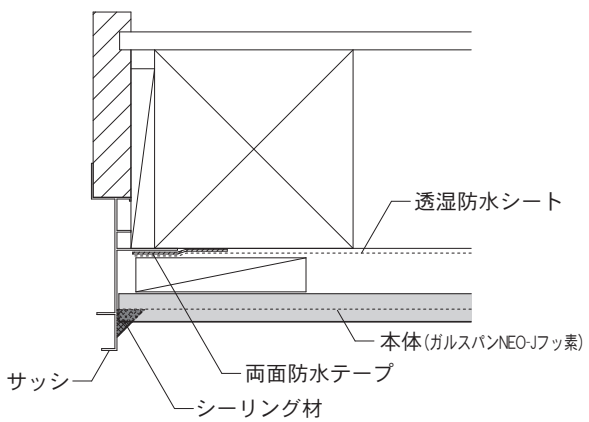
開口部下





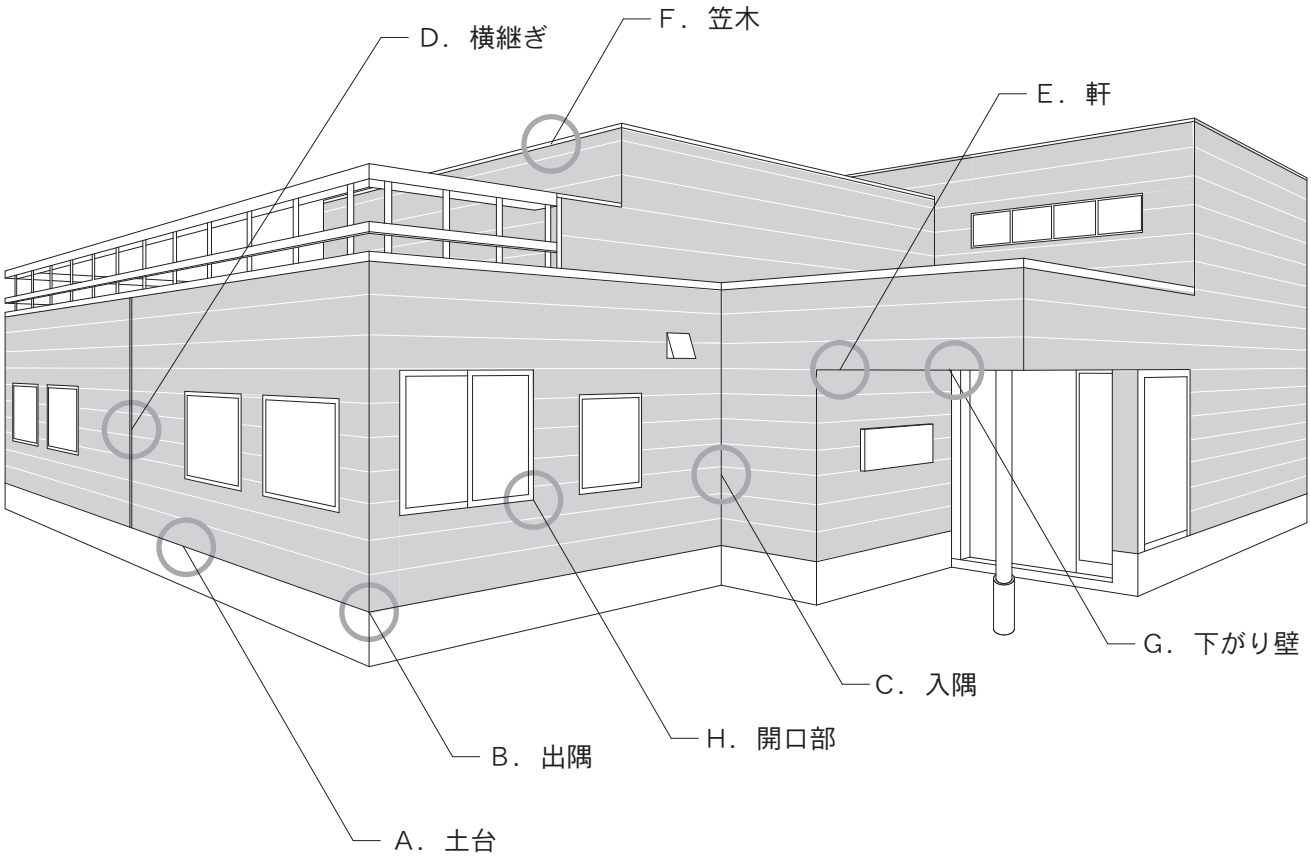
開口部左右





※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

横張りの施工



A．土台	P103	F．笠木	P107
B．出隅	P103	G．下がり壁	P107～108
C．入隅	P104	H．開口部	P109～111
D．横継ぎ	P105		
E．軒	P106		

付属品の継ぎ手などの加工方法及び他の部位との納まりについては、
P117～128の「付属品の加工方法」を参照してください。

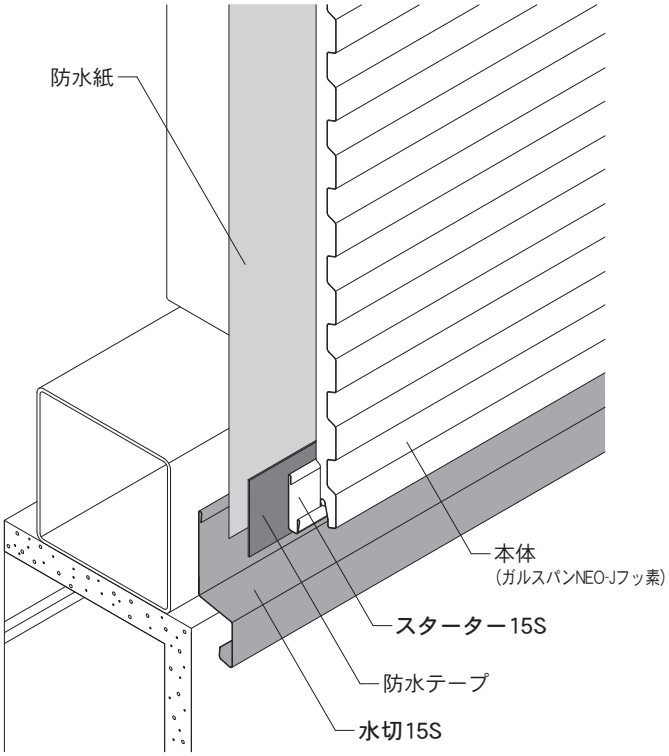
施工図の見方

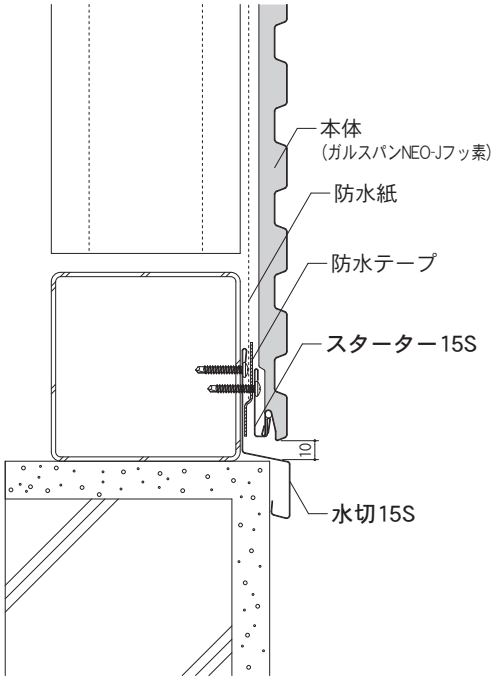
・図はガルスパンNEO-Jフッ素を記載しています。

A．土台

使用付属品：水切15S/スターター15S

○本体の下端と水切15Sの間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、サイディング本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。

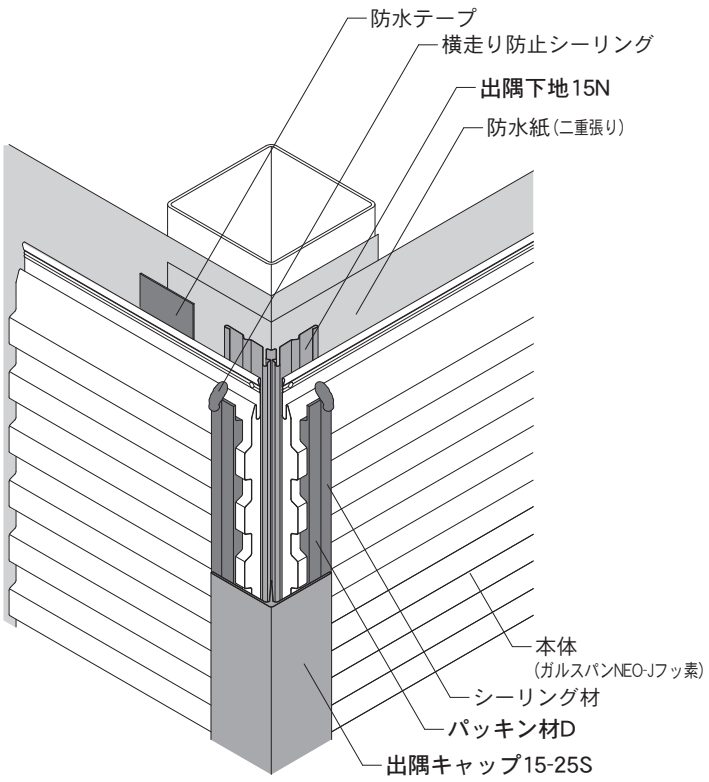


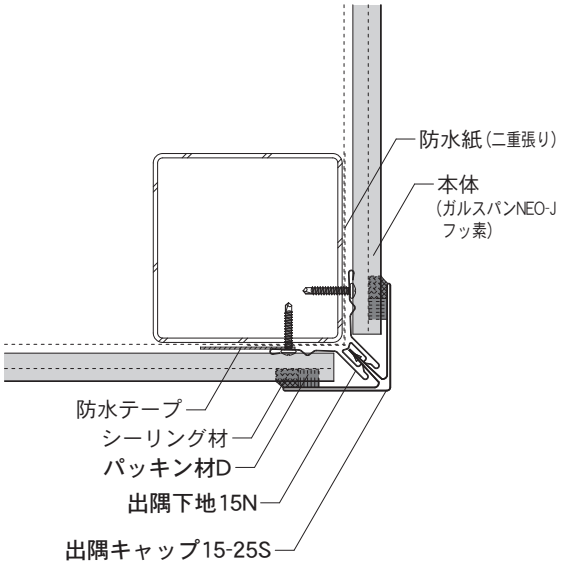


B．出隅

使用付属品：出隅キャップ15-25S/出隅下地15N/パッキン材D

○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。 （P47参照）
○出隅キャップ15-25Sを取り付ける前に、本体にパッキン材Dを貼り付けてください

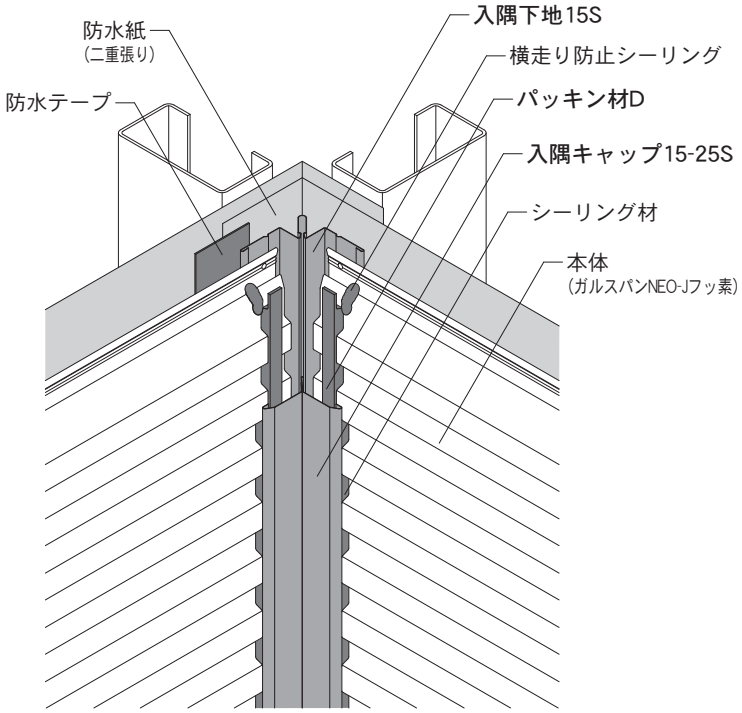


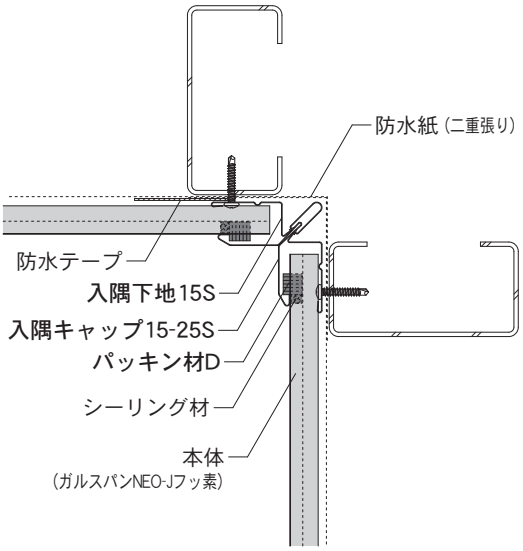


C．入隅（1）

使用付属品：入隅キャップ15-25S/入隅下地15S/パッキン材D

○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○入隅キャップ15-25Sを取り付ける前に、本体にパッキン材Dを貼り付けてください。

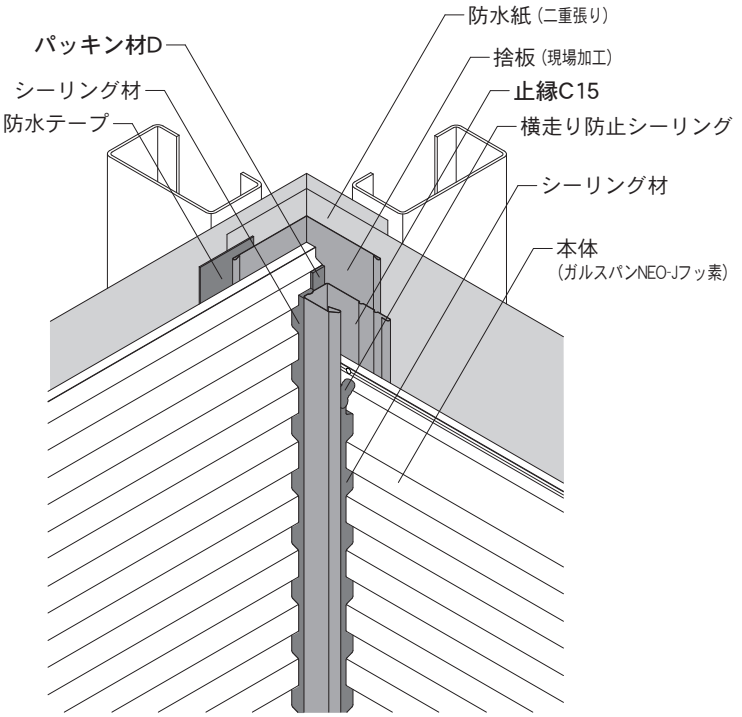


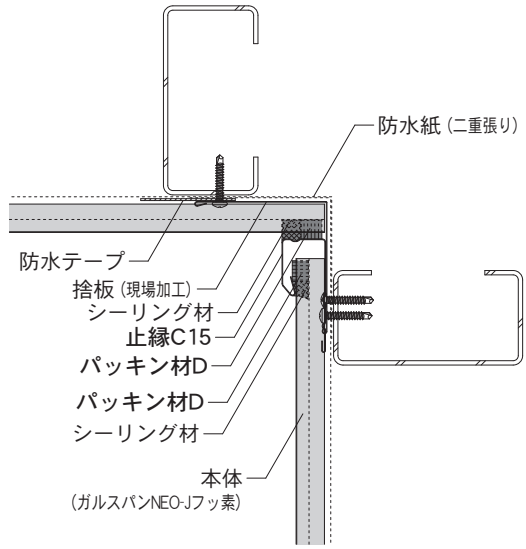


C．入隅（2）

使用付属品：止縁C15/パッキン材D

○本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○本体にパッキン材Dを貼り付けてから、止縁C15に差し込んでください。

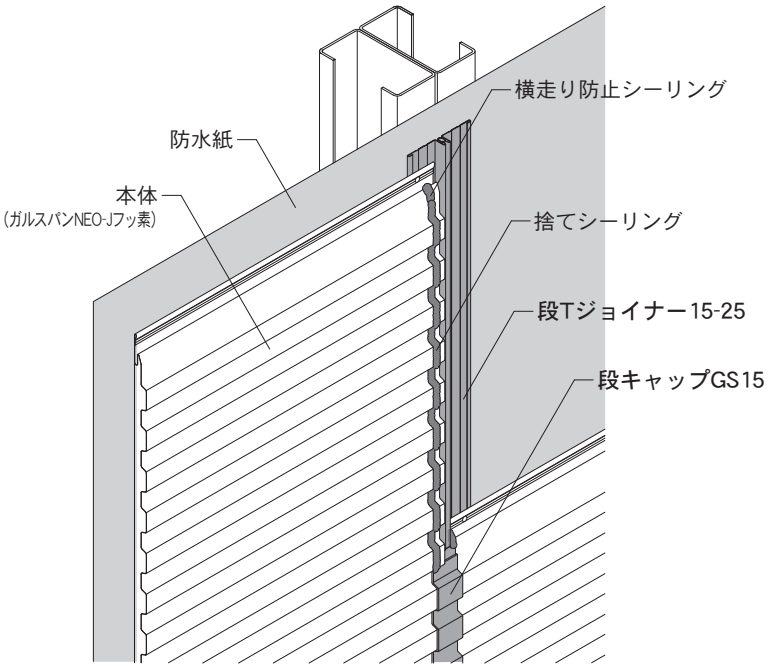


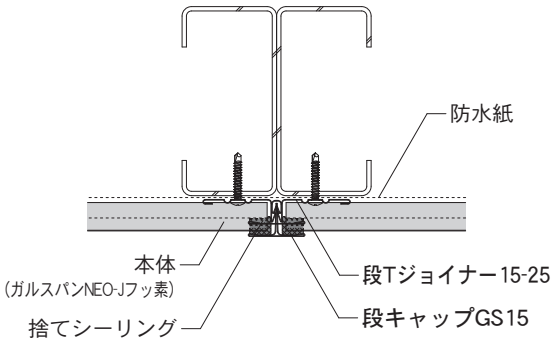


D．横継ぎ

使用付属品：段キャップGS15/段Tジョイナー15-25

〇本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）

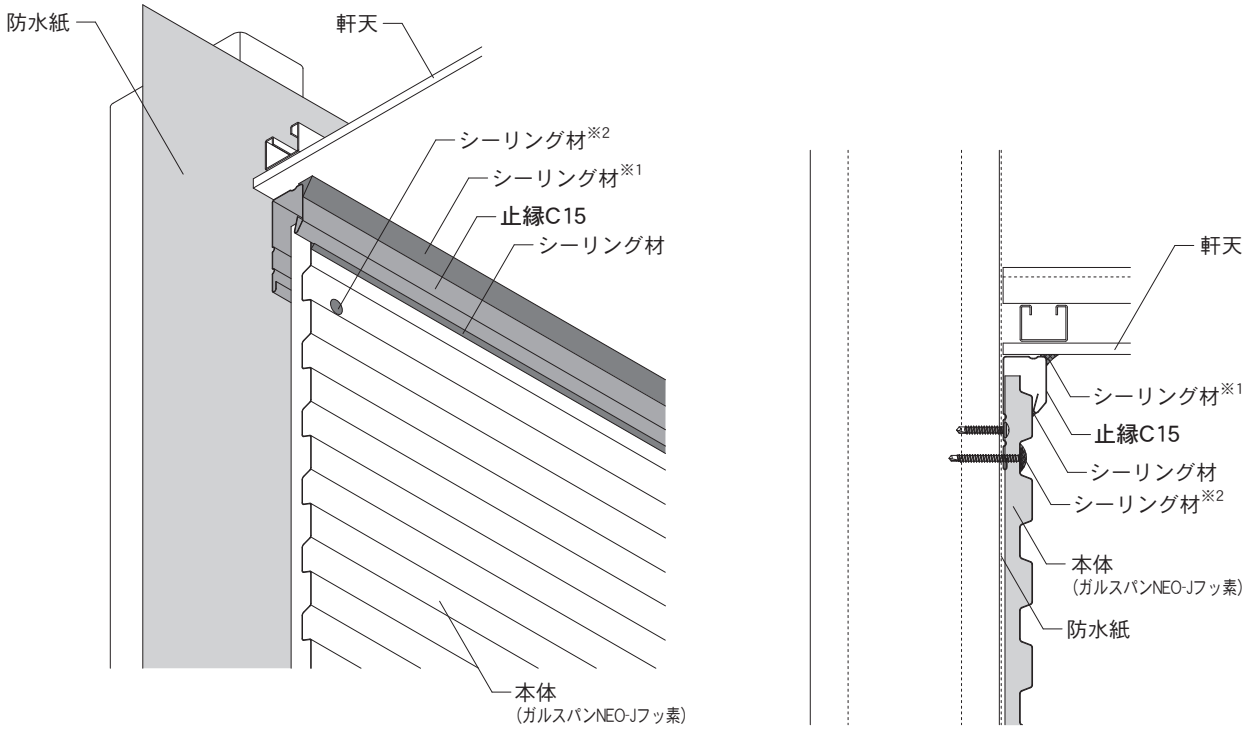




E．軒（1）

使用付属品：止縁C15

○本体凹部と止縁C15が重なる場合は、パッキン材Cを使用してください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

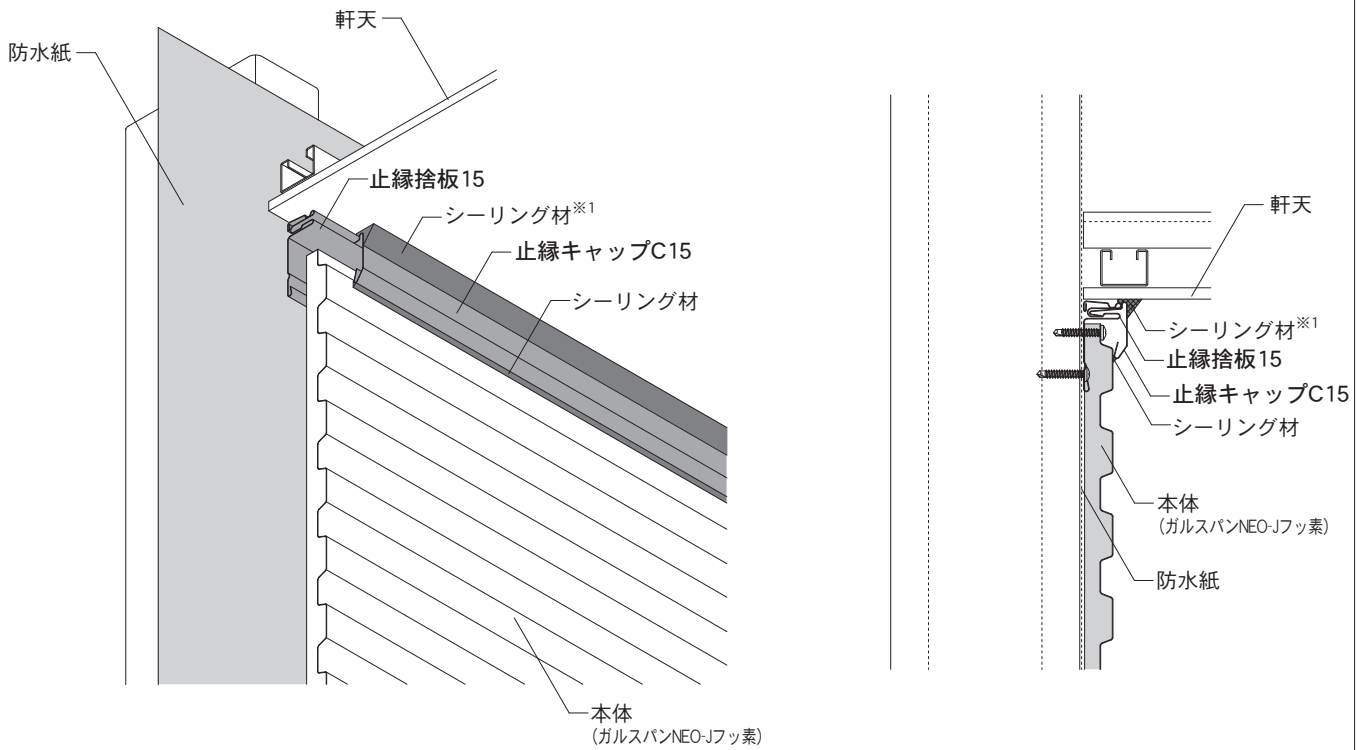


※1　軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。
※2　くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

E．軒（2）

使用付属品：止縁キャップC15/止縁捨板15

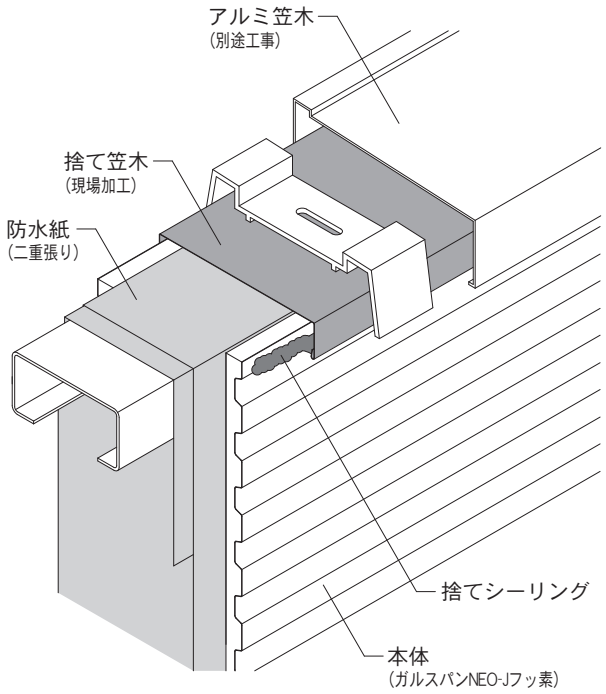
○本体凹部と止縁キャップC15が重なる場合は、本体にパッキン材Cを貼り付けてから止縁キャップC15を取り付けてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

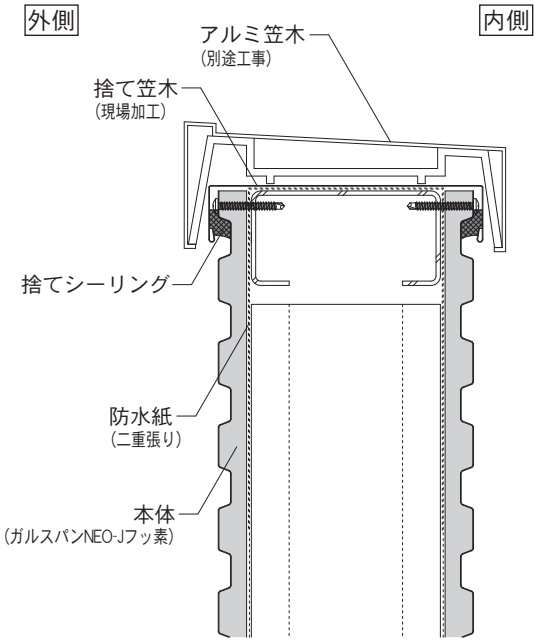


※1　軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

F．笠木

○防水上万全を期すため、防水紙を二重張りにしてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。

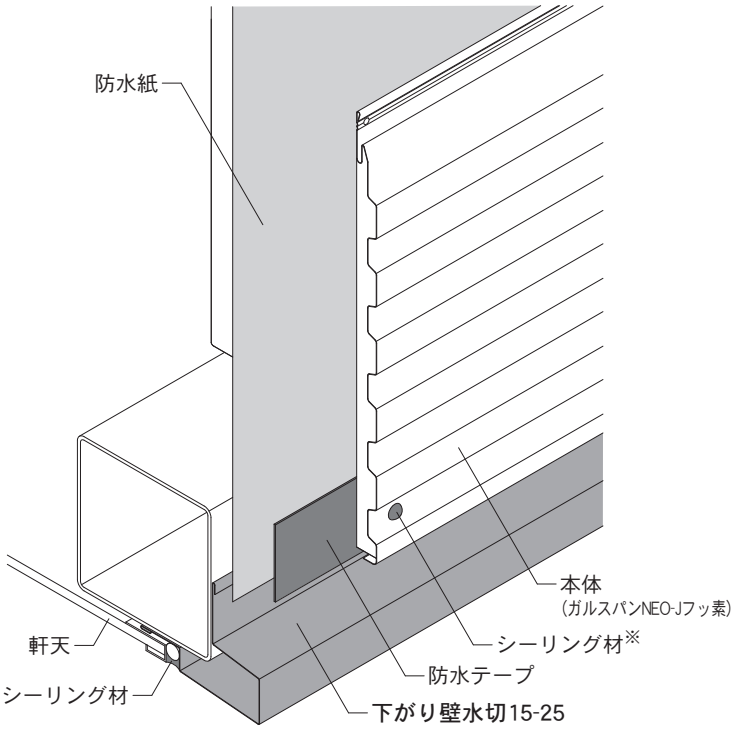


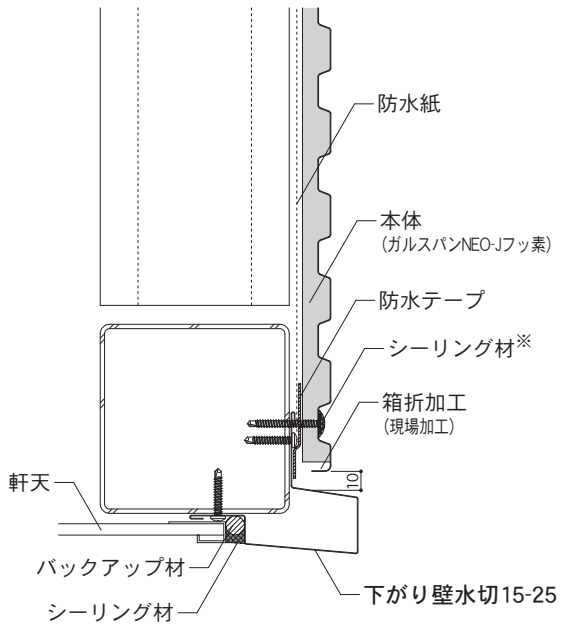


G．下がり壁（1）

使用付属品：下がり壁水切15-25

○本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。



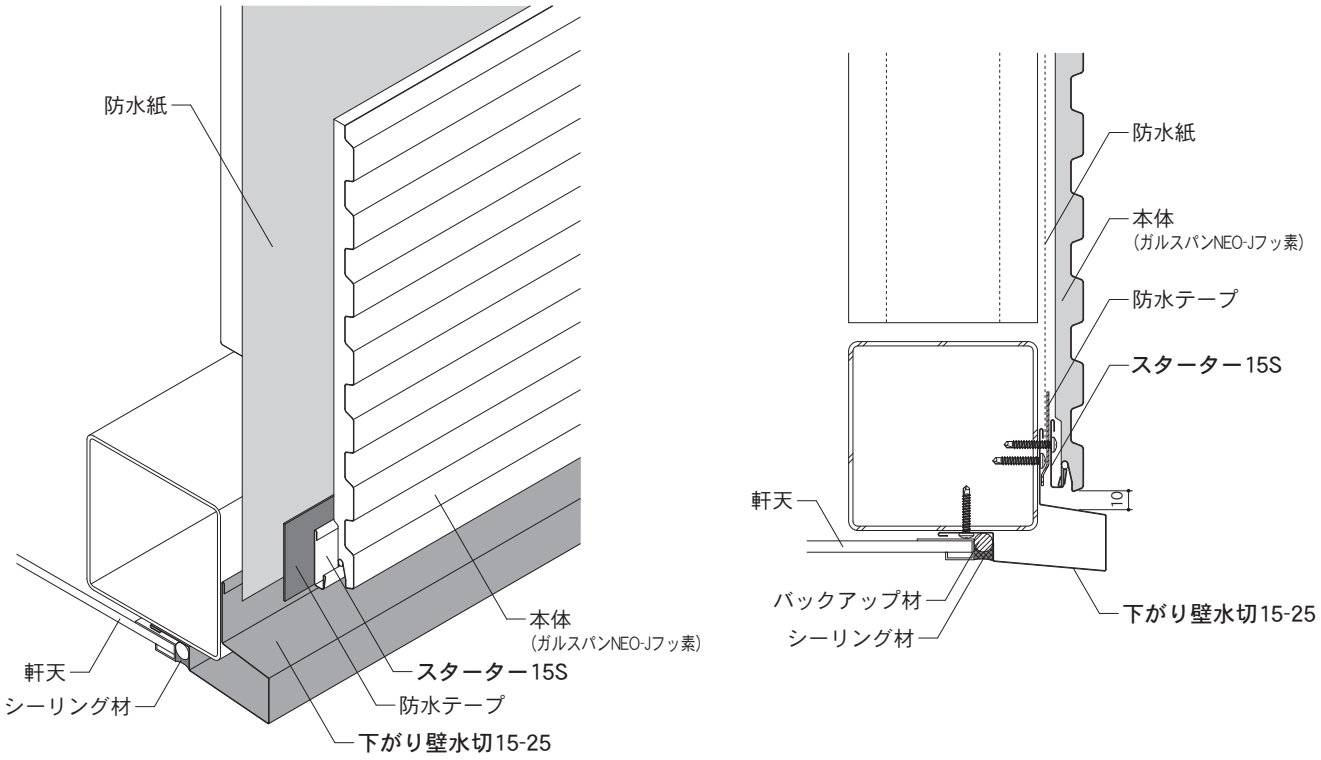


※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

G．下がり壁（2）

使用付属品：下がり壁水切15-25/スターター15S

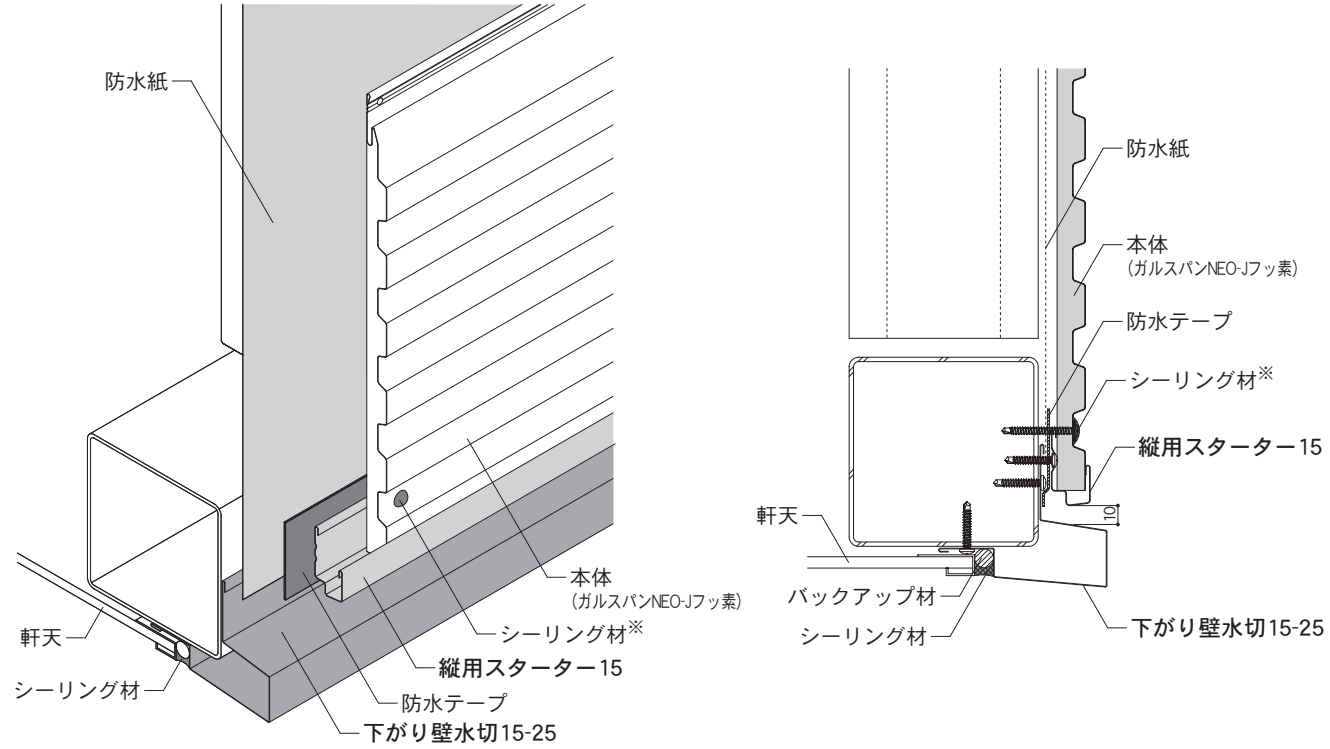
○本体の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度すき間をあけてください。



G．下がり壁（3）

使用付属品：下がり壁水切15-25/縦用スターター15

○サイディング本体を切断した際の切粉や施工時に発生する切粉は、縦用スターター15内に残らないよう必ず取り除いてください。さびの原因となります。
○横継ぎを入れる場合は、P96の段Tジョイナー15-25との取り合い図を参照してください。
○縦用スターター15の下端と下がり壁水切15-25の間には、雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけてください。



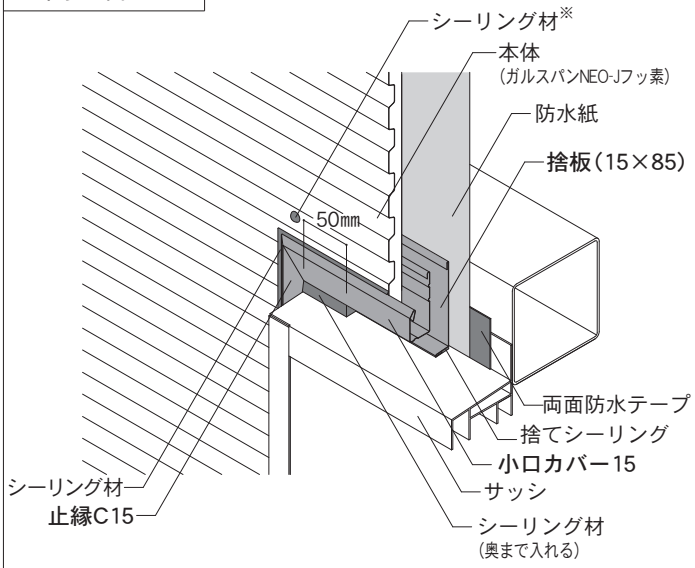
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

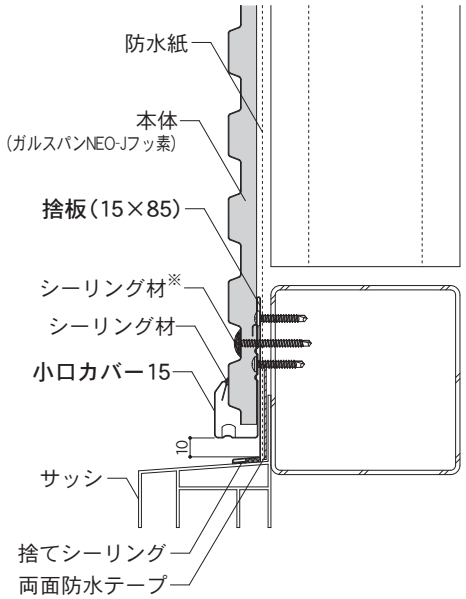
H. 開口部（1）

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/捨板（15×85）／パッキン材D

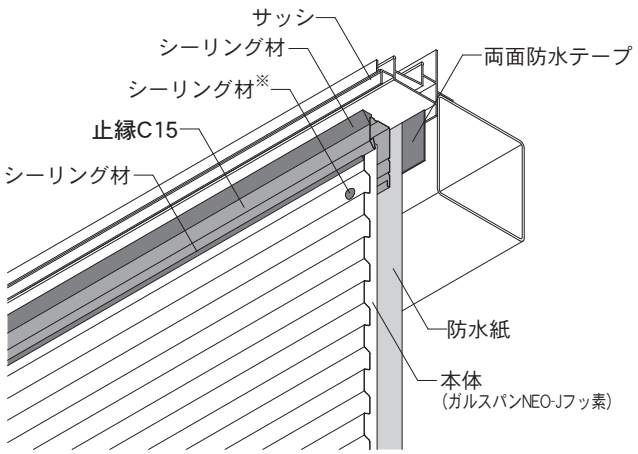
○開口部上では、小口カバー15の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP126～128の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部左右では本体1枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○止縁C15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。

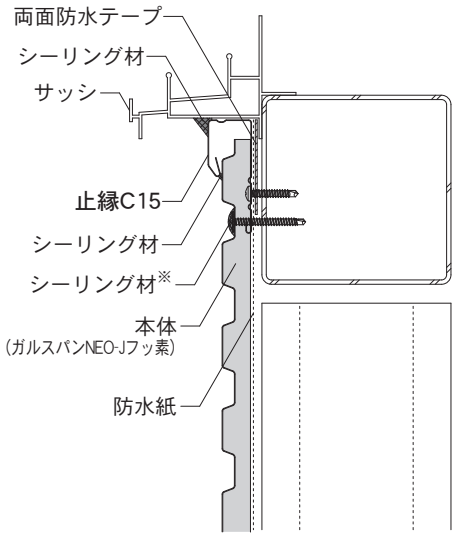
開口部上



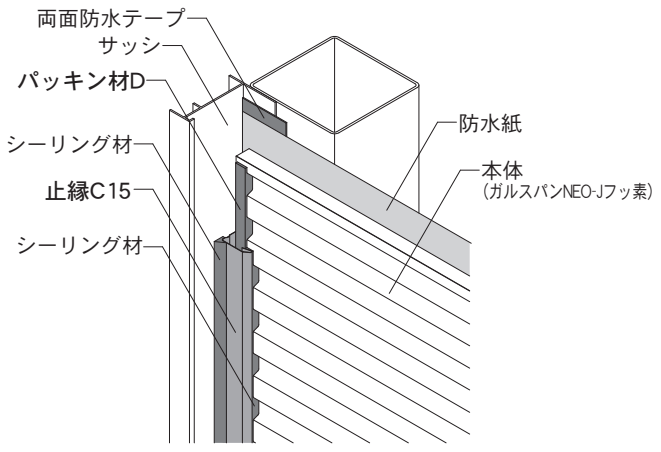


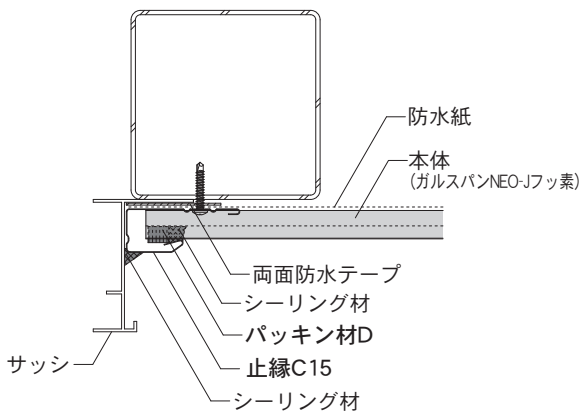
開口部下





開口部左右





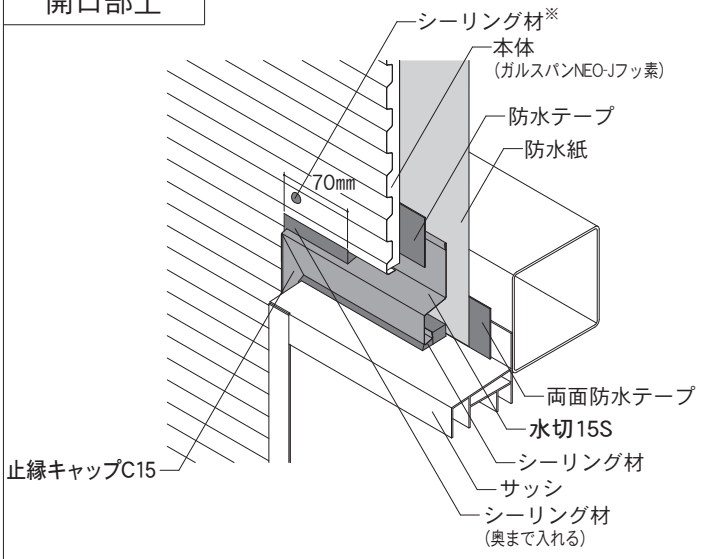
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

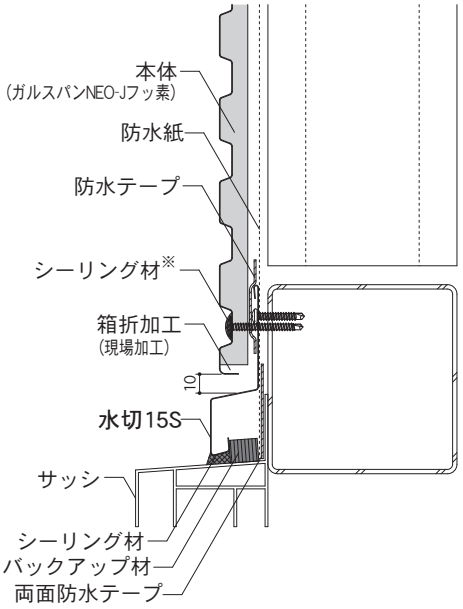
H. 開口部（2）

使用付属品：水切15S/止縁キャップC15/止縁捨板15/パッキン材D

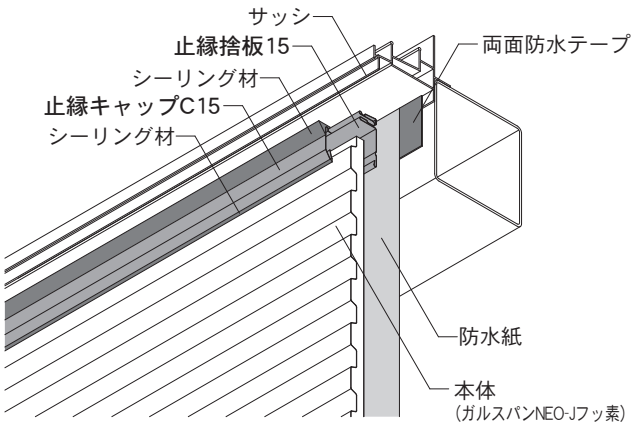
○開口部上では、本体の下端と水切15Sの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右70㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部の付属品の納め方はP125の「付属品の加工方法」を参照してください。
○開口部左右では本体1枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）
○開口部下と開口部左右の止縁キャップC15同士の取り合い部は、ワンタッチコーナーキャップ15-25を使用することもできます。

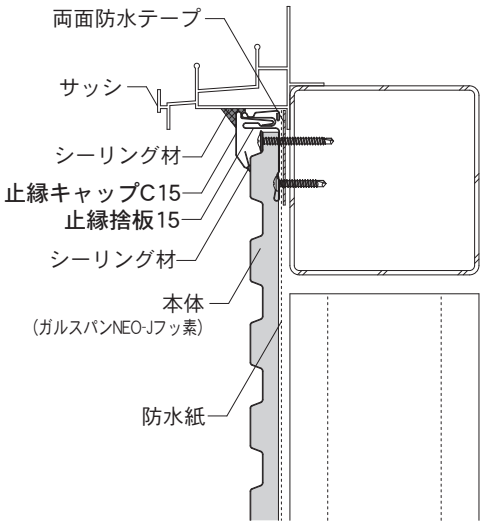
開口部上



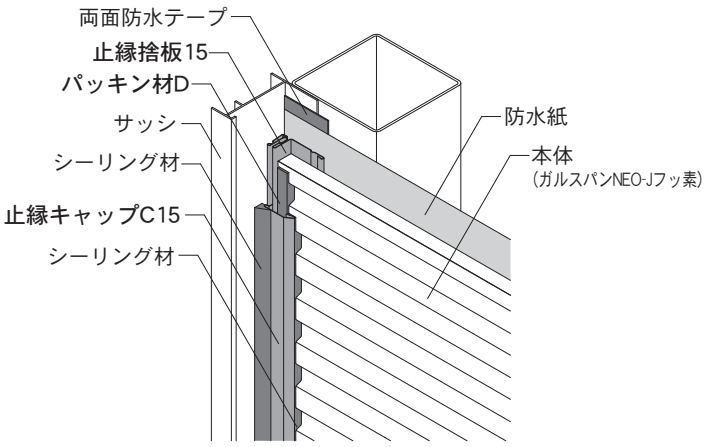


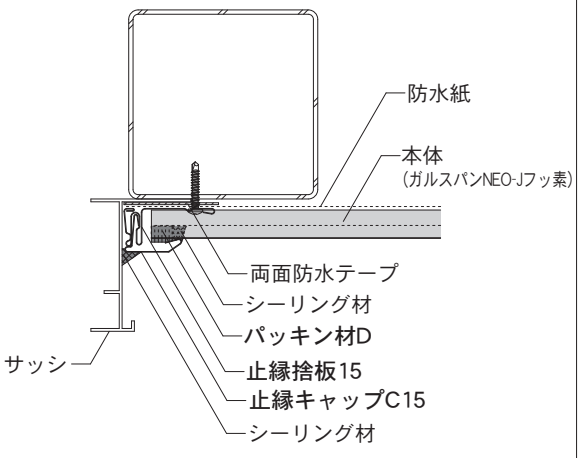
開口部下





開口部左右



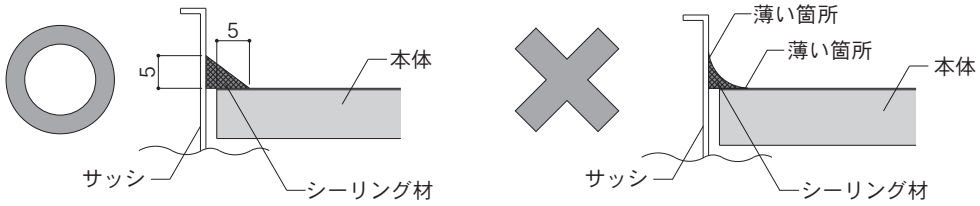


※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

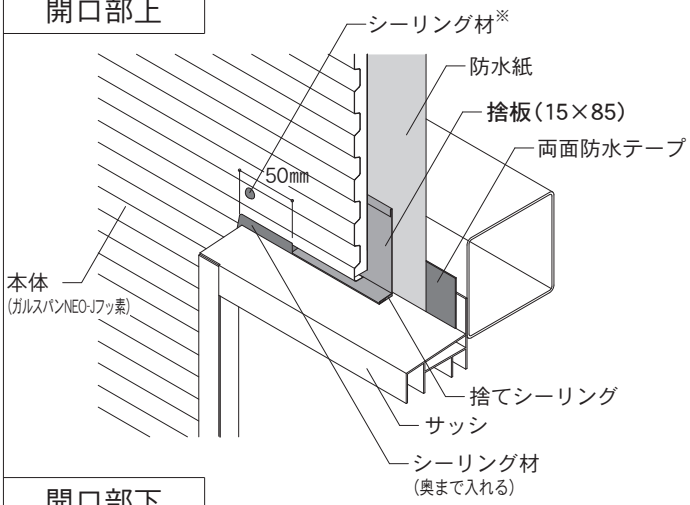
H. 開口部（3）

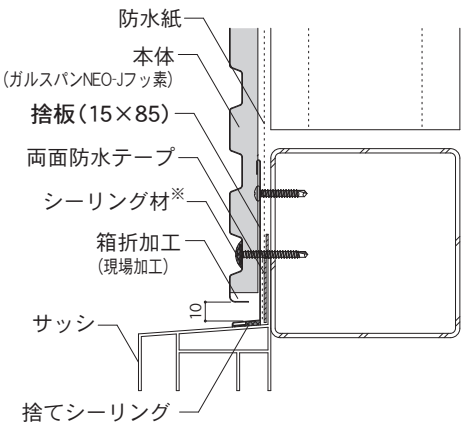
使用付属品：捨板（15×85）

○シーリング切れが生じても漏水しないよう、サッシと透湿防水シートを両面防水テープで確実に接着してください。
○本体とサッシの取り合いに施工するシーリング材は、接着断面の長さをともに5㎜以上とし、両端が薄くならないよう均一に施工してください。
○シーリング材が薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。
○シーリング材のこまめな点検、補修が必要です。
○本体は必ず留め具（ドリリングタッピンねじ）で、直接下地に留め付けてください。
○開口部上では、本体の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10㎜程度のすき間をあけ、左右50㎜程度にシーリング材を奥まで入れてください。
○開口部左右では本体１枚ごとに、横走り防止シーリングをシーリング材と連続する位置に施工してください。（P47参照）

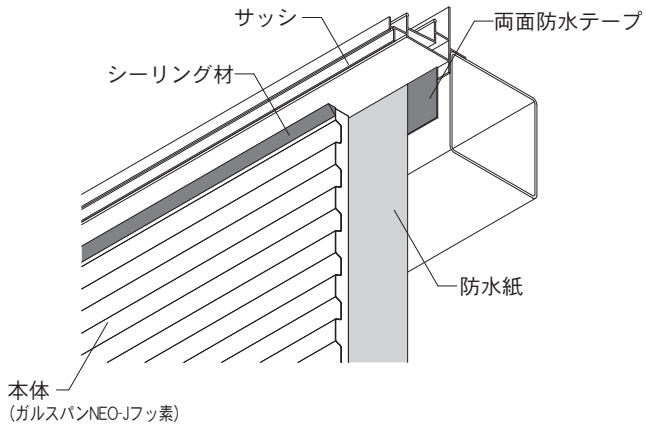


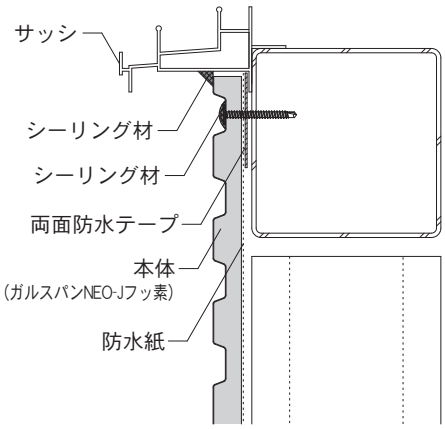
開口部上



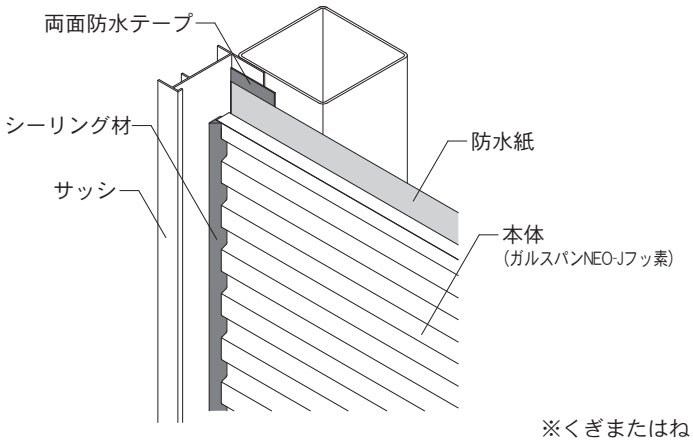


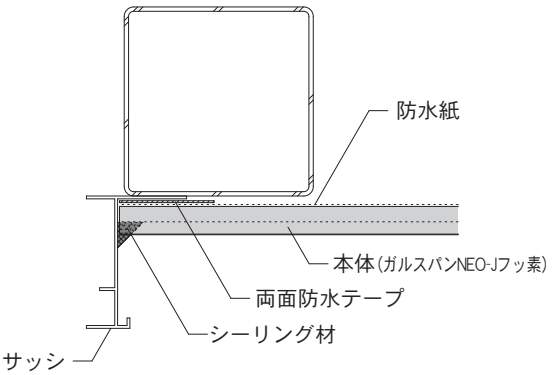
開口部下





開口部左右





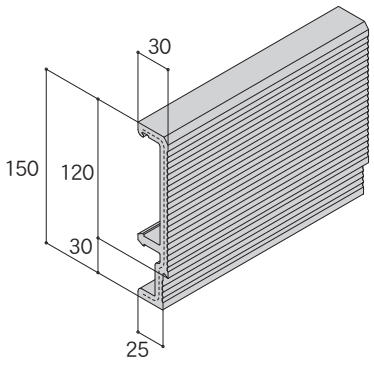
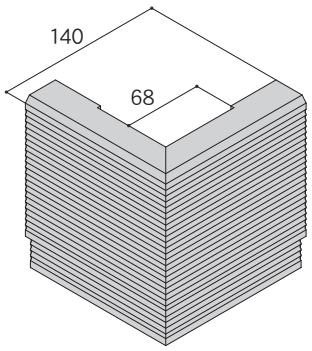
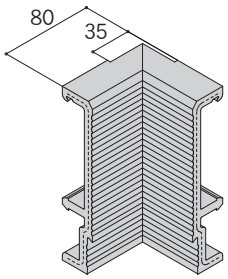
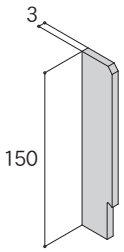
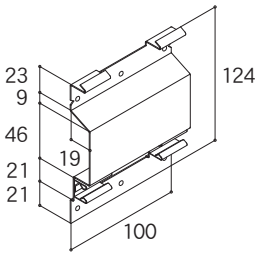
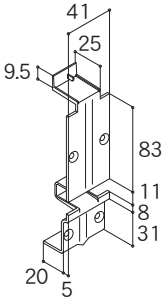
※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントも可。

E 幕板

使用部位：縦継ぎ

規格図

単位：㎜

商品名	E 幕板	E 幕板出隅	E 幕板入隅
商品図	材質：発泡ABS  L＝3,000	材質：発泡ABS  L＝140×140	材質：発泡ABS  L＝80×80
梱包単位	2本/箱	1本/箱	1本/箱
同梱包付属品	E 幕板取付金具　10個 E 幕板底目地ジョイント　2個 E 幕板底目地ジョイント用ビス　4本	E 幕板底目地ジョイント　1個 E 幕板底目地ジョイント用ビス　2本	E 幕板底目地ジョイント　1個 E 幕板底目地ジョイント用ビス　2本
商品名	E 幕板エンドキャップ	E 幕板取付金具	E 幕板底目地ジョイント
商品図	材質：発泡ABS 	材質：ガルバ鋼板※ 	材質：発泡AAS 
梱包単位	1セット（右・左）/包	1個/包	1 個/包
同梱包付属品	―	―	E 幕板底目地ジョイント用ビス　2本

「E 幕板取付金具」、「E 幕板底目地ジョイント」は本体の中に同梱されておりますが、必要な場合は別途ご用意しております。お問い合わせください。
※ガルバ鋼板は、55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板でアイジー工業㈱の登録商標です。

〇外壁材を上下で張り分ける場合などに、化粧部材として使用できます。
　アイジー純正水切の上から取り付けが可能です。
　上下の外壁材に段差がある場合は、あらかじめ不陸を調整してください。
　外壁材表面に傾斜がある場合は、E 幕板が使用できませんので注意してください。

E 幕板

使用部位：縦継ぎ

本施工要領通り施工されていないと、はずれ、脱落などの原因となる可能性があります。

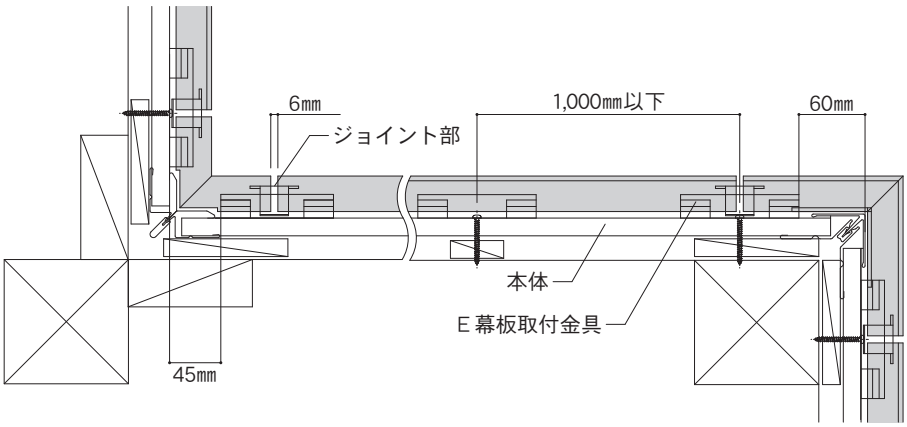
⚠ 施工上の注意

1．E 幕板取付金具のピッチは1,000㎜以下とし、木下地のある所に取り付けてください。

・ジョイント部の E 幕板取付金具は本体、出隅、入隅のジョイント部中央になるように割り付けてください。
・E 幕板取付金具の取り付けは6カ所の下穴のうち、中央の上下2カ所にて行ってください。　（木下地がない場合、中央で取り付けが困難の場合にのみ他の下穴を使用してください。）
・E 幕板取付金具の取り付けは長さ50㎜以上のタッピングビスを使用してください。

2．施工後の熱伸縮を考慮し、ジョイント部は6㎜の目地を確保してください。

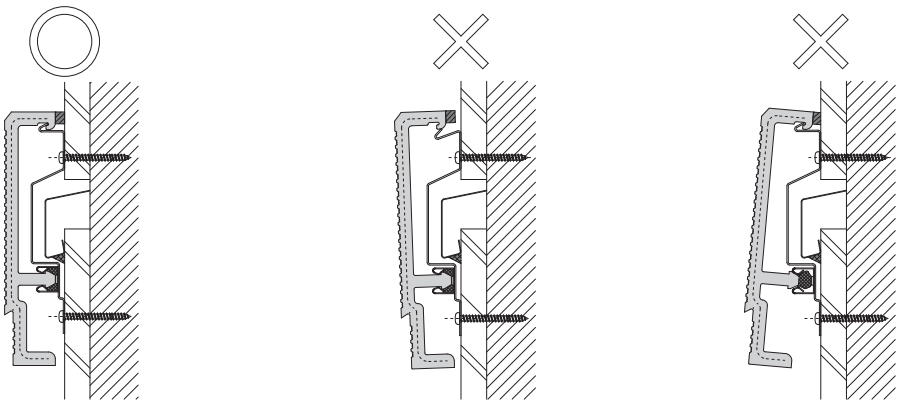
（ジョイントのガイドラインを目安にしてください。）
・出隅部の E 幕板取付金具は角部より60㎜離してください。
・入隅部の E 幕板取付金具は角部より45㎜離してください。



3．施工後の横ずれとはずれ不具合防止のため E 幕板取付金具のキャッチ部に必ず接着剤を塗布してください。

推奨接着剤（1成分形変成シリコン接着剤）
・コニシ株式会社「ボンド変成シリコンコーク」
・セメダイン株式会社「ＰＯＳシール」

4．施工後のはずれ防止のため E 幕板の全てが E 幕板取付金具にしっかりとかん合しているか必ず確認してください。



E 幕板

使用部位：縦継ぎ

施工手順

1．E 幕板取付金具の取り付け

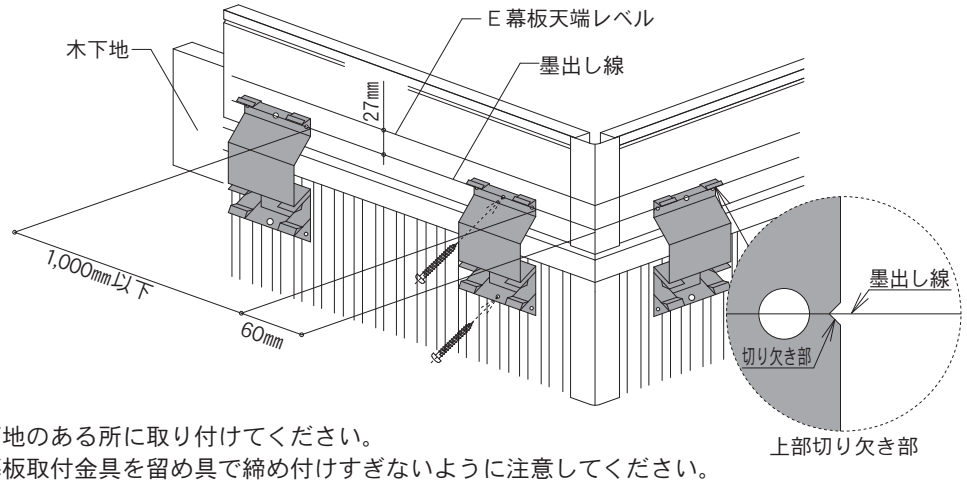
①E 幕板を取り付けたい天端から27㎜下側に墨出しをします。

②E 幕板取付金具の上部切り欠き部を墨出し線に合わせて取り付けます。

・出隅部の E 幕板取付金具は外壁端部から E 幕板取付金具端部60㎜を基準に取り付け、E 幕板のジョイントが中央にくるようにします。（入隅部は45㎜）

・一般部の E 幕板取付金具のピッチは1,000㎜以下にて均等に割り付けてください。

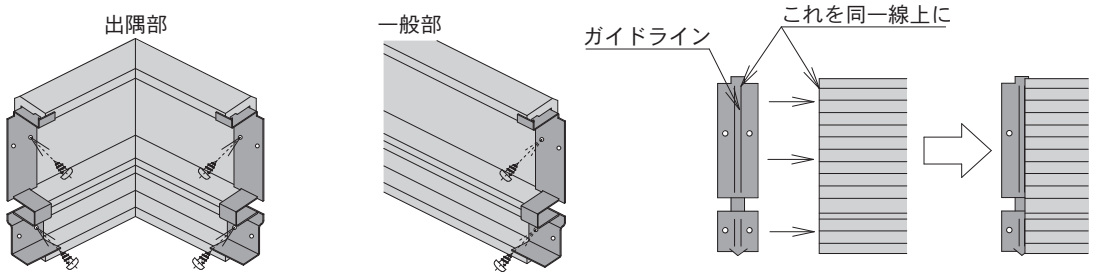
・E 幕板の長さを実測して割り付けてください。



（注）木下地のある所に取り付けてください。
E 幕板取付金具を留め具で締め付けすぎないように注意してください。
強く締め付けるとサイディング本体の変形を招き、E 幕板が取り付けられない可能性があります。

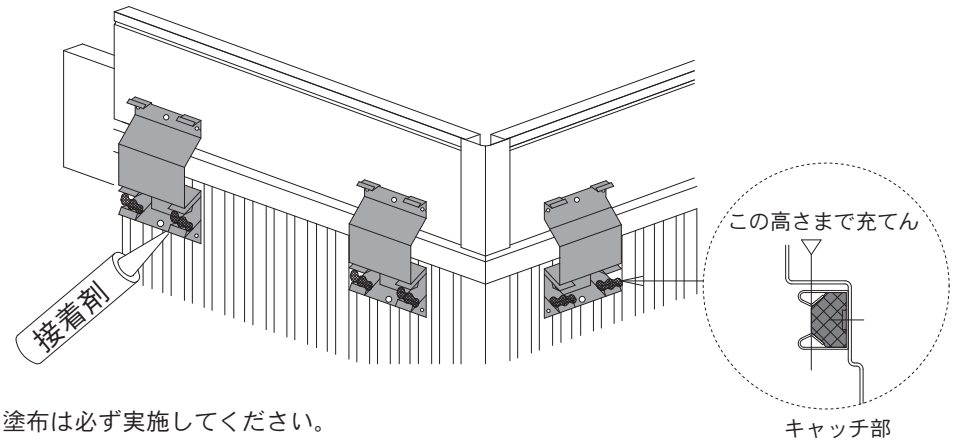
2．E 幕板底目地ジョイントの取り付け

E 幕板の端部に E 幕板底目地ジョイントを差し込み付属のφ4-8ナベタッピングビスで固定します。
この時、E 幕板底目地ジョイントのガイドラインに合わせて取り付けてください。



3．接着剤の塗布

E 幕板取付金具のキャッチ部に接着剤を塗布します。



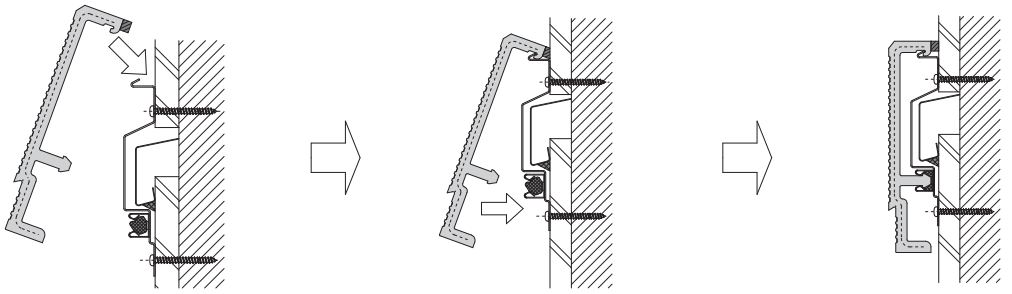
（注）接着剤の塗布は必ず実施してください。

E 幕板

使用部位：縦継ぎ

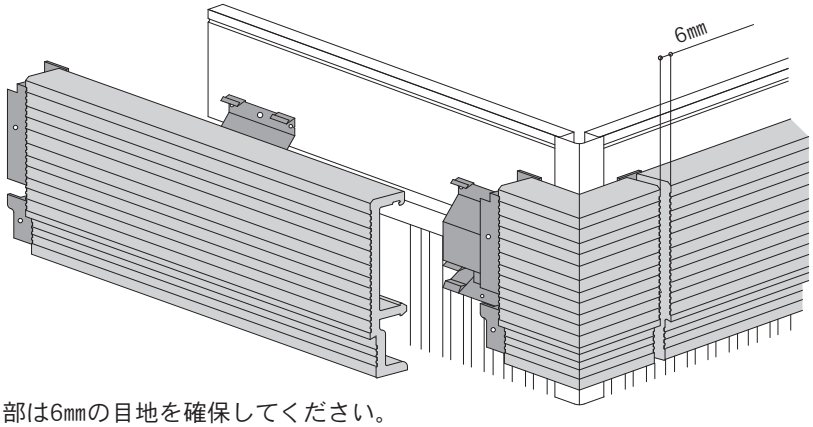
4．E 幕板の取り付け

①E 幕板の上部を E 幕板取付金具上部に引っかけます。
②その後、キャッチ部に足を押し込みます。



①上部を引っかける　②足を押し込む　納まり図

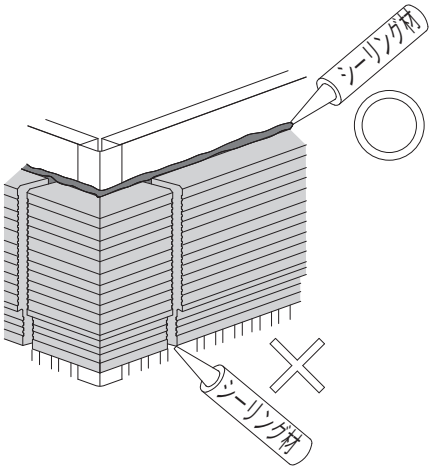
（注）しっかりと E 幕板取付金具にかん合しているか確認してください。



（注）ジョイント部は6㎜の目地を確保してください。

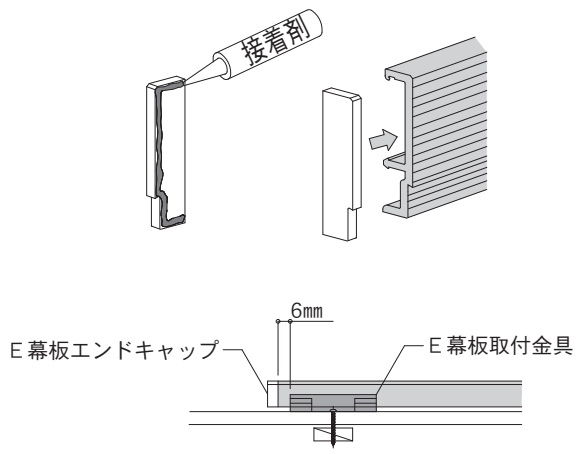
●シーリング材の施工

・E 幕板の天面とサイディング本体、付属品のすき間にはシーリング材を施工してください。



●E 幕板エンドキャップの取り付け

・E 幕板エンドキャップの取り付けは接着剤（雨どいボンドまたは推奨接着剤）を使用してください。
・E 幕板エンドキャップと E 幕板取付金具のクリアランスは6㎜とってください。

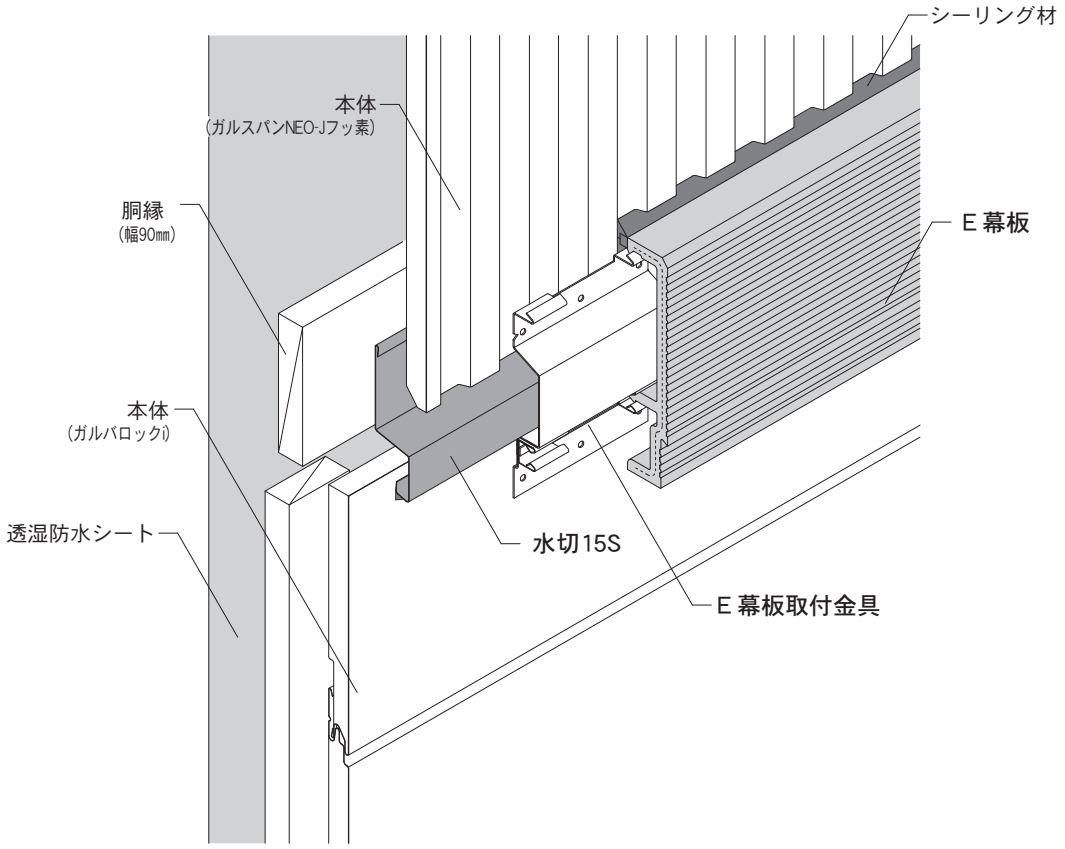


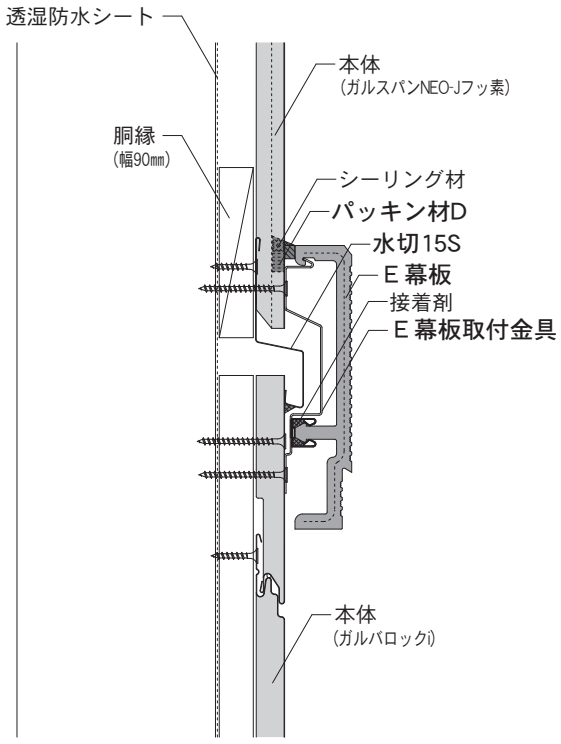
（注）ジョイント部にはシーリング材を施工しないでください。

E 幕板

使用部位：縦継ぎ

〇他外装材とはり合わせをする際は、上下を水切でつないでください。
〇下図は使用例として上段にガルスパンNEO-Jフッ素、下段にガルバロックiを使用しています。





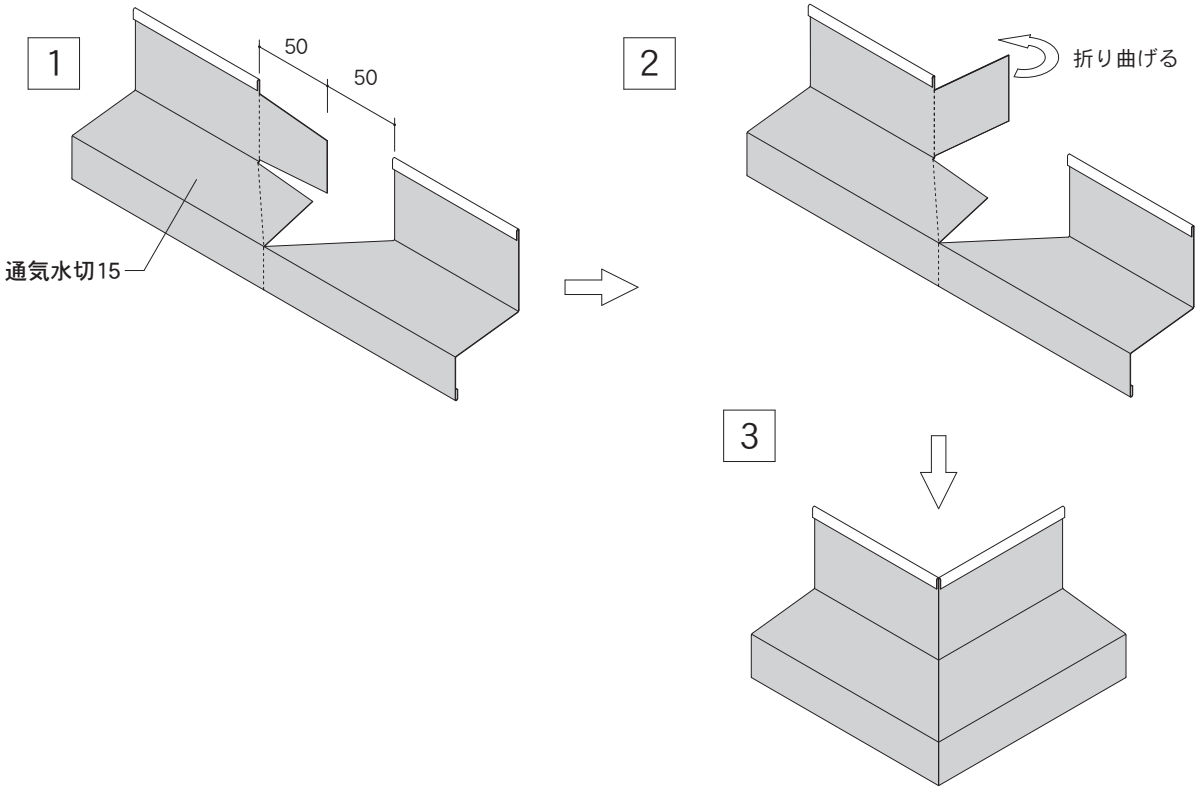
単位：mm

土台[出隅][入隅]

使用付属品：通気水切15

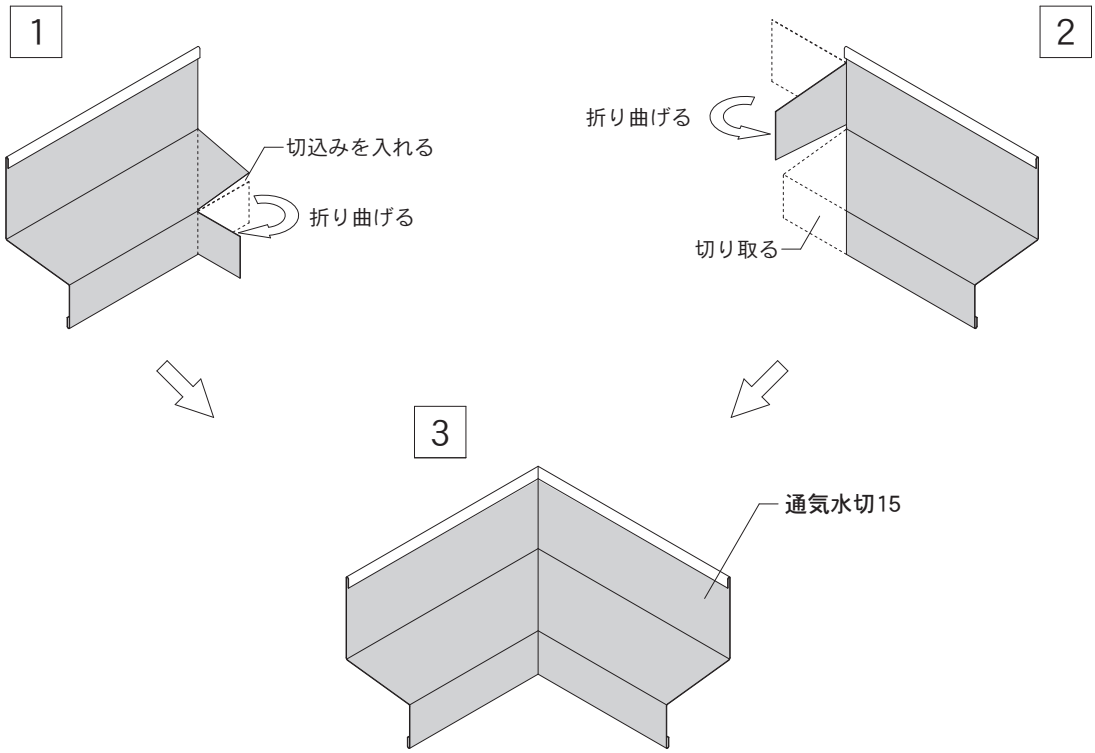
[出隅]

1 ～ 3 の順序で切り欠き加工してください。



[入隅]

1 ～ 3 の順序で切り欠き加工してください。

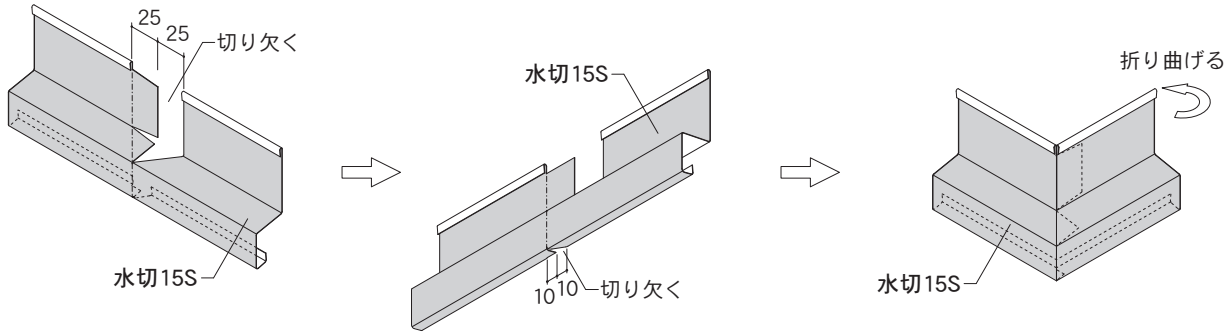


単位：㎜

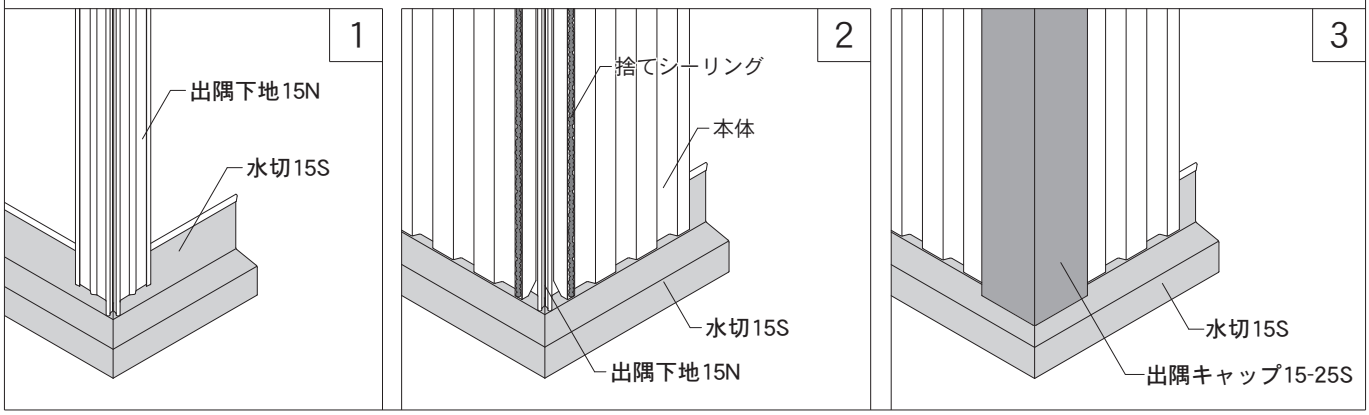
土台[出隅] ①

使用付属品：水切15S／出隅キャップ15-25S／出隅下地15N

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



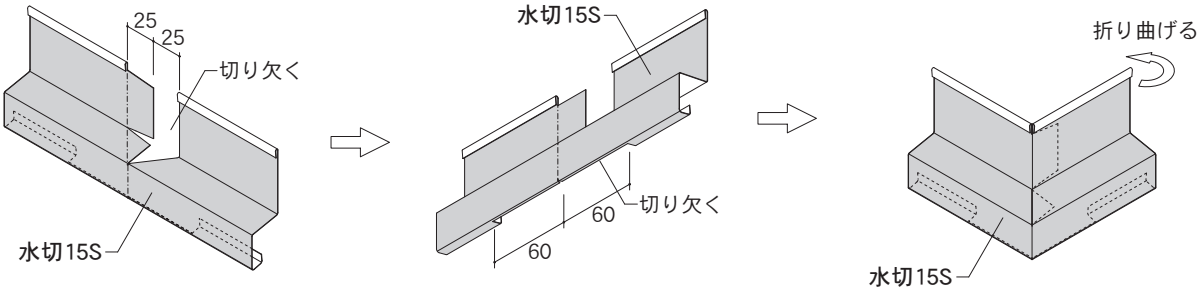
下図は、縦張りの場合の施工手順です。横張りの場合は、スターター15Sを施工してください。（P45参照）

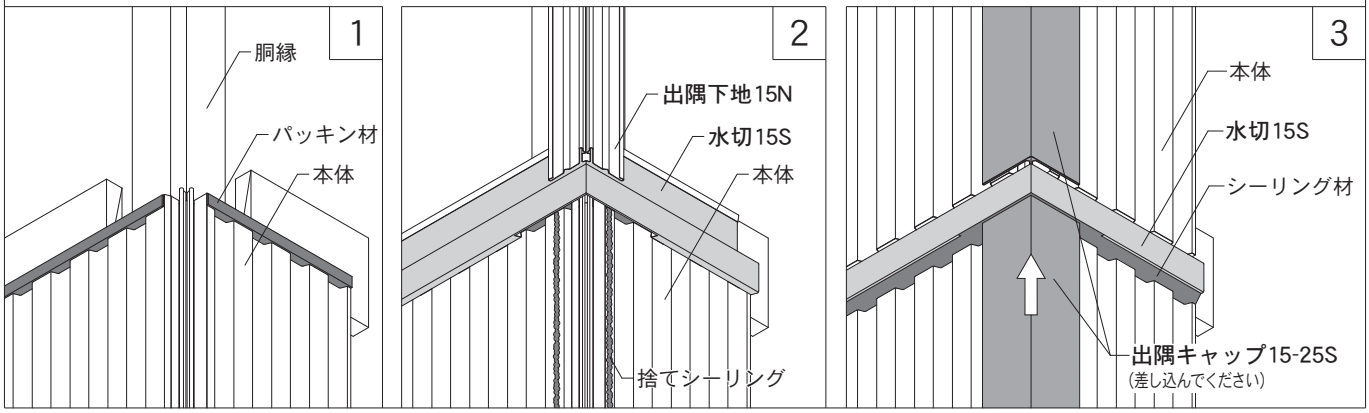


縦継ぎ[出隅] ①

使用付属品：水切15S／出隅キャップ15-25S／出隅下地15N

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



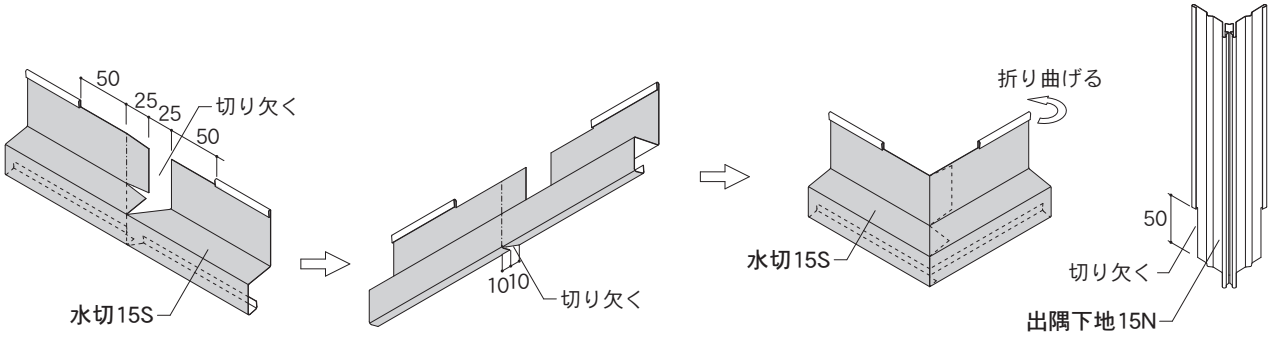


単位：mm

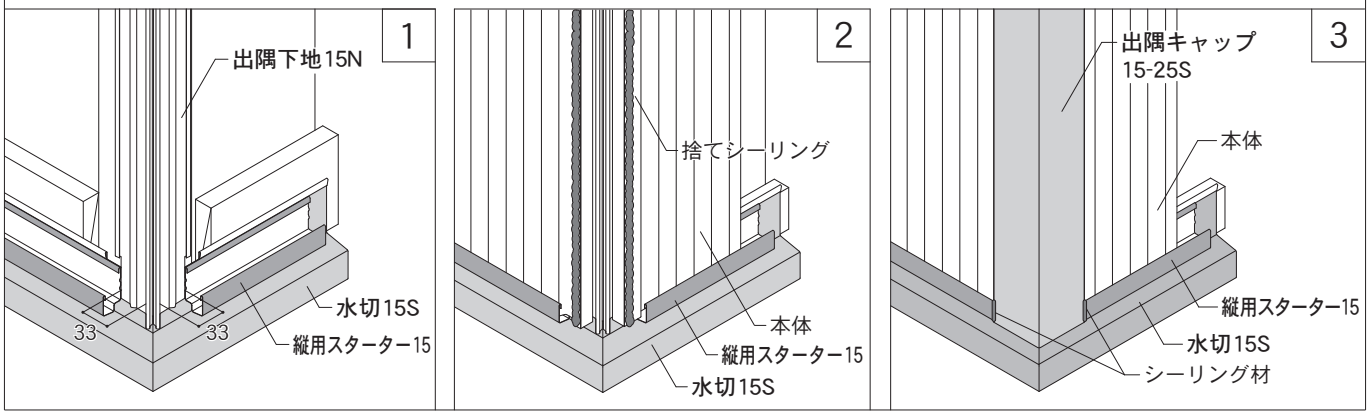
土台[出隅] ②

使用付属品：水切15S／出隅キャップ15-25S／出隅下地15N／縦用スターター15

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



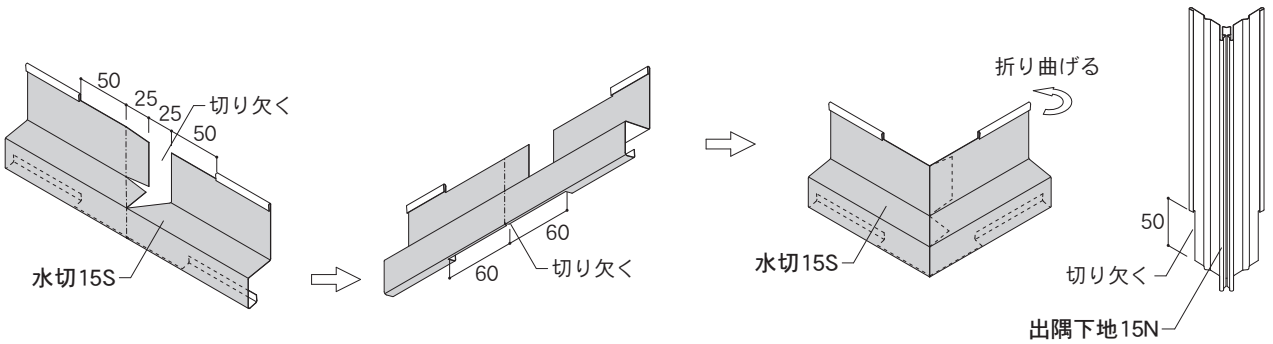
縦用スターター15を施工する際は、縦用スターター15の端部が広がらないようすき間を調整して固定してください。



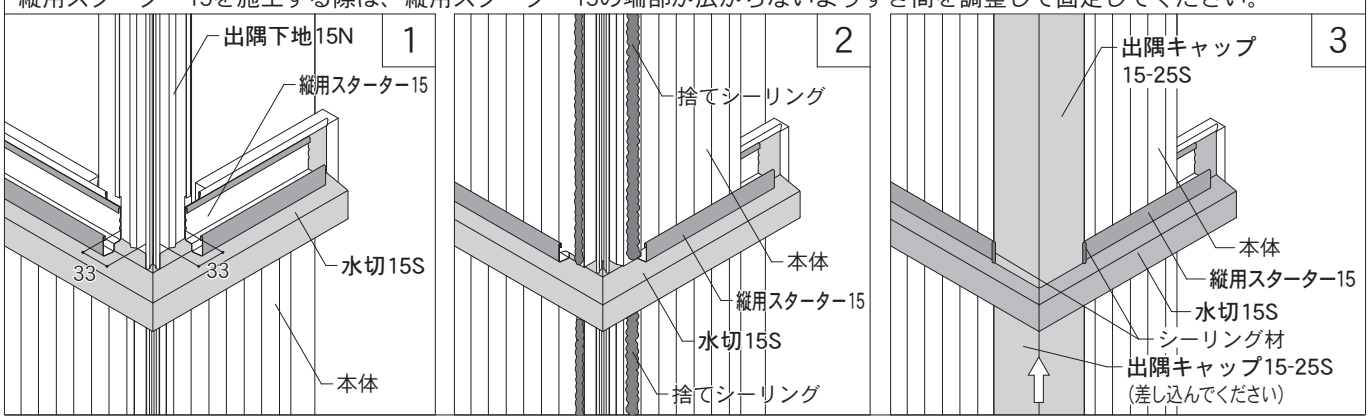
縦継ぎ[出隅] ②

使用付属品：水切15S／出隅キャップ15-25S／出隅下地15N／縦用スターター15

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



縦用スターター15を施工する際は、縦用スターター15の端部が広がらないようすき間を調整して固定してください。

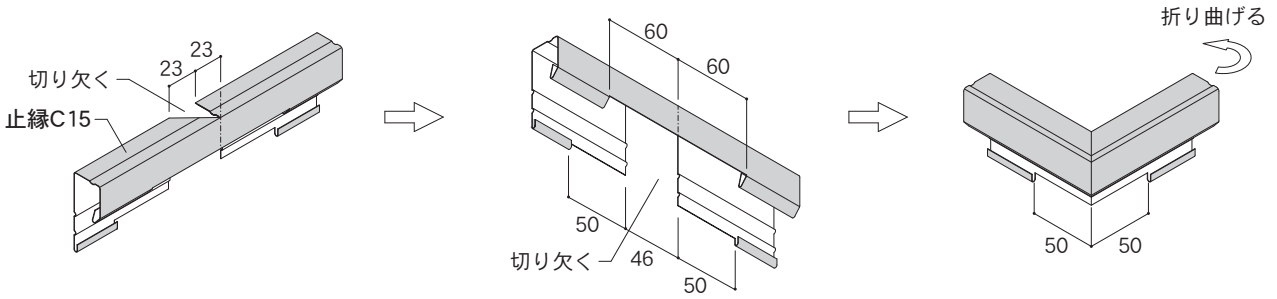


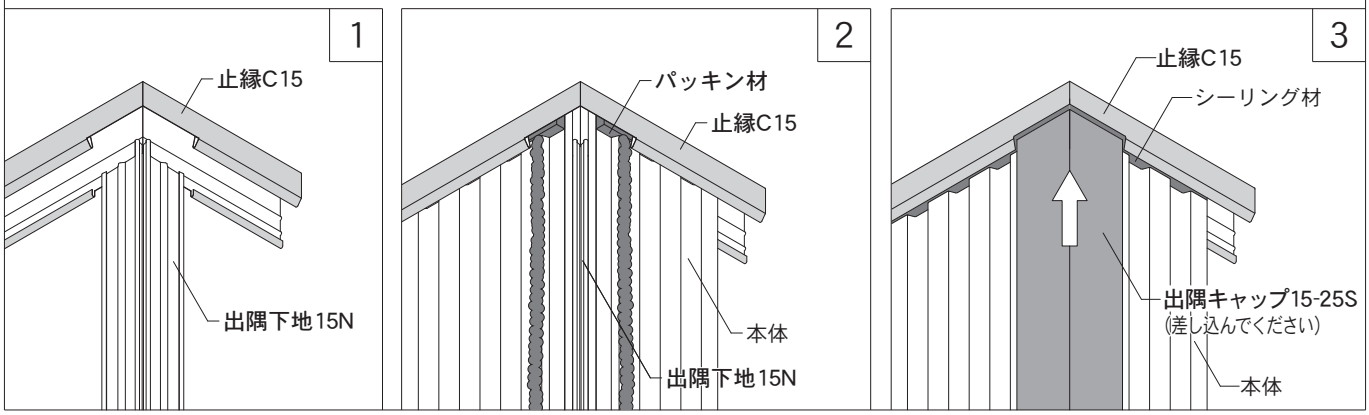
単位：㎜

軒[出隅]①

使用付属品：止縁C15/出隅キャップ15-25S/出隅下地15N

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。

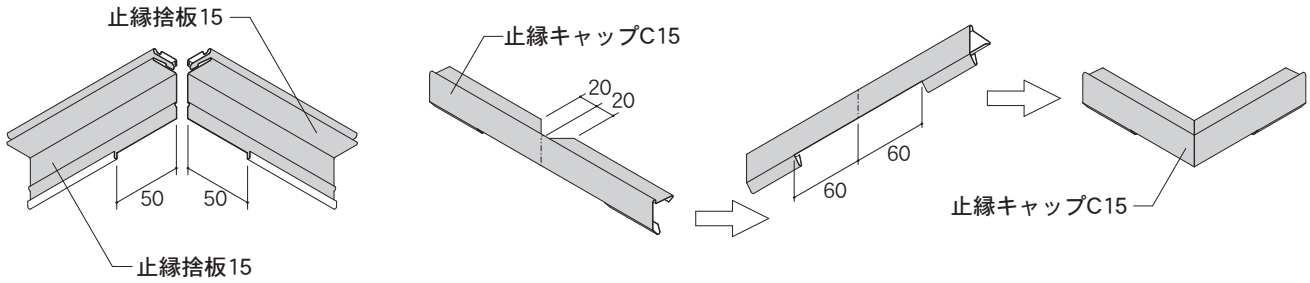


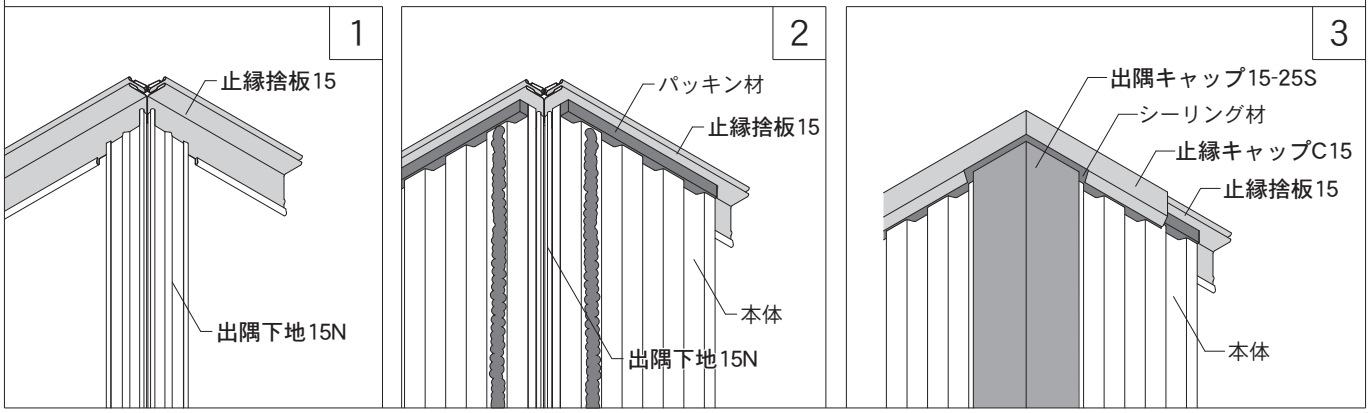


軒[出隅]②

使用付属品：止縁キャップC15/止縁捨板15/出隅キャップ15-25S/出隅下地15N

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



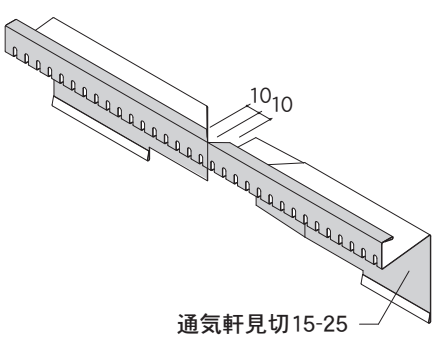


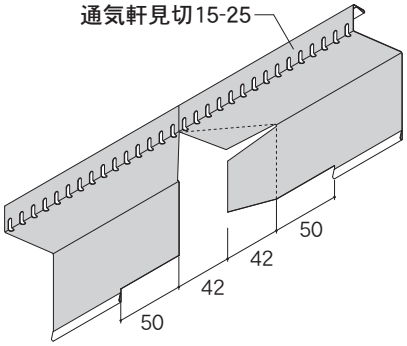
単位：㎜

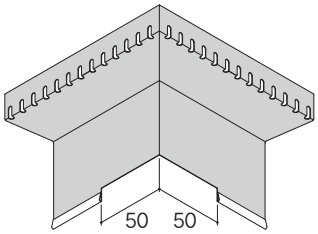
軒[出隅]③

使用付属品：通気軒見切15-25/止縁キャップC15/止縁捨板15

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。
止縁キャップC15/止縁捨板15でも施工できます。

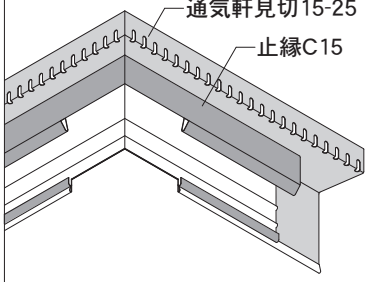




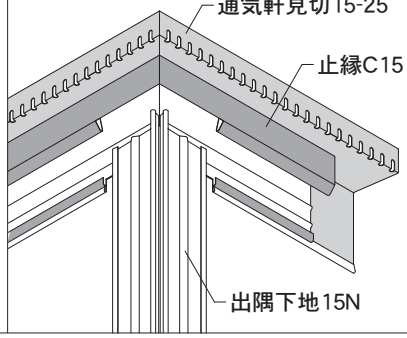


※軒の出が外壁表面から300㎜以上の場合は、無しも可。

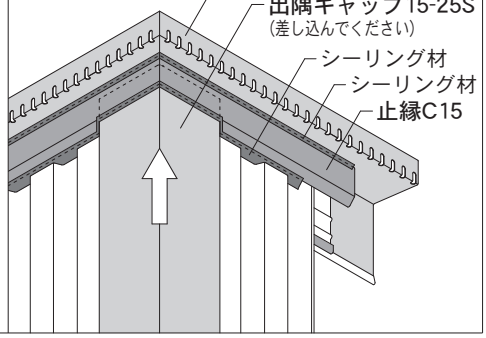
1



2



3

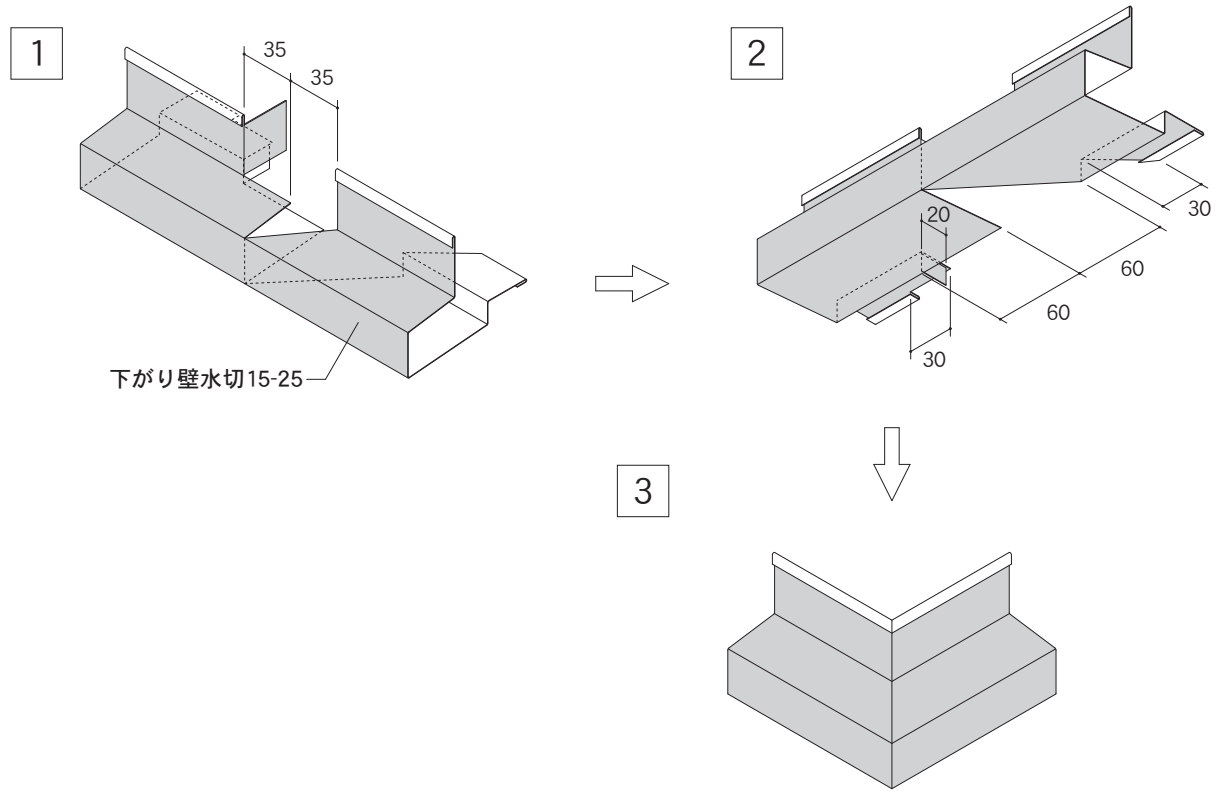


単位：㎜

下がり壁[出隅]

使用付属品：下がり壁水切15-25

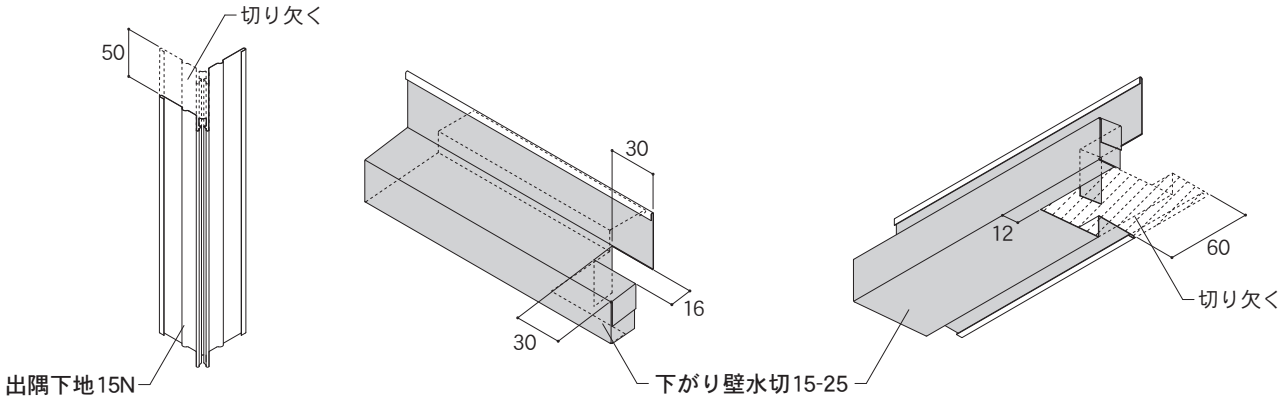
1 ～ 3 の順序で切り欠き加工してください。

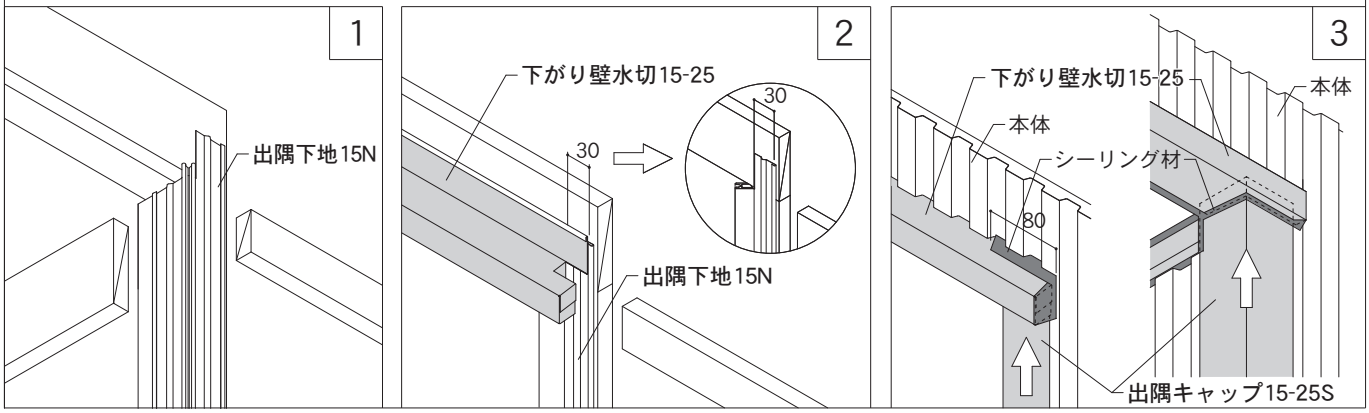


下がり壁[出隅]②

使用付属品：下がり壁水切15-25/出隅キャップ15-25S/出隅下地15N

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。



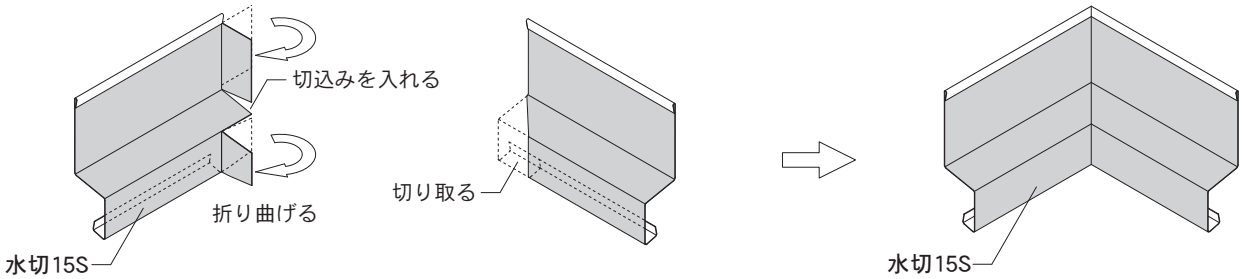


単位：mm

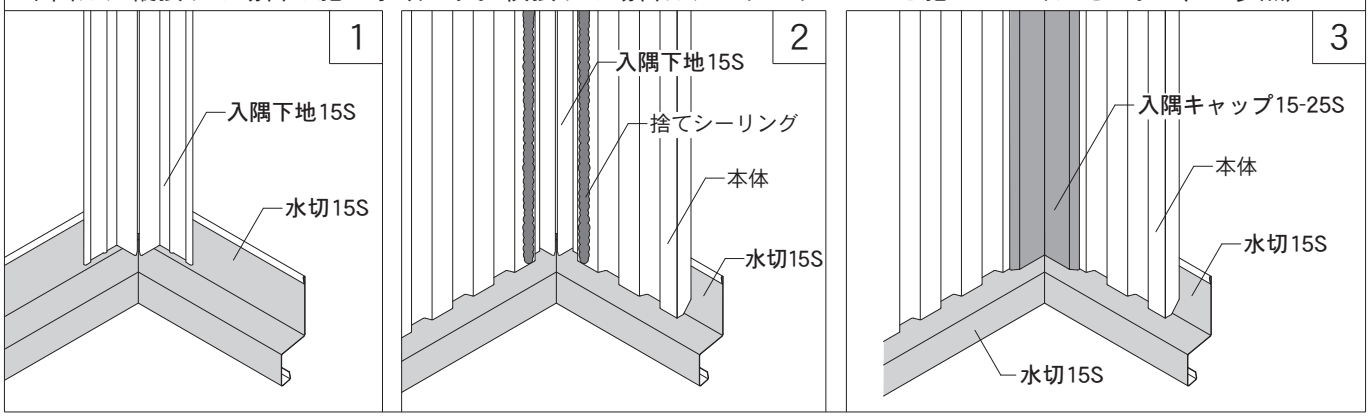
土台[入隅]

使用付属品：水切15S／入隅キャップ15-25S／入隅下地15S

下図の方法で切り欠き加工し、1 ～ 3 の順序で施工してください。



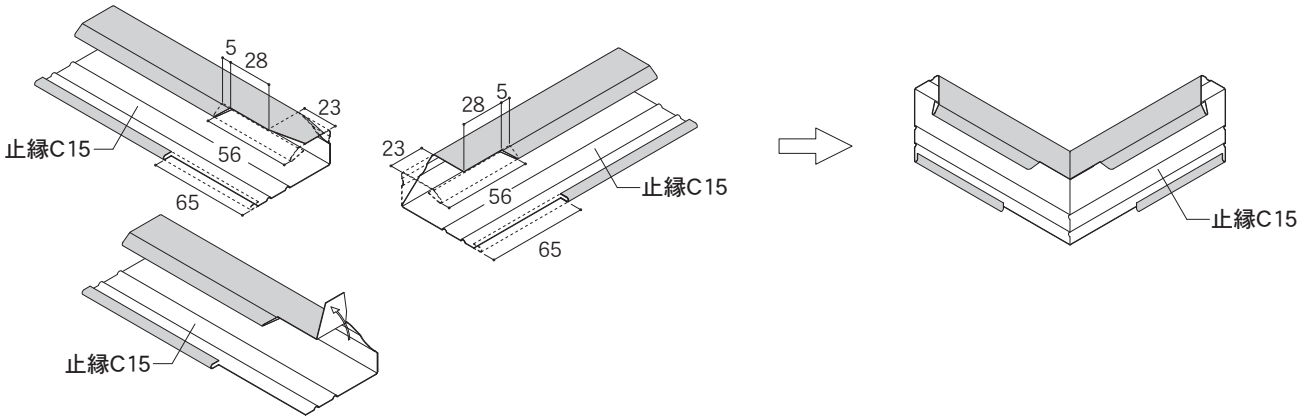
下図は、縦張りの場合の施工手順です。横張りの場合は、スターター15Sを施工してください。（P45参照）

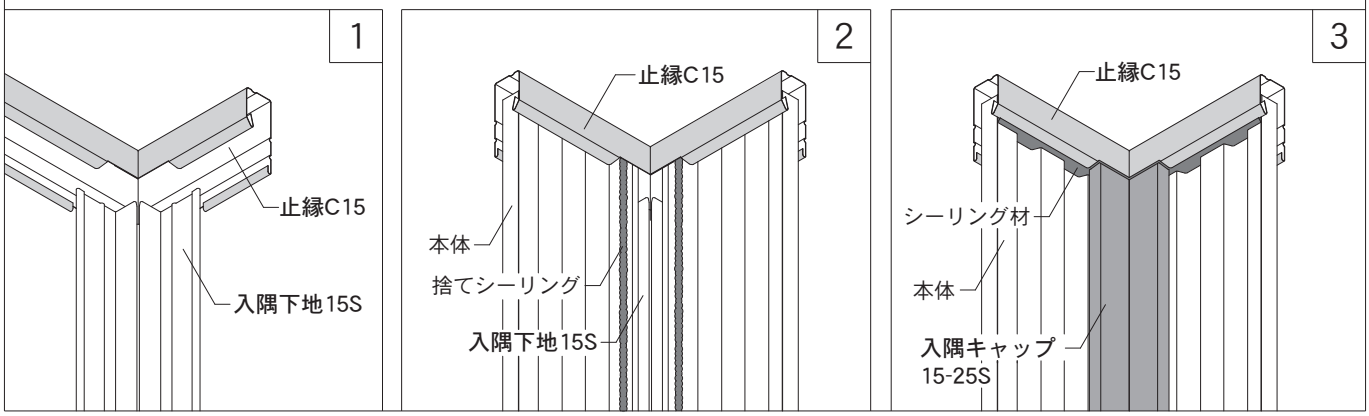


軒[入隅]

使用付属品：止縁C15／入隅キャップ15-25S／入隅下地15S

下図の方法で付属品を切り欠き加工し 1 ～ 3 の順序で施工してください。





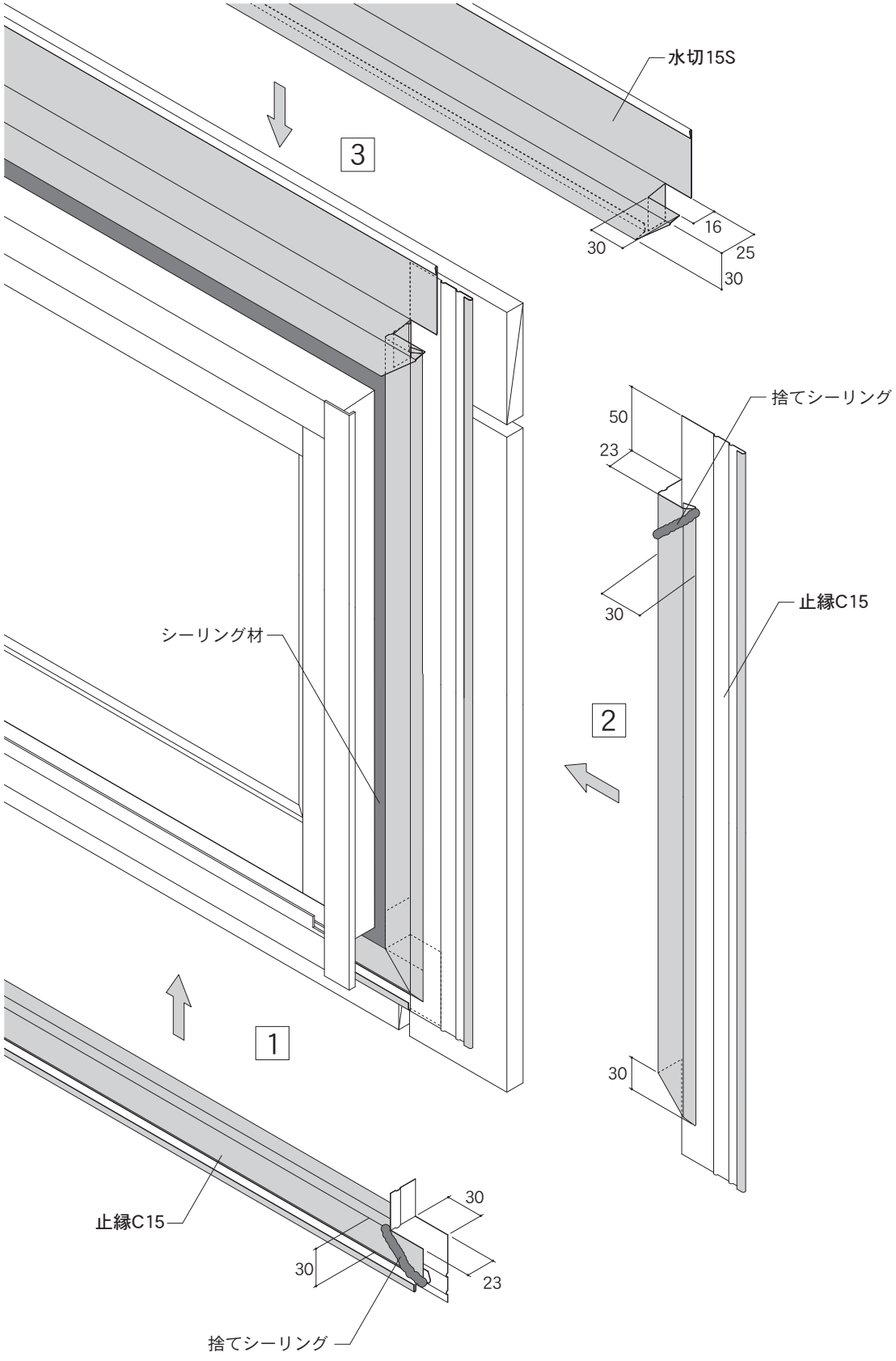
単位：㎜

開口部 1

使用付属品：水切15S/止縁C15

1 ～ 3 の順序で施工してください。

・付属品同士の重ね部分は、止水のために捨てシーリングを施工してください。
・防水については、納まり図も合わせて確認してください。



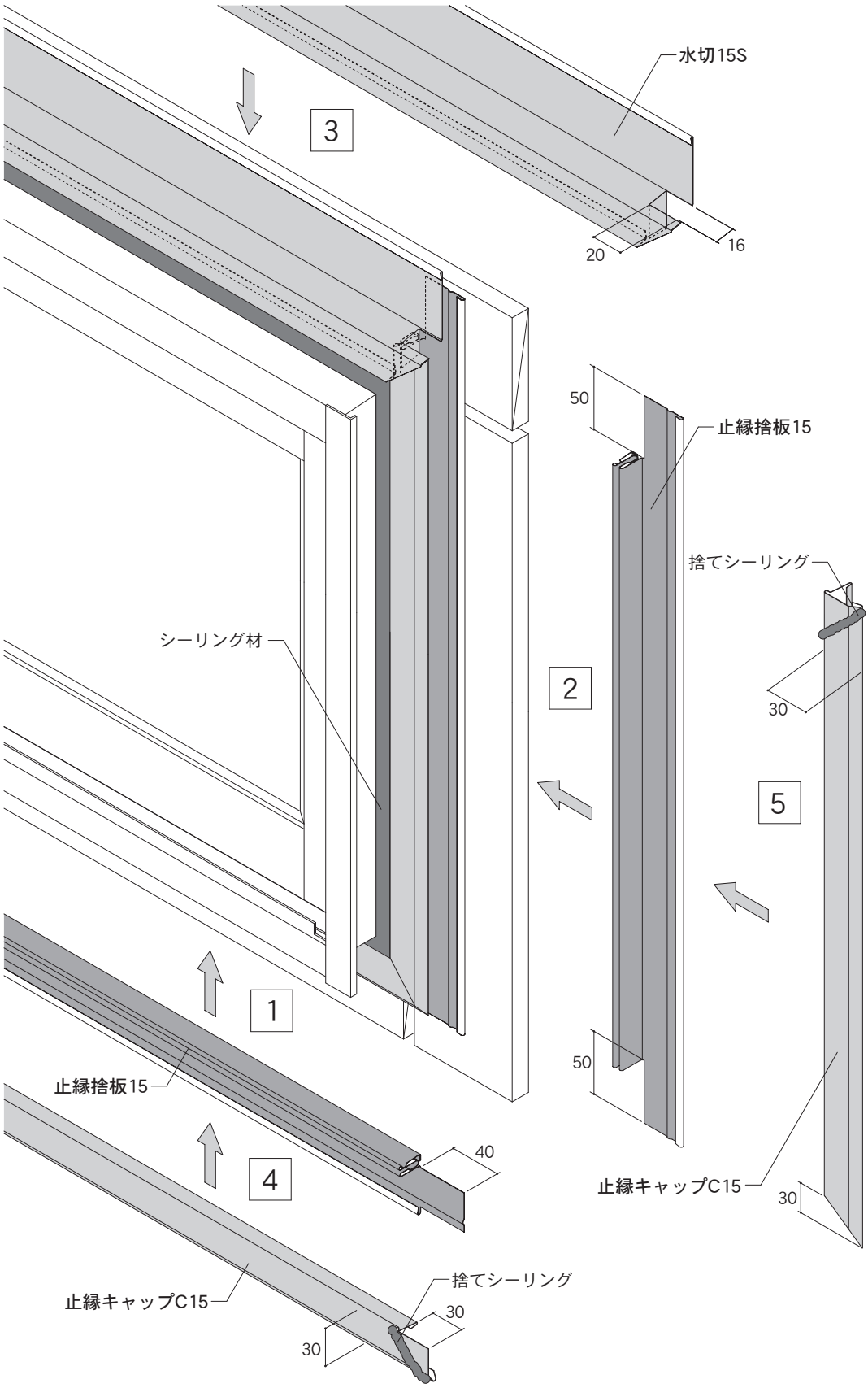
単位：mm

開口部 2

使用付属品：水切15S/止縁キャップC15/止縁捨板15

1 ～ 5 の順序で施工してください。

・付属品同士の重ね部分は、止水のために捨てシーリングを施工してください。
・防水については、納まり図も合わせて確認してください。



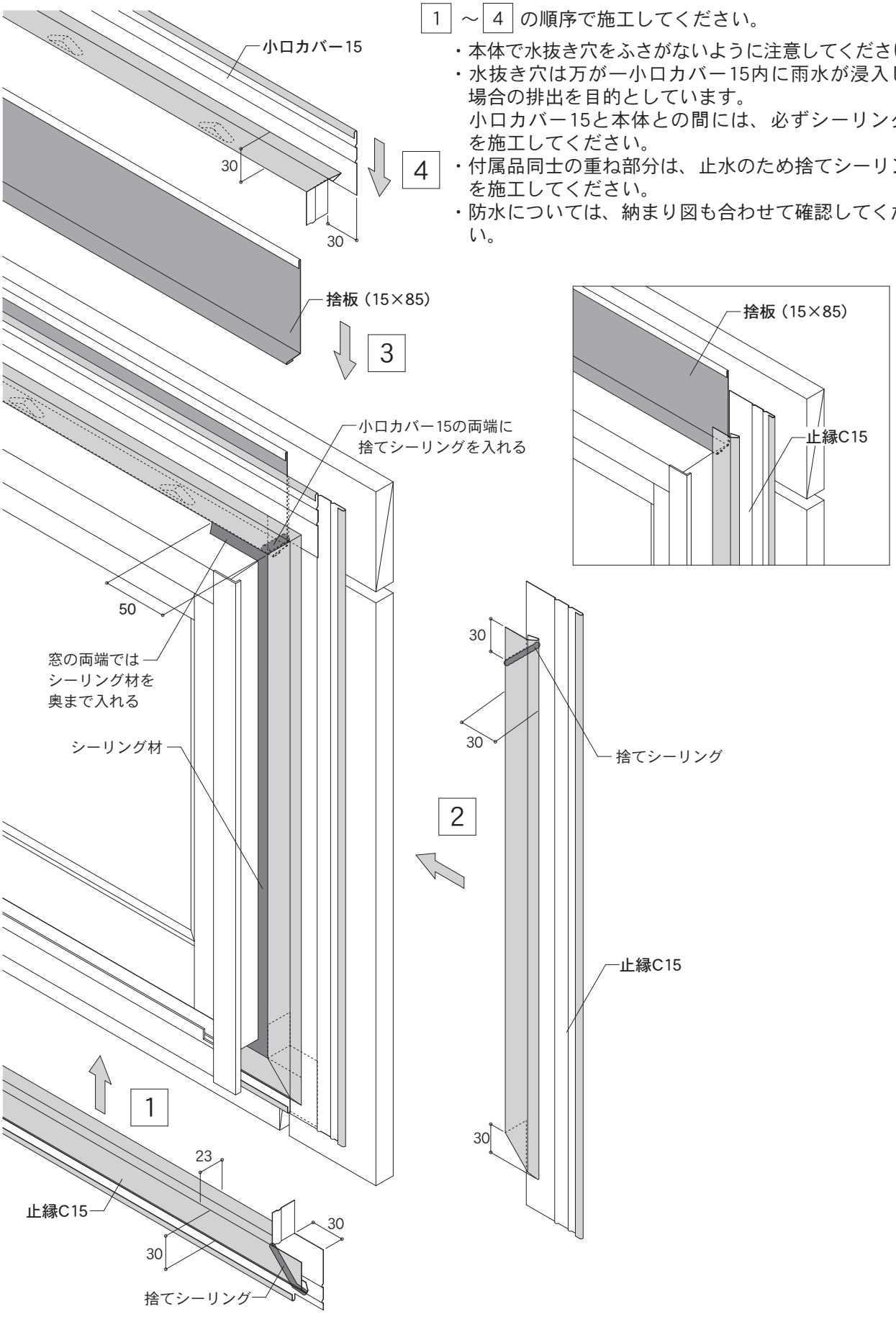
単位：㎜

開口部 3

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/捨板（15×85）

1 ～ 4 の順序で施工してください。

・本体で水抜き穴をふさがないように注意してください。
・水抜き穴は万が一小口カバー15内に雨水が浸入した場合の排出を目的としています。
小口カバー15と本体との間には、必ずシーリング材を施工してください。
・付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。
・防水については、納まり図も合わせて確認してください。



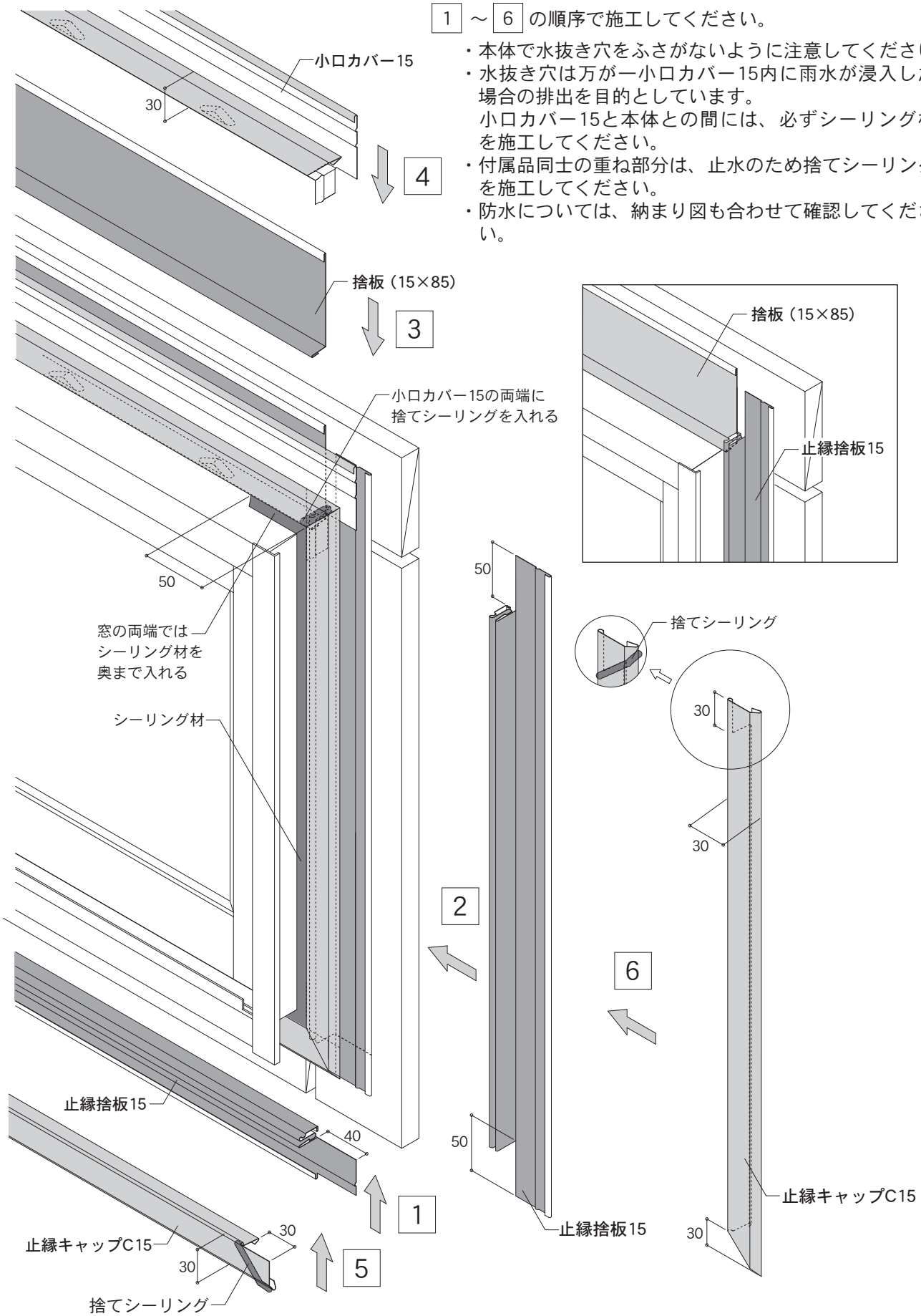
単位：mm

開口部４

使用付属品：小口カバー15/止縁キャップC15/止縁捨板15/捨板（15×85）

1 ～ 6 の順序で施工してください。

- 本体で水抜き穴をふさがないように注意してください。
- 水抜き穴は万が一小口カバー15内に雨水が浸入した場合の排出を目的としています。
  小口カバー15と本体との間には、必ずシーリング材を施工してください。
- 付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。
- 防水については、納まり図も合わせて確認してください。



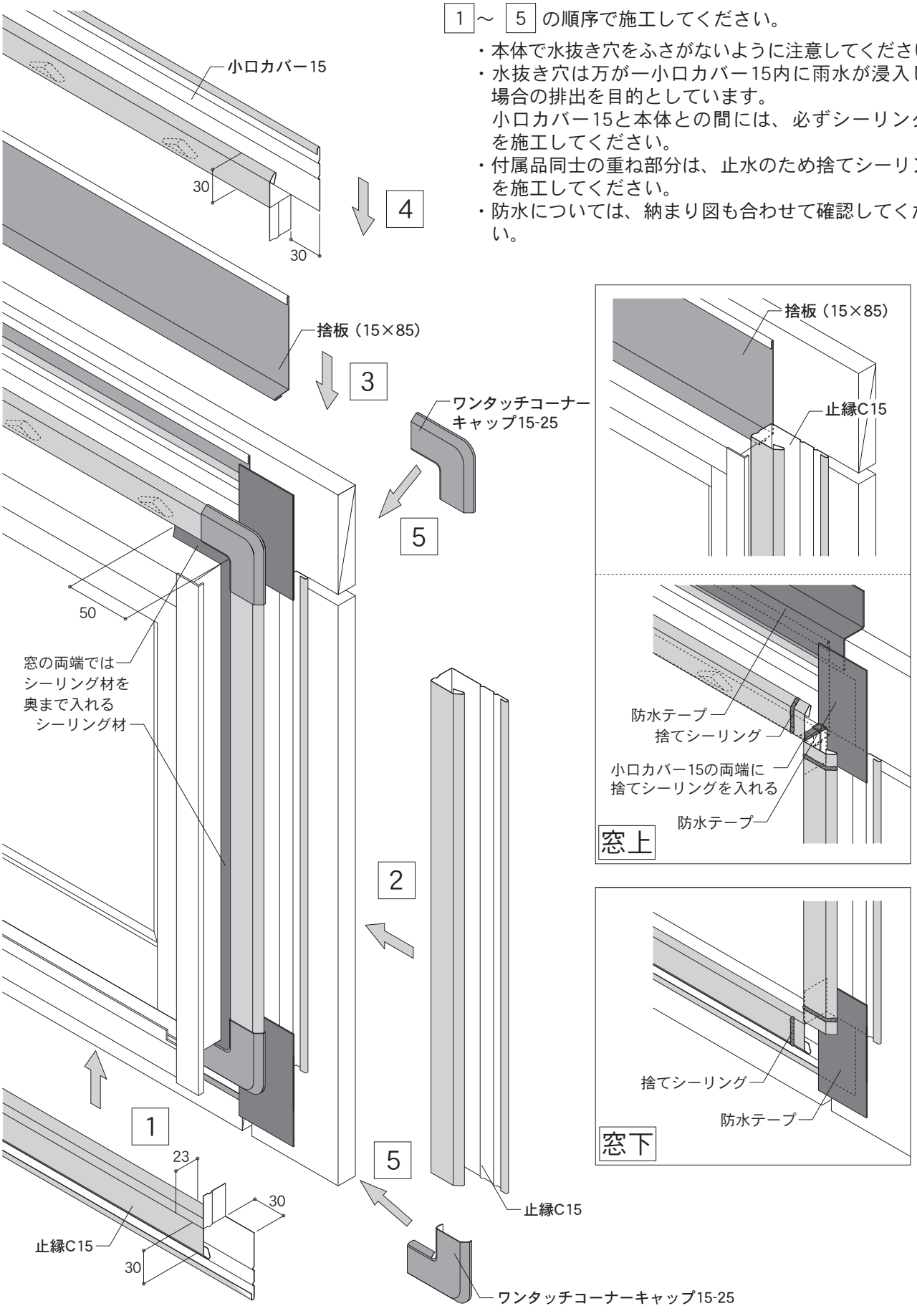
単位：㎜

開口部5

使用付属品：小口カバー15/止縁C15/ワンタッチコーナーキャップ15-25/捨板（15×85）

1 ～ 5 の順序で施工してください。

- 本体で水抜き穴をふさがないように注意してください。
- 水抜き穴は万が一小口カバー15内に雨水が浸入した場合の排出を目的としています。
  小口カバー15と本体との間には、必ずシーリング材を施工してください。
- 付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。
- 防水については、納まり図も合わせて確認してください。



免責事項

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

・施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
・入居者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
・入居者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
・天変地異・周囲環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
・通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
・建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
・シーリング部及び、現場塗装により不具合が生じた場合。
・サイディング本体及び付属品に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
・水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
・くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
・建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
・外壁以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

その他ご不明な点などありましたら弊社にご相談ください。

アイジー工業株式会社 URL http://www.igkogyo.co.jp/

本　　社	〒999-3716 山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	☎0237(43)1810	FAX0237(41)1810
東京営業所	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-17-5 神田橋PR-EX8F	☎03(5283)7211	FAX03(5283)7213
札幌営業所	〒003-0026 札幌市白石区本通19丁目南2-7 食糧ビル5F	☎011(863)0303	FAX011(860)2084
盛岡営業所	〒020-0022 盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル7F	☎019(605)8050	FAX019(605)8051
仙台営業所	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12 MB小田急ビル5F	☎022(292)5405	FAX022(292)5406
関東営業所	〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町1-92-3 至誠堂ビル2F	☎048(658)1600	FAX048(658)1602
新潟営業所	〒950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-54 日生南笹口ビル6F	☎025(240)6718	FAX025(240)6719
富山営業所	〒930-0004 富山市桜橋通り1-18　北日本桜橋ビル3F	☎076(443)8621	FAX076(443)8622
名古屋営業所	〒452-0822 名古屋市西区中小田井5-404-1 愛法ビル2F	☎052(506)9898	FAX052(506)9899
大阪営業所	〒562-0036 大阪府箕面市船場西2-2-1 ニューエリモビル6F	☎072(749)3188	FAX072(749)3199
福岡営業所	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-30-23 博多管絃ビル2F	☎092(474)5564	FAX092(474)5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。

●お問い合わせは下記販売店へどうぞ

商品の改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合があります。本施工説明書が最新であることを最寄りの営業所まで確認してください。

2014.3.900